

学生による授業認識 と大学教育

大東文化大学授業認識報告書（全学データ）

2025 年度

大東文化大学

目次

1. はじめに.....	3
2. 結果.....	4
2.1 2025 年度前期・学生による授業認識アンケート.....	4
2.2 2025 年度後期・学生による授業認識アンケート.....	134
3. 各学部・学科によるアンケート結果についての考察.....	276
文学部 日本文学科.....	276
文学部 中国文学科.....	277
文学部 英米文学科.....	278
文学部 教育学科.....	280
文学部 書道学科.....	282
文学部 歴史文化学科.....	283
経済学部 社会経済学科・現代経済学科.....	286
外国語学部 中国語学科.....	288
外国語学部 英語学科.....	290
外国語学部 日本語学科.....	291
法学部 法律学科.....	292
法学部 政治学科.....	293
国際関係学部 国際関係学科・国際文化学科.....	294
経営学部 経営学科.....	296
スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科.....	298
スポーツ・健康科学部 健康科学科.....	300
スポーツ・健康科学部 看護学科.....	303
社会学部 社会学科.....	306
4. おわりに.....	310
資料.....	311
1. 大東文化大学全学 FD 委員会規程.....	311
2. 2025 年度 学生による授業認識アンケート実施要項.....	314

1. はじめに

全学 FD 委員会委員長 中野 紀和

本報告書は、学生たちが 2025 年度の授業をどのように受け止めたのか、「学生による授業認識アンケート」の結果をまとめたものである。

対象科目は講義科目であり、講義はすべて対面で実施されていることから、教員は学生の状況に直接向き合うことになる。学生の特性の変化や学力低下を実感として受け止めている人も多いのではないだろうか。そうした学生の特性の変化に留意しながらの授業運営がいかに大事であるか、今年度前期の全学 FD 研究会の報告のなかでも取り上げられたことは記憶に新しい。学生の現状に即した初年次教育のあり方について考える機会を設けたことで、本アンケート結果のなかでも 1、2 年生の特徴が表れる全学共通科目の学生所属別の結果は特に気になるところではないだろうか。

こうしたアンケートは、大きな括りで集計すれば、結果は比較的高評価となる。高い数値が低い数値を見えなくするからである。より細かく集計すると、学生の授業に対する認識の変化が鮮明になり、さらには学科間の相違が顕著となる。全体としてどの項目も低下傾向にあるなかで、高校から大学へのスムーズな移行を図るための初年次教育の在り方は今まで以上に問われることになる。今回の授業認識アンケートの結果は、個別の授業における改善に向けた取り組みだけでなく、学科として現状を把握し、対策を講じる必要性を示していると言える。こうしたアンケートを学部学科がいかに活用し学びの質保証に取り組むか、今後益々問われることだろう。そうした観点からもデータを活用して頂けることを願っている。

最後に、アンケートの実施にご理解とご協力をいただいた全ての学生と教職員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上

2. 結果

2.1 2025 年度前期・学生による授業認識アンケート

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学 FD 委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

3. アンケート項目

2025年度前期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

- 2) はい（おおよそ）知っています → Q1b に
1) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとぼして Q2 に

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

- 5) とても難しかった 4) やや難しかった 3) 適切だった
2) やや易しかった 1) とても易しかった

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

- 2) はい、あります → Q4 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【成長感覚】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を
10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選
んでください。

- 10) 10 9) 9 8) 8 . . . 3) 3 2) 2 1) 1

【自由記述】

Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み
ます)

Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読みま
す)。

4. 結果

4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 842 科目、対象延べ学生数(各対象科目内の履修者数の合計)は 10,830 人、実際に回答した延べ学生数は 23,370 人であった。2023 年度に重回帰分析からクロス集計へと分析方法を変更しており、今年度は前年度と結果を比較し傾向や改善点を確認することができた。2023 年度と同じく、各設問の相関関係を示し、全学的な結果について分析を行った。

ただし、全学共通科目(94 科目)を教員所属別に集計すると、学科によっては該当する教員が 1 人となり個人が特定されることから、2024 年度後期同様に 2025 年度前期も(全学共通科目を含む)全科目を教員所属別に集計した。

全学共通科目のみを対象とした学生所属別の集計は、昨年度同様に実施している。今期から、人文系・社会系・自然系・保健体育系に分類し、それぞれの系別間において授業認識の相違が生じているかどうかの検証も試みた。

2025 年度前期の分析も 2024 年度後期と同様に、平均値とその標準偏差を用いて算出した「変動係数(変異係数、あるいは変化係数ともいう)」に基づいて、アンケートの各項目における学科別の「格差」の有無について検証を行っている。変動係数は複数の変数間の相対的な格差を示す指標として用いられる。本アンケートでは複数の学科間の相対的な格差を表す。その値が高い程、相対的なバラツキが大きいことを示し、良い傾向とは言えない。なお、変動係数の数値は 100 分率で表している。

変動係数はローデータに基づいて算出しているため、各表の平均と標準偏差を用いて計算する値と異なる場合があるが、学科間の相対的な格差分析に問題は生じない。

なお、表の数値は小数点以下 3 桁までを記載し、本文中では下 2 桁(下 3 桁は四捨五入)で示している。前回の回答結果比較のために、(後期〇〇)と表記している場合は、2024 年度後期を示すものとする。

4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布(学科/部局別)にある回答者数(Q1b は 20,215 人、Q2 は 23,404 人、Q4 は 9,143 人、Q5 は 23,401 人、Q6 は 23,429 人、Q7 は 23,415 人、Q8 は 23,370 人)は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、23,370 人、41.66%(昨年度後期 30.66%)であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2025 年度前期も担当科目のなかから最も履修者数の多い 1 科目を対象としてアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、学生の回答から教員自身が授業方法について見直し、課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが重要だと考えたからである。

2025 年度前期の回答率(41.66%)は 2024 年度前期の 32.89%、2024 年度後期の 30.66%

と比較すると、それぞれ 8.77%、11.00%増加した。このように、回答率が大幅に増加したのは各教員がアンケート期間中、学生たちに回答するよう、意識的に強く促してくれるようになったお陰である。これからもアンケート期間中は学生たちに意識的に回答を一層促してほしい。

学科部局別の回答率とその増減は以下の表の通りである。各学科部局における回答率の増減（=2025 年度前期－2024 年度後期）の場合、看護学科(-3.25%)と国際交流センター(-6.10%)の以外は増加している。ただし、看護学科において、2025 年度前期の回答率(63.31%)は 2024 年度後期(66.56%)よりも減少しているものの、全学で最も高い率を示している。

学科別の回答率と増減

	2024後期	2025前期	増減(%)
健康科学科	35.79%	57.62%	21.83%
日本語学科	30.89%	50.23%	19.34%
スポーツ科学科	26.48%	45.68%	19.20%
歴史文化学科	29.64%	48.19%	18.55%
法律学科	24.11%	40.27%	16.15%
英語学科	32.39%	47.80%	15.41%
国際関係学科	28.49%	42.52%	14.04%
中国文学科	36.21%	49.95%	13.74%
中国語学科	37.89%	50.78%	12.89%
英米文学科	39.24%	51.94%	12.70%
国際文化学科	32.10%	43.66%	11.56%
書道学科	38.00%	48.87%	10.87%
政治学科	35.81%	44.78%	8.97%
教育学科	26.05%	34.46%	8.41%
経営学科	22.39%	30.69%	8.30%
社会学科	41.69%	48.94%	7.25%
現代経済学科	19.43%	25.37%	5.94%
日本文学科	39.22%	44.33%	5.11%
社会経済学科	22.35%	26.58%	4.23%
教職課程センター	42.54%	46.27%	3.73%
看護学科	66.56%	63.31%	-3.25%
国際交流センター	47.83%	41.73%	-6.10%

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	1,099	1,380	2,479	44.332%
中国文学科	508	509	1,017	49.951%
英米文学科	977	904	1,881	51.940%
教育学科	1,646	3,131	4,777	34.457%
書道学科	346	362	708	48.870%
歴史文化学科	825	887	1,712	48.189%
社会経済学科	1,179	3,257	4,436	26.578%
現代経済学科	603	1,774	2,377	25.368%
中国語学科	655	635	1,290	50.775%
英語学科	2,201	2,404	4,605	47.796%
日本語学科	438	434	872	50.229%
法律学科	2,033	3,016	5,049	40.265%
政治学科	1,282	1,581	2,863	44.778%
国際関係学科	765	1,034	1,799	42.524%
国際文化学科	623	804	1,427	43.658%
経営学科	1,917	4,330	6,247	30.687%
スポーツ科学科	1,770	2,105	3,875	45.677%
健康科学科	1,100	809	1,909	57.622%
看護学科	604	350	954	63.312%
社会学科	2,033	2,121	4,154	48.941%
教職課程センター	708	822	1,530	46.275%
国際交流センター	58	81	139	41.727%
全学	23,370	32,730	56,100	41.658%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	11,984	8,817	20,801	57.613%
2	6,790	10,334	17,124	39.652%
3	3,648	9,000	12,648	28.843%
4	908	4,537	5,445	16.676%

本アンケートは、授業に対する学生の認識を問うだけではなく、その結果に対して、教員からのコメント入力も必須となっている。授業改善のためには、学生からの指摘あるいは好評であった部分も含め、無視するわけにはいかない。学生からのアンケート回答率は徐々に上昇し、教員側のコメント入力状況も僅かに上昇が見られたとはいえ、決して良い数値とは言えない。専任と非常勤を合わせた回答率は、56.1%、専任のみ 68.1%、非常勤のみ 49.2%であった。表にあるように、学科間の入力率の差が大きく、この点は意識的な改善が求められる（専任：中国語学科 100%、書道学科 33.3%）。中国語学科は専任 100%と大幅な改善がみられた。

その一方で、非常勤よりも専任のコメント入力率が低い学科が5学科あり（日本文学科、中国文学科、教育学科、書道学科、現代経済学科）、このうち4学科が文学部であった。各学科においても教員に対して入力を強く促すことが必要だと思われる。

教員のアンケートへの反応の低さが、学生のアンケートへの回答意欲を低下させかねないことはいままでのない。教員のコメント入力率を上げることは、教員自身のアンケートへの意識を高めることでもあり継続課題である。

コメント入力状況

学部名	学科名	入力率	入力率	入力率
		専任、非常勤	専任のみ	非常勤のみ
文学部	日本文学科	66.0%	50.0%	72.2%
	中国文学科	88.2%	85.7%	90.0%
	英米文学科	45.2%	72.7%	39.2%
	教育学科	43.9%	41.7%	45.5%
	書道学科	45.0%	33.3%	54.5%
	歴史文化学科	53.1%	87.5%	41.7%
文学部集計		53.4%	56.2%	52.1%
経済学部	社会経済学科	56.0%	73.3%	30.0%
	現代経済学科	58.3%	53.8%	63.6%
経済学部集計		57.1%	64.3%	47.6%
外国語学部	中国語学科	56.3%	100.0%	40.0%
	英語学科	50.5%	78.9%	44.0%
	日本語学科	63.6%	85.7%	53.3%
外国語学部集計		53.8%	87.2%	44.0%
法学部	法律学科	64.1%	82.4%	57.4%
	政治学科	61.5%	75.0%	52.2%
法学部集計		63.1%	78.8%	55.7%
国際関係学部	国際関係学科	67.9%	69.2%	66.7%
	国際文化学科	63.6%	70.0%	58.3%
国際関係学部集計		66.0%	69.6%	63.0%
経営学部	経営学科	63.8%	75.9%	44.4%
経営学部集計		63.8%	75.9%	44.4%
スポーツ・健康科学部	スポーツ科学科	43.8%	65.2%	24.0%
	健康科学科	41.7%	47.4%	20.0%
	看護学科	61.9%	75.0%	20.0%
スポーツ・健康科学部集計		47.3%	62.1%	22.9%
社会学部	社会学科	58.0%	68.2%	50.0%
社会学部集計		58.0%	68.2%	50.0%
教職課程センター		64.5%	—	64.5%
教職課程センター集計		64.5%	—	64.5%
国際交流センター		37.5%	50.0%	33.3%
国際交流センター集計		37.5%	50.0%	33.3%
全学集計		56.1%	68.1%	49.2%

4.3.1 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では2「知っている」と回答したのは79.93% (24年度後期80.49%)であった。2024年度後期よりも僅かに減少している。20.07%の回答学生がシラバスを承知していないことに留意が必要である。「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、89.02%の書道学科 (24年度後期83.71%)であった。

学年別では学年が上がるにつれ、1年生を除き、2「知っている」の比率が80%を超え、高くなる傾向にある。

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) 回答

(1「いいえ (あまりよく) 知りません」 / 2「はい (おおよそ) 知っています」)

学科 / 部局	1	2
日本文学科	14.364%	85.636%
中国文学科	19.843%	80.157%
英米文学科	19.450%	80.550%
教育学科	20.109%	79.891%
書道学科	10.983%	89.017%
歴史文化学科	19.471%	80.529%
社会経済学科	13.717%	86.283%
現代経済学科	15.232%	84.768%
中国語学科	22.358%	77.642%
英語学科	21.739%	78.261%
日本語学科	25.000%	75.000%
法律学科	23.171%	76.829%
政治学科	18.189%	81.811%
国際関係学科	16.969%	83.031%
国際文化学科	15.630%	84.370%
経営学科	17.898%	82.102%
スポーツ科学科	23.467%	76.533%
健康科学科	29.012%	70.988%
看護学科	16.364%	83.636%
社会学科	21.944%	78.056%
教職課程センター	23.944%	76.056%
国際交流センター	1.724%	98.276%
全学	20.073%	79.927%

学年	1	2
1	23.512%	76.488%
2	15.979%	84.021%
3	18.212%	81.788%
4	13.421%	86.579%

4.3.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。 [シラバス通り]

この設問はQ1aで2「はい (おおよそ) 知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.34 (後期4.42) で標準偏差は0.74 (後期0.70) であり、この結果は2024年度後期と同じ傾向である。

学科で最も平均値が高かったのは書道学科で 4.57（後期は日本語学科 4.57）であった。標準偏差の 0.58 を加味すると、その値は 3.99 から 5.15 の幅に位置する。

学科部局別、学年別、全学の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は全学 89.63%（後期 91.58%）であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

尚、全学の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数からみると、学科間の格差を確認できる。平均 16.28% に対し、係数が最も大きかったのは教育学科 21.39%（後期：17.50%）、次いで現代経済学科 18.83%（後期：15.66%）、日本語学科 18.28%（後期：14.04%）、政治学科 18.01%（後期：15.69%）、健康科学科 18.00%（後期：15.84%）、法律学科 17.35%（後期：17.16%）、社会学科 17.02%（後期：15.16%）、が 17% を超えている。2024 年度後期よりもバラツキが広がっており、留意が必要であろう。

Q 1b 「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	966	4.519	0.594	13.152%
中国文学科	448	4.328	0.692	15.997%
英米文学科	839	4.404	0.724	16.444%
教育学科	1,414	4.204	0.899	21.393%
書道学科	317	4.565	0.578	12.664%
歴史文化学科	708	4.355	0.699	16.054%
社会経済学科	1,079	4.342	0.704	16.214%
現代経済学科	546	4.264	0.803	18.832%
中国語学科	546	4.388	0.698	15.896%
英語学科	1,889	4.360	0.695	15.930%
日本語学科	353	4.448	0.813	18.278%
法律学科	1,711	4.271	0.741	17.353%
政治学科	1,120	4.277	0.770	18.006%
国際関係学科	678	4.417	0.701	15.862%
国際文化学科	569	4.439	0.694	15.636%
経営学科	1,689	4.308	0.729	16.927%
スポーツ科学科	1,534	4.373	0.734	16.788%
健康科学科	925	4.301	0.774	18.003%
看護学科	556	4.394	0.677	15.405%
社会学科	1,698	4.275	0.727	17.016%
教職課程センター	572	4.385	0.666	15.180%
国際交流センター	58	4.690	0.499	10.630%
全学	20,215	4.341	0.735	16.280%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	10,099	4.28	0.77	18.002%
2	6,087	4.38	0.70	15.905%
3	3,179	4.39	0.70	15.989%
4	811	4.54	0.61	13.473%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

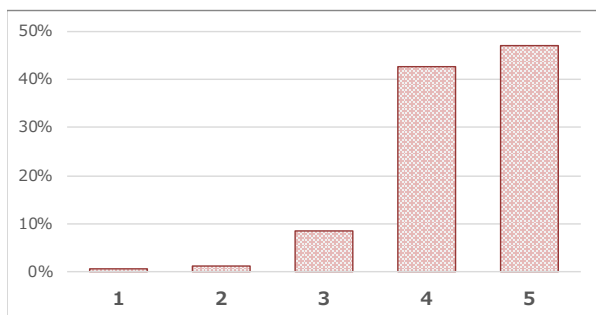
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.518%	3.623%	39.337%	56.522%
中国文学科	0.000%	1.116%	9.598%	44.643%	44.643%
英米文学科	0.834%	0.834%	6.675%	40.405%	51.251%
教育学科	2.475%	2.687%	9.406%	42.786%	42.645%
書道学科	0.000%	0.315%	3.470%	35.647%	60.568%
歴史文化学科	0.000%	1.836%	7.486%	44.068%	46.610%
社会経済学科	0.556%	0.649%	8.248%	45.134%	45.412%
現代経済学科	1.465%	2.015%	7.692%	46.337%	42.491%
中国語学科	0.366%	0.549%	8.608%	40.842%	49.634%
英語学科	0.212%	0.794%	8.947%	42.880%	47.168%
日本語学科	2.266%	0.283%	6.232%	32.861%	58.357%
法律学科	0.584%	1.110%	10.754%	45.763%	41.788%
政治学科	0.625%	1.964%	10.000%	43.929%	43.482%
国際関係学科	0.442%	0.885%	7.080%	39.676%	51.917%
国際文化学科	0.351%	1.230%	5.975%	39.016%	53.427%
経営学科	0.710%	1.243%	7.934%	46.714%	43.398%
スポーツ科学科	0.391%	0.913%	10.169%	38.070%	50.456%
健康科学科	0.541%	0.865%	13.622%	37.946%	47.027%
看護学科	0.000%	0.899%	8.273%	41.367%	49.460%
社会学科	0.530%	1.531%	8.716%	48.351%	40.872%
教職課程センター	0.175%	0.350%	8.217%	43.357%	47.902%
国際交流センター	0.000%	0.000%	1.724%	27.586%	70.690%
全学	0.618%	1.167%	8.588%	42.755%	46.871%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.921%	1.347%	10.001%	43.826%	43.905%
2	0.329%	1.051%	7.360%	42.928%	48.333%
3	0.346%	1.070%	7.455%	41.208%	49.921%
4	0.123%	0.247%	4.809%	35.142%	59.679%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	125	0.618%
2	236	1.167%
3	1,736	8.588%
4	8,643	42.755%
5	9,475	46.871%
合計	20,215	

4.3.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」の5段階であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は3.57(24年度後期:3.53)、標準偏差は0.80(24年度後期:0.76)であった。どの学科も3「適切だった」から4「やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。

学科部局別と全学の回答分布状況をみると、全学では3と4の合計が82.85%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、3「適切だった」が5割を超える高い数値を示したのは、高い順に国際交流センター63.79%、スポーツ科学科59.50%、教職課程センター56.06%、書道学科55.91%、日本文学科55.15%、国際文化学科53.12%、国際関係学科52.53%、日本語学科50.91%、英米文学科50.00%であった。

国際交流センターは、授業を易しいと受け止めている1と2の回答の合計値が比較的高く(10.34%)、授業を難しいと捉えている5の回答が他学科に比べて相対的に低かった(3.45%)。

学年別の平均値は、1年生3.59、2年生3.55、3年生3.56と、ほぼ同じ水準であるが、4年生は3.45と僅かに低くなり、他学年よりは授業を難しいとは捉えていない。

全学の学年別回答分布を2024年度後期と比較すると、1年生から3年生は3「適切だった」が減少している(1年生43.05%:後期49.37%、2年生47.74%:後期49.34%、3年生49.60%:後期52.77%)。一方で、4年生59.16%(後期52.35%)は増加している。これに連動して、5「とても難しかった」は1年生14.13%(後期11.47%)、2年生11.28%(後期10.19%)、3年生12.17%(後期10.68%)と、1年生で2.66%、2年生で1.09%、3年生で1.49%の増加が見られた。これにより、学生の授業難易度に対する認識は2024年度後期に比べて、2025年度前期の授業を難しいと捉えていることが示された。

4年生の場合、5が9.38%(後期10.50%)と、前年度後期よりも1.12%の減少がみられた。

変動係数をみると、全学平均22.08%より高い学科が10学科もあり、学科間の格差を確

認できる。なかでも、スポーツ科学科 24.35%と教育学科 23.65%は相対的に高い値を示し、学力に幅があることがわかる。今後、改善に向けた検討が必要であろう。

Q 2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,097	3.467	0.690	19.918%
中国文学科	510	3.625	0.732	20.198%
英米文学科	980	3.448	0.796	23.075%
教育学科	1,646	3.542	0.838	23.646%
書道学科	347	3.455	0.658	19.032%
歴史文化学科	832	3.524	0.758	21.498%
社会経済学科	1,179	3.655	0.757	20.726%
現代経済学科	604	3.654	0.835	22.840%
中国語学科	654	3.581	0.860	24.003%
英語学科	2,204	3.545	0.807	22.771%
日本語学科	440	3.470	0.759	21.876%
法律学科	2,036	3.680	0.784	21.298%
政治学科	1,279	3.704	0.822	22.191%
国際関係学科	771	3.438	0.760	22.116%
国際文化学科	625	3.512	0.778	22.148%
経営学科	1,919	3.688	0.793	21.514%
スポーツ科学科	1,773	3.303	0.804	24.345%
健康科学科	1,102	3.757	0.828	22.030%
看護学科	606	3.749	0.788	21.006%
社会学科	2,032	3.575	0.801	22.397%
教職課程センター	710	3.432	0.678	19.749%
国際交流センター	58	3.172	0.698	22.009%
全学	23,404	3.568	0.798	22.080%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	11,996	3.59	0.83	23.240%
2	6,806	3.55	0.76	21.508%
3	3,657	3.56	0.75	21.146%
4	906	3.45	0.71	20.554%

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

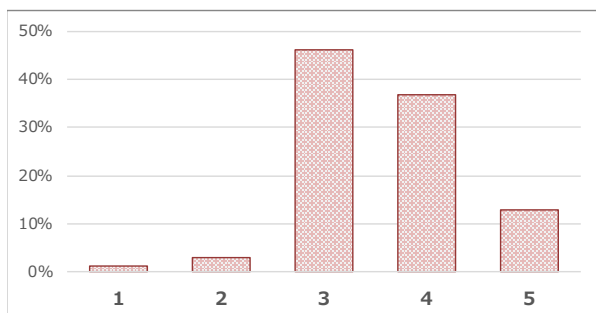
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.729%	1.732%	55.150%	34.913%	7.475%
中国文学科	0.784%	2.353%	40.784%	45.686%	10.392%
英米文学科	1.735%	4.694%	50.000%	34.184%	9.388%
教育学科	1.762%	4.010%	45.869%	34.994%	13.366%
書道学科	0.576%	1.441%	55.908%	36.023%	6.052%
歴史文化学科	0.481%	3.726%	49.760%	34.976%	11.058%
社会経済学科	0.509%	2.629%	40.967%	42.663%	13.232%
現代経済学科	1.325%	3.974%	38.245%	40.894%	15.563%
中国語学科	1.988%	4.281%	41.896%	37.309%	14.526%
英語学科	1.633%	3.494%	45.372%	37.704%	11.797%
日本語学科	1.364%	3.409%	50.909%	35.455%	8.864%
法律学科	0.737%	2.456%	40.029%	41.601%	15.177%
政治学科	0.860%	2.424%	40.500%	37.842%	18.374%
国際関係学科	1.167%	4.410%	52.529%	33.204%	8.690%
国際文化学科	0.960%	2.560%	53.120%	31.040%	12.320%
経営学科	0.782%	2.345%	40.229%	40.594%	16.050%
スポーツ科学科	2.933%	4.794%	59.504%	24.591%	8.178%
健康科学科	0.817%	1.815%	39.020%	37.568%	20.780%
看護学科	0.330%	1.650%	39.769%	39.274%	18.977%
社会学科	1.230%	3.445%	44.636%	37.992%	12.697%
教職課程センター	0.704%	2.394%	56.056%	34.648%	6.197%
国際交流センター	1.724%	8.621%	63.793%	22.414%	3.448%
全学	1.209%	3.149%	46.095%	36.759%	12.788%

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.642%	3.626%	43.048%	37.554%	14.130%
2	0.823%	3.027%	47.737%	37.129%	11.284%
3	0.574%	2.215%	49.604%	35.439%	12.168%
4	0.662%	1.435%	59.161%	29.360%	9.382%

Q2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易しかった」/ 2「やや易しかった」/ 3「適切だった」/ 4「やや難しかった」/ 5「とても難しかった」)



回答	回答者数	割合
1	283	1.209%
2	737	3.149%
3	10,788	46.095%
4	8,603	36.759%
5	2,993	12.788%
合計	23,404	

4.3.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で「2 はい、あります」と回答したのは17.16% (2024年度後期 19.54%) と低い比率であり、2024年度後期より2.38%減少する結果となった。

2024年度後期において、「1 いいえ、したことはありません」と回答したのは全学で80.46%と高い比率を示していた。2025年度前期 82.84%は、2024年度後期よりも2.38%増加しており、依然として授業における学生の消極的な様子がみとれる。

「2 はい、あります」については、11学科が全学平均値(17.16%)未満であり、社会経済学科の7.70%は他学科に比べても相対的に低かった。

「2 はい、あります」と回答した学生を学年別の比率でも、全学で1年生 17.86%、2年生 15.07%、3年生 17.33%、4年生 22.06%となり、2年生は平均値を下回っているが、4年生は20%を超え、他学年よりも積極性が見られる結果となった。

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	84.475%	15.525%
中国文学科	80.512%	19.488%
英米文学科	74.404%	25.596%
教育学科	84.217%	15.783%
書道学科	65.318%	34.682%
歴史文化学科	83.575%	16.425%
社会経済学科	92.301%	7.699%
現代経済学科	88.552%	11.448%
中国語学科	72.798%	27.202%
英語学科	73.303%	26.697%
日本語学科	77.880%	22.120%
法律学科	88.229%	11.771%
政治学科	81.408%	18.592%
国際関係学科	78.403%	21.597%
国際文化学科	80.515%	19.485%
経営学科	87.447%	12.553%
スポーツ科学科	86.087%	13.913%
健康科学科	80.731%	19.269%
看護学科	85.786%	14.214%
社会学科	86.991%	13.009%
教職課程センター	84.463%	15.537%
国際交流センター	50.877%	49.123%
全学	82.841%	17.159%

学年	1	2
1	82.137%	17.863%
2	84.935%	15.065%
3	82.670%	17.330%
4	77.938%	22.062%

4.3.5 【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.10（後期は4.22）、標準偏差は0.97（後期は0.94）となり、2024年度後期に比べて僅かながら低下している。とはいえ、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の間にあることから、対応は迅速であったと認識されていると言える。

学科部局別回答分布の全学をみると、4と5の合計は71.28%と7割を超えているが、2024年度後期の4、5の合計75.05%と比較すると、3.77%減少している。

2024年度後期は、1「まったくそう思わない」1.60%と2「どちらかといえばそう思わない」1.47%の合計が3.08%であった。2025年度前期の1と2の合計は3.83%で微増した。この結果から、質問に対する教員対応が前年度の後期に比べて、僅かではあるが改善したと言える。

学科別では2024年度の後期と同様、書道学科(平均4.55、標準偏差0.75)が最も高かった(2024年度後期：平均4.56、標準偏差0.85)。部局では国際交流センターが平均4.60、

標準偏差 0.68 であった(後期：平均 4.47、標準偏差 0.85)。

学年別では、全学の平均は1年生 4.06 (標準偏差 1.01)、2年生 4.09(標準偏差 0.93)、3年生 4.20(標準偏差 0.92)、4年生 4.31 (標準偏差 0.93) を示し、学年が上がるに連れて増加している。4年生の数値は他学年に比べて相対的に高い。

変動係数の平均値は 23.22% であった。12 学科がこの平均値を超え、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。これはバラツキが大きく生じていることから、良い傾向とは言えない。最も高いのは現代経済学科で 27.10% であり、最も低い書道学科 16.39% と、10.71% の格差が生じており、学科間の大きな格差が確認された。

学科部局別回答分布の「5 強くそう思う」の評価は、2024 年度後期に比べ、歴史文化学科と中国語学科の 2 学科以外は低下している。

Q4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	350	4.297	0.877	20.405%
中国文学科	207	4.174	0.927	22.201%
英米文学科	455	4.176	0.990	23.708%
教育学科	615	4.049	0.975	24.079%
書道学科	176	4.545	0.745	16.386%
歴史文化学科	273	4.139	0.903	21.821%
社会経済学科	406	3.783	0.996	26.332%
現代経済学科	205	3.854	1.044	27.102%
中国語学科	298	4.221	0.965	22.854%
英語学科	1,046	4.292	0.857	19.967%
日本語学科	168	4.256	1.006	23.636%
法律学科	694	3.967	1.016	25.610%
政治学科	545	4.029	1.008	25.011%
国際関係学科	339	4.183	0.963	23.033%
国際文化学科	272	4.147	0.947	22.844%
経営学科	759	3.872	1.000	25.818%
スポーツ科学科	726	4.072	0.965	23.704%
健康科学科	453	4.110	0.966	23.495%
看護学科	242	4.070	1.036	25.456%
社会学科	666	4.014	0.987	24.593%
教職課程センター	203	4.296	0.889	20.685%
国際交流センター	45	4.600	0.680	14.780%
全学	9,143	4.098	0.973	23.220%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	4,820	4.056	1.007	24.817%
2	2,601	4.090	0.934	22.838%
3	1,325	4.201	0.920	21.892%
4	376	4.309	0.926	21.486%

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

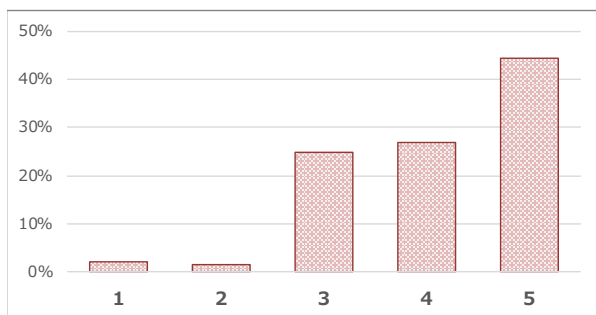
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.571%	0.857%	22.000%	21.429%	55.143%
中国文学科	1.449%	1.932%	21.256%	28.502%	46.860%
英米文学科	2.857%	1.538%	20.000%	26.374%	49.231%
教育学科	2.276%	1.951%	25.691%	28.780%	41.301%
書道学科	0.000%	1.136%	11.932%	18.182%	68.750%
歴史文化学科	0.733%	1.099%	27.106%	25.641%	45.421%
社会経済学科	2.956%	1.478%	40.640%	24.138%	30.788%
現代経済学科	4.878%	0.488%	32.195%	29.268%	33.171%
中国語学科	2.349%	1.342%	19.799%	24.832%	51.678%
英語学科	1.052%	1.243%	16.348%	30.210%	51.147%
日本語学科	2.976%	1.190%	19.643%	19.643%	56.548%
法律学科	2.882%	2.305%	29.107%	26.657%	39.049%
政治学科	3.119%	2.202%	24.037%	29.908%	40.734%
国際関係学科	2.360%	1.770%	19.469%	28.024%	48.378%
国際文化学科	2.206%	1.838%	19.853%	31.250%	44.853%
経営学科	2.767%	2.372%	33.465%	27.668%	33.729%
スポーツ科学科	1.653%	1.102%	30.028%	22.865%	44.353%
健康科学科	1.545%	1.987%	26.490%	23.841%	46.137%
看護学科	4.132%	0.826%	23.140%	27.686%	44.215%
社会学科	2.402%	2.553%	25.976%	29.429%	39.640%
教職課程センター	1.478%	0.493%	18.719%	25.616%	53.695%
国際交流センター	0.000%	0.000%	11.111%	17.778%	71.111%
全学	2.177%	1.652%	24.893%	26.786%	44.493%

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.925%	1.992%	24.481%	27.718%	42.884%
2	1.307%	1.192%	28.105%	25.952%	43.445%
3	1.358%	1.509%	21.585%	26.792%	48.755%
4	1.596%	1.064%	19.415%	20.745%	57.181%

Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも思えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	199	2.177%
2	151	1.652%
3	2,276	24.893%
4	2,449	26.786%
5	4,068	44.493%
合計	9,143	

4.3.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[学生意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.08 (後期: 4.13)、標準偏差 0.81 (後期: 0.79) であり、後期に比べてやや低い数値であった。学科別では後期と同様、書道学科 4.44 (標準偏差 0.71) が最も高かった (後期: 平均値 4.43、標準偏差 0.73)。学科による平均値の幅(書道学科: 最大値 4.44 - 現代経済学科: 最小値 3.94)は 0.50 で小さくはない。部局の平均値では、国際交流センターが 4.45 (標準偏差 0.65) と高かった (後期: 教職課程センター平均 4.26、標準偏差 0.70)。

学科部局別の回答分布をみても、4「どちらかと言えばそう思う」49.03%、5「強くそう思う」31.81%と、4と5の合計80.84%と8割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、全学年で4.0以上であり、4年生4.13 (標準偏差 0.72) が最も高い数値を表している。

変動係数から授業参加への意欲や熱意に対する学生自身の認識をみると、平均19.96%に対し、書道学科16.02%、スポーツ科学科17.12%、国際関係学科17.82%と低い値を示し、バラツキは少ない。

一方で、平均を超えバラツキの大きさを示したのは、現代経済学科22.02%、社会学科21.59%、経営学科21.39%、健康科学科21.39%、教育学科20.71%、社会経済学科20.59%、日本語学科20.53%、法律学科20.30%、英語学科20.13%、中国文学科19.99%の10学科であった。なお、現代経済学科22.02%に対して、国際交流センター14.57%と、最大で7.45%の格差が生じている。

Q 5「学生意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,100	4.183	0.772	18.467%
中国文学科	509	4.016	0.803	19.986%
英米文学科	980	4.140	0.781	18.867%
教育学科	1,649	4.043	0.837	20.708%
書道学科	347	4.438	0.711	16.021%
歴史文化学科	833	4.034	0.777	19.266%
社会経済学科	1,179	3.952	0.814	20.586%
現代経済学科	603	3.945	0.869	22.022%
中国語学科	653	4.165	0.796	19.119%
英語学科	2,203	4.128	0.831	20.132%
日本語学科	439	4.062	0.834	20.534%
法律学科	2,036	4.012	0.814	20.295%
政治学科	1,279	4.068	0.770	18.938%
国際関係学科	771	4.166	0.742	17.816%
国際文化学科	627	4.112	0.809	19.672%
経営学科	1,919	3.971	0.849	21.390%
スポーツ科学科	1,772	4.308	0.737	17.118%
健康科学科	1,098	4.036	0.851	21.075%
看護学科	606	4.183	0.754	18.028%
社会学科	2,031	3.937	0.850	21.594%
教職課程センター	709	4.114	0.751	18.251%
国際交流センター	58	4.448	0.648	14.565%
全学	23,401	4.079	0.814	19.959%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	11,993	4.055	0.846	20.861%
2	6,809	4.097	0.788	19.234%
3	3,654	4.108	0.775	18.857%
4	907	4.131	0.724	17.524%

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

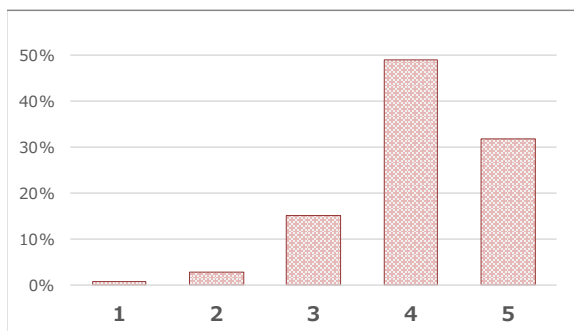
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.727%	1.909%	12.273%	48.545%	36.545%
中国文学科	0.786%	2.554%	19.057%	49.509%	28.094%
英米文学科	0.816%	1.735%	14.388%	48.776%	34.286%
教育学科	1.213%	3.032%	16.616%	48.514%	30.625%
書道学科	0.288%	1.729%	6.052%	37.752%	54.179%
歴史文化学科	0.600%	3.361%	14.886%	54.382%	26.771%
社会経済学科	1.018%	3.902%	17.812%	53.435%	23.834%
現代経済学科	1.493%	5.638%	14.760%	53.068%	25.041%
中国語学科	0.919%	1.531%	14.701%	45.789%	37.060%
英語学科	1.089%	3.132%	13.028%	47.435%	35.315%
日本語学科	1.139%	3.189%	15.490%	48.747%	31.435%
法律学科	0.884%	3.389%	17.092%	50.933%	27.701%
政治学科	0.782%	2.267%	15.012%	53.245%	28.694%
国際関係学科	0.649%	1.297%	12.840%	51.232%	33.982%
国際文化学科	0.319%	3.349%	15.789%	45.933%	34.609%
経営学科	1.042%	3.960%	19.437%	47.994%	27.566%
スポーツ科学科	0.226%	1.411%	10.948%	42.156%	45.260%
健康科学科	0.911%	3.005%	19.945%	43.807%	32.332%
看護学科	0.165%	1.980%	14.026%	47.030%	36.799%
社会学科	1.526%	4.530%	16.741%	53.127%	24.077%
教職課程センター	0.282%	3.103%	12.130%	53.879%	30.606%
国際交流センター	0.000%	0.000%	8.621%	37.931%	53.448%
全学	0.876%	2.979%	15.307%	49.032%	31.806%

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.134%	3.444%	16.043%	47.536%	31.844%
2	0.558%	2.893%	14.642%	50.110%	31.796%
3	0.794%	2.053%	14.258%	51.314%	31.582%
4	0.221%	1.323%	15.215%	51.599%	31.643%

Q 5 「学生意欲」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	205	0.876%
2	697	2.979%
3	3,582	15.307%
4	11,474	49.032%
5	7,443	31.806%
合計	23,401	

4.3.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学の平均 4.49 (標準偏差 0.73) は、2024 年度後期の平均 4.55 (標準偏差 0.68) に比べてわずかに減少しているが、ほぼ後期並みと言える。この平均値は、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の中間点である。学科部局別回答分布の全学平均値をみても、5 が 59.87%、4 が 31.65%であった。4 と 5 の合計が 91.52%という高い数値を示しており、満足してよい結果であると言える。学科部局別の回答分布においても、法律学科 89.44%、健康科学科 89.00%、社会経済学科 88.83%、現代経済学科 88.58%、経営学科 86.30%の 5 学科以外は 90%以上の高い値を示していた。

学科別の平均をみると、2024 年度後期に続き、書道学科が 4.69 (標準偏差 0.63) と最も高かった (後期：平均 4.69、標準偏差 0.63)。部局では国際交流センターの平均が 4.86 (標準偏差 0.43) と高かった (後期：平均 4.86、標準偏差 0.43)。

学年別の平均は 4.5 以上の高い数値を示しており、4 年生の数値が最も高い(全学 4.62)。

変動係数からみると、学科間の格差は生じているものの、各質問項目のなかでは最も低い値である。とはいえ、全学平均 15.73%に対し、経営学科 19.24%、現代経済学科 19.02%、社会経済学科 17.88%、法律学科 17.50%、国際文化学科 17.05%、教育学科 16.95%、健康科学科 16.73%、日本語学科 16.64%、政治学科 16.63%、社会学科 15.83%と平均を超えており、学科間の格差が確認された。

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,100	4.666	0.579	12.404%
中国文学科	510	4.559	0.626	13.727%
英米文学科	982	4.553	0.703	15.432%
教育学科	1,650	4.464	0.757	16.948%
書道学科	347	4.689	0.627	13.371%
歴史文化学科	832	4.519	0.698	15.452%
社会経済学科	1,182	4.400	0.787	17.881%
現代経済学科	604	4.338	0.825	19.019%
中国語学科	654	4.529	0.687	15.176%
英語学科	2,206	4.534	0.694	15.308%
日本語学科	440	4.566	0.760	16.643%
法律学科	2,036	4.420	0.773	17.498%
政治学科	1,281	4.457	0.741	16.632%
国際関係学科	772	4.570	0.637	13.938%
国際文化学科	627	4.498	0.767	17.051%
経営学科	1,920	4.302	0.828	19.235%
スポーツ科学科	1,775	4.558	0.665	14.580%
健康科学科	1,100	4.455	0.745	16.725%
看護学科	606	4.480	0.662	14.767%
社会学科	2,036	4.490	0.711	15.831%
教職課程センター	711	4.584	0.613	13.363%
国際交流センター	58	4.862	0.433	8.915%
全学	23,429	4.489	0.727	15.730%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	12,008	4.446	0.769	17.304%
2	6,816	4.515	0.689	15.256%
3	3,658	4.548	0.663	14.571%
4	908	4.623	0.641	13.866%

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

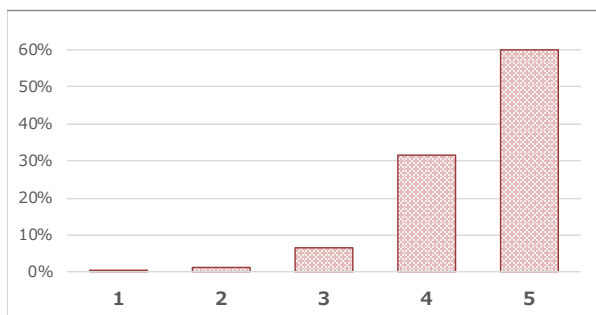
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.182%	0.636%	2.636%	25.455%	71.091%
中国文学科	0.000%	0.196%	6.667%	30.196%	62.941%
英米文学科	0.611%	1.120%	5.295%	28.310%	64.664%
教育学科	0.788%	1.697%	6.364%	32.667%	58.485%
書道学科	0.576%	0.865%	2.882%	20.461%	75.216%
歴史文化学科	0.361%	1.322%	5.769%	31.130%	61.418%
社会経済学科	0.846%	1.777%	8.545%	34.179%	54.653%
現代経済学科	1.490%	1.987%	7.947%	38.411%	50.166%
中国語学科	0.459%	1.070%	5.199%	31.651%	61.621%
英語学科	0.453%	0.952%	6.074%	29.737%	62.783%
日本語学科	1.591%	0.909%	4.318%	25.682%	67.500%
法律学科	0.688%	1.866%	8.006%	33.595%	55.845%
政治学科	0.546%	1.327%	7.806%	32.553%	57.767%
国際関係学科	0.130%	0.648%	5.311%	29.922%	63.990%
国際文化学科	1.116%	1.276%	6.380%	29.187%	62.041%
経営学科	1.042%	2.396%	10.260%	37.917%	48.385%
スポーツ科学科	0.169%	0.732%	6.535%	28.282%	64.282%
健康科学科	0.364%	1.273%	9.364%	30.455%	58.545%
看護学科	0.165%	0.990%	5.446%	37.459%	55.941%
社会学科	0.589%	1.277%	5.403%	33.988%	58.743%
教職課程センター	0.141%	0.422%	4.501%	30.802%	64.135%
国際交流センター	0.000%	0.000%	3.448%	6.897%	89.655%
全学	0.576%	1.289%	6.620%	31.649%	59.866%

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.816%	1.599%	7.545%	32.253%	57.786%
2	0.352%	1.056%	5.957%	31.969%	60.666%
3	0.328%	0.847%	5.057%	31.274%	62.493%
4	0.110%	0.771%	5.837%	23.238%	70.044%

Q6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	135	0.576%
2	302	1.289%
3	1,551	6.620%
4	7,415	31.649%
5	14,026	59.866%
合計	23,429	

4.3.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

この設問に対する全学の平均は 4.26 (標準偏差 0.81) であり、後期 (平均 4.35、標準偏差 0.76) とほぼ同じ数値であった。全体としてはまずまずの結果と言える。学科別の平均は前年度と同じく、書道学科が 4.55 (標準偏差 0.68) と最も高く (後期: 平均 4.62、標準偏差 0.63)、部局では国際交流センターが平均 4.62 (標準偏差 0.67) であった (後期: 教職課程センター平均 4.51、標準偏差 0.68)。

学科部局別および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」42.90%、5「強くそう思う」43.85%である。両方の合計 86.75%は、2024 年度後期 (89.81%) に比べると減少しており、成長感覚が低下(3.06%)している。ちなみに、4 よりも 5 の割合が高かった学科は、高い順に書道学科 62.72%、日本文学科 56.19%、中国語学科 52.99%、スポーツ科学科 51.44%、国際関係学科 50.00%、国際文化学科 47.21%、英語学科 46.85%、看護学科 46.53%、英米文学科 43.83%、教育学科 43.00%の 10 学科であった。なかでも、書道学科は 6 割を超えており、技術の習得が成長感覚をもたらしていると考えられる。部局では、教職課程センターも国際交流センターも 5 の割合が高く、教職課程センター47.61%、国際交流センター70.69%であった。

学年別の回答分布を見ると、5「強くそう思う」の割合が最も高いのは 4 年生 53.41%で 5 割を超える数値であった。

成長感覚を変動係数からみると、次の 13 学科が全学平均の 18.02%を超えていた。現代経済学科 21.28%、経営学科 21.11%、社会学科 20.61%、日本語学科 20.27%、社会経済学科 20.05%、法律学科 19.97%、教育学科 19.78%、健康科学科 19.55%、英米文学科 18.98%、政治学科 18.87%、中国語学科 18.57%、英語学科 18.46%、国際文化学科 18.35%であり、他学科に比べて相対的にバラツキが大きかった。書道学科の変動係数は 14.85%と、バラツキが他学科に比べて最も小さかった。

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,098	4.478	0.682	15.219%
中国文学科	510	4.263	0.731	17.157%
英米文学科	981	4.264	0.809	18.981%
教育学科	1,649	4.227	0.836	19.785%
書道学科	346	4.546	0.675	14.853%
歴史文化学科	831	4.301	0.753	17.501%
社会経済学科	1,178	4.135	0.829	20.048%
現代経済学科	602	4.143	0.881	21.276%
中国語学科	653	4.380	0.813	18.567%
英語学科	2,205	4.311	0.796	18.460%
日本語学科	440	4.186	0.848	20.266%
法律学科	2,037	4.206	0.840	19.969%
政治学科	1,281	4.257	0.803	18.870%
国際関係学科	772	4.389	0.719	16.390%
国際文化学科	627	4.309	0.791	18.348%
経営学科	1,917	4.106	0.867	21.105%
スポーツ科学科	1,775	4.398	0.710	16.148%
健康科学科	1,103	4.225	0.826	19.547%
看護学科	606	4.312	0.767	17.777%
社会学科	2,036	4.139	0.853	20.608%
教職課程センター	710	4.368	0.707	16.191%
国際交流センター	58	4.621	0.665	14.394%
全学	23,415	4.263	0.807	18.020%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	12,004	4.198	0.845	20.122%
2	6,810	4.313	0.773	17.920%
3	3,653	4.338	0.748	17.250%
4	908	4.427	0.704	15.905%

Q7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

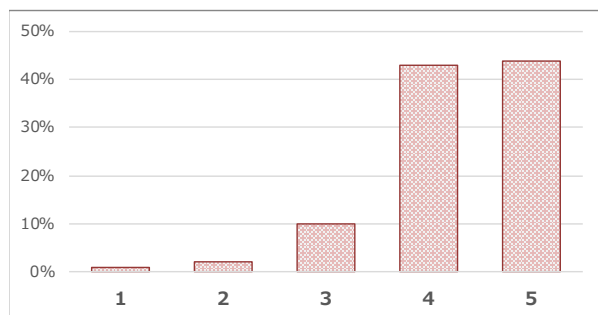
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.455%	1.002%	5.009%	37.341%	56.193%
中国文学科	0.196%	0.980%	12.941%	44.118%	41.765%
英米文学科	0.917%	2.854%	8.970%	43.425%	43.833%
教育学科	1.031%	2.790%	11.643%	41.540%	42.996%
書道学科	0.578%	0.578%	5.202%	30.925%	62.717%
歴史文化学科	0.722%	1.444%	9.146%	44.404%	44.284%
社会経済学科	1.273%	2.801%	12.479%	48.048%	35.399%
現代経済学科	1.993%	3.654%	9.801%	47.176%	37.375%
中国語学科	1.378%	2.144%	6.585%	36.907%	52.986%
英語学科	1.088%	1.950%	8.571%	41.542%	46.848%
日本語学科	1.818%	1.591%	12.727%	43.864%	40.000%
法律学科	1.424%	2.356%	11.487%	43.692%	41.041%
政治学科	1.093%	2.264%	9.368%	44.418%	42.857%
国際関係学科	0.648%	0.907%	7.383%	41.062%	50.000%
国際文化学科	0.638%	2.392%	9.569%	40.191%	47.209%
経営学科	1.669%	3.652%	11.841%	48.096%	34.742%
スポーツ科学科	0.225%	0.901%	9.183%	38.254%	51.437%
健康科学科	0.997%	2.267%	12.602%	41.523%	42.611%
看護学科	0.660%	1.320%	10.726%	40.759%	46.535%
社会学科	1.670%	2.898%	11.690%	47.397%	36.346%
教職課程センター	0.423%	1.268%	7.042%	43.662%	47.606%
国際交流センター	0.000%	1.724%	5.172%	22.414%	70.690%
全学	1.059%	2.178%	10.015%	42.896%	43.852%

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.325%	2.716%	11.638%	43.436%	40.886%
2	0.837%	1.703%	8.987%	42.305%	46.167%
3	0.821%	1.533%	7.282%	43.717%	46.647%
4	0.220%	1.211%	7.599%	37.555%	53.414%

Q7 「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	248	1.059%
2	510	2.178%
3	2,345	10.015%
4	10,044	42.896%
5	10,268	43.852%
合計	23,415	

4.3.9 【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]

包括的な設問（総合満足）であるQ8の結果をみると、全学の平均は8.12（標準偏差1.82）であり、8を超えているので「合格点」と言えるのではないだろうか。その平均値が2024年度後期（平均8.35、標準偏差1.69）に比べ下がっており、僅かながら「総合満足」が低下している。改善策の検討が必要であると考えられる。

学科別の平均では、その値が最も高かった学科は2024年度後期（平均8.97、標準偏差1.64）と同じく、書道学科であり、8.91（標準偏差1.39）であった。部局の平均は国際交流センターが高く、9.07（標準偏差1.11）であった（後期：平均8.69、標準偏差1.64）。

学科部局別および全学の回答分布をみると、8が23.06%（後期23.01%）、9が19.28%（後期21.25%）、10が28.10%（後期31.44%）である。8から10の合計は70.44%（後期75.70%）となり、全体の7割以上を占めているが、2024年度後期の結果と比較すると、5.26%の減少がみられ、「総合満足」が低下している。それでも回答分布の最頻値が10であることから、全体としてはまずまずの結果と考えることができるだろう。

学科別では、10が全学平均値の28.10%を超えるのは、書道学科48.27%、日本文学科36.40%、スポーツ科学科36.22%、中国語学科35.12%、国際文化学科34.35%、日本語学科32.19%、国際関係学科32.16%、英米文学科32.04%、英語学科29.90%、看護学28.97%、の10学科であった。8から10の合計が80%を超えている学科は書道学科85.26%と日本文学科80.98%のみで、この2学科は概して満足度が高い。

部局では、10の割合は教職課程センター29.94%、国際交流センター51.72%を示し、全学の平均値（28.10%）を上回っている。8から10の合計は教職課程センター75.28%、国際交流センター93.10%であった。

学年別では4年生が10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。ただし、1と2の数値については注意が必要であろう。1の割合を学年別にみると、4年生以外は2より1のほうが高い。さらに、1と2の合計値をみると、学年が上がるに連れて低くなる。これは学年

ごとに総合満足度に対する認識の違いが存在するということが留意が必要である。

変動係数の平均値から総合満足度をみると、2024年度後期と同様にQ2とQ4を除けば、他の質問項目に比べて相対的に高い数値を示しており（つまり、バラツキが大きい）、良い傾向とは言えない。変動係数の変動幅14.17%（=最大値－最小値）も、質問項目のなかでは最も大きい値を示した。これは総合満足度に対する学生認識が、学科間で大きな格差を生じていることを意味する。数値が最も低い学科は書道学科15.60%、次いでスポーツ科学科16.66%、日本文学科17.50%であった。これ以外は20%以上となる。経営学科は26.43%で最も高く、書道学科との差が10.83%であった。次いで高い値を示したのが、法律学科25.33%、現代経済学科24.64%、社会学科23.66%、健康科学科23.47%、日本語学科23.42%、教育学科23.10%であった。

Q8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,099	8.606	1.506	17.499%
中国文学科	508	8.234	1.701	20.653%
英米文学科	977	8.248	1.824	22.121%
教育学科	1,646	8.002	1.848	23.098%
書道学科	346	8.910	1.390	15.596%
歴史文化学科	825	8.063	1.771	21.969%
社会経済学科	1,179	7.958	1.819	22.856%
現代経済学科	603	7.851	1.934	24.641%
中国語学科	655	8.313	1.834	22.060%
英語学科	2,201	8.219	1.775	21.593%
日本語学科	438	8.194	1.919	23.416%
法律学科	2,033	7.904	2.002	25.328%
政治学科	1,282	8.063	1.835	22.761%
国際関係学科	765	8.387	1.679	20.023%
国際文化学科	623	8.310	1.806	21.729%
経営学科	1,917	7.709	2.038	26.430%
スポーツ科学科	1,770	8.601	1.433	16.665%
健康科学科	1,100	7.966	1.869	23.465%
看護学科	604	8.094	1.696	20.954%
社会学科	2,033	7.824	1.851	23.664%
教職課程センター	708	8.346	1.584	18.978%
国際交流センター	58	9.069	1.112	12.262%
全学	23,370	8.123	1.821	21.730%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	11,984	7.953	1.913	24.048%
2	6,790	8.238	1.732	21.023%
3	3,648	8.340	1.690	20.269%
4	908	8.594	1.473	17.136%

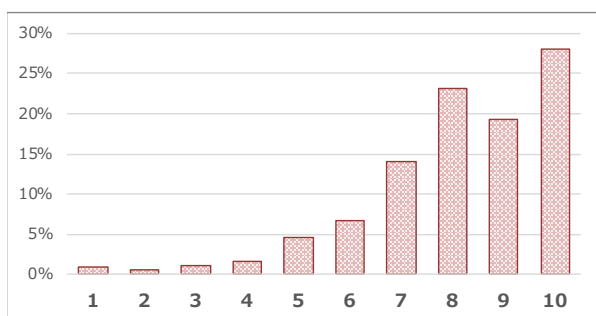
Q 8 「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.364%	0.273%	0.364%	0.637%	2.093%	4.732%	10.555%	21.929%	22.657%	36.397%
中国文学科	0.787%	0.197%	0.787%	1.378%	4.921%	5.512%	11.220%	25.197%	23.425%	26.575%
英米文学科	1.024%	0.614%	1.228%	0.819%	4.299%	6.039%	12.999%	22.006%	18.936%	32.037%
教育学科	1.033%	0.668%	1.276%	1.580%	4.860%	7.776%	15.188%	23.329%	19.137%	25.152%
書道学科	0.289%	0.000%	0.289%	0.289%	2.312%	1.734%	9.827%	17.630%	19.364%	48.266%
歴史文化学科	0.364%	0.606%	1.455%	2.182%	3.636%	8.606%	13.939%	24.485%	18.909%	25.818%
社会経済学科	1.103%	0.763%	1.103%	1.781%	4.580%	6.531%	16.455%	26.463%	18.405%	22.816%
現代経済学科	0.829%	1.161%	2.156%	2.156%	5.473%	7.794%	14.760%	24.876%	17.579%	23.217%
中国語学科	0.916%	0.458%	0.763%	1.832%	4.580%	5.954%	11.908%	19.542%	18.931%	35.115%
英語学科	0.772%	0.409%	1.136%	1.590%	3.862%	6.270%	13.903%	22.126%	20.036%	29.896%
日本語学科	2.055%	0.913%	0.228%	0.457%	5.251%	4.566%	14.155%	23.288%	16.895%	32.192%
法律学科	1.918%	0.935%	1.279%	2.115%	5.017%	7.329%	14.953%	22.479%	19.036%	24.939%
政治学科	1.014%	0.312%	1.482%	1.950%	5.148%	5.850%	14.587%	23.167%	20.749%	25.741%
国際関係学科	0.392%	0.523%	1.046%	1.176%	4.052%	4.052%	11.111%	23.922%	21.569%	32.157%
国際文化学科	0.321%	0.803%	1.124%	2.568%	4.013%	4.976%	10.594%	23.435%	17.817%	34.350%
経営学科	1.878%	0.939%	2.087%	2.191%	5.790%	10.016%	14.397%	23.631%	17.423%	21.648%
スポーツ科学科	0.000%	0.169%	0.226%	0.508%	2.712%	4.689%	12.147%	21.808%	21.525%	36.215%
健康科学科	0.818%	0.273%	1.273%	1.727%	8.182%	6.818%	15.455%	21.000%	18.000%	26.455%
看護学科	0.000%	0.166%	1.159%	1.159%	5.795%	8.444%	18.046%	21.026%	15.232%	28.974%
社会学科	0.885%	0.738%	1.279%	2.755%	5.706%	7.427%	17.314%	25.086%	17.905%	20.905%
教職課程センター	0.282%	0.282%	0.847%	0.424%	3.390%	6.780%	12.712%	24.576%	20.763%	29.944%
国際交流センター	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.448%	3.448%	27.586%	13.793%	51.724%
全学	0.903%	0.565%	1.147%	1.622%	4.626%	6.645%	14.052%	23.064%	19.281%	28.096%

Q 8 「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1.135%	0.676%	1.427%	2.078%	5.774%	7.385%	14.795%	22.689%	18.433%	25.609%
2	0.722%	0.515%	0.943%	1.222%	3.535%	6.406%	13.697%	23.697%	19.882%	29.381%
3	0.685%	0.356%	0.822%	1.179%	3.454%	5.236%	12.911%	23.328%	20.504%	31.524%
4	0.110%	0.330%	0.330%	0.441%	2.533%	4.515%	11.784%	22.467%	21.035%	36.454%

Q8 「総合満足」に対する全学の回答分布
 (1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	211	0.903%
2	132	0.565%
3	268	1.147%
4	379	1.622%
5	1,081	4.626%
6	1,553	6.645%
7	3,284	14.052%
8	5,390	23.064%
9	4,506	19.281%
10	6,566	28.096%
合計	23,370	

4.4.1 【クロス表に関する結果（全学）】

当該クロス表(表1、表2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を計算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、「教員熱意」が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。右端の列の数字(44→100→462→5551→12753)から、「教員熱意」が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

パーセントを示した表2からも、「教員熱意」と「学生意欲(自分意欲)」とのクロスチェック数値(赤字：53→79→911→4994→6749)も互いに上昇していることを確認できる。

この結果から、学生が「教員熱意」を感じるようになると、「学生意欲」を強く感じるようになっていくことがわかる。

表1

●【全講義】クロス集計（〔自分意欲〕×〔教員熱意〕）【回答数】

	自分意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	53	18	20	19	25	135	44
	2 どちらかと言えばそう思わない	22	79	101	72	28	302	100
	3 どちらとも言えない	38	134	911	381	81	1,545	462
	4 どちらかと言えばそう思う	47	292	1,513	4,994	557	7,403	5,551
	5 強くそう思う	45	174	1,031	6,004	6,749	14,003	12,753
合計	205	697	3,576	11,470	7,440	23,388	18,910	

表 2

●【全講義】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったく思わない	2 どちらかと言えば思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えば思う	5 強く思う		
1 まったく思わない	39.259%	13.333%	14.815%	14.074%	18.519%	100.000%	32.593%
2 どちらかと言えば思わない	7.285%	26.159%	33.444%	23.841%	9.272%	100.000%	33.113%
3 どちらとも言えない	2.460%	8.673%	58.964%	24.660%	5.243%	100.000%	29.903%
4 どちらかと言えば思う	0.635%	3.944%	20.438%	67.459%	7.524%	100.000%	74.983%
5 強く思う	0.321%	1.243%	7.363%	42.877%	48.197%	100.000%	91.073%

4.5.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正（負）の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」に対しては、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.65 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.58」「学生意欲 0.51」「FB 丁寧 0.49」「シラバス通り 0.49」となっている。ここから、「総合満足度」の向上は、「成長感覚」すなわち成長実感を持てるかどうか、最も強く影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係順に見ていくと、「教員の熱意」との間に強い正の相関関係 0.61 がみられた。その後は弱い正の相関関係順に、「自分の意欲 0.56」「FB 丁寧 0.49」「シラバス通り 0.48」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか最も強く影響することを示している。

「難易度が適切か」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度(最大 10 点)」以外の他の変数が 5 点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度適切」は 3 点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、相関係数表に基づくと、「難易度適切」と他の変数との関連性は、単純に 2 つの変数が共に変動しているかどうかを測る相関分析で統計的に判断することが困難である。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

留意すべき点は、「総合満足」と「成長感覚」との「相関係数 0.65」、および「成長感覚」と「教員熱意」との「相関係数 0.61」が、2024 年度後期の弱い正の相関関係(0.59、0.55)から強い正の相関関係に変わったことである。今後の授業改善において参考にすべき変化であろう。

●【全講義】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【自分意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.082	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.428	-0.084	1.000				
Q5	【自分意欲】	0.417	-0.096	0.469	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.487	-0.091	0.497	0.484	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.479	-0.120	0.492	0.564	0.606	1.000	
Q8	【総合満足】	0.494	-0.228	0.488	0.514	0.580	0.648	1.000

まとめと結論（教員所属別）

2025年度前期の主な結果をまとめると、以下のようになる。

1. シラバス内容を知っている学生(Q1a)は全学79.93%であった。この数値は2024年度後期(80.49%)と比べても、ほぼ横ばいである。シラバスは授業内容や方法、DPとの関連性が示され、学生にカリキュラムの順次性や体系性を周知する重要な媒体である。学生が自らの学修を振り返るためにもシラバスの確認を促す必要があるだろう。
2. シラバス内容を知っている学生は、授業はシラバス通り(Q1b)に実施されたと概ね認識している。(平均値：全学4.34)
3. 授業の難易度について(Q2)は「適切だった」が最も多く、次に「やや難しかった」が多かった。全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。

ただし、学年別回答分布の動向を2024年度後期と比較すると、留意すべき点がある。1年生から3年生までは3「適切だった」が減少している(1年/49.30%→43.05%、2年/49.34%→47.74%、3年/52.77%→49.60%)。一方で、4年生は増加している(52.35%→59.16%)。

学年別に授業の難易度をみる限り、1年生から3年生が「適切だった」を選ぶ層が減少し、5(難しい)と2(やや易しい)に分かれつつあり、2よりも5が増加する傾向にある。学年が下がるにつれ二極化しており、今後もこの傾向が続くのか注視する必要がある。学年別の傾向は変動係数にも表れている。

変動係数をみても概して高く、どの学科もバラツキが大きく、今後の授業改善に向けた検討や工夫が必要であろう。

4. 質問をしたことのある学生(Q3)は、全学平均で17.16%であった。前年後期の19.54%から減少している。
5. 質問に対する対応(Q4)は、概ね「迅速であると認識されていた(平均値：全学4.10) 。とはいえ、前年度後期の平均値4.22からは低下している。全学・学科部局別回答分布の平均(=4+5の合計)をみても、「迅速である」と認識している学生が、前年後期に比べて3.76%減少している。

変動係数の数値が質問項目のなかでは最も高く、学科間の格差が大きいことが確認された。くわえて、前年後期の学科部局別の変動係数の平均は22.34%であったのに対し、今回は23.22%とバラツキが僅かに広がっている点も注意が必要であろう。学科部局間の格差も広がっている。

6. 学生は「熱意・意欲」(Q5)をもって、授業に取り組んだと概ね認識していた(平均値：全学4.08)。それでも、2024年度後期(平均値：全学4.13)と比較すると、平均値が僅かながら低下している。
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている(Q6)と学生は概ね認識していた(平均値：全学4.49)。前年後期(全学4.55)とそれほど変わらない。変動係数をみても質問項目のなかで最も平均が低い。
8. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識(Q7)は多くの学生が持っており、最頻値が前期と同じく5である。全学的な平均値(4.26)からも、学科部局回答分布からも(4+5の合計：86.75%。前年度後期89.81%)、学生の「成長感覚」は高く示された。とはいえ、変動係数からは平均を超える学科が12学科あることがわかる。
9. すべてを総合して授業に対して概ね満足だと認識した学生(Q8：8～10を選んだ学生)は全学で70.44%となり、前年度後期(75.70%)から5.26%減少している。
10. 学生自身の「成長感覚」と学生からみた「教員熱意」には、強い正の相関関係(0.606)が確認された。学生が「教員熱意」を感じようになると、学生の「成長感覚」が促されると言える。さらに、「成長感覚」と授業に対する「総合満足度」も強い相関関係(0.648)が見られた。
11. 「総合満足」に最も影響があるのは、相関係数表によると、全学は「成長感覚」であり、次いで「教員熱意」「学生意欲」「フィードバックが丁寧かどうか」「シラバス通りかどうか」という順であった。ちなみに前年度後期は「学生意欲」と「フィードバックが丁寧かどうか」が逆であった。
12. 変動係数から各質問項目における学科間の格差を確認できる。特に、全学平均が20%を超えるのは2024年度後期と同じく、「Q2：授業の難易度」22.08%（後期21.57%）、「Q4：FB丁寧」23.22%（後期22.35%）、「Q8：総合満足度」21.73%（後期20.21%）であ

る。Q2の数値の上昇は、授業難しいと捉える層の増加を示している点に注意が必要である。授業の難易度と総合満足度は学生の学力を反映していると考えられ、授業における学生対応が難しくなっていることを示す。どの質問項目も、全体として前年後期よりも数値が低下し、変動係数が大きくなっている。この傾向が続くと学生対応は一層難しくなり、一定の学力をつけさせるために早い時期からのきめ細かい指導が必要となりそうだ。

【全学共通科目（学生所属別）】

【全学共通科目(学生所属別)】

2023 年度後期から全学共通科目を対象に学生の所属学科ごとに、アンケート結果を集計し分析している。2024 年度前期からは学科別に「変動係数」を算出し、格差があるか否かの検証をしている。さらに今回からは、全学共通科目を人文系・社会系・自然系・保健体育系に分類し、学生の所属別に集計することで、各系の科目に対する授業認識の相違が生じるかどうかの分析を試みた。

全学共通科目全体の結果は次の通りである。今回は全学共通科目全体の数値と上記 4 分類の数値を比較するため、全学共通科目の結果は各質問項目に対する回答結果の概略だけを記述している。各分類の分析のなかで全学共通科目全体の動向についても触れていく。

2025 年度前期の回答率は 41.07%を示し、2024 年度後期 30.23%から大幅に上昇した。回答率が最も高かった学科は法律学科 58.54%（2024 年度前期：35.48%）であった。50%を超えた学科は、前は 1 学科のみ（看護学科 51.08%）であったが、今回は 3 学科（法律学科 58.54%、看護学科 54.86%、日本文学科 51.74%）となった。看護学科の回答率は高い比率を維持している。

回答率が上昇したのは、11 学科で 40%を超えたからである（法律学科 58.54%、看護学科 54.86%、日本文学科 51.74%、社会学科 48.60%、歴史文化学科 47.81%、中国文学科 46.67%、書道学科 45.96%、政治学科 45.37%、現代経済学科 42.97%、日本語学科 40.89%、英語学科 40.29%）。30%を超えた学科も 7 学科あった（英米文学科 38.87%、社会経済学科 38.18%、スポーツ科学科 37.59%、健康科学科 31.95%、経営学科 31.71%、中国語学科 31.65%、教育学科 30.00%）。

その一方で、前回よりも上昇したとはいえ、20%台にとどまる学科（国際文化学科 25.70%、国際関係学科 24.46%）もあり、学科間の差が大きかった。

【全学共通科目<学生所属別>】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	432	403	835	51.737%
中国文学科	49	56	105	46.667%
英米文学科	281	442	723	38.866%
教育学科	147	343	490	30.000%
書道学科	74	87	161	45.963%
歴史文化学科	153	167	320	47.813%
社会経済学科	365	591	956	38.180%
現代経済学科	324	430	754	42.971%
中国語学科	125	270	395	31.646%
英語学科	336	498	834	40.288%
日本語学科	110	159	269	40.892%
法律学科	648	459	1,107	58.537%
政治学科	309	372	681	45.374%
国際関係学科	101	312	413	24.455%
国際文化学科	83	240	323	25.697%
経営学科	509	1,096	1,605	31.713%
スポーツ科学科	259	430	689	37.591%
健康科学科	85	181	266	31.955%
看護学科	203	167	370	54.865%
社会学科	295	312	607	48.600%
全学	4,888	7,015	11,903	41.065%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	3,275	3,079	6,354	51.542%
2	1,325	2,611	3,936	33.664%
3	136	561	697	19.512%
4	146	751	897	16.276%

【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

「2 シラバス内容を知っている」の回答は 81.20%（2024 年度後期 82.01%）であった。最も高かったのは書道学科 98.67%であった(後期 86.36%)。その他の学科で 90%を超えているのは、中国文学科 95.92%と看護学科 91.13%の 2 学科であった。

【全学共通科目】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.783%	82.217%
中国文学科	4.082%	95.918%
英米文学科	24.113%	75.887%
教育学科	14.189%	85.811%
書道学科	1.333%	98.667%
歴史文化学科	17.647%	82.353%
社会経済学科	14.521%	85.479%
現代経済学科	14.154%	85.846%
中国語学科	19.048%	80.952%
英語学科	18.750%	81.250%
日本語学科	25.688%	74.312%
法律学科	23.184%	76.816%
政治学科	13.226%	86.774%
国際関係学科	19.802%	80.198%
国際文化学科	11.628%	88.372%
経営学科	18.861%	81.139%
スポーツ科学科	26.538%	73.462%
健康科学科	26.744%	73.256%
看護学科	8.867%	91.133%
社会学科	28.378%	71.622%
全学	18.800%	81.200%

学年	1	2
1	20.000%	80.000%
2	17.068%	82.932%
3	12.319%	87.681%
4	14.384%	85.616%

【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が最も大きい学科は教育学科 96.24%であった(後期：日本語学科 97.73%)。4 と 5 の合計は 89.32%で、2024 年度後期(92.20%)よりも低減している。

変動係数をみると、後述する Q6(教員の熱意/意欲)以外の質問項目に比べて相対的に低い水準になっている(平均値 18.02%)。最大値は健康科学科 21.32%、最小値は歴史文化学科 14.76%であった。

【全学共通科目】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	367	4.362	0.706
中国文学科	48	4.521	0.707
英米文学科	241	4.344	0.779
教育学科	133	4.496	0.667
書道学科	75	4.480	0.680
歴史文化学科	132	4.386	0.647
社会経済学科	332	4.331	0.680
現代経済学科	293	4.294	0.828
中国語学科	109	4.266	0.895
英語学科	303	4.234	0.841
日本語学科	85	4.447	0.819
法律学科	555	4.328	0.776
政治学科	281	4.338	0.811
国際関係学科	88	4.341	0.721
国際文化学科	79	4.316	0.739
経営学科	437	4.224	0.777
スポーツ科学科	222	4.306	0.836
健康科学科	73	4.315	0.920
看護学科	190	4.353	0.772
社会学科	234	4.239	0.813
全学	4,277	4.321	0.778

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,831	4.208	0.799
2	1,181	4.278	0.740
3	129	4.444	0.804
4	131	4.433	0.568

Q 1b 「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.545%	0.817%	7.629%	43.869%	47.139%
中国文学科	0.000%	0.000%	12.500%	22.917%	64.583%
英米文学科	0.830%	1.660%	9.129%	39.004%	49.378%
教育学科	0.000%	3.008%	0.752%	39.850%	56.391%
書道学科	1.333%	0.000%	2.667%	41.333%	54.667%
歴史文化学科	0.000%	1.515%	4.545%	47.727%	46.212%
社会経済学科	0.000%	1.807%	6.627%	48.193%	43.373%
現代経済学科	1.024%	4.096%	5.461%	43.345%	46.075%
中国語学科	1.835%	3.670%	8.257%	38.532%	47.706%
英語学科	1.650%	2.310%	9.571%	43.894%	42.574%
日本語学科	2.353%	0.000%	7.059%	31.765%	58.824%
法律学科	0.901%	1.802%	8.288%	41.622%	47.387%
政治学科	2.135%	1.068%	5.694%	43.060%	48.043%
国際関係学科	0.000%	1.136%	11.364%	39.773%	47.727%
国際文化学科	0.000%	2.532%	8.861%	43.038%	45.570%
経営学科	0.686%	2.975%	8.467%	48.970%	38.902%
スポーツ科学科	2.252%	0.000%	10.811%	38.739%	48.198%
健康科学科	2.740%	0.000%	15.068%	27.397%	54.795%
看護学科	1.053%	1.053%	8.947%	39.474%	49.474%
社会学科	1.282%	2.564%	8.547%	46.154%	41.453%
全学	1.005%	1.847%	7.833%	42.693%	46.621%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.921%	1.347%	10.001%	43.826%	43.905%
2	0.329%	1.051%	7.360%	42.928%	48.333%
3	0.346%	1.070%	7.455%	41.208%	49.921%
4	0.123%	0.247%	4.809%	35.142%	59.679%

【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「Q2：授業難易度」の回答分布状況をみると、「1 とても易しかった」1.86%（2024年度後期1.06%）、「2 やや易しかった」3.53%（後期2.81%）、「3 適切だった」48.74%（後期54.56%）、「4 やや難しかった」35.15%（後期32.54%）、「5 とても難しかった」10.90%（後期9.03%）となっている。

4と5の割合合計が46.04%、1と2の割合合計が5.21%という結果をみると、全学共通科目に対して「やや難しい、あるいはとても難しい」と感じている学生が多いと言える。

変動係数をみると、全学平均は 22.98% であり、他の質問項目と比べても、後述する Q4(教員対応)以外は高い数値を示している。難易度は学生の学力と深く関わることから、この数値は学科間の格差が大きく、注視する必要があるだろう。特に変動係数の平均値 22.98% を下回っている学科の 5 と 4 の合計が、1 と 2 の合計よりも著しく大きい数値を示していることから、授業内容を難しく認識していると言える。

【全学共通科目】

Q2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	433	3.402	0.687	20.181%
中国文学科	49	3.347	0.846	25.288%
英米文学科	282	3.454	0.833	24.131%
教育学科	148	3.446	0.841	24.393%
書道学科	75	3.307	0.730	22.071%
歴史文化学科	153	3.248	0.619	19.046%
社会経済学科	364	3.489	0.786	22.532%
現代経済学科	325	3.480	0.686	19.724%
中国語学科	126	3.548	0.851	23.983%
英語学科	336	3.586	0.786	21.912%
日本語学科	108	3.741	0.774	20.698%
法律学科	649	3.524	0.844	23.940%
政治学科	307	3.524	0.828	23.498%
国際関係学科	101	3.406	0.773	22.697%
国際文化学科	86	3.512	0.727	20.711%
経営学科	509	3.564	0.774	21.727%
スポーツ科学科	260	3.662	0.891	24.323%
健康科学科	86	3.128	1.065	34.057%
看護学科	201	3.716	0.825	22.201%
社会学科	293	3.386	0.817	24.122%
全学	4,891	3.499	0.804	22.984%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	3,275	3.723	0.829
2	1,327	3.592	0.752
3	138	3.579	0.754
4	146	3.613	0.714

Q 2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.155%	3.002%	55.427%	35.335%	5.081%
中国文学科	4.082%	4.082%	53.061%	30.612%	8.163%
英米文学科	2.837%	3.546%	49.291%	34.043%	10.284%
教育学科	2.703%	6.081%	43.919%	38.514%	8.784%
書道学科	1.333%	6.667%	57.333%	29.333%	5.333%
歴史文化学科	1.307%	3.268%	67.320%	25.490%	2.614%
社会経済学科	2.198%	3.297%	46.429%	39.560%	8.516%
現代経済学科	0.615%	2.769%	51.077%	39.077%	6.462%
中国語学科	3.175%	0.000%	50.000%	32.540%	14.286%
英語学科	1.488%	2.679%	43.155%	41.071%	11.607%
日本語学科	0.000%	1.852%	40.741%	38.889%	18.519%
法律学科	2.003%	4.006%	46.687%	34.206%	13.097%
政治学科	2.280%	2.932%	46.906%	35.831%	12.052%
国際関係学科	1.980%	2.970%	56.436%	29.703%	8.911%
国際文化学科	0.000%	4.651%	48.837%	37.209%	9.302%
経営学科	0.982%	2.750%	47.151%	37.132%	11.984%
スポーツ科学科	1.538%	3.462%	42.692%	31.923%	20.385%
健康科学科	11.628%	4.651%	54.651%	17.442%	11.628%
看護学科	0.995%	1.493%	41.791%	36.318%	19.403%
社会学科	2.389%	5.461%	52.218%	31.058%	8.874%
全学	1.861%	3.353%	48.743%	35.146%	10.898%

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.642%	3.626%	43.048%	37.554%	14.130%
2	0.823%	3.027%	47.737%	37.129%	11.284%
3	0.574%	2.215%	49.604%	35.439%	12.168%
4	0.662%	1.435%	59.161%	29.360%	9.382%

【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

「2 質問したことがある」という回答は13.24%であった。2の割合が他学科に比べて最も高いのは中国語学科23.58%であった。

これに対して、「1 質問したことがない」という回答の平均値は86.76%である。全学共通科目に対する学生の授業参加は必ずしも積極的であるとは言えない結果となった。

【全学共通科目】

Q3「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	88.194%	11.806%
中国文学科	81.633%	18.367%
英米文学科	91.429%	8.571%
教育学科	80.690%	19.310%
書道学科	79.452%	20.548%
歴史文化学科	88.158%	11.842%
社会経済学科	88.827%	11.173%
現代経済学科	90.966%	9.034%
中国語学科	76.423%	23.577%
英語学科	87.273%	12.727%
日本語学科	84.259%	15.741%
法律学科	89.548%	10.452%
政治学科	84.437%	15.563%
国際関係学科	83.000%	17.000%
国際文化学科	83.721%	16.279%
経営学科	86.826%	13.174%
スポーツ科学科	82.171%	17.829%
健康科学科	84.706%	15.294%
看護学科	82.323%	17.677%
社会学科	88.660%	11.340%
全学	86.758%	13.242%

学年	1	2
1	86.735%	13.265%
2	87.405%	12.595%
3	82.609%	17.391%
4	85.616%	14.384%

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 68.69%であった。学生は教員の対応を概ね評価していると言える。なかでもその割合合計が最も高い学科は書道学科 91.30%であった。フィードバックの平均値は 4.04 であった。

変動係数をみると、他の項目に比べて相対的に高い数値(24.17%)が確認された。なかでも現代経済学科が 27.44%という高い数値であった。

【全学共通科目】

Q 4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	104	4.135	0.910	22.008%
中国文学科	21	4.190	0.906	21.621%
英米文学科	101	3.970	0.938	23.632%
教育学科	49	4.143	1.030	24.866%
書道学科	23	4.565	0.648	14.190%
歴史文化学科	47	4.191	0.866	20.669%
社会経済学科	132	3.924	0.989	25.215%
現代経済学科	101	3.851	1.057	27.435%
中国語学科	60	4.183	0.846	20.233%
英語学科	130	4.046	1.022	25.253%
日本語学科	34	4.324	0.830	19.205%
法律学科	241	4.029	0.974	24.183%
政治学科	131	4.115	0.905	21.994%
国際関係学科	37	4.054	0.868	21.417%
国際文化学科	43	4.186	0.870	20.772%
経営学科	196	3.934	0.980	24.906%
スポーツ科学科	128	4.000	1.031	25.769%
健康科学科	30	4.367	0.912	20.891%
看護学科	91	4.044	1.089	26.917%
社会学科	80	3.925	1.022	26.037%
全学	1,779	4.042	0.977	24.168%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,213	3.898	1.008
2	464	4.000	0.907
3	50	4.400	0.794
4	50	3.900	0.935

Q 4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.962%	0.000%	29.808%	23.077%	46.154%
中国文学科	0.000%	0.000%	33.333%	14.286%	52.381%
英米文学科	1.980%	0.000%	33.663%	27.723%	36.634%
教育学科	2.041%	4.082%	22.449%	20.408%	51.020%
書道学科	0.000%	0.000%	8.696%	26.087%	65.217%
歴史文化学科	0.000%	2.128%	23.404%	27.660%	46.809%
社会経済学科	2.273%	2.273%	32.576%	26.515%	36.364%
現代経済学科	4.950%	1.980%	28.713%	31.683%	32.673%
中国語学科	0.000%	1.667%	23.333%	30.000%	45.000%
英語学科	3.077%	2.308%	24.615%	26.923%	43.077%
日本語学科	0.000%	0.000%	23.529%	20.588%	55.882%
法律学科	2.905%	0.415%	27.386%	29.461%	39.834%
政治学科	1.527%	0.000%	26.718%	29.008%	42.748%
国際関係学科	0.000%	0.000%	35.135%	24.324%	40.541%
国際文化学科	2.326%	0.000%	16.279%	39.535%	41.860%
経営学科	2.551%	1.020%	33.163%	27.041%	36.224%
スポーツ科学科	3.906%	0.781%	27.344%	27.344%	40.625%
健康科学科	0.000%	0.000%	30.000%	3.333%	66.667%
看護学科	4.396%	2.198%	24.176%	23.077%	46.154%
社会学科	5.000%	0.000%	26.250%	35.000%	33.750%
全学	2.473%	1.012%	27.825%	27.206%	41.484%

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	3.215%	1.154%	27.370%	27.617%	40.643%
2	0.862%	0.862%	29.741%	26.509%	42.026%
3	0.000%	0.000%	20.000%	24.000%	56.000%
4	2.000%	0.000%	28.000%	28.000%	42.000%

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[学生意欲]

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が約 8 割(79.79%)で、学生は概ね自身の熱意を評価している。5 と 4 の合計が最も高かったのは書道学科 88.00%で、9 割近い学生が自身の意欲を強く認識していると言える。学生熱意の平均値は 4.06 であった。

変動係数に基づいて判断しても学科間の格差は明らかである。変動係数が最も高いのは社会学科 23.90%であった。変動係数の変動幅が 6.81%(=最大値 23.90%－最小値 17.10%)

となっており、全共科目に対する学生意欲・熱意のバラツキが見られた。

【全学共通科目】

Q 5「自分意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	433	4.139	0.783	18.927%
中国文学科	49	4.224	0.789	18.685%
英米文学科	279	4.143	0.719	17.355%
教育学科	148	4.149	0.880	21.223%
書道学科	75	4.240	0.780	18.406%
歴史文化学科	152	4.092	0.789	19.290%
社会経済学科	365	4.016	0.804	20.016%
現代経済学科	325	4.015	0.734	18.271%
中国語学科	126	4.111	0.847	20.609%
英語学科	336	4.068	0.763	18.745%
日本語学科	109	4.009	0.873	21.764%
法律学科	645	4.023	0.830	20.637%
政治学科	310	4.074	0.837	20.549%
国際関係学科	101	4.079	0.779	19.109%
国際文化学科	86	4.047	0.697	17.232%
経営学科	509	3.919	0.852	21.744%
スポーツ科学科	260	4.154	0.836	20.133%
健康科学科	86	4.349	0.743	17.096%
看護学科	203	4.094	0.828	20.230%
社会学科	296	3.980	0.951	23.904%
全学	4,893	4.063	0.819	20.156%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	3,276	3.961	0.833
2	1,329	4.006	0.796
3	138	4.158	0.826
4	145	3.968	0.686

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.462%	2.309%	15.012%	47.344%	34.873%
中国文学科	0.000%	0.000%	22.449%	32.653%	44.898%
英米文学科	0.358%	1.792%	12.186%	54.480%	31.183%
教育学科	2.703%	2.703%	8.108%	50.000%	36.486%
書道学科	1.333%	1.333%	9.333%	48.000%	40.000%
歴史文化学科	0.658%	2.632%	15.132%	50.000%	31.579%
社会経済学科	1.370%	1.644%	18.356%	51.233%	27.397%
現代経済学科	0.000%	3.077%	16.923%	55.385%	24.615%
中国語学科	0.000%	3.968%	19.048%	38.889%	38.095%
英語学科	0.000%	2.976%	16.964%	50.298%	29.762%
日本語学科	1.835%	1.835%	21.101%	44.037%	31.193%
法律学科	0.465%	4.186%	17.984%	47.287%	30.078%
政治学科	1.613%	3.226%	12.258%	51.935%	30.968%
国際関係学科	0.000%	2.970%	17.822%	47.525%	31.683%
国際文化学科	0.000%	1.163%	18.605%	54.651%	25.581%
経営学科	0.982%	4.912%	20.039%	49.312%	24.754%
スポーツ科学科	0.769%	2.692%	15.769%	41.923%	38.846%
健康科学科	0.000%	1.163%	12.791%	36.047%	50.000%
看護学科	0.000%	3.941%	18.227%	42.365%	35.468%
社会学科	3.041%	5.068%	12.838%	48.986%	30.068%
全学	0.817%	3.147%	16.248%	48.539%	31.249%

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.916%	3.388%	16.117%	47.711%	31.868%
2	0.602%	2.859%	16.780%	49.737%	30.023%
3	1.449%	1.449%	17.391%	47.101%	32.609%
4	0.000%	2.069%	13.793%	58.621%	25.517%

【Q6】教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

「Q6 教員意欲/熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合合計が91.94%であった。全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意を高く評価している。4と5の合計が、中国文学科(75.51%)以外の学科は87.00%以上の高い比率を示しており、書道学科は97.33%であった。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の割合合計は、社会学科3.04%であったが、社会学科以外は3.00%未満であった。ここから教員の授業における

る熱意や意欲を高く認識していると言える。

変動係数をみると平均が 15.78%で、授業認識に対する質問項目のなかで最も低い数値であった。教員熱意に関して学科間の格差は生じているものの、大きな値ではなく、良い傾向と言えるだろう。ただし、中国文学科の変動係数は 20.56%で、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。

【全学共通科目】

Q 6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	433	4.570	0.656	14.344%
中国文学科	49	4.306	0.885	20.560%
英米文学科	282	4.532	0.664	14.645%
教育学科	148	4.608	0.654	14.189%
書道学科	75	4.573	0.657	14.360%
歴史文化学科	153	4.503	0.638	14.164%
社会経済学科	365	4.499	0.705	15.664%
現代経済学科	324	4.537	0.682	15.025%
中国語学科	126	4.492	0.699	15.552%
英語学科	336	4.518	0.719	15.924%
日本語学科	109	4.495	0.737	16.400%
法律学科	649	4.475	0.706	15.786%
政治学科	310	4.458	0.772	17.326%
国際関係学科	101	4.485	0.766	17.074%
国際文化学科	86	4.453	0.659	14.791%
経営学科	509	4.458	0.745	16.708%
スポーツ科学科	259	4.560	0.686	15.041%
健康科学科	86	4.581	0.637	13.911%
看護学科	203	4.517	0.661	14.632%
社会学科	296	4.395	0.803	18.264%
全学	4,899	4.501	0.710	15.777%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	3,282	4.490	0.715
2	1,329	4.610	0.697
3	137	4.579	0.726
4	146	4.581	0.703

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	1.386%	5.081%	28.637%	64.896%
中国文学科	0.000%	2.041%	22.449%	18.367%	57.143%
英米文学科	0.355%	0.355%	6.383%	31.560%	61.348%
教育学科	0.676%	0.676%	3.378%	27.703%	67.568%
書道学科	1.333%	0.000%	1.333%	34.667%	62.667%
歴史文化学科	0.000%	0.654%	5.882%	35.948%	57.516%
社会経済学科	0.274%	1.096%	7.397%	30.959%	60.274%
現代経済学科	0.309%	1.235%	5.247%	30.864%	62.346%
中国語学科	0.000%	1.587%	7.143%	31.746%	59.524%
英語学科	0.595%	1.190%	6.250%	29.762%	62.202%
日本語学科	0.917%	0.917%	6.422%	31.193%	60.550%
法律学科	0.462%	1.079%	6.471%	34.515%	57.473%
政治学科	0.968%	1.935%	5.806%	32.903%	58.387%
国際関係学科	0.000%	1.980%	10.891%	23.762%	63.366%
国際文化学科	0.000%	1.163%	5.814%	39.535%	53.488%
経営学科	0.589%	1.179%	8.251%	31.827%	58.153%
スポーツ科学科	0.772%	0.386%	5.405%	28.958%	64.479%
健康科学科	0.000%	0.000%	8.140%	25.581%	66.279%
看護学科	0.000%	0.985%	6.404%	32.512%	60.099%
社会学科	1.689%	1.351%	6.081%	37.500%	53.378%
全学	0.490%	1.102%	6.471%	31.660%	60.278%

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.579%	1.005%	6.581%	32.358%	59.476%
2	0.376%	1.204%	5.944%	31.151%	61.324%
3	0.000%	1.460%	9.489%	27.007%	62.044%
4	0.000%	2.055%	6.164%	26.027%	65.753%

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

「Q7 成長感覚」の回答結果は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の合計は 85.23%を示し、2024 年度後期の 90.09%から 4.86%減少している。とはいえ、全学共通科目を通じての学びを概ね高く評価していると言える。

書道学科は、成長感覚に対する 4 と 5 の合計の割合が 94.67%で、大半の学生が授業を通じて成長を実感しているという結果となった。

変動係数の平均は 18.98%であった。20%を超えたのは日本語学科 23.87%、健康科学科 22.83%、社会学科 20.98%、看護学科 20.02%の 4 学科で、この 4 学科以外は比較的バラツキが少ない結果となった。

【全学共通科目】

Q 7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	433	4.383	0.713	16.275%
中国文学科	49	4.306	0.788	18.294%
英米文学科	280	4.232	0.819	19.357%
教育学科	148	4.257	0.847	19.904%
書道学科	75	4.453	0.698	15.684%
歴史文化学科	153	4.268	0.732	17.154%
社会経済学科	365	4.189	0.783	18.699%
現代経済学科	324	4.275	0.759	17.751%
中国語学科	124	4.274	0.817	19.104%
英語学科	335	4.224	0.765	18.119%
日本語学科	109	4.064	0.970	23.866%
法律学科	648	4.250	0.773	18.195%
政治学科	308	4.244	0.835	19.677%
国際関係学科	100	4.160	0.771	18.533%
国際文化学科	86	4.244	0.714	16.829%
経営学科	509	4.169	0.833	19.989%
スポーツ科学科	259	4.220	0.816	19.336%
健康科学科	85	4.271	0.975	22.827%
看護学科	203	4.222	0.845	20.021%
社会学科	296	4.088	0.858	20.980%
全学	4,889	4.234	0.804	18.983%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	3,276	4.066	0.820
2	1,325	4.279	0.768
3	136	4.263	0.833
4	146	4.194	0.687

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.231%	1.617%	7.390%	41.109%	49.654%
中国文学科	0.000%	0.000%	20.408%	28.571%	51.020%
英米文学科	1.071%	2.143%	11.786%	42.500%	42.500%
教育学科	1.351%	2.027%	12.162%	38.514%	45.946%
書道学科	1.333%	0.000%	4.000%	41.333%	53.333%
歴史文化学科	0.000%	2.614%	9.150%	47.059%	41.176%
社会経済学科	0.548%	1.644%	14.795%	44.384%	38.630%
現代経済学科	0.617%	1.235%	11.420%	43.519%	43.210%
中国語学科	0.000%	4.032%	11.290%	37.903%	46.774%
英語学科	0.299%	2.687%	10.746%	46.866%	39.403%
日本語学科	1.835%	6.422%	13.761%	39.450%	38.532%
法律学科	0.463%	2.315%	10.802%	44.599%	41.821%
政治学科	1.623%	1.948%	10.065%	43.182%	43.182%
国際関係学科	0.000%	3.000%	14.000%	47.000%	36.000%
国際文化学科	0.000%	1.163%	12.791%	46.512%	39.535%
経営学科	0.786%	3.143%	13.556%	43.418%	39.096%
スポーツ科学科	1.158%	1.544%	13.127%	42.471%	41.699%
健康科学科	1.176%	5.882%	12.941%	24.706%	55.294%
看護学科	0.985%	2.956%	12.315%	40.394%	43.350%
社会学科	1.351%	4.392%	11.486%	49.662%	33.108%
全学	0.736%	2.454%	11.557%	43.179%	42.074%

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.916%	2.595%	12.118%	43.620%	40.751%
2	0.377%	2.189%	10.566%	42.717%	44.151%
3	0.735%	3.676%	10.294%	41.912%	43.382%
4	0.000%	0.685%	9.589%	39.041%	50.685%

【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「10」を「100%満足」、「1」を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

「Q8 総合満足度」は、満足度の高い10から8までの割合を合計すると70.52%となり、2024年度後期の75.64%と比べると、5.12%減少している。この傾向が続くのか、今後も注視する必要があるだろう。

各学科の回答割合(8~10)は64.35% (法律学科)から81.18% (健康科学科)の間に分布し

ている。そのなかで全学平均の 70.00%を下回るのは、歴史文化学科 69.94%、現代経済学
科 69.44%、看護学科 67.49%、経営学科 66.99%、法律学科 64.35%の 5 学科であった。

7～10 に広げると全学平均は 85.19%となる。9 割には満たないが、全体としてはま
まの結果となる。

変動係数を用いると、全学共通科目における総合満足度に対する授業認識は、学科間
に格差が生じていることが確認できる(平均値 21.55%)。最も低い数値の日本文学科 18.39%と
最も高い数値の中国文学科 26.29%では 7.9%の格差が生じている。

【全学共通科目】

Q 8「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	432	8.414	1.548	18.394%
中国文学科	49	8.327	2.189	26.288%
英米文学科	281	8.185	1.892	23.121%
教育学科	147	8.320	1.690	20.316%
書道学科	74	8.676	1.685	19.427%
歴史文化学科	153	8.242	1.580	19.173%
社会経済学科	365	8.227	1.624	19.734%
現代経済学科	324	8.164	1.646	20.169%
中国語学科	125	8.304	1.545	18.608%
英語学科	336	8.122	1.713	21.091%
日本語学科	110	8.200	1.853	22.595%
法律学科	648	7.935	1.883	23.728%
政治学科	309	7.984	1.900	23.792%
国際関係学科	101	8.109	1.746	21.528%
国際文化学科	83	8.434	1.554	18.424%
経営学科	509	7.992	1.788	22.377%
スポーツ科学科	259	8.274	1.617	19.548%
健康科学科	85	8.682	1.784	20.544%
看護学科	203	8.138	1.844	22.657%
社会学科	295	8.024	1.822	22.702%
全学	4,888	8.159	1.758	21.549%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	3,275	7.700	1.812
2	1,325	8.230	1.647
3	136	8.053	1.781
4	146	8.194	1.283

Q 8「総合満足」に対する学科回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.231%	0.463%	0.926%	0.694%	1.852%	4.398%	16.435%	20.833%	24.306%	29.861%
中国文学科	0.000%	0.000%	6.122%	4.082%	8.163%	0.000%	4.082%	12.245%	22.449%	42.857%
英米文学科	0.712%	1.068%	1.068%	1.779%	4.626%	7.117%	13.167%	19.929%	17.438%	33.096%
教育学科	1.361%	0.000%	1.361%	0.680%	0.680%	6.803%	11.565%	29.932%	17.007%	30.612%
書道学科	1.351%	0.000%	0.000%	0.000%	2.703%	6.757%	10.811%	14.865%	17.568%	45.946%
歴史文化学科	0.654%	0.000%	0.000%	1.307%	2.614%	7.843%	17.647%	22.222%	20.261%	27.451%
社会経済学科	0.274%	0.274%	0.822%	0.822%	4.110%	7.123%	14.247%	26.575%	16.986%	28.767%
現代経済学科	0.309%	0.309%	0.617%	1.852%	4.012%	7.099%	16.358%	20.062%	25.309%	24.074%
中国語学科	0.000%	0.800%	0.000%	0.800%	1.600%	7.200%	19.200%	27.200%	9.600%	33.600%
英語学科	0.595%	0.000%	1.190%	0.893%	5.952%	8.036%	11.905%	25.893%	19.345%	26.190%
日本語学科	0.000%	0.000%	2.727%	2.727%	4.545%	8.182%	10.000%	20.909%	17.273%	33.636%
法律学科	1.389%	0.617%	0.463%	2.160%	6.327%	6.636%	18.056%	20.525%	19.444%	24.383%
政治学科	1.294%	0.647%	1.942%	0.647%	6.149%	8.091%	10.680%	25.566%	21.036%	23.948%
国際関係学科	0.990%	0.000%	0.990%	1.980%	3.960%	5.941%	15.842%	27.723%	14.851%	27.723%
国際文化学科	0.000%	1.205%	0.000%	0.000%	4.819%	2.410%	14.458%	25.301%	19.277%	32.530%
経営学科	0.393%	0.786%	1.179%	1.572%	5.894%	7.269%	15.914%	26.326%	14.342%	26.326%
スポーツ科学科	0.386%	0.386%	0.386%	0.000%	5.405%	5.792%	15.830%	24.324%	16.988%	30.502%
健康科学科	0.000%	1.176%	1.176%	1.176%	4.706%	4.706%	5.882%	11.765%	23.529%	45.882%
看護学科	0.000%	0.493%	1.478%	2.463%	6.897%	5.911%	15.271%	18.227%	16.749%	32.512%
社会学科	1.356%	0.339%	0.339%	2.712%	5.763%	5.424%	13.220%	26.441%	21.017%	23.390%
全学	0.655%	0.471%	0.941%	1.412%	4.787%	6.547%	14.669%	23.118%	19.006%	28.396%

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.885%	0.458%	0.916%	1.527%	5.710%	7.145%	14.962%	22.382%	19.176%	26.840%
2	0.226%	0.528%	0.981%	1.208%	2.943%	5.585%	14.264%	24.830%	17.736%	31.698%
3	0.000%	0.735%	2.206%	1.471%	5.147%	4.412%	8.824%	22.794%	22.794%	31.618%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.685%	0.685%	4.110%	17.808%	25.342%	22.603%	28.767%

【クロス表に関する結果(全学共通科目：学生所属別)】

全学共通科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1：回答数、表2：パーセント)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。右端の列(4+5)に、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(7→18→90→1142→2646)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字：8→19→198→1029→1393)も互いに上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自

分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目(学生所属別)】クロス集計 (【学生意欲】×【教員熱意】) [回答数]

		学生意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	8	6	3	4	3	24	7
	2 どちらかと言えばそう思わない	2	19	15	13	5	54	18
	3 どちらとも言えない	8	20	198	75	15	316	90
	4 どちらかと言えばそう思う	9	61	337	1,029	113	1,549	1,142
	5 強くそう思う	13	48	241	1,253	1,393	2,948	2,646
合計		40	154	794	2,374	1,529	4,891	3,903

表 2

●【全学共通科目(学生所属別)】クロス集計 (【学生意欲】×【教員熱意】) [パーセント]

		学生意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	33.33%	25.00%	12.50%	16.67%	12.50%	100.00%	29.17%
	2 どちらかと言えばそう思わない	3.70%	35.19%	27.78%	24.07%	9.26%	100.00%	33.33%
	3 どちらとも言えない	2.53%	6.33%	62.66%	23.73%	4.75%	100.00%	28.48%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.58%	3.94%	21.76%	66.43%	7.30%	100.00%	73.72%
	5 強くそう思う	0.44%	1.63%	8.18%	42.50%	47.25%	100.00%	89.76%

【相関係数表に関する結果(全学共通科目：学生所属別)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、全学共通科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.61 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.54」「学生意欲 0.52」「シラバス通り 0.48」「FB 丁寧 0.41」となっている。これは、成長したという実感を持てるかどうか総合満足度の向上に最も強く影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.58 がみられた。その後は正の相関関係順に、「学生意欲 0.54」「シラバス通り 0.46」「FB 丁寧 0.45」と続く。つまり、教員の熱意があるかどうか「成長感覚」の向上に、やや弱く影響することを示している。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えているという強い相関関係が示された。全学共通科目の「成長感覚」に対する学生の認識は、(非常に高いとは言えないが)高い傾向にあると言えるだろう。今後の授業改善において、参考にすべき傾向であろう。

●【全学共通科目〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長感覚〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.000						
Q2	〔難易度適切〕	-0.101	1.000					
Q4	〔FB丁寧〕	0.389	-0.081	1.000				
Q5	〔自分意欲〕	0.408	-0.141	0.463	1.000			
Q6	〔教員熱意〕	0.471	-0.082	0.456	0.466	1.000		
Q7	〔成長感覚〕	0.457	-0.130	0.453	0.541	0.578	1.000	
Q8	〔総合満足〕	0.484	-0.259	0.414	0.522	0.536	0.614	1.000

【全学共通科目（人文系）（学生所属別）】

人文系科目の回答率は 44.26%と、全学共通科目（以下、全共科目と表記）全体 41.07%よりも高い数値であった。なかでも看護学科は 64.55%と非常に高い。50%を超えた学科も 5 学科あった（法律学科、歴史文化学科、日本文学科、政治学科、社会学科）。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	177	161	338	52.367%
中国文学科	8	18	26	30.769%
英米文学科	97	122	219	44.292%
教育学科	47	92	139	33.813%
書道学科	17	19	36	47.222%
歴史文化学科	59	53	112	52.679%
社会経済学科	117	180	297	39.394%
現代経済学科	92	108	200	46.000%
中国語学科	36	65	101	35.644%
英語学科	121	149	270	44.815%
日本語学科	44	59	103	42.718%
法律学科	140	103	243	57.613%
政治学科	109	101	210	51.905%
国際関係学科	27	74	101	26.733%
国際文化学科	28	59	87	32.184%
経営学科	174	321	495	35.152%
スポーツ科学科	113	135	248	45.565%
健康科学科	14	33	47	29.787%
看護学科	71	39	110	64.545%
社会学科	51	51	102	50.000%
全学	1,542	1,942	3,484	44.259%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	953	757	1,710	55.731%
2	504	793	1,297	38.859%
3	36	154	190	18.947%
4	47	238	285	16.491%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

人文系科目のシラバス既知率は 83.65%と、全共科目の全体 81.20%よりも高い数値であり、4つの履修科目系の中で最も高い既知率を示している。なかでも、中国文学科と書道学科の既知率が 100.00%であった。ただし、中国文学科は回答者数が 10 名以下であった。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	20.787%	79.213%
中国文学科	0.000%	100.000%
英米文学科	24.742%	75.258%
教育学科	16.667%	83.333%
書道学科	0.000%	100.000%
歴史文化学科	18.644%	81.356%
社会経済学科	13.675%	86.325%
現代経済学科	16.129%	83.871%
中国語学科	13.889%	86.111%
英語学科	14.050%	85.950%
日本語学科	22.727%	77.273%
法律学科	17.143%	82.857%
政治学科	11.818%	88.182%
国際関係学科	11.111%	88.889%
国際文化学科	14.286%	85.714%
経営学科	17.241%	82.759%
スポーツ科学科	19.469%	80.531%
健康科学科	21.429%	78.571%
看護学科	4.225%	95.775%
社会学科	15.385%	84.615%
全学	16.354%	83.646%

学年	1	2
1	17.277%	82.723%
2	16.008%	83.992%
3	8.108%	91.892%
4	8.511%	91.489%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が9割を超えており(90.61%)、平均値も4.35となっている。ただし、中国文学科の分布をみると4は0.00%、5は62.50%、「3 どちらとも言えない」37.50%という結果を示し、留意が必要である。

変動係数は、他の項目に比べて学科間の格差も大きくない(16.95%)。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	146	4.363	0.701	16.069%
中国文学科	8	4.250	0.968	22.782%
英米文学科	84	4.250	0.738	17.365%
教育学科	43	4.535	0.499	10.999%
書道学科	17	4.529	0.606	13.371%
歴史文化学科	50	4.460	0.537	12.041%
社会経済学科	106	4.321	0.667	15.427%
現代経済学科	83	4.277	0.840	19.650%
中国語学科	33	4.515	0.702	15.538%
英語学科	112	4.402	0.589	13.392%
日本語学科	36	4.417	0.829	18.773%
法律学科	126	4.325	0.907	20.970%
政治学科	101	4.307	0.754	17.517%
国際関係学科	24	4.417	0.571	12.935%
国際文化学科	25	4.120	0.816	19.802%
経営学科	151	4.232	0.776	18.333%
スポーツ科学科	102	4.294	0.799	18.615%
健康科学科	11	4.636	0.643	13.865%
看護学科	69	4.536	0.604	13.312%
社会学科	46	4.348	0.633	14.560%
全学	1,373	4.346	0.736	16.946%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	843	4.321	0.759
2	448	4.359	0.706
3	35	4.486	0.649
4	45	4.533	0.618

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.685%	0.000%	8.904%	43.151%	47.260%
中国文学科	0.000%	0.000%	37.500%	0.000%	62.500%
英米文学科	0.000%	2.381%	10.714%	46.429%	40.476%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	46.512%	53.488%
書道学科	0.000%	0.000%	5.882%	35.294%	58.824%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	2.000%	50.000%	48.000%
社会経済学科	0.000%	1.887%	5.660%	50.943%	41.509%
現代経済学科	0.000%	6.024%	7.229%	39.759%	46.988%
中国語学科	0.000%	3.030%	3.030%	33.333%	60.606%
英語学科	0.000%	0.000%	5.357%	49.107%	45.536%
日本語学科	2.778%	0.000%	5.556%	36.111%	55.556%
法律学科	2.381%	2.381%	8.730%	33.333%	53.175%
政治学科	1.980%	0.000%	5.941%	49.505%	42.574%
国際関係学科	0.000%	0.000%	4.167%	50.000%	45.833%
国際文化学科	0.000%	4.000%	16.000%	44.000%	36.000%
経営学科	0.662%	2.649%	9.272%	47.682%	39.735%
スポーツ科学科	1.961%	0.000%	9.804%	43.137%	45.098%
健康科学科	0.000%	0.000%	9.091%	18.182%	72.727%
看護学科	0.000%	0.000%	5.797%	34.783%	59.420%
社会学科	0.000%	2.174%	2.174%	54.348%	41.304%
全学	0.728%	1.384%	7.283%	43.773%	46.832%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.068%	1.305%	7.592%	44.484%	45.552%
2	0.223%	1.786%	6.696%	44.420%	46.875%
3	0.000%	0.000%	8.571%	34.286%	57.143%
4	0.000%	0.000%	6.667%	33.333%	60.000%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 50.16%であった。最小 23.73% (歴史文化学科) から最大 67.86% (国際文化学科) の間に分布している (平均値 50.16%)。「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は 3.69%、最小 0.00% (中国文学科・書道学科・日本語学科・国際関係学科・国際文化学科・健康科学科・看護学

科の7学科)から最大8.33%(教育学科)の間に分布している(平均値3.69%)。

全共科目全体の回答分布と比較すると、3(適切であった)が多いとはいえ、学科間の相違が顕著となった。授業を難しいと認識する層(4と5の合計)が全体でみた時よりも大幅に増えているのは、英米文学科(全共全体44.32%→人文系52.57%)、日本語学科(47.41%→60.47%)、国際文化学科(46.53%→67.86%)、経営学科(49.11%→55.17%)、スポーツ科学科(52.30%→59.24%)、健康科学科(27.07%→35.71%)の6学科であった。他学科と異なる結果を示したのは教育学科で、3が大幅に減少しており(43.92%→27.08%)、これに対して4(やや難しい)が増加している(38.51%→47.92%)。

これらの分布から、学生の所属学科にかかわらず、人文系科目の授業内容を難しいと認識している学生が多いことが確認できる。

変動係数の平均値(21.83%)を下回っているのは14学科であった。バラツキが小さいとはいえ、中国文学科・書道学科・日本語学科・国際関係学科・国際文化学科・健康科学科・看護学科の7学科は、学科の特性に関わらず、授業が難しいという認識に偏っており留意が必要だろう。

【全学共通科目(人文系)〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	178	3.421	0.676	19.765%
中国文学科	8	3.500	0.707	20.203%
英米文学科	97	3.577	0.771	21.554%
教育学科	48	3.688	0.939	25.461%
書道学科	17	3.353	0.588	17.544%
歴史文化学科	59	3.203	0.683	21.335%
社会経済学科	117	3.598	0.729	20.250%
現代経済学科	93	3.602	0.658	18.270%
中国語学科	36	3.472	0.833	23.987%
英語学科	121	3.719	0.774	20.806%
日本語学科	43	3.860	0.795	20.588%
法律学科	140	3.593	0.869	24.195%
政治学科	109	3.450	0.807	23.392%
国際関係学科	27	3.593	0.681	18.953%
国際文化学科	28	3.821	0.658	17.207%
経営学科	174	3.615	0.807	22.313%
スポーツ科学科	113	3.823	0.875	22.880%
健康科学科	14	3.429	0.623	18.162%
看護学科	71	3.592	0.704	19.592%
社会学科	52	3.404	0.658	19.333%
全学	1,545	3.578	0.781	21.833%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	954	3.626	0.801
2	505	3.497	0.745
3	37	3.541	0.792
4	47	3.532	0.680

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.562%	3.933%	53.371%	37.079%	5.056%
中国文学科	0.000%	0.000%	62.500%	25.000%	12.500%
英米文学科	2.062%	1.031%	44.330%	42.268%	10.309%
教育学科	4.167%	4.167%	27.083%	47.917%	16.667%
書道学科	0.000%	0.000%	70.588%	23.529%	5.882%
歴史文化学科	1.695%	5.085%	69.492%	18.644%	5.085%
社会経済学科	0.000%	4.274%	41.880%	43.590%	10.256%
現代経済学科	0.000%	1.075%	46.237%	44.086%	8.602%
中国語学科	2.778%	0.000%	58.333%	25.000%	13.889%
英語学科	0.000%	1.653%	42.975%	37.190%	18.182%
日本語学科	0.000%	0.000%	39.535%	34.884%	25.581%
法律学科	2.857%	3.571%	38.571%	41.429%	13.571%
政治学科	1.835%	4.587%	50.459%	33.028%	10.092%
国際関係学科	0.000%	0.000%	51.852%	37.037%	11.111%
国際文化学科	0.000%	0.000%	32.143%	53.571%	14.286%
経営学科	1.724%	2.874%	40.230%	42.529%	12.644%
スポーツ科学科	0.885%	1.770%	38.053%	32.743%	26.549%
健康科学科	0.000%	0.000%	64.286%	28.571%	7.143%
看護学科	0.000%	0.000%	53.521%	33.803%	12.676%
社会学科	0.000%	3.846%	57.692%	32.692%	5.769%
全学	1.100%	2.589%	46.149%	37.735%	12.427%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.258%	2.306%	43.291%	38.889%	14.256%
2	0.990%	3.168%	50.099%	36.634%	9.109%
3	0.000%	5.405%	48.649%	32.432%	13.514%
4	0.000%	0.000%	57.447%	31.915%	10.638%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

「質問したことがある」と答えた割合は 12.92%で、全共科目全体（18.24%）と比べると低い結果となった。中国文学科の「質問したことがある」割合は 0.00%であるが(平均値 12.92%)、人文系科目の回答者数が 10 名以下であり、この点は留意すべきであろう。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	89.326%	10.674%
中国文学科	100.000%	0.000%
英米文学科	93.750%	6.250%
教育学科	87.234%	12.766%
書道学科	58.824%	41.176%
歴史文化学科	86.441%	13.559%
社会経済学科	91.304%	8.696%
現代経済学科	91.398%	8.602%
中国語学科	72.222%	27.778%
英語学科	85.124%	14.876%
日本語学科	90.698%	9.302%
法律学科	87.770%	12.230%
政治学科	87.850%	12.150%
国際関係学科	85.185%	14.815%
国際文化学科	85.714%	14.286%
経営学科	85.380%	14.620%
スポーツ科学科	84.956%	15.044%
健康科学科	76.923%	23.077%
看護学科	81.429%	18.571%
社会学科	88.235%	11.765%
全学	87.076%	12.924%

学年	1	2
1	86.681%	13.319%
2	88.400%	11.600%
3	78.378%	21.622%
4	87.234%	12.766%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」を回答した比率の合計が約 7 割 (68.01%)で、学生の授業認識は教員の対応を評価している。授業内容の認識に関するフィードバックの全学平均値は 4.04 となっている。

全共科目全体では「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」が 0.00%の学科は、中国文学科、書道学科、日本語学科、国際関係学科、健康科学科の 5 学科であったが、人文系の科目に限定すると、日本文学科、中国文学科、教育学科、書道学科、歴史文化学科、中国語学科、日本語学科、国際関係学科、国際文化学科、健康科学科、看護学科、社会学科の 12 学科となる。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	44	4.182	0.805	19.261%
中国文学科	2	4.000	1.000	25.000%
英米文学科	41	3.683	0.868	23.564%
教育学科	14	4.071	0.799	19.615%
書道学科	6	4.667	0.471	10.102%
歴史文化学科	24	4.208	0.815	19.377%
社会経済学科	42	4.000	1.024	25.588%
現代経済学科	26	3.731	1.058	28.365%
中国語学科	17	4.294	0.824	19.178%
英語学科	42	3.976	1.165	29.292%
日本語学科	13	4.154	0.863	20.787%
法律学科	55	3.891	1.073	27.582%
政治学科	46	3.978	0.967	24.297%
国際関係学科	10	3.800	0.872	22.942%
国際文化学科	13	4.615	0.487	10.541%
経営学科	74	3.919	1.010	25.777%
スポーツ科学科	50	4.160	0.902	21.693%
健康科学科	4	4.500	0.866	19.245%
看護学科	31	4.419	0.794	17.969%
社会学科	15	4.133	0.806	19.489%
全学	569	4.039	0.966	23.923%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	367	3.989	0.988
2	171	4.099	0.922
3	14	4.643	0.610
4	16	4.063	0.966

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	25.000%	31.818%	43.182%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
英米文学科	2.439%	0.000%	43.902%	34.146%	19.512%
教育学科	0.000%	0.000%	28.571%	35.714%	35.714%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	25.000%	29.167%	45.833%
社会経済学科	2.381%	2.381%	30.952%	21.429%	42.857%
現代経済学科	7.692%	0.000%	26.923%	42.308%	23.077%
中国語学科	0.000%	0.000%	23.529%	23.529%	52.941%
英語学科	4.762%	4.762%	26.190%	16.667%	47.619%
日本語学科	0.000%	0.000%	30.769%	23.077%	46.154%
法律学科	5.455%	0.000%	30.909%	27.273%	36.364%
政治学科	2.174%	0.000%	34.783%	23.913%	39.130%
国際関係学科	0.000%	0.000%	50.000%	20.000%	30.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	38.462%	61.538%
経営学科	2.703%	1.351%	35.135%	22.973%	37.838%
スポーツ科学科	2.000%	0.000%	22.000%	32.000%	44.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	75.000%
看護学科	0.000%	0.000%	19.355%	19.355%	61.290%
社会学科	0.000%	0.000%	26.667%	33.333%	40.000%
全学	2.285%	0.703%	28.998%	26.889%	41.125%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.997%	0.817%	28.883%	28.883%	38.420%
2	1.170%	0.585%	29.240%	25.146%	43.860%
3	0.000%	0.000%	7.143%	21.429%	71.429%
4	0.000%	0.000%	43.750%	6.250%	50.000%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が約 8 割(79.65%)で、学生は自身の熱意を認識している。授業内容の認識に関する学生熱意の全学平均値は 4.06 となっている。

全共科目全体と比べても、4 と 5 の合計(79.79%)はほぼ同じ水準である。そのなかで英

米文学科、教育学科、書道学科、国際関係学科、国際文化学科、スポーツ科学科、健康科学科は3が減少し、4が増加している。所属学科に関わらず、学生は人文系の科目に真面目に取り組んだことがわかる。

その一方で、日本語学科は「1まったくそう思わない」と「2どちらかと言えばそう思わない」の割合が全体でみたときよりも高くなっており、留意する必要があるだろう（全共全体 3.66%→人文系 9.09%）。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q5「自分意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	178	4.146	0.712	17.170%
中国文学科	8	4.125	0.927	22.473%
英米文学科	95	4.116	0.647	15.712%
教育学科	48	4.104	0.586	14.277%
書道学科	17	4.176	0.617	14.772%
歴史文化学科	59	4.000	0.689	17.222%
社会経済学科	117	4.009	0.768	19.157%
現代経済学科	93	4.000	0.733	18.331%
中国語学科	36	4.083	0.894	21.885%
英語学科	121	4.017	0.716	17.817%
日本語学科	44	3.864	1.036	26.802%
法律学科	138	4.065	0.827	20.347%
政治学科	110	4.045	0.824	20.380%
国際関係学科	27	4.222	0.737	17.456%
国際文化学科	28	3.929	0.593	15.103%
経営学科	174	3.948	0.839	21.254%
スポーツ科学科	113	4.221	0.784	18.574%
健康科学科	14	4.000	0.756	18.898%
看護学科	71	4.254	0.817	19.217%
社会学科	52	3.904	0.986	25.248%
全学	1,543	4.060	0.785	19.339%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	952	4.038	0.792
2	505	4.079	0.779
3	37	4.324	0.773
4	47	4.085	0.679

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.562%	17.416%	48.876%	33.146%
中国文学科	0.000%	0.000%	37.500%	12.500%	50.000%
英米文学科	0.000%	1.053%	12.632%	60.000%	26.316%
教育学科	0.000%	2.083%	6.250%	70.833%	20.833%
書道学科	0.000%	0.000%	11.765%	58.824%	29.412%
歴史文化学科	0.000%	1.695%	18.644%	57.627%	22.034%
社会経済学科	0.855%	0.855%	21.368%	50.427%	26.496%
現代経済学科	0.000%	1.075%	23.656%	49.462%	25.806%
中国語学科	0.000%	5.556%	19.444%	36.111%	38.889%
英語学科	0.000%	0.826%	22.314%	51.240%	25.620%
日本語学科	4.545%	4.545%	20.455%	40.909%	29.545%
法律学科	0.000%	3.623%	20.290%	42.029%	34.058%
政治学科	1.818%	1.818%	15.455%	51.818%	29.091%
国際関係学科	0.000%	3.704%	7.407%	51.852%	37.037%
国際文化学科	0.000%	0.000%	21.429%	64.286%	14.286%
経営学科	1.149%	4.023%	18.966%	50.575%	25.287%
スポーツ科学科	1.770%	0.000%	11.504%	47.788%	38.938%
健康科学科	0.000%	7.143%	7.143%	64.286%	21.429%
看護学科	0.000%	2.817%	15.493%	35.211%	46.479%
社会学科	1.923%	9.615%	13.462%	46.154%	28.846%
全学	0.648%	2.203%	17.498%	49.773%	29.877%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.525%	2.626%	18.487%	49.265%	29.097%
2	0.792%	1.584%	17.228%	49.703%	30.693%
3	2.703%	0.000%	2.703%	51.351%	43.243%
4	0.000%	2.128%	12.766%	59.574%	25.532%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 90% を超えており (94.11%)、学生の授業認識は教員の熱意を高く評価していると言える。授業内容の認識に関する教員熱意の全学平均値は 4.57 となっている。

ただし、1 は大半の学科が 0% であるのに対し (政治学科 0.91%、経営学科 0.58%)、日

本語学科は 2.27%を示し、他学科に比べ高いのは気になる点である。さらに、2 は大半が 1 %未満であるが、中国文学科は 12.5%を示し、教員の熱意を評価しない割合が他学科よりも高い。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	178	4.624	0.599	12.947%
中国文学科	8	4.000	1.118	27.951%
英米文学科	97	4.515	0.660	14.612%
教育学科	48	4.500	0.577	12.830%
書道学科	17	4.647	0.478	10.284%
歴史文化学科	59	4.508	0.593	13.153%
社会経済学科	117	4.590	0.601	13.102%
現代経済学科	93	4.602	0.607	13.192%
中国語学科	36	4.639	0.535	11.534%
英語学科	121	4.562	0.628	13.775%
日本語学科	44	4.364	0.828	18.980%
法律学科	140	4.564	0.635	13.909%
政治学科	110	4.545	0.722	15.875%
国際関係学科	27	4.704	0.532	11.301%
国際文化学科	28	4.429	0.562	12.700%
経営学科	174	4.557	0.707	15.509%
スポーツ科学科	112	4.643	0.515	11.094%
健康科学科	14	4.429	0.495	11.175%
看護学科	71	4.718	0.509	10.779%
社会学科	52	4.558	0.663	14.537%
全学	1,546	4.571	0.635	13.884%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	955	4.542	0.666
2	506	4.617	0.576
3	36	4.611	0.636
4	47	4.617	0.567

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.562%	4.494%	26.966%	67.978%
中国文学科	0.000%	12.500%	25.000%	12.500%	50.000%
英米文学科	0.000%	1.031%	6.186%	32.990%	59.794%
教育学科	0.000%	0.000%	4.167%	41.667%	54.167%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	35.294%	64.706%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	5.085%	38.983%	55.932%
社会経済学科	0.000%	0.855%	3.419%	31.624%	64.103%
現代経済学科	0.000%	0.000%	6.452%	26.882%	66.667%
中国語学科	0.000%	0.000%	2.778%	30.556%	66.667%
英語学科	0.000%	0.826%	4.959%	31.405%	62.810%
日本語学科	2.273%	0.000%	9.091%	36.364%	52.273%
法律学科	0.000%	0.714%	5.714%	30.000%	63.571%
政治学科	0.909%	0.000%	8.182%	25.455%	65.455%
国際関係学科	0.000%	0.000%	3.704%	22.222%	74.074%
国際文化学科	0.000%	0.000%	3.571%	50.000%	46.429%
経営学科	0.575%	0.575%	7.471%	25.287%	66.092%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	1.786%	32.143%	66.071%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	57.143%	42.857%
看護学科	0.000%	0.000%	2.817%	22.535%	74.648%
社会学科	0.000%	1.923%	3.846%	30.769%	63.462%
全学	0.194%	0.517%	5.175%	30.207%	63.907%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.314%	0.628%	5.969%	30.681%	62.408%
2	0.000%	0.395%	3.557%	30.040%	66.008%
3	0.000%	0.000%	8.333%	22.222%	69.444%
4	0.000%	0.000%	4.255%	29.787%	65.957%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強く思う」と「4 どちらかと言えば思う」の回答割合の合計が 80% えており (85.49%)、学生が自身の成長感覚を高く評価していると言える。これに対して、日本語学科は「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計が 13.64% あ

り、成長感覚を低く評価している学生が一定の割合でいることが確認された。授業内容の認識に関する成長感覚の全共科目全体の平均値は4.24となっている。

変動係数を用いて、日本語学科の授業認識を判断すると、平均値(18.64%)を大きく上回っていることから(28.81%)、バラツキが大きく、評価が各点に分散していると言える。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	178	4.489	0.638	14.216%
中国文学科	8	4.250	0.968	22.782%
英米文学科	97	4.144	0.861	20.786%
教育学科	48	4.167	0.825	19.799%
書道学科	17	4.471	0.696	15.569%
歴史文化学科	59	4.339	0.679	15.654%
社会経済学科	117	4.085	0.723	17.695%
現代経済学科	93	4.226	0.750	17.739%
中国語学科	36	4.361	0.751	17.221%
英語学科	121	4.256	0.766	18.005%
日本語学科	44	3.841	1.107	28.812%
法律学科	139	4.223	0.778	18.418%
政治学科	108	4.269	0.846	19.809%
国際関係学科	27	4.407	0.624	14.162%
国際文化学科	28	4.143	0.693	16.716%
経営学科	174	4.132	0.858	20.753%
スポーツ科学科	113	4.274	0.707	16.542%
健康科学科	14	4.286	0.700	16.330%
看護学科	71	4.296	0.794	18.489%
社会学科	52	4.231	0.846	20.000%
全学	1,544	4.242	0.791	18.638%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	953	4.178	0.821
2	506	4.342	0.719
3	36	4.361	0.855
4	47	4.340	0.723

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	1.124%	4.494%	38.764%	55.618%
中国文学科	0.000%	0.000%	37.500%	0.000%	62.500%
英米文学科	2.062%	1.031%	15.464%	43.299%	38.144%
教育学科	0.000%	4.167%	14.583%	41.667%	39.583%
書道学科	0.000%	0.000%	11.765%	29.412%	58.824%
歴史文化学科	0.000%	1.695%	6.780%	47.458%	44.068%
社会経済学科	0.000%	1.709%	17.094%	52.137%	29.060%
現代経済学科	0.000%	1.075%	16.129%	41.935%	40.860%
中国語学科	0.000%	2.778%	8.333%	38.889%	50.000%
英語学科	0.000%	2.479%	12.397%	42.149%	42.975%
日本語学科	4.545%	9.091%	15.909%	38.636%	31.818%
法律学科	0.719%	2.158%	10.791%	46.763%	39.568%
政治学科	2.778%	0.000%	9.259%	43.519%	44.444%
国際関係学科	0.000%	0.000%	7.407%	44.444%	48.148%
国際文化学科	0.000%	0.000%	17.857%	50.000%	32.143%
経営学科	0.575%	4.598%	13.793%	43.103%	37.931%
スポーツ科学科	0.885%	0.885%	7.080%	52.212%	38.938%
健康科学科	0.000%	0.000%	14.286%	42.857%	42.857%
看護学科	0.000%	1.408%	16.901%	32.394%	49.296%
社会学科	1.923%	1.923%	9.615%	44.231%	42.308%
全学	0.712%	2.008%	11.788%	43.394%	42.098%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.839%	2.413%	14.061%	43.442%	39.244%
2	0.395%	1.383%	8.103%	43.874%	46.245%
3	2.778%	0.000%	8.333%	36.111%	52.778%
4	0.000%	2.128%	8.511%	42.553%	46.809%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

満足度の高い10から8までの回答割合の合計は7割に近い数値であり(69.65%)、人文系の科目に対して総合的に満足していると言える。中位の7から5の合計が27.63%であること、満足度の低い1から3までの合計は1.62%で、全共科目全体2.06%と比べても低い

数値であった。平均値は 8.15 であった。

変動係数を用いて総合満足度を判断すると、次のように説明できる。まず、変動係数の平均値(20.28%)を上回り、バラツキの大きさが示された学科は、中国文学科 35.19%、日本語学科 26.20%、法律学科 23.21%、経営学科 23.00%、政治学科 22.74%、英米文学科 21.99%、現代経済学科 20.71%、英語学科 20.43%の 8 学科であった。満足度が各点に分散しているとも言える。

次に、バラツキが少なく満足度の高い結果を示したのは、国際文化学科 14.36%、教育学科 15.33%、社会学科 15.84%、日本文学科 16.17%、歴史文化学科 16.31%、健康科学科 16.70%、書道学科 18.34%、社会経済学科 18.59%、中国語学科 18.82%、スポーツ科学科 18.50%、看護学科 18.95%、国際関係学科 19.08%の 12 学科であった。

人文系の科目に対して、社会系や自然系の学科の学生の満足度が高く示される結果となった。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	177	8.497	1.374	16.172%
中国文学科	8	7.750	2.727	35.189%
英米文学科	97	7.938	1.746	21.992%
教育学科	47	8.277	1.267	15.304%
書道学科	17	8.353	1.532	18.337%
歴史文化学科	59	8.203	1.338	16.305%
社会経済学科	117	8.299	1.543	18.591%
現代経済学科	92	7.957	1.648	20.711%
中国語学科	36	8.444	1.589	18.816%
英語学科	121	8.149	1.665	20.429%
日本語学科	44	7.818	2.048	26.195%
法律学科	140	7.736	1.795	23.208%
政治学科	109	8.101	1.842	22.740%
国際関係学科	27	8.111	1.548	19.080%
国際文化学科	28	8.393	1.205	14.361%
経営学科	174	7.931	1.824	23.004%
スポーツ科学科	113	8.257	1.527	18.497%
健康科学科	14	8.214	1.372	16.704%
看護学科	71	8.535	1.617	18.946%
社会学科	51	8.392	1.330	15.843%
全学	1,542	8.152	1.653	20.276%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	953	8.021	1.737
2	504	8.349	1.488
3	36	8.472	1.756
4	47	8.404	1.179

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.565%	0.000%	0.000%	0.000%	0.565%	4.520%	19.209%	21.469%	23.729%	29.944%
中国文学科	0.000%	0.000%	12.500%	0.000%	25.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	50.000%
英米文学科	0.000%	1.031%	2.062%	2.062%	4.124%	4.124%	22.680%	24.742%	16.495%	22.680%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	8.511%	19.149%	34.043%	12.766%	25.532%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.882%	5.882%	17.647%	23.529%	11.765%	35.294%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.695%	0.000%	6.780%	22.034%	28.814%	18.644%	22.034%
社会経済学科	0.000%	0.000%	1.709%	0.855%	3.419%	5.128%	11.111%	31.624%	18.803%	27.350%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	4.348%	5.435%	8.696%	17.391%	18.478%	27.174%	18.478%
中国語学科	0.000%	2.778%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	19.444%	33.333%	8.333%	36.111%
英語学科	0.000%	0.000%	0.826%	1.653%	6.612%	7.438%	12.397%	27.273%	14.876%	28.926%
日本語学科	0.000%	0.000%	6.818%	2.273%	2.273%	13.636%	13.636%	15.909%	18.182%	27.273%
法律学科	0.714%	0.000%	1.429%	1.429%	7.143%	10.714%	25.000%	16.429%	15.000%	22.143%
政治学科	1.835%	0.000%	1.835%	0.000%	4.587%	7.339%	11.927%	24.771%	22.936%	24.771%
国際関係学科	0.000%	0.000%	3.704%	0.000%	0.000%	7.407%	18.519%	25.926%	25.926%	18.519%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.143%	14.286%	35.714%	17.857%	25.000%
経営学科	0.575%	1.149%	0.575%	1.724%	8.046%	5.747%	14.368%	28.161%	15.517%	24.138%
スポーツ科学科	0.000%	0.885%	0.000%	0.000%	3.540%	6.195%	20.354%	23.009%	17.699%	28.319%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	21.429%	14.286%	28.571%	21.429%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.408%	7.042%	2.817%	12.676%	18.310%	16.901%	40.845%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.882%	1.961%	9.804%	37.255%	19.608%	25.490%
全学	0.324%	0.324%	0.973%	1.102%	4.345%	6.420%	16.861%	24.708%	18.482%	26.459%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.525%	0.315%	1.049%	1.469%	5.666%	7.660%	16.789%	22.980%	19.203%	24.344%
2	0.000%	0.397%	0.595%	0.595%	2.579%	4.563%	16.865%	28.175%	16.071%	30.159%
3	0.000%	0.000%	5.556%	0.000%	0.000%	5.556%	8.333%	19.444%	27.778%	33.333%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.128%	25.532%	27.660%	19.149%	25.532%

【クロス表に関する結果(人文系)】

人文系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(2→4→16→326→880)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字:1→2→55→296→427)からも互いに

上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員の熱意を感じるようになると、自分の意欲も強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（人文系）（学生所属別）】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）【回答数】

	自分意欲					合計	4+5	
	1 まったく思わない	2 どちらかと言えば思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えば思う	5 強く思う			
教員熱意	1 まったく思わない	1	0	0	2	0	3	2
	2 どちらかと言えば思わない	0	2	2	3	1	8	4
	3 どちらとも言えない	3	6	55	13	3	80	16
	4 どちらかと言えば思う	2	18	121	296	30	467	326
	5 強く思う	4	8	92	453	427	984	880
合計	10	34	270	767	461	1,542	1,228	

表 2

●【全学共通科目（人文系）（学生所属別）】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

	自分意欲					合計	4+5	
	1 まったく思わない	2 どちらかと言えば思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えば思う	5 強く思う			
教員熱意	1 まったく思わない	33.333%	0.000%	0.000%	66.667%	0.000%	100.000%	66.667%
	2 どちらかと言えば思わない	0.000%	25.000%	25.000%	37.500%	12.500%	100.000%	50.000%
	3 どちらとも言えない	3.750%	7.500%	68.750%	16.250%	3.750%	100.000%	20.000%
	4 どちらかと言えば思う	0.428%	3.854%	25.910%	63.383%	6.424%	100.000%	69.807%
	5 強く思う	0.407%	0.813%	9.350%	46.037%	43.394%	100.000%	89.431%

【相関係数表に関する結果(人文系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」に対する人文系科目を履修している学生の授業認識は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.62 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.48」・「学生意欲 0.46」・「シラバス通り 0.46」・「FB 丁寧 0.44」となっている。ここから、「総合満足度」の向上は、「成長感覚を持っているかどうか」が、最も強く影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.55 がみられた。その後は正の相関関係順に、「学生意欲 0.53」「シラバス通り 0.45」「FB 丁寧 0.45」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか弱く影響することを示している。

「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えているという強い相関関係が示された。人文系科目を履修している学生は、成長感

覚に対する認識が比較的高い傾向にあると言える。今後の授業改善において参考にすべき傾向であろう。

●【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラパス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【自分意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラパス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.128	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.365	-0.164	1.000				
Q5	【自分意欲】	0.388	-0.133	0.461	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.448	-0.074	0.422	0.450	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.448	-0.163	0.446	0.526	0.553	1.000	
Q8	【総合満足】	0.462	-0.243	0.439	0.460	0.479	0.619	1.000

【全学共通科目（社会系）（学生所属別）】

回答率は37.67%であり、全共科目全体の41.07%に比べ低い結果となった。特に、健康科学科15.39%、国際関係学科22.58%、国際文化学科24.07%、教育学科27.57%、中国語学科29.47%は30%に満たず、低い回答率であった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	157	169	326	48.160%
中国文学科	20	29	49	40.816%
英米文学科	109	210	319	34.169%
教育学科	67	176	243	27.572%
書道学科	37	48	85	43.529%
歴史文化学科	54	89	143	37.762%
社会経済学科	139	273	412	33.738%
現代経済学科	168	242	410	40.976%
中国語学科	56	134	190	29.474%
英語学科	144	266	410	35.122%
日本語学科	53	74	127	41.732%
法律学科	441	321	762	57.874%
政治学科	148	226	374	39.572%
国際関係学科	56	192	248	22.581%
国際文化学科	39	123	162	24.074%
経営学科	243	540	783	31.034%
スポーツ科学科	67	230	297	22.559%
健康科学科	20	110	130	15.385%
看護学科	77	77	154	50.000%
社会学科	153	191	344	44.477%
全学	2,248	3,720	5,968	37.668%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	1,586	1,668	3,254	48.740%
2	523	1,325	1,848	28.301%
3	72	332	404	17.822%
4	65	394	459	14.161%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

シラバス既知率は78.73%で、全共科目全体81.20%に比べると、やはり低い。スポーツ科学科55.22%、健康科学科・社会学科66.67%は70%に満たない結果となった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	12.102%	87.898%
中国文学科	5.000%	95.000%
英米文学科	30.000%	70.000%
教育学科	14.925%	85.075%
書道学科	2.632%	97.368%
歴史文化学科	16.667%	83.333%
社会経済学科	13.669%	86.331%
現代経済学科	16.071%	83.929%
中国語学科	17.857%	82.143%
英語学科	22.222%	77.778%
日本語学科	32.075%	67.925%
法律学科	25.682%	74.318%
政治学科	16.216%	83.784%
国際関係学科	19.643%	80.357%
国際文化学科	14.634%	85.366%
経営学科	20.165%	79.835%
スポーツ科学科	44.776%	55.224%
健康科学科	33.333%	66.667%
看護学科	12.987%	87.013%
社会学科	33.333%	66.667%
全学	21.270%	78.730%

学年	1	2
1	22.432%	77.568%
2	19.048%	80.952%
3	13.699%	86.301%
4	20.000%	80.000%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

回答分布は、「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が8割を超えており(87.33%)、平均値も4.27であった。全共科目全体の平均4.32と比べても大差はない。変動係数をみても他の項目に比べて学科間の格差も大きくない(19.51%)。

変動係数をみても他の項目に比べて学科間の格差も大きくない(19.51%)。

ただし、健康科学科は4と5の合計が61.11%、「1 まったくそう思わない」と「3 どちらとも言えない」(2は0.00%)の合計が38.89%を示した。他学科は3の比率が10%未満(12学科)、もしくは10%台(7学科)であるのに対し、健康科学科は33.33%と高かった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	141	4.383	0.721	16.452%
中国文学科	19	4.632	0.666	14.374%
英米文学科	88	4.284	0.904	21.099%
教育学科	59	4.492	0.673	14.990%
書道学科	38	4.579	0.544	11.890%
歴史文化学科	47	4.340	0.723	16.652%
社会経済学科	126	4.333	0.655	15.107%
現代経済学科	149	4.268	0.887	20.783%
中国語学科	48	4.188	0.972	23.202%
英語学科	125	4.064	1.049	25.806%
日本語学科	38	4.421	0.878	19.849%
法律学科	369	4.306	0.748	17.368%
政治学科	131	4.298	0.862	20.062%
国際関係学科	48	4.292	0.789	18.395%
国際文化学科	37	4.378	0.711	16.238%
経営学科	207	4.135	0.817	19.760%
スポーツ科学科	48	4.063	1.049	25.820%
健康科学科	18	4.000	1.155	28.868%
看護学科	70	4.071	0.867	21.300%
社会学科	112	4.188	0.840	20.064%
全学	1,918	4.266	0.832	19.509%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,336	4.232	0.858
2	459	4.303	0.768
3	67	4.328	0.853
4	54	4.685	0.464

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.709%	0.709%	7.801%	41.135%	49.645%
中国文学科	0.000%	0.000%	10.526%	15.789%	73.684%
英米文学科	2.273%	2.273%	10.227%	35.227%	50.000%
教育学科	0.000%	3.390%	0.000%	40.678%	55.932%
書道学科	0.000%	0.000%	2.632%	36.842%	60.526%
歴史文化学科	0.000%	2.128%	8.511%	42.553%	46.809%
社会経済学科	0.000%	0.794%	7.937%	48.413%	42.857%
現代経済学科	2.013%	4.027%	5.369%	42.282%	46.309%
中国語学科	2.083%	6.250%	8.333%	37.500%	45.833%
英語学科	4.000%	5.600%	11.200%	38.400%	40.800%
日本語学科	2.632%	0.000%	10.526%	26.316%	60.526%
法律学科	0.542%	1.626%	9.214%	43.902%	44.715%
政治学科	2.290%	2.290%	6.107%	41.985%	47.328%
国際関係学科	0.000%	2.083%	14.583%	35.417%	47.917%
国際文化学科	0.000%	2.703%	5.405%	43.243%	48.649%
経営学科	0.966%	4.348%	8.696%	52.174%	33.816%
スポーツ科学科	6.250%	0.000%	14.583%	39.583%	39.583%
健康科学科	5.556%	0.000%	33.333%	11.111%	50.000%
看護学科	2.857%	1.429%	12.857%	51.429%	31.429%
社会学科	1.786%	2.679%	8.929%	48.214%	38.393%
全学	1.460%	2.450%	8.759%	42.701%	44.630%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.946%	2.545%	8.608%	44.162%	42.740%
2	0.218%	2.832%	9.150%	42.048%	45.752%
3	1.493%	0.000%	16.418%	28.358%	53.731%
4	0.000%	0.000%	0.000%	31.481%	68.519%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5とても難しかった」と「4やや難しかった」の回答割合の合計は50.53%で、最小37.04%（歴史文化学科）から最大78.95%（看護学科）の間に分布している（平均値：50.53%）。「1とても易しかった」と「2やや易しかった」の合計は、最小0.00%（健康科学科）から最大7.14%（国際関係学科）の間に（平均値：3.38%）分布している。授業内容の難易度の平均値は3.58で

あった。

授業の難易度に対する認識は、全共科目全体の数値はどの学科も同じような傾向を示すが、社会系に限定すると、歴史文化学科と看護学科に特徴が見られる。歴史文化学科は5が0.00%、看護学科は3が17.01%と低い。

この分布から、社会系科目の授業内容を難しいと認識していることが確認できる。この授業認識の相違および格差が、変動係数から確認できる(ある特定の評価に集中、もしくは偏っていると、当該値が平均値を下回る性質がある)。

変動係数の平均値(21.27%)を下回っているのは13学科であった(日本文学科、中国文学科、教育学科、歴史文化学科、社会経済学科、現代経済学科、英語学科、日本語学科、政治学科、国際文化学科、経営学科、スポーツ科学科、看護学科)。つまり、バラツキは小さいが、授業内容が難しいという認識に集中している。

【全学共通科目(社会系)〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	157	3.522	0.664	18.845%
中国文学科	20	3.500	0.671	19.166%
英米文学科	110	3.564	0.792	22.233%
教育学科	67	3.552	0.675	19.015%
書道学科	38	3.395	0.745	21.939%
歴史文化学科	54	3.352	0.515	15.361%
社会経済学科	138	3.551	0.713	20.079%
現代経済学科	168	3.470	0.698	20.114%
中国語学科	56	3.536	0.823	23.276%
英語学科	144	3.611	0.746	20.669%
日本語学科	53	3.698	0.716	19.361%
法律学科	442	3.550	0.801	22.558%
政治学科	146	3.699	0.734	19.855%
国際関係学科	56	3.393	0.817	24.073%
国際文化学科	41	3.463	0.702	20.264%
経営学科	243	3.588	0.750	20.912%
スポーツ科学科	67	3.881	0.763	19.672%
健康科学科	21	3.857	0.833	21.596%
看護学科	76	4.013	0.819	20.410%
社会学科	151	3.550	0.795	22.390%
全学	2,248	3.579	0.761	21.266%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,585	3.615	0.773
2	523	3.499	0.730
3	73	3.507	0.796
4	65	3.415	0.579

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.637%	0.637%	51.592%	40.127%	7.006%
中国文学科	0.000%	5.000%	45.000%	45.000%	5.000%
英米文学科	0.909%	3.636%	46.364%	36.364%	12.727%
教育学科	0.000%	2.985%	46.269%	43.284%	7.463%
書道学科	2.632%	2.632%	52.632%	36.842%	5.263%
歴史文化学科	0.000%	1.852%	61.111%	37.037%	0.000%
社会経済学科	0.725%	2.899%	44.928%	43.478%	7.971%
現代経済学科	0.595%	2.381%	54.167%	35.119%	7.738%
中国語学科	3.571%	0.000%	46.429%	39.286%	10.714%
英語学科	2.083%	1.389%	38.194%	50.000%	8.333%
日本語学科	0.000%	1.887%	39.623%	45.283%	13.208%
法律学科	1.131%	3.167%	48.416%	34.163%	13.122%
政治学科	0.000%	2.055%	40.411%	43.151%	14.384%
国際関係学科	1.786%	5.357%	55.357%	26.786%	10.714%
国際文化学科	0.000%	2.439%	58.537%	29.268%	9.756%
経営学科	0.412%	2.469%	47.325%	37.449%	12.346%
スポーツ科学科	0.000%	1.493%	31.343%	44.776%	22.388%
健康科学科	0.000%	0.000%	42.857%	28.571%	28.571%
看護学科	1.316%	2.632%	17.105%	51.316%	27.632%
社会学科	1.325%	3.311%	46.358%	37.086%	11.921%
全学	0.890%	2.491%	46.085%	38.923%	11.610%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.009%	2.524%	42.902%	41.073%	12.492%
2	0.574%	2.868%	52.199%	34.799%	9.560%
3	1.370%	1.370%	56.164%	27.397%	13.699%
4	0.000%	0.000%	63.077%	32.308%	4.615%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全共科目全体と同様の傾向が見られるが、中国語学科の「質問したことがある」割合が、他の学科に比べて相対的に高い25.93%であった(平均値11.30%)。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	89.103%	10.897%
中国文学科	75.000%	25.000%
英米文学科	90.826%	9.174%
教育学科	78.462%	21.538%
書道学科	89.189%	10.811%
歴史文化学科	90.741%	9.259%
社会経済学科	91.852%	8.148%
現代経済学科	92.073%	7.927%
中国語学科	74.074%	25.926%
英語学科	90.647%	9.353%
日本語学科	81.132%	18.868%
法律学科	92.184%	7.816%
政治学科	84.615%	15.385%
国際関係学科	81.818%	18.182%
国際文化学科	80.488%	19.512%
経営学科	88.750%	11.250%
スポーツ科学科	90.909%	9.091%
健康科学科	76.190%	23.810%
看護学科	94.595%	5.405%
社会学科	88.158%	11.842%
全学	88.703%	11.297%

学年	1	2
1	89.217%	10.783%
2	88.738%	11.262%
3	83.562%	16.438%
4	83.077%	16.923%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 65.13%で、学生が教員の対応を概ね評価していると言える。他の科目系に比べてやや低い水準である。授業内容の認識に関するフィードバックの全学平均値は 3.96 であった。

ただし、中国文学科、書道学科、中国語学科、日本語学科、健康科学科は 5 の比率が高く、教員の質問対応を高く評価している。変動係数が平均よりも高い 10 学科は、質問対応への評価が分散している。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	38	3.868	1.030	26.635%
中国文学科	7	4.429	0.904	20.402%
英米文学科	35	4.057	0.984	24.252%
教育学科	23	3.913	1.176	30.062%
書道学科	11	4.455	0.656	14.717%
歴史文化学科	11	4.182	0.833	19.924%
社会経済学科	47	3.702	1.009	27.249%
現代経済学科	55	3.782	1.003	26.534%
中国語学科	28	4.286	0.881	20.548%
英語学科	59	3.898	0.986	25.300%
日本語学科	18	4.389	0.826	18.818%
法律学科	156	4.013	0.934	23.266%
政治学科	58	4.121	0.892	21.648%
国際関係学科	19	4.105	0.852	20.752%
国際文化学科	22	4.045	1.021	25.250%
経営学科	82	3.890	0.975	25.072%
スポーツ科学科	32	3.625	0.960	26.487%
健康科学科	9	4.444	0.831	18.708%
看護学科	30	3.667	0.978	26.660%
社会学科	40	3.825	0.997	26.070%
全学	780	3.956	0.980	24.760%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	554	3.937	0.999
2	172	3.971	0.930
3	28	4.179	0.847
4	25	4.000	0.980

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	2.632%	0.000%	44.737%	13.158%	39.474%
中国文学科	0.000%	0.000%	28.571%	0.000%	71.429%
英米文学科	2.857%	0.000%	28.571%	25.714%	42.857%
教育学科	4.348%	8.696%	21.739%	21.739%	43.478%
書道学科	0.000%	0.000%	9.091%	36.364%	54.545%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	27.273%	27.273%	45.455%
社会経済学科	4.255%	2.128%	38.298%	29.787%	25.532%
現代経済学科	3.636%	1.818%	36.364%	29.091%	29.091%
中国語学科	0.000%	3.571%	17.857%	25.000%	53.571%
英語学科	3.390%	1.695%	28.814%	33.898%	32.203%
日本語学科	0.000%	0.000%	22.222%	16.667%	61.111%
法律学科	1.923%	0.641%	29.487%	30.128%	37.821%
政治学科	1.724%	0.000%	24.138%	32.759%	41.379%
国際関係学科	0.000%	0.000%	31.579%	26.316%	42.105%
国際文化学科	4.545%	0.000%	22.727%	31.818%	40.909%
経営学科	2.439%	1.220%	35.366%	26.829%	34.146%
スポーツ科学科	3.125%	3.125%	43.750%	28.125%	21.875%
健康科学科	0.000%	0.000%	22.222%	11.111%	66.667%
看護学科	3.333%	3.333%	40.000%	30.000%	23.333%
社会学科	5.000%	0.000%	30.000%	37.500%	27.500%
全学	2.564%	1.282%	31.026%	28.205%	36.923%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	3.069%	1.444%	30.505%	28.700%	36.282%
2	1.163%	1.163%	34.302%	26.163%	37.209%
3	0.000%	0.000%	28.571%	25.000%	46.429%
4	4.000%	0.000%	24.000%	36.000%	36.000%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が約 8 割 (77.48%) で、学生の授業認識は概ね自身の熱意を評価している。授業内容の認識に関する学生熱意の平均値は 3.99 であった。社会系の科目に対して、学生の意欲がやや低いことが確認された。一方で、1 と 2 の合計は 4.89、学生熱意の平均値 3.99 よりも高くなっている。

社会系の科目に対して、学生の意欲がやや低いことが確認された。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q5「自分意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	157	4.038	0.866	21.448%
中国文学科	20	4.100	0.700	17.073%
英米文学科	110	3.973	0.792	19.924%
教育学科	67	3.970	1.051	26.460%
書道学科	38	4.263	0.676	15.858%
歴史文化学科	53	4.151	0.711	17.129%
社会経済学科	139	4.022	0.754	18.738%
現代経済学科	168	4.054	0.701	17.289%
中国語学科	56	4.286	0.839	19.579%
英語学科	144	4.063	0.801	19.722%
日本語学科	53	4.057	0.711	17.539%
法律学科	440	3.984	0.838	21.030%
政治学科	148	4.061	0.832	20.489%
国際関係学科	56	3.982	0.813	20.407%
国際文化学科	41	4.073	0.712	17.478%
経営学科	243	3.852	0.823	21.371%
スポーツ科学科	67	3.806	0.868	22.806%
健康科学科	21	4.095	0.683	16.689%
看護学科	77	3.831	0.844	22.021%
社会学科	153	3.784	0.996	26.328%
全学	2,251	3.988	0.833	20.901%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,586	3.979	0.846
2	525	3.996	0.812
3	73	4.027	0.793
4	65	4.046	0.711

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.637%	5.096%	16.561%	45.223%	32.484%
中国文学科	0.000%	0.000%	20.000%	50.000%	30.000%
英米文学科	0.909%	3.636%	16.364%	55.455%	23.636%
教育学科	5.970%	2.985%	11.940%	46.269%	32.836%
書道学科	0.000%	0.000%	13.158%	47.368%	39.474%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	18.868%	47.170%	33.962%
社会経済学科	1.439%	0.719%	16.547%	56.835%	24.460%
現代経済学科	0.000%	2.976%	13.095%	59.524%	24.405%
中国語学科	0.000%	3.571%	14.286%	32.143%	50.000%
英語学科	0.000%	4.861%	14.583%	50.000%	30.556%
日本語学科	0.000%	0.000%	22.642%	49.057%	28.302%
法律学科	0.682%	4.318%	18.864%	48.182%	27.955%
政治学科	1.351%	4.054%	11.486%	53.378%	29.730%
国際関係学科	0.000%	3.571%	23.214%	44.643%	28.571%
国際文化学科	0.000%	0.000%	21.951%	48.780%	29.268%
経営学科	0.823%	4.938%	22.634%	51.440%	20.165%
スポーツ科学科	0.000%	7.463%	26.866%	43.284%	22.388%
健康科学科	0.000%	0.000%	19.048%	52.381%	28.571%
看護学科	0.000%	7.792%	22.078%	49.351%	20.779%
社会学科	5.229%	5.229%	15.686%	53.595%	20.261%
全学	1.022%	3.865%	17.637%	50.289%	27.188%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.324%	3.909%	17.213%	50.631%	26.923%
2	0.381%	4.190%	18.286%	49.714%	27.429%
3	0.000%	2.740%	21.918%	45.205%	30.137%
4	0.000%	1.538%	18.462%	53.846%	26.154%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 90% を超えており (90.20%)、学生が教員の熱意を高く評価していると言える。教員熱意に対する平均値は 4.43 であった。

全共科目全体に比べ、5 の比率が低い学科が 14 学科あるのは気になる点である。その分、

4の比率が増えており、総合的には教員の熱意を高く評価する層は多いが、無視できない傾向であろう。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	157	4.516	0.728	16.121%
中国文学科	20	4.500	0.806	17.916%
英米文学科	110	4.482	0.760	16.948%
教育学科	67	4.627	0.750	16.206%
書道学科	38	4.579	0.544	11.890%
歴史文化学科	54	4.537	0.600	13.220%
社会経済学科	139	4.403	0.765	17.385%
現代経済学科	168	4.536	0.645	14.210%
中国語学科	56	4.482	0.732	16.325%
英語学科	144	4.472	0.799	17.862%
日本語学科	53	4.528	0.690	15.230%
法律学科	442	4.437	0.707	15.928%
政治学科	148	4.385	0.767	17.489%
国際関係学科	56	4.357	0.854	19.604%
国際文化学科	41	4.488	0.737	16.413%
経営学科	243	4.346	0.767	17.650%
スポーツ科学科	67	4.358	0.823	18.888%
健康科学科	21	4.429	0.791	17.864%
看護学科	77	4.260	0.763	17.908%
社会学科	153	4.301	0.833	19.370%
全学	2,254	4.434	0.749	16.899%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,589	4.429	0.750
2	525	4.429	0.754
3	73	4.425	0.792
4	65	4.615	0.625

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.548%	6.369%	28.025%	63.057%
中国文学科	0.000%	0.000%	20.000%	10.000%	70.000%
英米文学科	0.909%	0.000%	10.909%	26.364%	61.818%
教育学科	1.493%	1.493%	2.985%	20.896%	73.134%
書道学科	0.000%	0.000%	2.632%	36.842%	60.526%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	5.556%	35.185%	59.259%
社会経済学科	0.719%	0.719%	10.791%	33.094%	54.676%
現代経済学科	0.000%	1.190%	4.762%	33.333%	60.714%
中国語学科	0.000%	1.786%	8.929%	28.571%	60.714%
英語学科	1.389%	1.389%	6.944%	29.167%	61.111%
日本語学科	0.000%	1.887%	5.660%	30.189%	62.264%
法律学科	0.452%	0.905%	7.240%	37.330%	54.072%
政治学科	0.676%	3.378%	3.378%	41.892%	50.676%
国際関係学科	0.000%	3.571%	14.286%	25.000%	57.143%
国際文化学科	0.000%	2.439%	7.317%	29.268%	60.976%
経営学科	0.412%	2.058%	9.465%	38.683%	49.383%
スポーツ科学科	1.493%	1.493%	8.955%	35.821%	52.239%
健康科学科	0.000%	0.000%	19.048%	19.048%	61.905%
看護学科	0.000%	2.597%	11.688%	42.857%	42.857%
社会学科	1.961%	1.961%	6.536%	43.137%	46.405%
全学	0.577%	1.553%	7.675%	34.250%	55.945%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.629%	1.447%	7.741%	34.802%	55.381%
2	0.571%	1.905%	7.048%	35.048%	55.429%
3	0.000%	2.740%	10.959%	27.397%	58.904%
4	0.000%	0.000%	7.692%	23.077%	69.231%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 80%を超えており(84.48%)、学生が自身の成長感覚を高く評価していると言える。特に書道学科は、5 と 4 の回答比率の合計が 100%と、成長感覚の認識が非常に高い。これに対して、看護学科

77.92%、国際関係学科 76.36%、スポーツ科学科 71.64%、健康科学科 71.43%の4学科は、平均値 84.48%を大幅に下回っている。この結果から、学生の成長感覚に関する学科間の相違や格差を確認できる。社会系科目に対する成長感覚の平均値は 4.19 であった(標準偏差 0.81)。

変動係数から社会系科目に対する授業認識をみると、学科間の格差が明確になる。5 と 4 の割合が 100%の書道学科の変動係数は、平均値 19.20%と比べて、非常に低い 10.92%であった。認識のバラツキが小さく、かつ5 と 4 に集中している。

5 と 4 の割合が 70%台となっている4学科(看護学科、国際関係学科、スポーツ科学科、健康科学科)の変動係数はそれぞれ 22.57%、20.18%、22.46%、28.87%を示し、平均値(19.20%)を上回っている。認識のバラツキが大きく、分散している。

【全学共通科目(社会系)〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	157	4.318	0.774	17.925%
中国文学科	20	4.450	0.740	16.628%
英米文学科	109	4.138	0.851	20.567%
教育学科	67	4.269	0.907	21.257%
書道学科	38	4.553	0.497	10.922%
歴史文化学科	54	4.352	0.698	16.041%
社会経済学科	139	4.201	0.760	18.097%
現代経済学科	167	4.347	0.700	16.105%
中国語学科	55	4.345	0.791	18.209%
英語学科	144	4.125	0.789	19.139%
日本語学科	52	4.173	0.802	19.217%
法律学科	442	4.229	0.776	18.343%
政治学科	148	4.203	0.788	18.752%
国際関係学科	55	4.055	0.818	20.184%
国際文化学科	41	4.317	0.642	14.862%
経営学科	243	4.099	0.831	20.264%
スポーツ科学科	67	3.955	0.888	22.458%
健康科学科	21	4.000	1.155	28.868%
看護学科	77	3.974	0.897	22.570%
社会学科	153	4.026	0.840	20.858%
全学	2,249	4.193	0.805	19.204%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,587	4.190	0.806
2	523	4.182	0.801
3	72	4.139	0.887
4	65	4.415	0.699

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.637%	1.911%	9.554%	40.764%	47.134%
中国文学科	0.000%	0.000%	15.000%	25.000%	60.000%
英米文学科	0.917%	3.670%	13.761%	44.037%	37.615%
教育学科	2.985%	1.493%	8.955%	38.806%	47.761%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	44.737%	55.263%
歴史文化学科	0.000%	1.852%	7.407%	44.444%	46.296%
社会経済学科	0.719%	1.439%	12.230%	48.201%	37.410%
現代経済学科	0.000%	1.198%	9.581%	42.515%	46.707%
中国語学科	0.000%	3.636%	9.091%	36.364%	50.909%
英語学科	0.694%	4.167%	9.028%	54.167%	31.944%
日本語学科	0.000%	3.846%	13.462%	44.231%	38.462%
法律学科	0.452%	2.262%	11.765%	45.023%	40.498%
政治学科	0.676%	2.703%	10.811%	47.297%	38.514%
国際関係学科	0.000%	3.636%	20.000%	43.636%	32.727%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.756%	48.780%	41.463%
経営学科	0.823%	3.292%	15.226%	46.502%	34.156%
スポーツ科学科	1.493%	2.985%	23.881%	41.791%	29.851%
健康科学科	0.000%	19.048%	9.524%	23.810%	47.619%
看護学科	1.299%	6.494%	14.286%	49.351%	28.571%
社会学科	1.307%	4.575%	12.418%	53.595%	28.105%
全学	0.667%	2.890%	11.961%	45.442%	39.040%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.882%	2.647%	11.531%	46.503%	38.437%
2	0.191%	3.442%	13.193%	44.359%	38.815%
3	0.000%	6.944%	12.500%	40.278%	40.278%
4	0.000%	0.000%	12.308%	33.846%	53.846%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

社会系科目の総合満足度に関する認識の平均は7.99であった(人文系8.15、自然系7.99、保健体育系9.03)。

満足度の高い10(大いに満足した)から8までの回答割合の合計が7割に近く(67.57%)、

総合的に満足度を高く評価していると言える。満足度の低い1(まったく満足できなかった)から3までの回答比率の合計は2.80%であった。全共科目全体の総合満足度1から3の合計2.06%よりも高く、この点は留意すべきであろう。

変動係数から総合満足度を判断すると、次のように説明できる。まず、変動係数の平均値(23.13%)を上回っている学科は10学科であった(健康科学科32.62%、中国文化学科28.62%、英米文学科27.11%、看護学科25.55%、教育学科25.23%、政治学科25.19%、社会学科25.11%、スポーツ科学科24.20%、法律学科23.85%、英語学科23.19%)。この結果は、総合満足度に関する評価が分散していることを示す。

次に、学生の認識が上位評価に集中している学科は9学科であった(書道学科83.78%、中国文学科80.00%、日本語学科79.25%、中国語学科78.57%、国際文化学科76.92%、教育学科74.63%、現代経済学科72.02%、日本文学科71.34%、健康科学科70.00%)。人文系学部(文学部4学科と外国語学部2学科)の学生、自然系の学科の学生が、社会系科目に対して高い満足度を示す結果となった。

【全学共通科目(社会系)〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	157	8.172	1.720	21.045%
中国文学科	20	8.250	2.364	28.652%
英米文学科	109	7.917	2.147	27.112%
教育学科	67	8.000	2.022	25.278%
書道学科	37	8.946	1.229	13.739%
歴史文化学科	54	8.204	1.660	20.232%
社会経済学科	139	8.245	1.600	19.402%
現代経済学科	168	8.292	1.660	20.015%
中国語学科	56	8.536	1.488	17.428%
英語学科	144	7.882	1.828	23.188%
日本語学科	53	8.377	1.718	20.509%
法律学科	441	7.952	1.896	23.847%
政治学科	148	7.730	1.947	25.192%
国際関係学科	56	7.964	1.669	20.952%
国際文化学科	39	8.487	1.662	19.584%
経営学科	243	7.872	1.753	22.272%
スポーツ科学科	67	7.716	1.867	24.199%
健康科学科	20	7.700	2.512	32.623%
看護学科	77	7.481	1.911	25.547%
社会学科	153	7.614	1.957	25.708%
全学	2,248	7.994	1.849	23.134%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,586	7.897	1.886
2	523	8.180	1.751
3	72	8.139	1.924
4	65	8.631	1.296

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	1.274%	1.911%	1.274%	2.548%	5.096%	16.561%	22.930%	22.930%	25.478%
中国文学科	0.000%	0.000%	10.000%	5.000%	5.000%	0.000%	0.000%	10.000%	30.000%	40.000%
英米文学科	1.835%	1.835%	0.917%	2.752%	4.587%	11.927%	10.092%	17.431%	18.349%	30.275%
教育学科	2.985%	0.000%	2.985%	1.493%	1.493%	5.970%	10.448%	29.851%	20.896%	23.881%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.405%	10.811%	13.514%	24.324%	45.946%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.407%	12.963%	16.667%	7.407%	25.926%	29.630%
社会経済学科	0.719%	0.719%	0.000%	0.000%	1.439%	8.633%	19.424%	23.741%	15.827%	29.496%
現代経済学科	0.595%	0.595%	0.595%	1.190%	2.381%	5.952%	16.667%	20.238%	23.214%	28.571%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.786%	0.000%	10.714%	8.929%	26.786%	12.500%	39.286%
英語学科	1.389%	0.000%	2.083%	0.694%	6.250%	8.333%	13.889%	27.083%	20.139%	20.139%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.774%	7.547%	3.774%	5.660%	26.415%	16.981%	35.849%
法律学科	1.587%	0.907%	0.227%	2.041%	6.349%	5.669%	16.100%	23.356%	19.955%	23.810%
政治学科	0.676%	1.351%	2.703%	1.351%	6.757%	10.811%	12.162%	25.676%	18.243%	20.270%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.571%	7.143%	7.143%	16.071%	28.571%	12.500%	25.000%
国際文化学科	0.000%	2.564%	0.000%	0.000%	2.564%	0.000%	17.949%	25.641%	12.821%	38.462%
経営学科	0.412%	0.412%	1.646%	2.058%	4.938%	8.642%	18.107%	26.337%	15.638%	21.811%
スポーツ科学科	1.493%	0.000%	0.000%	0.000%	14.925%	7.463%	14.925%	28.358%	8.955%	23.881%
健康科学科	0.000%	5.000%	5.000%	5.000%	10.000%	5.000%	0.000%	15.000%	25.000%	30.000%
看護学科	0.000%	1.299%	2.597%	5.195%	7.792%	6.494%	22.078%	22.078%	16.883%	15.584%
社会学科	1.961%	0.654%	0.654%	3.922%	7.190%	8.497%	15.686%	25.490%	19.608%	16.340%
全学	0.934%	0.756%	1.112%	1.868%	5.249%	7.384%	15.125%	23.577%	18.861%	25.133%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1.324%	0.694%	1.009%	1.828%	6.179%	7.566%	15.700%	23.770%	18.979%	22.951%
2	0.000%	0.956%	1.530%	1.912%	2.486%	8.222%	14.149%	23.709%	17.017%	30.019%
3	0.000%	1.389%	1.389%	2.778%	8.333%	4.167%	8.333%	22.222%	20.833%	30.556%
4	0.000%	0.000%	0.000%	1.538%	1.538%	0.000%	16.923%	20.000%	29.231%	30.769%

【クロス表に関する結果(社会系)】

社会系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(3→10→54→557→1120)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

次に、教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字: 4→13→106→516→560)も互

いに上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（社会系）（学生所属別）】クロス集計（〔自分意欲〕×〔教員熱意〕）〔回答数〕

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	4	3	3	1	2	13	3
	2 どちらかと言えばそう思わない	2	13	10	7	3	35	10
	3 どちらとも言えない	4	8	106	48	6	172	54
	4 どちらかと言えばそう思う	6	36	172	516	41	771	557
	5 強くそう思う	7	27	106	560	560	1,260	1,120
合計		23	87	397	1,132	612	2,251	1,744

表 2

●【全学共通科目（社会系）（学生所属別）】クロス集計（〔自分意欲〕×〔教員熱意〕）〔パーセント〕

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	30.769%	23.077%	23.077%	7.692%	15.385%	100.000%	23.077%
	2 どちらかと言えばそう思わない	5.714%	37.143%	28.571%	20.000%	8.571%	100.000%	28.571%
	3 どちらとも言えない	2.326%	4.651%	61.628%	27.907%	3.488%	100.000%	31.395%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.778%	4.669%	22.309%	66.926%	5.318%	100.000%	72.244%
	5 強くそう思う	0.556%	2.143%	8.413%	44.444%	44.444%	100.000%	88.889%

【相関係数表に関する結果(社会系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」に対する自然系科目を履修している学生は、特に「成長実感(成長感覚)」との間に強い正の相関関係 0.63 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.57」「学生意欲 0.53」「シラバス通り 0.50」「FB 丁寧 0.39」となっている。ここから、「総合満足度」の向上は、成長実感を持っているかどうか、最も強く影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に強い正の相関関係 0.62 がみられた。その後は正の相関関係順に、「学生意欲 0.58」「FB 丁寧 0.46」「シラバス通り 0.46」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか、強く影響することを示している。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与える強い相関関係が示された。また、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を向上させるといふ強い正の相関関係も確認することが出来た。社会系科目に対して、学生は成長実感

を高く評価していると言える。

●【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラパス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長感覚〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラパス通り〕	1.000						
Q2	〔難易度適切〕	-0.093	1.000					
Q4	〔FB丁寧〕	0.399	0.010	1.000				
Q5	〔自分意欲〕	0.398	-0.084	0.448	1.000			
Q6	〔教員熱意〕	0.483	-0.082	0.470	0.465	1.000		
Q7	〔成長感覚〕	0.457	-0.126	0.458	0.581	0.619	1.000	
Q8	〔総合満足〕	0.495	-0.246	0.386	0.530	0.567	0.633	1.000

【全学共通科目（自然系）（学生所属別）】

自然系科目の回答率41.67%であり、全共科目全体の回答率41.07%とほぼ同じであった。そのなかで、回答率が20%以下の学科が3学科あり（教育学科20.00%、国際関係学科18.75%、国際文化学科16.36%）、学科間の相違が顕著であった。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	37	26	63	58.730%
中国文学科	5	4	9	55.556%
英米文学科	24	45	69	34.783%
教育学科	7	28	35	20.000%
書道学科	5	7	12	41.667%
歴史文化学科	13	5	18	72.222%
社会経済学科	78	110	188	41.489%
現代経済学科	56	71	127	44.094%
中国語学科	25	57	82	30.488%
英語学科	45	47	92	48.913%
日本語学科	7	11	18	38.889%
法律学科	46	21	67	68.657%
政治学科	38	34	72	52.778%
国際関係学科	9	39	48	18.750%
国際文化学科	9	46	55	16.364%
経営学科	58	151	209	27.751%
スポーツ科学科	29	17	46	63.043%
健康科学科	11	13	24	45.833%
看護学科	22	10	32	68.750%
社会学科	26	28	54	48.148%
全学	550	770	1,320	41.667%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	277	247	524	52.863%
2	219	356	575	38.087%
3	24	64	88	27.273%
4	30	103	133	22.556%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

自然系科目のシラバス既知率は 82.91%と、全共科目の全体 81.20%よりもやや高い数値の既知率を示している。なかでも、中国文学科・教育学科・書道学科・国際文化学科の既知率が 100%となっているが、履修学生が 10 名以下の少人数であり、この点は留意が必要である。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	24.324%	75.676%
中国文学科	0.000%	100.000%
英米文学科	20.833%	79.167%
教育学科	0.000%	100.000%
書道学科	0.000%	100.000%
歴史文化学科	23.077%	76.923%
社会経済学科	12.821%	87.179%
現代経済学科	5.357%	94.643%
中国語学科	24.000%	76.000%
英語学科	17.778%	82.222%
日本語学科	14.286%	85.714%
法律学科	19.565%	80.435%
政治学科	10.526%	89.474%
国際関係学科	33.333%	66.667%
国際文化学科	0.000%	100.000%
経営学科	22.414%	77.586%
スポーツ科学科	20.690%	79.310%
健康科学科	18.182%	81.818%
看護学科	13.636%	86.364%
社会学科	34.615%	65.385%
全学	17.091%	82.909%

学年	1	2
1	17.690%	82.310%
2	17.808%	82.192%
3	16.667%	83.333%
4	6.667%	93.333%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

回答平均 4.28（全共科目全体 4.32）、回答分布は「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 8 割を大きく超えていた(89.14%、全共科目全体 89.32%)。ただし、国際関係学科 75.0%、社会学科 77.27%と相対的に低い結果となった。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計 2.41%（全共科目 2.85%）に対し、書道学科 20.0%、歴史文化学科 9.09%、日本文学科 7.14%が高い数値を示しており留意が必要であろう。変動係数の平均は 17.54%であったが、書道学科は 37.68%と突出して高くバラツキの大きさが顕著であった。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	28	4.357	0.854	19.604%
中国文学科	5	4.600	0.490	10.650%
英米文学科	21	4.190	0.663	15.828%
教育学科	7	4.571	0.495	10.825%
書道学科	5	3.600	1.356	37.680%
歴史文化学科	11	4.091	0.793	19.373%
社会経済学科	74	4.257	0.754	17.724%
現代経済学科	54	4.296	0.627	14.604%
中国語学科	22	4.045	0.928	22.944%
英語学科	42	4.214	0.708	16.807%
日本語学科	6	4.500	0.500	11.111%
法律学科	41	4.366	0.654	14.970%
政治学科	35	4.371	0.831	19.011%
国際関係学科	8	4.000	0.707	17.678%
国際文化学科	9	4.444	0.497	11.180%
経営学科	49	4.327	0.651	15.050%
スポーツ科学科	27	4.444	0.629	14.142%
健康科学科	11	4.273	0.750	17.545%
看護学科	20	4.400	0.735	16.701%
社会学科	22	3.955	0.928	23.472%
全学	497	4.278	0.750	17.537%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	250	4.280	0.739
2	196	4.281	0.774
3	23	4.087	0.830
4	28	4.393	0.557

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	7.143%	3.571%	35.714%	53.571%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	14.286%	52.381%	33.333%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	42.857%	57.143%
書道学科	20.000%	0.000%	0.000%	60.000%	20.000%
歴史文化学科	0.000%	9.091%	0.000%	63.636%	27.273%
社会経済学科	0.000%	4.054%	6.757%	48.649%	40.541%
現代経済学科	0.000%	1.852%	3.704%	57.407%	37.037%
中国語学科	4.545%	0.000%	13.636%	50.000%	31.818%
英語学科	0.000%	0.000%	16.667%	45.238%	38.095%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
法律学科	0.000%	2.439%	2.439%	51.220%	43.902%
政治学科	2.857%	0.000%	5.714%	40.000%	51.429%
国際関係学科	0.000%	0.000%	25.000%	50.000%	25.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	55.556%	44.444%
経営学科	0.000%	0.000%	10.204%	46.939%	42.857%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	7.407%	40.741%	51.852%
健康科学科	0.000%	0.000%	18.182%	36.364%	45.455%
看護学科	0.000%	0.000%	15.000%	30.000%	55.000%
社会学科	4.545%	0.000%	18.182%	50.000%	27.273%
全学	0.805%	1.610%	8.451%	47.284%	41.851%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.800%	1.200%	8.800%	47.600%	41.600%
2	1.020%	2.041%	7.653%	46.429%	42.857%
3	0.000%	4.348%	17.391%	43.478%	34.783%
4	0.000%	0.000%	3.571%	53.571%	42.857%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 46.00%で、最小 27.27% (健康科学科)から最大 60.00%(中国文学科・書道学科・中国語学科)の間に分布している(平均値 46.00%)。「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は、最小 00.0% (中国文学科・教育学科・日本語学科・国際関係学科・スポーツ科学科・健康科学科)から最大

20.00%(書道学科)の間に分布している(平均値 5.09%)。難易度の全学平均値は 3.48 であった。

この分布から、自然科学系科目を難しいと認識していることがわかる。授業認識の相違および格差が変動係数から確認できる(ある特定の評価に集中、もしくは偏っていると、当該値が平均値を下回る性質がある)。

変動係数の平均値(22.27%)を下回っているのは 12 学科(日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・社会経済学科・現代経済学科・日本語学科・国際関係学科・国際文化学科・経営学科・スポーツ科学科・健康科学科)であった。これらの 12 学科のバラツキは小さいが、回答分布から、4 と 5 の評価に集中している。

6 学科(書道学科・歴史文化学科・中国語学科・英語学科・法律学科・政治学科・看護学科・社会学科)は、変動係数の平均値(22.27%)を上回り、バラツキがみられる。

人文系、社会系、自然系といった学部の相違にかかわらず、自然系科目を難しいと認識している学生が多いことが示された。

【全学共通科目(自然系)〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	37	3.405	0.676	19.857%
中国文学科	5	3.800	0.748	19.693%
英米文学科	24	3.500	0.577	16.496%
教育学科	7	3.429	0.495	14.434%
書道学科	5	3.400	0.800	23.529%
歴史文化学科	13	3.385	0.923	27.273%
社会経済学科	78	3.462	0.728	21.043%
現代経済学科	56	3.446	0.564	16.377%
中国語学科	25	3.800	0.980	25.784%
英語学科	45	3.511	0.833	23.732%
日本語学科	7	3.857	0.833	21.596%
法律学科	46	3.370	0.869	25.782%
政治学科	38	3.342	0.897	26.829%
国際関係学科	9	3.444	0.497	14.426%
国際文化学科	9	3.222	0.629	19.506%
経営学科	58	3.621	0.739	20.404%
スポーツ科学科	29	3.655	0.708	19.380%
健康科学科	11	3.273	0.445	13.608%
看護学科	22	3.636	0.881	24.238%
社会学科	26	3.308	0.910	27.517%
全学	550	3.485	0.776	22.270%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	277	3.531	0.799
2	219	3.384	0.740
3	24	3.583	0.571
4	30	3.733	0.854

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	5.405%	54.054%	35.135%	5.405%
中国文学科	0.000%	0.000%	40.000%	40.000%	20.000%
英米文学科	0.000%	4.167%	41.667%	54.167%	0.000%
教育学科	0.000%	0.000%	57.143%	42.857%	0.000%
書道学科	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%	0.000%
歴史文化学科	7.692%	0.000%	46.154%	38.462%	7.692%
社会経済学科	1.282%	3.846%	48.718%	39.744%	6.410%
現代経済学科	0.000%	3.571%	48.214%	48.214%	0.000%
中国語学科	4.000%	0.000%	36.000%	32.000%	28.000%
英語学科	2.222%	4.444%	44.444%	37.778%	11.111%
日本語学科	0.000%	0.000%	42.857%	28.571%	28.571%
法律学科	2.174%	6.522%	56.522%	21.739%	13.043%
政治学科	5.263%	2.632%	55.263%	26.316%	10.526%
国際関係学科	0.000%	0.000%	55.556%	44.444%	0.000%
国際文化学科	0.000%	11.111%	55.556%	33.333%	0.000%
経営学科	0.000%	1.724%	48.276%	36.207%	13.793%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	48.276%	37.931%	13.793%
健康科学科	0.000%	0.000%	72.727%	27.273%	0.000%
看護学科	0.000%	4.545%	50.000%	22.727%	22.727%
社会学科	7.692%	3.846%	42.308%	42.308%	3.846%
全学	1.636%	3.455%	48.909%	36.727%	9.273%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.805%	3.249%	45.848%	38.267%	10.830%
2	1.826%	4.110%	53.881%	34.247%	5.936%
3	0.000%	0.000%	45.833%	50.000%	4.167%
4	0.000%	3.333%	43.333%	30.000%	23.333%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

看護学科の「質問したことがある」割合が他の学科に比べて、相対的に高い40.91%であった(平均値19.85%)。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	83.784%	16.216%
中国文学科	80.000%	20.000%
英米文学科	79.167%	20.833%
教育学科	71.429%	28.571%
書道学科	75.000%	25.000%
歴史文化学科	92.308%	7.692%
社会経済学科	81.818%	18.182%
現代経済学科	85.714%	14.286%
中国語学科	79.167%	20.833%
英語学科	86.364%	13.636%
日本語学科	71.429%	28.571%
法律学科	73.913%	26.087%
政治学科	76.316%	23.684%
国際関係学科	88.889%	11.111%
国際文化学科	77.778%	22.222%
経営学科	82.143%	17.857%
スポーツ科学科	65.517%	34.483%
健康科学科	90.909%	9.091%
看護学科	59.091%	40.909%
社会学科	88.462%	11.538%
全学	80.147%	19.853%

学年	1	2
1	75.273%	24.727%
2	85.116%	14.884%
3	83.333%	16.667%
4	86.667%	13.333%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 76.44%で、学生は教員の対応を概ね評価していると言える。しかし、社会系の科目とは同じ数値であったが、保健体育系、人文科学系科目と比べるとやや低い水準である（人文系 68.01%、社会系 65.13%、保健体育系 75.61%）。フィードバックの平均値は 4.13 であった（人文系 4.04、社会系 3.96、保健体育系 4.29）。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	9	4.333	0.816	18.842%
中国文学科	4	3.750	0.829	22.111%
英米文学科	11	4.364	0.771	17.678%
教育学科	3	4.333	0.943	21.757%
書道学科	1	5.000	0.000	0.000%
歴史文化学科	5	3.400	0.800	23.529%
社会経済学科	31	4.129	0.870	21.079%
現代経済学科	17	4.235	1.165	27.499%
中国語学科	13	3.923	0.730	18.602%
英語学科	15	4.267	0.772	18.087%
日本語学科	2	4.500	0.500	11.111%
法律学科	20	4.250	0.994	23.382%
政治学科	18	4.389	0.678	15.451%
国際関係学科	3	4.667	0.471	10.102%
国際文化学科	6	3.833	0.687	17.927%
経営学科	25	3.960	0.999	25.232%
スポーツ科学科	19	4.158	1.039	24.998%
健康科学科	3	4.333	0.943	21.757%
看護学科	11	4.273	1.213	28.387%
社会学科	9	3.222	1.315	40.801%
全学	225	4.129	0.974	23.579%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	120	4.083	1.092
2	90	4.156	0.829
3	7	4.429	0.728
4	8	4.250	0.661

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	22.222%	22.222%	55.556%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	18.182%	27.273%	54.545%
教育学科	0.000%	0.000%	33.333%	0.000%	66.667%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
歴史文化学科	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%	0.000%
社会経済学科	0.000%	3.226%	22.581%	32.258%	41.935%
現代経済学科	5.882%	5.882%	5.882%	23.529%	58.824%
中国語学科	0.000%	0.000%	30.769%	46.154%	23.077%
英語学科	0.000%	0.000%	20.000%	33.333%	46.667%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
法律学科	5.000%	0.000%	10.000%	35.000%	50.000%
政治学科	0.000%	0.000%	11.111%	38.889%	50.000%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
国際文化学科	0.000%	0.000%	33.333%	50.000%	16.667%
経営学科	4.000%	0.000%	28.000%	32.000%	36.000%
スポーツ科学科	5.263%	0.000%	15.789%	31.579%	47.368%
健康科学科	0.000%	0.000%	33.333%	0.000%	66.667%
看護学科	9.091%	0.000%	9.091%	18.182%	63.636%
社会学科	22.222%	0.000%	22.222%	44.444%	11.111%
全学	3.111%	1.333%	19.111%	32.444%	44.000%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	5.833%	1.667%	15.833%	31.667%	45.000%
2	0.000%	1.111%	24.444%	32.222%	42.222%
3	0.000%	0.000%	14.286%	28.571%	57.143%
4	0.000%	0.000%	12.500%	50.000%	37.500%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が約8割(77.23%)で、学生は概ね自身の熱意を評価している。学生熱意の全学平均値は3.94であった。

特に気になるのは書道学科と歴史文化学科の傾向である。書道の変動係数が45.93%と突出して高い(平均値21.38%)。書道学科の回答分布をみると、3が0.00%、1と2の合計

は 40.00%、4 と 5 の合計 60.00%と意欲に対する認識が二極化している。次に変動係数が高いのが歴文化学科 29.63%で、回答分布では 5 が 0.00%であった。

英米文学科 (12.70%) と教育学科 (10.54%) の変動係数は低く、かつ 1 と 2 が 0.00% (教育学科は 3 も 0.00%) と意欲の高さは顕著であった。ちなみに国際関係学科と健康科学科、看護学科も 1 と 2 は 0.00%であり、上位評価に集中している。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	37	4.027	0.885	21.974%
中国文学科	5	4.000	0.632	15.811%
英米文学科	23	4.304	0.547	12.697%
教育学科	7	4.286	0.452	10.541%
書道学科	5	3.200	1.470	45.928%
歴史文化学科	13	3.385	1.003	29.633%
社会経済学科	78	3.859	0.858	22.239%
現代経済学科	56	3.857	0.789	20.454%
中国語学科	25	3.840	0.784	20.412%
英語学科	45	4.178	0.739	17.690%
日本語学科	7	3.857	0.639	16.563%
法律学科	46	3.957	0.721	18.223%
政治学科	38	4.079	0.839	20.574%
国際関係学科	9	3.889	0.567	14.569%
国際文化学科	9	3.889	0.875	22.497%
経営学科	58	3.793	0.961	25.324%
スポーツ科学科	29	3.862	0.860	22.268%
健康科学科	11	4.364	0.771	17.678%
看護学科	22	4.000	0.739	18.464%
社会学科	26	3.846	0.818	21.260%
全学	549	3.936	0.842	21.378%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	277	3.877	0.887
2	219	4.009	0.788
3	24	3.750	0.878
4	29	4.103	0.661

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q5「自分意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	2.703%	2.703%	13.514%	51.351%	29.730%
中国文学科	0.000%	0.000%	20.000%	60.000%	20.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	4.348%	60.870%	34.783%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	71.429%	28.571%
書道学科	20.000%	20.000%	0.000%	40.000%	20.000%
歴史文化学科	7.692%	15.385%	7.692%	69.231%	0.000%
社会経済学科	1.282%	5.128%	21.795%	50.000%	21.795%
現代経済学科	0.000%	7.143%	17.857%	57.143%	17.857%
中国語学科	0.000%	4.000%	28.000%	48.000%	20.000%
英語学科	0.000%	4.444%	6.667%	55.556%	33.333%
日本語学科	0.000%	0.000%	28.571%	57.143%	14.286%
法律学科	0.000%	6.522%	8.696%	67.391%	17.391%
政治学科	2.632%	2.632%	7.895%	57.895%	28.947%
国際関係学科	0.000%	0.000%	22.222%	66.667%	11.111%
国際文化学科	0.000%	11.111%	11.111%	55.556%	22.222%
経営学科	1.724%	8.621%	22.414%	43.103%	24.138%
スポーツ科学科	0.000%	6.897%	24.138%	44.828%	24.138%
健康科学科	0.000%	0.000%	18.182%	27.273%	54.545%
看護学科	0.000%	0.000%	27.273%	45.455%	27.273%
社会学科	0.000%	7.692%	19.231%	53.846%	19.231%
全学	1.093%	5.282%	16.393%	53.370%	23.862%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.083%	7.581%	16.968%	51.264%	23.105%
2	0.913%	3.196%	15.525%	54.795%	25.571%
3	4.167%	0.000%	29.167%	50.000%	16.667%
4	0.000%	3.448%	6.897%	65.517%	24.138%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強く思う」と「4 どちらかと言えば思う」の回答割合の合計が 89.25%であった。学生は教員の熱意を高く評価していると言える。教員熱意の平均値は 4.44 であった。

英米文学科、教育学科、日本語学科は 1 から 3 が 0.00%、中国文学科、健康科学科、看護学科は 1 と 2 が 0.00%を示し、自然系科目の教員の熱意を非常に高く評価している。

一方で、書道学科は1が20.00%を示し、評価は二極化する。ただし、これらの特徴的な傾向がみられた学科は回答者数も少ないため、この点も留意しておかねばならないだろう。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	37	4.541	0.757	16.667%
中国文学科	5	4.400	0.800	18.182%
英米文学科	24	4.583	0.493	10.757%
教育学科	7	4.714	0.452	9.583%
書道学科	5	3.800	1.470	38.676%
歴史文化学科	13	4.154	0.948	22.831%
社会経済学科	78	4.423	0.760	17.180%
現代経済学科	55	4.418	0.888	20.102%
中国語学科	25	4.360	0.794	18.210%
英語学科	45	4.489	0.719	16.011%
日本語学科	7	4.714	0.452	9.583%
法律学科	46	4.522	0.773	17.093%
政治学科	38	4.474	0.939	20.979%
国際関係学科	9	4.556	0.685	15.035%
国際文化学科	9	4.444	0.685	15.411%
経営学科	58	4.466	0.814	18.229%
スポーツ科学科	29	4.414	0.929	21.050%
健康科学科	11	4.545	0.656	14.422%
看護学科	22	4.500	0.657	14.603%
社会学科	26	4.115	1.050	25.509%
全学	549	4.444	0.818	18.410%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	277	4.430	0.828
2	218	4.468	0.802
3	24	4.500	0.645
4	30	4.367	0.948

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.703%	8.108%	21.622%	67.568%
中国文学科	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	41.667%	58.333%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
書道学科	20.000%	0.000%	0.000%	40.000%	40.000%
歴史文化学科	0.000%	7.692%	15.385%	30.769%	46.154%
社会経済学科	0.000%	2.564%	8.974%	32.051%	56.410%
現代経済学科	1.818%	3.636%	5.455%	29.091%	60.000%
中国語学科	0.000%	4.000%	8.000%	36.000%	52.000%
英語学科	0.000%	2.222%	6.667%	31.111%	60.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
法律学科	0.000%	4.348%	4.348%	26.087%	65.217%
政治学科	2.632%	2.632%	7.895%	18.421%	68.421%
国際関係学科	0.000%	0.000%	11.111%	22.222%	66.667%
国際文化学科	0.000%	0.000%	11.111%	33.333%	55.556%
経営学科	1.724%	0.000%	10.345%	25.862%	62.069%
スポーツ科学科	3.448%	0.000%	10.345%	24.138%	62.069%
健康科学科	0.000%	0.000%	9.091%	27.273%	63.636%
看護学科	0.000%	0.000%	9.091%	31.818%	59.091%
社会学科	7.692%	0.000%	3.846%	50.000%	38.462%
全学	1.275%	2.004%	7.468%	29.508%	59.745%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.805%	1.444%	6.859%	31.769%	58.123%
2	0.917%	1.835%	8.716%	26.606%	61.927%
3	0.000%	0.000%	8.333%	33.333%	58.333%
4	0.000%	10.000%	3.333%	26.667%	60.000%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 80% を超えており (85.22%)、学生が自身の成長感覚を高く評価していると言える。特に、教育学科と国際関係学科は、5 と 4 の合計が 100% で、成長感覚の認識が非常に高い。これに対して、中国語

学科 68.00%・日本語学科 71.43%・歴史文化学科 76.92%・社会学科 76.92%・国際文化学科 77.78%・社会経済学科 79.45%の 6 学科は、全共科目全体の平均値 85.22%を大幅に下回っている。この結果から、学科間の授業認識に関する成長感覚の相違及び格差を確認できる。成長感覚の平均値は 4.24 であった(標準偏差 0.86)。

変動係数からみると、学科間の相違と格差が明確となる。変動係数は、5 と 4 の割合が 100%であった教育学科が 7.20%、国際関係学科が 7.64%を示し、平均値 20.29%と比べて非常に低かった。逆に、5 と 4 の割合合計が最も低い中国語学科(68.00%)の変動係数は 23.42%であった。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	37	4.514	0.642	14.221%
中国文学科	5	4.000	0.894	22.361%
英米文学科	24	4.333	0.553	12.756%
教育学科	7	4.857	0.350	7.204%
書道学科	5	3.400	1.200	35.294%
歴史文化学科	13	3.846	0.948	24.658%
社会経済学科	78	4.192	0.892	21.286%
現代経済学科	56	4.196	0.811	19.328%
中国語学科	25	3.880	0.909	23.418%
英語学科	44	4.386	0.647	14.755%
日本語学科	7	4.000	1.069	26.726%
法律学科	46	4.326	0.782	18.070%
政治学科	38	4.289	0.971	22.633%
国際関係学科	9	4.111	0.314	7.644%
国際文化学科	9	4.222	1.030	24.404%
経営学科	58	4.276	0.805	18.827%
スポーツ科学科	29	4.241	1.005	23.703%
健康科学科	10	4.400	0.800	18.182%
看護学科	22	4.318	0.873	20.220%
社会学科	26	3.962	1.055	26.642%
全学	548	4.237	0.860	20.293%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	276	4.167	0.937
2	218	4.307	0.803
3	24	4.208	0.576
4	30	4.400	0.611

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	8.108%	32.432%	59.459%
中国文学科	0.000%	0.000%	40.000%	20.000%	40.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	4.167%	58.333%	37.500%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	85.714%
書道学科	20.000%	0.000%	0.000%	80.000%	0.000%
歴史文化学科	0.000%	15.385%	7.692%	53.846%	23.077%
社会経済学科	1.282%	2.564%	16.667%	34.615%	44.872%
現代経済学科	1.786%	1.786%	8.929%	50.000%	37.500%
中国語学科	0.000%	8.000%	24.000%	40.000%	28.000%
英語学科	0.000%	0.000%	9.091%	43.182%	47.727%
日本語学科	0.000%	14.286%	14.286%	28.571%	42.857%
法律学科	0.000%	4.348%	6.522%	41.304%	47.826%
政治学科	2.632%	5.263%	5.263%	34.211%	52.632%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	88.889%	11.111%
国際文化学科	0.000%	11.111%	11.111%	22.222%	55.556%
経営学科	1.724%	0.000%	12.069%	41.379%	44.828%
スポーツ科学科	3.448%	3.448%	10.345%	31.034%	51.724%
健康科学科	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%
看護学科	4.545%	0.000%	0.000%	50.000%	45.455%
社会学科	3.846%	7.692%	11.538%	42.308%	34.615%
全学	1.460%	2.920%	10.401%	40.876%	44.343%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.174%	4.348%	10.870%	39.855%	42.754%
2	0.917%	1.835%	10.550%	38.991%	47.706%
3	0.000%	0.000%	8.333%	62.500%	29.167%
4	0.000%	0.000%	6.667%	46.667%	46.667%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

授業内容の認識に関する総合満足の平均値は7.99であった(人文系8.15、社会系7.99、保健体育系9.03)。

満足度の高い10(大いに満足した)から8までの回答割合の合計が7割に近く(68.18%)、

学生は総合的に満足していると言える。満足度の低い1（まったく満足できなかった）から4までの回答割合の合計が3.82%であった。

変動係数から授業認識の総合満足度を判断すると、次のように説明できる。変動係数の平均値(22.81%)を上回っている学科は9学科であった(書道学科45.98%、中国文学科33.76%、国際関係学科32.82%、歴史文化学科32.16%、社会学科27.49%、看護学科25.83%、法律学科25.76%、経営学科23.77%、国際文化学科23.57%)。この結果から総合満足に関する評価は各点に分散していることがわかる。

変動係数の高さが突出している書道学科(45.98%)は、バラツキの大きさが回答分布からわかる。1が20%、2から6および9が0%を示しており評価が分散する。国際関係学科も同様の傾向で、総合満足度は二極化している。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	標準偏差
日本文学科	37	8.514	1.702	19.997%
中国文学科	5	7.400	2.498	33.757%
英米文学科	24	8.250	1.665	20.177%
教育学科	7	9.143	0.833	9.111%
書道学科	5	7.200	3.311	45.980%
歴史文化学科	13	7.231	2.326	32.162%
社会経済学科	78	7.756	1.681	21.671%
現代経済学科	56	8.036	1.603	19.951%
中国語学科	25	7.480	1.418	18.952%
英語学科	45	8.467	1.454	17.179%
日本語学科	7	8.000	1.414	17.678%
法律学科	46	7.739	1.994	25.763%
政治学科	38	8.211	1.794	21.851%
国際関係学科	9	8.222	2.699	32.824%
国際文化学科	9	8.111	1.912	23.568%
経営学科	58	7.845	1.864	23.766%
スポーツ科学科	29	8.000	1.462	18.277%
健康科学科	11	9.182	1.192	12.985%
看護学科	22	7.909	2.043	25.830%
社会学科	26	7.500	2.062	27.487%
全学	550	7.991	1.823	22.808%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	277	7.715	1.872
2	219	8.256	1.805
3	24	8.417	1.351
4	30	8.267	1.365

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	2.703%	2.703%	2.703%	0.000%	10.811%	24.324%	18.919%	37.838%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	0.000%	0.000%	20.000%	0.000%	40.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	4.167%	8.333%	29.167%	12.500%	33.333%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
書道学科	20.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	0.000%	40.000%
歴史文化学科	7.692%	0.000%	0.000%	7.692%	0.000%	7.692%	15.385%	30.769%	23.077%	7.692%
社会経済学科	0.000%	0.000%	1.282%	1.282%	11.538%	8.974%	11.538%	30.769%	17.949%	16.667%
現代経済学科	0.000%	0.000%	1.786%	0.000%	7.143%	7.143%	16.071%	23.214%	25.000%	19.643%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	8.000%	12.000%	40.000%	20.000%	4.000%	16.000%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.667%	4.444%	8.889%	26.667%	22.222%	31.111%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	28.571%	28.571%	0.000%	28.571%
法律学科	2.174%	0.000%	0.000%	6.522%	6.522%	4.348%	19.565%	15.217%	28.261%	17.391%
政治学科	2.632%	0.000%	0.000%	0.000%	7.895%	2.632%	2.632%	34.211%	28.947%	21.053%
国際関係学科	11.111%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	11.111%	44.444%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	22.222%	0.000%	11.111%	11.111%	22.222%	33.333%
経営学科	0.000%	1.724%	1.724%	0.000%	6.897%	10.345%	20.690%	20.690%	10.345%	27.586%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	3.448%	0.000%	0.000%	10.345%	13.793%	31.034%	31.034%	10.345%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	9.091%	0.000%	9.091%	27.273%	54.545%
看護学科	0.000%	0.000%	4.545%	0.000%	9.091%	13.636%	13.636%	13.636%	9.091%	36.364%
社会学科	3.846%	0.000%	0.000%	3.846%	11.538%	0.000%	23.077%	19.231%	26.923%	11.538%
全学	1.091%	0.182%	1.091%	1.455%	7.273%	6.364%	14.364%	24.364%	19.636%	24.182%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1.083%	0.361%	1.444%	1.805%	9.386%	7.942%	16.968%	23.105%	19.134%	18.773%
2	1.370%	0.000%	0.913%	1.370%	5.936%	3.196%	12.329%	23.288%	21.461%	30.137%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.167%	4.167%	12.500%	33.333%	16.667%	29.167%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	16.667%	6.667%	36.667%	13.333%	26.667%

【クロス表に関する結果(自然系)】

自然系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。

また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(1→4→12→122→285)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

次に、教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字:3→4→23→112→119)も互い

に上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（自然系）（学生所属別）】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）【回答数】

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	3	3	0	1	0	7	1
	2 どちらかと言えばそう思わない	0	4	3	3	1	11	4
	3 どちらとも言えない	0	6	23	11	1	41	12
	4 どちらかと言えばそう思う	1	6	32	112	10	161	122
	5 強くそう思う	2	10	31	166	119	328	285
合計		6	29	89	293	131	548	424

表 2

●【全学共通科目（自然系）（学生所属別）】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	42.857%	42.857%	0.000%	14.286%	0.000%	100.000%	14.286%
	2 どちらかと言えばそう思わない	0.000%	36.364%	27.273%	27.273%	9.091%	100.000%	36.364%
	3 どちらとも言えない	0.000%	14.634%	56.098%	26.829%	2.439%	100.000%	29.268%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.621%	3.727%	19.876%	69.565%	6.211%	100.000%	75.776%
	5 強くそう思う	0.610%	3.049%	9.451%	50.610%	36.280%	100.000%	86.890%

【相関係数表に関する結果(自然系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、自然系科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長実感(成長感覚)」との間に強い正の相関関係 0.62 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.56」「学生意欲 0.54」「シラバス通り 0.53」「FB 丁寧 0.49」と続く。これは、「総合満足度」の向上は、「成長感覚を持っているかどうか」が最も強く影響することを示す。

次に、「成長感覚」との相関関係順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.595 がみられた。その後は正の相関関係順に、「シラバス通り 0.55」「FB 丁寧 0.53」「学生意欲 0.52」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか弱く影響することを示している。

「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えているという強い相関関係が示された。自然系科目に対して、学生は「成長感覚」

をやや高く評価している。

●【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラパス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長感覚〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラパス通り〕	1.000						
Q2	〔難易度適切〕	0.013	1.000					
Q4	〔FB丁寧〕	0.443	-0.116	1.000				
Q5	〔自分意欲〕	0.441	-0.081	0.517	1.000			
Q6	〔教員熱意〕	0.517	-0.045	0.486	0.467	1.000		
Q7	〔成長感覚〕	0.552	-0.106	0.526	0.524	0.595	1.000	
Q8	〔総合満足〕	0.534	-0.235	0.492	0.535	0.562	0.615	1.000

【全学共通科目（保健体育系）（学生所属別）】

保健体育系科目の回答率は48.45%と、全共科目全体41.07%よりも高い数値であり、4つの履修科目系の中で最も高い回答率を示している。学科別の回答率を見ると、中国文学科が76.19%で一番高い値である。次いで、健康科学科61.54%・社会学科60.75%・法律学科60.00%・歴史文化学科57.45%・日本文学科56.48%・国際関係学科56.25%・政治学科56.00%・書道学科53.57%・スポーツ科学科51.02%で、50%を超えるのが10学科あった。

日本語学科（28.57%）と経営学科（28.81%）は20%台という低い回答率であった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	61	47	108	56.481%
中国文学科	16	5	21	76.190%
英米文学科	51	65	116	43.966%
教育学科	26	47	73	35.616%
書道学科	15	13	28	53.571%
歴史文化学科	27	20	47	57.447%
社会経済学科	31	28	59	52.542%
現代経済学科	8	9	17	47.059%
中国語学科	8	14	22	36.364%
英語学科	26	36	62	41.935%
日本語学科	6	15	21	28.571%
法律学科	21	14	35	60.000%
政治学科	14	11	25	56.000%
国際関係学科	9	7	16	56.250%
国際文化学科	7	12	19	36.842%
経営学科	34	84	118	28.814%
スポーツ科学科	50	48	98	51.020%
健康科学科	40	25	65	61.538%
看護学科	33	41	74	44.595%
社会学科	65	42	107	60.748%
全学	548	583	1,131	48.453%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	459	407	866	53.002%
2	79	137	216	36.574%
3	4	11	15	26.667%
4	4	16	20	20.000%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

シラバス既知率は82.73%と、全共科目全体（81.20%）よりも高く、書道学科・日本語学科・政治学科・国際文化学科は100%であった。日本語学科と国際文化学科の回答者数は10名以下であることから、この点は留意が必要であろう。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	19.672%	80.328%
中国文学科	6.250%	93.750%
英米文学科	11.765%	88.235%
教育学科	11.538%	88.462%
書道学科	0.000%	100.000%
歴史文化学科	14.815%	85.185%
社会経済学科	25.806%	74.194%
現代経済学科	12.500%	87.500%
中国語学科	33.333%	66.667%
英語学科	23.077%	76.923%
日本語学科	0.000%	100.000%
法律学科	19.048%	80.952%
政治学科	0.000%	100.000%
国際関係学科	33.333%	66.667%
国際文化学科	0.000%	100.000%
経営学科	11.765%	88.235%
スポーツ科学科	21.569%	78.431%
健康科学科	27.500%	72.500%
看護学科	6.061%	93.939%
社会学科	24.615%	75.385%
全学	17.273%	82.727%

学年	1	2
1	18.655%	81.345%
2	8.750%	91.250%
3	0.000%	100.000%
4	50.000%	50.000%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 9 割を超えており(93.66%)、平均値は 4.51 であった。変動係数においても、他の科目履修系に比べて低く学科間の格差も大きくない(平均値 14.68%)。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	52	4.308	0.573	13.303%
中国文学科	16	4.500	0.612	13.608%
英米文学科	48	4.688	0.506	10.805%
教育学科	24	4.417	0.909	20.582%
書道学科	15	4.467	0.499	11.169%
歴史文化学科	24	4.458	0.576	12.916%
社会経済学科	26	4.577	0.567	12.379%
現代経済学科	7	5.000	0.000	0.000%
中国語学科	6	4.333	0.745	17.201%
英語学科	24	4.375	0.633	14.475%
日本語学科	5	4.800	0.400	8.333%
法律学科	19	4.684	0.465	9.923%
政治学科	14	4.857	0.350	7.204%
国際関係学科	8	4.750	0.433	9.116%
国際文化学科	8	4.500	0.707	15.713%
経営学科	30	4.633	0.482	10.401%
スポーツ科学科	45	4.511	0.687	15.231%
健康科学科	33	4.394	0.851	19.360%
看護学科	31	4.548	0.711	15.635%
社会学科	54	4.370	0.800	18.314%
全学	489	4.509	0.662	14.678%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	402	4.505	0.666
2	78	4.500	0.635
3	4	5.000	0.000
4	4	4.500	0.866

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	5.769%	57.692%	36.538%
中国文学科	0.000%	0.000%	6.250%	37.500%	56.250%
英米文学科	0.000%	0.000%	2.083%	27.083%	70.833%
教育学科	0.000%	8.333%	4.167%	25.000%	62.500%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	53.333%	46.667%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	4.167%	45.833%	50.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	3.846%	34.615%	61.538%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	16.667%	33.333%	50.000%
英語学科	0.000%	0.000%	8.333%	45.833%	45.833%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	80.000%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	31.579%	68.421%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	85.714%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	12.500%	25.000%	62.500%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	36.667%	63.333%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	11.111%	26.667%	62.222%
健康科学科	3.030%	0.000%	6.061%	36.364%	54.545%
看護学科	0.000%	3.226%	3.226%	29.032%	64.516%
社会学科	0.000%	3.704%	9.259%	33.333%	53.704%
全学	0.204%	1.022%	5.112%	34.969%	58.691%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.249%	1.244%	4.478%	35.821%	58.209%
2	0.000%	0.000%	7.692%	34.615%	57.692%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	75.000%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5とても難しかった」と「4やや難しかった」の回答割合の合計は16.05%で、最小00.00%（現代経済学科）から最大28.13%（看護学科）の間に分布している（平均値：16.06%）。「1とても易しかった」と「2やや易しかった」の回答割合の合計17.15%は、最小0.00%（中国語学科）から最大37.50%（現代経済学科）の間にあり（平均値17.16%）、「3適切だった」は最小

42.86%(法律学科)から最大 85.19%(歴史文化学科)の間に分布している(平均値 66.79%)。平均値は他の科目系に比べて相対的に低い 2.96%であった。

この分布から、保健体育系科目を履修した学生の 66.8%が授業内容を適切であると認識していることがわかる。一方で、難しいと認識している学生が 16.05%、易しいと捉えている学生が 17.15%で、ほぼ同じ割合でいることわかる。

授業内容の難易度の平均値 2.96 は、他の履修科目系に比べて最も低かった。

変動係数の平均値(28.98%)を上回っているのは 6 学科であった(健康科学科 43.68%・法律学科 39.37%・政治学科 38.80%・社会経済学科 38.30%・中国文学科 32.89%・英米文学科 32.05%)。1 と 2 の合計が高いのは健康科学科 35.00%と法律学科 33.33%であり、保健体育系科目の授業内容を易しいと認識している学生が相対的に多い。

変動係数の平均値(28.98%)を下回っているのは 14 学科であった。その中で、他学科に比べて、授業内容が難しいという認識(4 と 5 の合計)を示しているのは看護学科 28.13%、国際文化学科 25.00%、中国語学科 22.22%、日本語学科 20.00%の 4 学科であった。これに対して、相対的に易しいという認識(1 と 2 の合計)を示しているのは教育学科 26.92%、書道学科 20.00%、日本語学科 20.00%、社会経済学科 19.36%の 4 学科であった。

【全学共通科目(保健体育系)〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	61	3.033	0.652	21.500%
中国文学科	16	2.938	0.966	32.893%
英米文学科	51	2.961	0.949	32.049%
教育学科	26	2.731	0.710	26.009%
書道学科	15	3.000	0.730	24.343%
歴史文化学科	27	3.074	0.378	12.287%
社会経済学科	31	2.871	1.100	38.301%
現代経済学科	8	2.500	0.707	28.284%
中国語学科	9	3.222	0.416	12.902%
英語学科	26	2.962	0.649	21.925%
日本語学科	5	3.000	0.632	21.082%
法律学科	21	2.857	1.125	39.370%
政治学科	14	2.786	1.081	38.802%
国際関係学科	9	2.889	0.737	25.512%
国際文化学科	8	3.000	0.707	23.570%
経営学科	34	3.029	0.618	20.388%
スポーツ科学科	51	3.020	0.874	28.953%
健康科学科	40	2.600	1.136	43.684%
看護学科	32	3.344	0.814	24.353%
社会学科	64	3.016	0.820	27.176%
全学	548	2.960	0.858	28.977%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	459	2.980	0.882
2	80	2.863	0.720
3	4	3.000	0.000
4	4	2.500	0.866

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	4.918%	4.918%	72.131%	18.033%	0.000%
中国文学科	12.500%	6.250%	62.500%	12.500%	6.250%
英米文学科	9.804%	7.843%	68.627%	3.922%	9.804%
教育学科	7.692%	19.231%	65.385%	7.692%	0.000%
書道学科	0.000%	20.000%	66.667%	6.667%	6.667%
歴史文化学科	0.000%	3.704%	85.185%	11.111%	0.000%
社会経済学科	19.355%	0.000%	64.516%	6.452%	9.677%
現代経済学科	12.500%	25.000%	62.500%	0.000%	0.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	77.778%	22.222%	0.000%
英語学科	3.846%	11.538%	69.231%	15.385%	0.000%
日本語学科	0.000%	20.000%	60.000%	20.000%	0.000%
法律学科	14.286%	19.048%	42.857%	14.286%	9.524%
政治学科	21.429%	0.000%	64.286%	7.143%	7.143%
国際関係学科	11.111%	0.000%	77.778%	11.111%	0.000%
国際文化学科	0.000%	25.000%	50.000%	25.000%	0.000%
経営学科	2.941%	5.882%	79.412%	8.824%	2.941%
スポーツ科学科	5.882%	11.765%	64.706%	9.804%	7.843%
健康科学科	25.000%	10.000%	52.500%	5.000%	7.500%
看護学科	3.125%	0.000%	68.750%	15.625%	12.500%
社会学科	4.688%	12.500%	65.625%	10.938%	6.250%
全学	8.212%	8.942%	66.788%	10.766%	5.292%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	8.932%	7.407%	66.013%	11.983%	5.664%
2	3.750%	18.750%	68.750%	5.000%	3.750%
3	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%
4	25.000%	0.000%	75.000%	0.000%	0.000%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全学共通科目全体と似た傾向であったが、現代経済学科、中国語学科、国際文化学科は、質問したことがある学生が0.00%であった。とはいえ、質問したことがある学生が15.44%と、全共科目全体13.2%よりも高い結果となった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	85.246%	14.754%
中国文学科	81.250%	18.750%
英米文学科	94.118%	5.882%
教育学科	76.923%	23.077%
書道学科	80.000%	20.000%
歴史文化学科	84.615%	15.385%
社会経済学科	83.871%	16.129%
現代経済学科	100.000%	0.000%
中国語学科	100.000%	0.000%
英語学科	80.769%	19.231%
日本語学科	80.000%	20.000%
法律学科	80.952%	19.048%
政治学科	78.571%	21.429%
国際関係学科	77.778%	22.222%
国際文化学科	100.000%	0.000%
経営学科	88.235%	11.765%
スポーツ科学科	74.000%	26.000%
健康科学科	90.000%	10.000%
看護学科	71.875%	28.125%
社会学科	90.323%	9.677%
全学	84.559%	15.441%

学年	1	2
1	85.275%	14.725%
2	78.750%	21.250%
3	100.000%	0.000%
4	100.000%	0.000%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5強く思う」と「4どちらかと言えば思う」の回答割合の合計が7割(75.61%)を超えており、学生が教員の対応を概ね評価していると言える。20学科中18学科が1と2が0%で、5に集中する結果となった。ただし、スポーツ科学科は1が7.41%、看護学科は1と2の合計が15.79%を示し、バラツキがみられた。フィードバックの平均値は4.28であった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	13	4.615	0.625	13.540%
中国文学科	8	4.250	0.829	19.510%
英米文学科	14	4.286	0.881	20.548%
教育学科	9	4.778	0.629	13.155%
書道学科	5	4.600	0.800	17.391%
歴史文化学科	7	4.714	0.700	14.845%
社会経済学科	12	4.000	0.913	22.822%
現代経済学科	3	4.000	0.816	20.412%
中国語学科	2	3.500	0.500	14.286%
英語学科	14	4.643	0.610	13.145%
日本語学科	1	5.000	0.000	0.000%
法律学科	10	4.600	0.663	14.420%
政治学科	9	4.222	0.916	21.701%
国際関係学科	5	4.000	0.894	22.361%
国際文化学科	2	4.000	0.000	0.000%
経営学科	15	4.200	0.748	17.817%
スポーツ科学科	27	4.037	1.201	29.756%
健康科学科	14	4.286	0.958	22.361%
看護学科	19	3.895	1.334	34.240%
社会学科	16	4.375	0.781	17.843%
全学	205	4.283	0.951	22.216%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	172	4.262	0.974
2	31	4.355	0.825
3	1	5.000	0.000
4	1	5.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	7.692%	23.077%	69.231%
中国文学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	28.571%	14.286%	57.143%
教育学科	0.000%	0.000%	11.111%	0.000%	88.889%
書道学科	0.000%	0.000%	20.000%	0.000%	80.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	14.286%	0.000%	85.714%
社会経済学科	0.000%	0.000%	41.667%	16.667%	41.667%
現代経済学科	0.000%	0.000%	33.333%	33.333%	33.333%
中国語学科	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%	0.000%
英語学科	0.000%	0.000%	7.143%	21.429%	71.429%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
法律学科	0.000%	0.000%	10.000%	20.000%	70.000%
政治学科	0.000%	0.000%	33.333%	11.111%	55.556%
国際関係学科	0.000%	0.000%	40.000%	20.000%	40.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
経営学科	0.000%	0.000%	20.000%	40.000%	40.000%
スポーツ科学科	7.407%	0.000%	25.926%	14.815%	51.852%
健康科学科	0.000%	0.000%	35.714%	0.000%	64.286%
看護学科	10.526%	5.263%	15.789%	21.053%	47.368%
社会学科	0.000%	0.000%	18.750%	25.000%	56.250%
全学	1.951%	0.488%	21.951%	18.537%	57.073%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.326%	0.581%	22.093%	18.605%	56.395%
2	0.000%	0.000%	22.581%	19.355%	58.065%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が9割(92.18%)を示し、学生が自身の熱意を評価している。平均値は4.50であった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q5「自分意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	61	4.443	0.587	13.222%
中国文学科	16	4.500	0.791	17.568%
英米文学科	51	4.490	0.606	13.502%
教育学科	26	4.654	0.731	15.702%
書道学科	15	4.600	0.490	10.650%
歴史文化学科	27	4.519	0.739	16.352%
社会経済学科	31	4.419	0.872	19.722%
現代経済学科	8	4.500	0.707	15.713%
中国語学科	9	3.889	0.567	14.569%
英語学科	26	4.154	0.769	18.519%
日本語学科	5	5.000	0.000	0.000%
法律学科	21	4.714	0.547	11.605%
政治学科	14	4.429	0.904	20.402%
国際関係学科	9	4.444	0.685	15.411%
国際文化学科	8	4.500	0.500	11.111%
経営学科	34	4.471	0.696	15.569%
スポーツ科学科	51	4.627	0.593	12.810%
健康科学科	40	4.600	0.663	14.420%
看護学科	33	4.424	0.653	14.754%
社会学科	65	4.554	0.556	12.200%
全学	550	4.502	0.674	14.961%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	461	4.510	0.674
2	80	4.450	0.687
3	4	4.750	0.433
4	4	4.250	0.433

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	4.918%	45.902%	49.180%
中国文学科	0.000%	0.000%	18.750%	12.500%	68.750%
英米文学科	0.000%	0.000%	5.882%	39.216%	54.902%
教育学科	0.000%	3.846%	3.846%	15.385%	76.923%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%
歴史文化学科	0.000%	3.704%	3.704%	29.630%	62.963%
社会経済学科	3.226%	0.000%	6.452%	32.258%	58.065%
現代経済学科	0.000%	0.000%	12.500%	25.000%	62.500%
中国語学科	0.000%	0.000%	22.222%	66.667%	11.111%
英語学科	0.000%	0.000%	23.077%	38.462%	38.462%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
法律学科	0.000%	0.000%	4.762%	19.048%	76.190%
政治学科	0.000%	7.143%	7.143%	21.429%	64.286%
国際関係学科	0.000%	0.000%	11.111%	33.333%	55.556%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
経営学科	0.000%	2.941%	2.941%	38.235%	55.882%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	5.882%	25.490%	68.627%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.000%	20.000%	70.000%
看護学科	0.000%	0.000%	9.091%	39.394%	51.515%
社会学科	0.000%	0.000%	3.077%	38.462%	58.462%
全学	0.182%	0.727%	6.909%	33.091%	59.091%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.217%	0.651%	6.941%	32.321%	59.870%
2	0.000%	1.250%	7.500%	36.250%	55.000%
3	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	75.000%	25.000%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 90% を超えており (95.64%)、学生が教員の熱意を高く評価している。全共科目全体 (91.94%) と比べても教員の熱意を高く評価していることがわかる。1 から 3 (日本語学科は 1 から 4) が 0.00% の学科が 6 学科あるのも特徴といえる。平均値は 4.64 であった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	61	4.574	0.527	11.514%
中国文学科	16	4.188	0.808	19.288%
英米文学科	51	4.647	0.478	10.284%
教育学科	26	4.731	0.523	11.058%
書道学科	15	4.733	0.442	9.343%
歴史文化学科	27	4.593	0.562	12.230%
社会経済学科	31	4.774	0.489	10.247%
現代経済学科	8	4.625	0.484	10.468%
中国語学科	9	4.333	0.667	15.385%
英語学科	26	4.615	0.625	13.540%
日本語学科	5	5.000	0.000	0.000%
法律学科	21	4.571	0.904	19.764%
政治学科	14	4.500	0.627	13.929%
国際関係学科	9	4.556	0.685	15.035%
国際文化学科	8	4.375	0.484	11.066%
経営学科	34	4.735	0.441	9.317%
スポーツ科学科	51	4.725	0.563	11.911%
健康科学科	40	4.725	0.547	11.580%
看護学科	33	4.697	0.460	9.784%
社会学科	65	4.600	0.628	13.643%
全学	550	4.636	0.580	12.518%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	461	4.640	0.575
2	80	4.625	0.599
3	4	4.750	0.433
4	4	4.250	0.829

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	1.639%	39.344%	59.016%
中国文学科	0.000%	0.000%	25.000%	31.250%	43.750%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	35.294%	64.706%
教育学科	0.000%	0.000%	3.846%	19.231%	76.923%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	26.667%	73.333%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	3.704%	33.333%	62.963%
社会経済学科	0.000%	0.000%	3.226%	16.129%	80.645%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
中国語学科	0.000%	0.000%	11.111%	44.444%	44.444%
英語学科	0.000%	0.000%	7.692%	23.077%	69.231%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
法律学科	4.762%	0.000%	0.000%	23.810%	71.429%
政治学科	0.000%	0.000%	7.143%	35.714%	57.143%
国際関係学科	0.000%	0.000%	11.111%	22.222%	66.667%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	62.500%	37.500%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	26.471%	73.529%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	5.882%	15.686%	78.431%
健康科学科	0.000%	0.000%	5.000%	17.500%	77.500%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	30.303%	69.697%
社会学科	0.000%	0.000%	7.692%	24.615%	67.692%
全学	0.182%	0.000%	4.182%	27.273%	68.364%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.217%	0.000%	3.688%	27.766%	68.330%
2	0.000%	0.000%	6.250%	25.000%	68.750%
3	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
4	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 80%を超えており(87.77%)、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答割合の合計が 1.83%と、学生は「成長感覚」を高く評価している。すなわち、自身の成長を強く

実感していると言える。「成長感覚」の平均値は4.38であった。

変動係数の結果を見ると、平均値(17.31%)を大きく上回っている学科は現代経済学科32.74%、国際関係学科24.17%、健康科学科22.09%の3学科である。この3学科の回答分布をみると、1と2の合計は、現代経済学科12.5%、国際関係学科11.11%で、健康科学科5.00%で、他学科に比べて「成長感覚」を低く評価している学生の割合が多かった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	61	4.164	0.728	17.492%
中国文学科	16	4.250	0.661	15.563%
英米文学科	50	4.560	0.668	14.652%
教育学科	26	4.231	0.750	17.721%
書道学科	15	4.533	0.618	13.638%
歴史文化学科	27	4.148	0.705	16.988%
社会経済学科	31	4.516	0.713	15.779%
現代経済学科	8	3.875	1.269	32.738%
中国語学科	8	4.625	0.484	10.468%
英語学科	26	4.346	0.731	16.814%
日本語学科	6	4.833	0.373	7.711%
法律学科	21	4.714	0.452	9.583%
政治学科	14	4.357	0.811	18.619%
国際関係学科	9	4.111	0.994	24.174%
国際文化学科	8	4.250	0.661	15.563%
経営学科	34	4.676	0.527	11.268%
スポーツ科学科	50	4.440	0.726	16.341%
健康科学科	40	4.375	0.967	22.094%
看護学科	33	4.576	0.605	13.212%
社会学科	65	4.169	0.796	19.081%
全学	548	4.378	0.758	17.313%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	460	4.350	0.776
2	78	4.474	0.655
3	4	5.000	0.000
4	4	4.750	0.433

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	3.279%	9.836%	54.098%	32.787%
中国文学科	0.000%	0.000%	12.500%	50.000%	37.500%
英米文学科	0.000%	2.000%	4.000%	30.000%	64.000%
教育学科	0.000%	0.000%	19.231%	38.462%	42.308%
書道学科	0.000%	0.000%	6.667%	33.333%	60.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	18.519%	48.148%	33.333%
社会経済学科	0.000%	0.000%	12.903%	22.581%	64.516%
現代経済学科	12.500%	0.000%	12.500%	37.500%	37.500%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
英語学科	0.000%	0.000%	15.385%	34.615%	50.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	16.667%	83.333%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
政治学科	0.000%	0.000%	21.429%	21.429%	57.143%
国際関係学科	0.000%	11.111%	11.111%	33.333%	44.444%
国際文化学科	0.000%	0.000%	12.500%	50.000%	37.500%
経営学科	0.000%	0.000%	2.941%	26.471%	70.588%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	14.000%	28.000%	58.000%
健康科学科	2.500%	2.500%	12.500%	20.000%	62.500%
看護学科	0.000%	0.000%	6.061%	30.303%	63.636%
社会学科	0.000%	4.615%	10.769%	47.692%	36.923%
全学	0.365%	1.460%	10.401%	35.584%	52.190%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.435%	1.739%	10.870%	36.304%	50.652%
2	0.000%	0.000%	8.974%	34.615%	56.410%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

満足度の高い10（「大いに満足した」）から8までの回答割合の合計が87.41%と高く、総合的な満足度が高いと言える。満足度の低い1（「まったく満足できなかった」）から4までの回答割合の合計は僅か0.37%であった。平均値は9.03であった。

変動係数から総合満足度を判断すると、次のように説明できる。変動係数の平均値(14.14%)が全共科目の4分類のなかで最も低い数値を示している。この結果は総合満足度に対する学生の授業評価が上位段階(10~8)に集中していることを示している。

次に、変動係数の平均値14.14%を上回っている学科は8学科であった(書道学科19.26%、国際文化学科18.11%、社会経済学科16.32%、英語学科16.01%、政治学科16.06%、政治学科15.93%、日本文学科15.49%、看護学科15.40%、国際関係学科14.47%)。変動係数の値がその平均値を上回ると、授業認識の分布が平らに歪むが、1から3までの割合はゼロで、4が4.77%(=社会経済学科3.23%+社会学科1.54%)と低かった。どの学科も、全共科目全体と比較しても、保健体育系科目に対する総合満足度が高いことが示された。

【全学共通科目(保健体育系)〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	61	8.738	1.354	15.494%
中国文学科	16	9.000	1.061	11.785%
英米文学科	51	9.196	1.221	13.278%
教育学科	26	9.000	1.271	14.122%
書道学科	15	8.867	1.707	19.258%
歴史文化学科	27	8.889	1.100	12.374%
社会経済学科	31	9.065	1.480	16.324%
現代経済学科	8	8.750	1.199	13.702%
中国語学科	8	8.625	1.218	14.126%
英語学科	26	8.731	1.402	16.060%
日本語学科	6	9.667	0.471	4.877%
法律学科	21	9.333	1.168	12.518%
政治学科	14	9.143	1.457	15.934%
国際関係学科	9	8.889	1.286	14.470%
国際文化学科	7	8.714	1.578	18.107%
経営学科	34	9.412	0.878	9.333%
スポーツ科学科	50	9.220	1.006	10.909%
健康科学科	40	9.200	1.288	14.004%
看護学科	33	8.970	1.381	15.400%
社会学科	65	8.908	1.249	14.025%
全学	548	9.027	1.276	14.138%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	459	8.972	1.324
2	79	9.304	0.946
3	4	9.500	0.500
4	4	9.000	1.225

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.279%	4.918%	11.475%	11.475%	32.787%	36.066%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	18.750%	25.000%	43.750%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.961%	3.922%	3.922%	11.765%	19.608%	58.824%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.692%	3.846%	23.077%	11.538%	53.846%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.667%	13.333%	0.000%	6.667%	13.333%	60.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	11.111%	33.333%	11.111%	44.444%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.226%	0.000%	3.226%	9.677%	9.677%	12.903%	61.290%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	0.000%	12.500%	50.000%	25.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	12.500%	37.500%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	15.385%	3.846%	11.538%	30.769%	38.462%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.762%	9.524%	0.000%	19.048%	66.667%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.143%	0.000%	7.143%	7.143%	14.286%	64.286%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	22.222%	22.222%	0.000%	55.556%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	0.000%	0.000%	0.000%	57.143%	28.571%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	26.471%	5.882%	67.647%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	8.000%	18.000%	18.000%	56.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.000%	0.000%	5.000%	10.000%	20.000%	60.000%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.030%	6.061%	6.061%	12.121%	21.212%	51.515%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.538%	0.000%	3.077%	6.154%	23.077%	23.077%	43.077%
全学	0.000%	0.000%	0.000%	0.365%	1.642%	3.650%	6.934%	15.511%	20.438%	51.460%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.000%	0.000%	0.000%	0.436%	1.961%	4.139%	7.407%	15.904%	19.826%	50.327%
2	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.266%	3.797%	15.190%	22.785%	56.962%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	25.000%	50.000%

【クロス表に関する結果(保健体育系)】

教員熱意と学生熱意とのクロス表(表1：回答数、表2：パーセント)では、それぞれの行で最も高い回答数値を赤字で示している。右端の列(4+5)に、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。右端の列の数字(1→0→8→137→361)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。次に、教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字：0→0→14→105→287)も互いに上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲も強く感じるように

なっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（保健体育系）（学生所属別）】クロス集計（〔自分意欲〕×〔教員熱意〕）〔回答数〕

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったく思わない	2 どちらかと言えば思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えば思う	5 強く思う		
教員熱意	1 まったく思わない	0	0	0	0	1	1
	2 どちらかと言えば思わない	0	0	0	0	0	0
	3 どちらとも言えない	1	0	14	3	5	23
	4 どちらかと言えば思う	0	1	12	105	32	150
	5 強く思う	0	3	12	74	287	376
合計	1	4	38	182	325	550	507

表 2

●【全学共通科目（保健体育系）（学生所属別）】クロス集計（〔自分意欲〕×〔教員熱意〕）〔パーセント〕

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったく思わない	2 どちらかと言えば思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えば思う	5 強く思う		
教員熱意	1 まったく思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	100.000%
	2 どちらかと言えば思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	-
	3 どちらとも言えない	4.348%	0.000%	60.870%	13.043%	21.739%	100.000%
	4 どちらかと言えば思う	0.000%	0.667%	8.000%	70.000%	21.333%	100.000%
	5 強く思う	0.000%	0.798%	3.191%	19.681%	76.330%	100.000%

【相関係数表に関する結果(保健体育系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

「総合満足度」に対しては、「成長実感(成長感覚)」との間に弱い正の相関関係 0.49 がみられ、正の相関関係の順に「学生意欲 0.49」「教員熱意 0.43」「シラバス通り 0.32」「FB 丁寧 0.28」と続く。つまり、「総合満足度」と「成長感覚」が弱い相関関係にあることから、「総合満足度」の向上に「成長感覚」がやや影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.40 がみられた。その後は弱い正の相関関係順に、「学生意欲 0.40」「シラバス通り 0.32」「FB 丁寧 0.29」と続く。ここから、「成長感覚」の向上は教員熱意があるかどうかやや影響していることを確認できる。

「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えているという弱い相関関係が示された。保健体育系の科目を履修している学生は成長感覚に対する認識が低いものと言える。今後の授業改善において参考にすべき傾向である。

●【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長感覚〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.000						
Q2	〔難易度適切〕	-0.021	1.000					
Q4	〔FB丁寧〕	0.294	0.006	1.000				
Q5	〔自分意欲〕	0.396	-0.123	0.416	1.000			
Q6	〔教員熱意〕	0.351	-0.029	0.438	0.476	1.000		
Q7	〔成長感覚〕	0.318	0.010	0.292	0.399	0.403	1.000	
Q8	〔総合満足〕	0.317	-0.130	0.281	0.487	0.430	0.488	1.000

まとめと結論【全学共通科目・4系分類（学生所属別）】

2025年度前期から、全学共通科目を人文系・社会系・自然系・保健体育系に分類し、各系科目に対する授業認識の相違が生じるかどうかの分析を行った。全共科目全体で動向を把握すると、どの質問項目においても上位評価が多くなる。ところが、4分類でみると全共科目全体ではみえてこなかった傾向が示された。学科の状況は、特徴的な結果を示した学科を中心に質問項目毎に本文中で言及したので、そちらを確認して頂きたい。ここでは分類単位で学生の認識を比較し特徴をまとめる。

回答者数（回答率）は人文系1,542人（44.26%）、社会系2,248人（37.67%）、自然系550人（41.67%）、保健体育系548人（48.45%）であった。回答者数は、本学の各分類の科目数の多寡も影響していると思われる。結果は以下の通りである。

1. 「質問に対するフィードバック」「教員の熱意」「学生の成長感覚」は全共科目全体でみると上位評価に集中する傾向にある。この傾向は4分類の科目でもみても同様であった。
2. 4分類に共通して、他の質問項目と異なる動きが示されたのは「難易度」であった。授業の難易度については、「5とても難しかった」と「4やや難しかった」の割合合計が、人文系50.26%、社会系50.53%、自然系46.00%を示し、全共科目全体の5と4の合計46.04%（2024

年度後期41.57%)よりも高い数値であった。つまり、人文系、社会系、自然系の科目の授業内容に対して難しいと受け止めている学生が多いということになる。これは全共科目全体で見ると、2024年度後期と比べても増えている。

これに対して、保健体育系科目は5と4の合計16.06%、1と2の合計17.15%を示し、どちらも低くほぼ同じ割合であった。中位評価が多く、上位と下位評価に二分される結果となった。

人文系、社会系、自然系科目に対して難しいと認識する学生が今後さらに増えるのか、この割合が維持されるのか、保健体育系科目に対する難易度の認識と併せて注視しておく必要があるようだ。2025年度入学生は新学習指導要領で学んだ学生であることから、それがどのように影響してくるのか経年変化をみていく必要があるだろう。

3. 総合満足度は、「概ね満足している(8+9+10)」の割合が相対的に高かったのは、保健体育系87.41%であった。人文系69.65%、自然系68.18%、社会系67.57%であり、20%の差が生じている。留意すべきは、4分類の結果よりも高評価となる全共科目全体の数値(70.44%)をみても、2024年度後期75.70%に比べ、総合満足度が低下している点である。

保健体育系の科目は、難易度だけでなく総合満足度においても他の3分類の科目とは異なる傾向が見られた。

4. 相関係数からは、人文系、社会系、自然系科目において、「成長感覚」と「総合満足度」との間に強い正の相関関係が見られた。学生が成長を実感すればするほど授業に対する満足度も上がるということである。

一方で、保健体育系科目では「成長感覚」と「総合満足度」には弱い正の相関関係が見られたが、他の3分類ほどの強さではなかった。保健体育系科目の「難易度」については、すべての項目間で相関関係がみられないという結果になった。上記2で、保健体育系科目は他の3分類に比べると、難易度が高いとは認識されてはいないという結果に言及したが、相関係数表からもクロス集計からもその理由はわからなかった。

5. 全共科目は履修する学生の所属や学年が全学科にわたるため、科目担当教員は幅広い層の学生に対応せざるを得ず、苦慮されていると思われる。それでもクロス集計から、各系の授業認識において、教員熱意が向上すればするほど学生意欲も上昇するという傾向が見られた。この点は、全共科目全体も4分類の結果も同様の傾向であった。

4分類の各質問項目の回答結果を詳細にみていくと、大きな括りでは良い結果を示しているが、質問によっては極端な数値を示す学科もある。今回だけの傾向なのか、学生の学力差を反映しているのか、データを積み重ねてみる必要があるだろう。

以上

2.2 2025 年度後期・学生による授業認識アンケート

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学 FD 委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

3. アンケート項目

2025年度後期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

- 2) はい（おおよそ）知っています → Q1b に
- 1) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとぼして Q2 に

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
- 2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

- 5) とても難しかった 4) やや難しかった 3) 適切だった
- 2) やや易しかった 1) とても易しかった

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

- 2) はい、あります → Q4 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【成長感覚】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を
10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選
んでください。

- 10) 10 9) 9 8) 8 . . . 3) 3 2) 2 1) 1

【自由記述】

Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み
ます)

Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読みま
す)。

4. 結果

4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 876 科目、対象延べ学生数(各対象科目内の履修者数の合計)は 54,696 人、実際に回答した延べ学生数は 19,419 人であった。2023 年度以降は重回帰分析からクロス集計へと分析方法を変更して、各設問の相関関係を示し、全学的な結果について分析を行った。

ただし、全学共通科目(87 科目)を教員所属別に集計すると、学科によっては該当する教員が 1 人となり個人が特定されることから、2025 年度前期同様に 2025 年度後期も(全学共通科目を含む)全科目を教員所属別に集計した。なお、「データサイエンス A・B」は総合系に分類されるが、総合系の該当科目が 1 科目しかないため、自然系に分類して集計した。

全学共通科目のみを対象とした学生所属別の集計は、昨年度同様に実施している。前期から、人文系・社会系・自然系・保健体育系に分類し、それぞれの系別間において授業認識の相違が生じているかどうかの検証も試みた。

2025 年度後期の分析も前期と同様に、平均値とその標準偏差を用いて算出した「変動係数(変異係数、あるいは変化係数ともいう)」に基づいて、アンケートの各項目における学科別の「格差」の有無について検証を行っている。変動係数は複数の変数間の相対的な格差を示す指標として用いられる。本アンケートでは複数の学科間の相対的な格差を表す。その値が高い程、相対的なバラツキが大きいことを示し、良い傾向とは言えない。なお、変動係数の数値は 100 分率で表している。

変動係数はローデータに基づいて算出しているため、各表の平均と標準偏差を用いて計算する値と異なる場合があるが、学科間の相対的な格差分析に問題は生じない。

なお、表の数値は小数点以下 3 桁までを記載し、本文中では下 2 桁(下 3 桁は四捨五入)で示している。前回の回答結果比較のために、(前期〇〇)と表記している場合は、2025 年度前期を示すものとする。

4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布(学科/部局別)にある回答者数(Q1b は 16,825 人、Q2 は 19,454 人、Q4 は 7,778 人、Q5 は 19,424 人、Q6 は 19,458 人、Q7 は 19,456 人、Q8 は 19,419 人)は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、19,419 人、35.50%(昨年度後期 30.66%、今年度前期 41.66%)であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2025 年度も担当科目のなかから最も履修者数の多い 1 科目を対象としてアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、学生の回答から教員自身が授業方法について見直し、課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが重要だと考えたからである。

2025 年度後期の回答率(35.50%)は 2024 年度後期(30.66%)と比較すると、増加(4.85%)しているが、2025 年度前期(41.66%)に比べて、6.16%減少した。このように、2025 年度後

期の回答率が同年度前期に比べて、大幅に減少した主な原因は、大学生活に慣れてきた1年生が前期に比べて回答意識が低くなったことが考えられる。今後、アンケート期間中に各教員から学生たちに回答するよう、一層強く促してほしい。

学科部局別の回答率とその増減は以下の表の通りである。各学科部局における回答率の増減（＝2025年度後期－2025年度前期）は、国際交流センター(1.92%)と、書道学科(0.45%)、社会学科(0.22%)、国際文化学科(0.21%)は増加したがそれ以外は減少している。回答率が減少している学科の中で、歴史文化学科(-14.68%)、スポーツ科学科(-13.93%)、日本語学科(-12.90%)、中国文学科(-12.46%)、英語学科(-10.54%)、英米文学科(-10.34%)、の6学科は10%以上減少となった。

学科別の回答率と増減

	2025前期	2025後期	増減(%)
国際交流センター	41.73%	43.65%	1.92%
書道学科	48.87%	49.32%	0.45%
社会学科	48.94%	49.16%	0.22%
国際文化学科	43.66%	43.87%	0.21%
現代経済学科	25.37%	24.85%	-0.52%
社会経済学科	26.58%	25.37%	-1.21%
日本文学科	44.33%	42.61%	-1.72%
健康科学科	57.62%	55.23%	-2.39%
看護学科	63.31%	60.15%	-3.16%
国際関係学科	42.52%	37.86%	-4.66%
教育学科	34.46%	29.79%	-4.67%
教職課程センター	46.27%	41.19%	-5.09%
中国語学科	50.78%	44.32%	-6.46%
経営学科	30.69%	22.72%	-7.96%
政治学科	44.78%	35.88%	-8.90%
法律学科	40.27%	30.60%	-9.67%
英米文学科	51.94%	41.60%	-10.34%
英語学科	47.80%	37.25%	-10.54%
中国文学科	49.95%	37.49%	-12.46%
日本語学科	50.23%	37.33%	-12.90%
スポーツ科学科	45.68%	31.75%	-13.93%
歴史文化学科	48.19%	33.51%	-14.68%

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	1,196	1,611	2,807	42.608%
中国文学科	409	682	1,091	37.489%
英米文学科	723	1,015	1,738	41.600%
教育学科	1,145	2,699	3,844	29.787%
書道学科	401	412	813	49.323%
歴史文化学科	563	1,117	1,680	33.512%
社会経済学科	1,086	3,195	4,281	25.368%
現代経済学科	660	1,996	2,656	24.849%
中国語学科	542	681	1,223	44.317%
英語学科	1,645	2,771	4,416	37.251%
日本語学科	374	628	1,002	37.325%
法律学科	1,432	3,248	4,680	30.598%
政治学科	1,015	1,814	2,829	35.878%
国際関係学科	652	1,070	1,722	37.863%
国際文化学科	619	792	1,411	43.870%
経営学科	1,377	4,683	6,060	22.723%
スポーツ科学科	1,229	2,642	3,871	31.749%
健康科学科	1,046	848	1,894	55.227%
看護学科	643	426	1,069	60.150%
社会学科	2,149	2,222	4,371	49.165%
教職課程センター	458	654	1,112	41.187%
国際交流センター	55	71	126	43.651%
全学	19,419	35,277	54,696	35.504%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	9,731	12,031	21,762	44.716%
2	5,533	10,967	16,500	33.533%
3	3,457	9,141	12,598	27.441%
4	684	3,091	3,775	18.119%

本アンケートは、授業に対する学生の認識を問うだけではなく、その結果に対して、教員からのコメント入力も必須となっている。授業改善のためには、学生からの指摘あるいは好評であった部分も含め、無視するわけにはいかない。学生からのアンケート回答率は徐々に上昇し、教員側のコメント入力状況も僅かに上昇が見られたとはいえ、決して良い数値とは言えない。専任と非常勤を合わせた回答率は、51.1%、専任のみ 63.5%、非常勤のみ 44.5%であった。次の表にあるように、学科間の入力率のバラツキが大きく、この点は意識的な改善が求められる（専任の場合、中国語学科 92.3%と、書道学科 44.4%で 47.9%の差が生じている）。

その一方で、非常勤よりも専任のコメント入力率が低い学科が 5 学科あった（日本文学科、中国文学科、教育学科、現代経済学科、国際関係学科）。とはいえ、中国文学科は専任・非常勤とも 7 割を超えているため、全体として高い入力率であった。各学科においても教員に対して入力を強く促すことが必要だと思われる。

2025 年度後期の専任教員アンケートへの反応(コメント入力：63.5%)が 2025 年度前期(68.1%)に比べて低くなっており、学生のアンケートへの回答意欲を低下させかねない。教員のコメント入力率を上げることは、教員自身のアンケートへの意識を高めることでもあり継続課題である。

コメント入力状況

学部名	学科名	入力率	入力率	入力率
		専任、非常勤	専任のみ	非常勤のみ
文学部	日本文学科	59.2%	50.0%	62.9%
	中国文学科	76.2%	75.0%	76.9%
	英米文学科	36.1%	72.7%	28.0%
	教育学科	50.9%	50.0%	51.6%
	書道学科	30.8%	44.4%	23.5%
	歴史文化学科	51.6%	85.7%	41.7%
文学部集計		49.0%	58.9%	44.7%
経済学部	社会経済学科	58.5%	72.2%	47.8%
	現代経済学科	53.6%	50.0%	57.1%
経済学部集計		56.5%	62.5%	51.4%
外国語学部	中国語学科	57.1%	92.3%	44.4%
	英語学科	45.6%	63.2%	41.7%
	日本語学科	53.8%	75.0%	44.4%
外国語学部集計		50.0%	75.0%	42.8%
法学部	法律学科	46.9%	62.5%	41.7%
	政治学科	61.0%	68.8%	56.0%
法学部集計		52.4%	65.6%	46.6%
国際関係学部	国際関係学科	77.8%	69.2%	85.7%
	国際文化学科	63.6%	81.8%	45.5%
国際関係学部集計		71.4%	75.0%	68.0%
経営学部	経営学科	43.8%	60.0%	16.7%
経営学部集計		43.8%	60.0%	16.7%
スポーツ・健康科学部	スポーツ科学科	39.2%	62.5%	18.5%
	健康科学科	42.3%	50.0%	16.7%
	看護学科	45.5%	50.0%	40.0%
スポーツ・健康科学部集計		40.9%	56.0%	21.1%
社会学部	社会学科	62.1%	69.6%	57.1%
社会学部集計		62.1%	69.6%	57.1%
教職課程センター		51.7%	—	51.7%
教職課程センター集計		51.7%	—	51.7%
国際交流センター		33.3%	33.3%	33.3%
国際交流センター集計		33.3%	33.3%	33.3%
全学集計		51.1%	63.5%	44.5%

4.3.1 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では「2 知っている」と回答したのは 80.39% (前期 79.93%) であった。前期よりも僅かに増加している。19.61%の学生がシラバスを承知していないことに留意が必要である。「2 知っている」と回答した比率が最も高かったのは、90.34%の国際文化学科(前期 84.37%)であった。

学年別では、学年が上がるにつれ、1年生を除き、「2 知っている」の比率が 80%を超え、高くなる傾向にある。

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) 回答

(1「いいえ (あまりよく) 知りません」/ 2「はい (おおよそ) 知っています」)

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.126%	82.874%
中国文学科	13.559%	86.441%
英米文学科	18.923%	81.077%
教育学科	20.348%	79.652%
書道学科	14.963%	85.037%
歴史文化学科	19.858%	80.142%
社会経済学科	15.809%	84.191%
現代経済学科	18.306%	81.694%
中国語学科	20.810%	79.190%
英語学科	20.790%	79.210%
日本語学科	23.200%	76.800%
法律学科	25.523%	74.477%
政治学科	17.042%	82.958%
国際関係学科	13.957%	86.043%
国際文化学科	9.662%	90.338%
経営学科	16.014%	83.986%
スポーツ科学科	23.396%	76.604%
健康科学科	30.124%	69.876%
看護学科	12.248%	87.752%
社会学科	21.923%	78.077%
教職課程センター	23.696%	76.304%
国際交流センター	1.786%	98.214%
全学	19.606%	80.394%

学年	1	2
1	22.158%	77.842%
2	17.133%	82.867%
3	17.071%	82.929%
4	16.350%	83.650%

4.3.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。 [シラバス通り]

この設問は Q1a で「2 はい (おおよそ) 知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.39 (前期 4.34) で標準偏差は 0.71 (前期 0.74) であった。この結果は 2025 年度前期と同じ傾向である。

学科で最も平均値が高かったのは国際文化学科で 4.54 (前期は書道学科 4.57) であった。

標準偏差の0.60を加味すると、その値は3.93から5.14の幅に位置する。

学科部局別、学年別、全学の回答分布状況は、「5強くそう思う」、「4どちらかと言えばそう思う」の合計は全学90.54%（前期89.63%）であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

尚、全学の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数からみると、学科間の格差を確認できる。平均16.20%に対し、係数が最も大きかったのは中国語学科18.24%（前期：15.89%）、次いで教育学科18.08%（前期21.39%）、歴史文化学科17.98%（前期：16.05%）、政治学科17.42%（前期：18.01%）、健康科学科17.26%（前期：18.00%）、英語学科17.21%（前期：15.93%）が17%を超えている。変動係数の平均値(16.20%)は2025年度前期(16.28%)よりも僅かながら低くなっているが、学科間のバラツキが広がっている。

Q1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,039	4.468	0.642	14.377%
中国文学科	373	4.469	0.628	14.042%
英米文学科	622	4.495	0.631	14.032%
教育学科	980	4.335	0.784	18.084%
書道学科	355	4.499	0.652	14.486%
歴史文化学科	478	4.266	0.767	17.982%
社会経済学科	966	4.363	0.736	16.871%
現代経済学科	582	4.271	0.714	16.727%
中国語学科	471	4.321	0.788	18.242%
英語学科	1,435	4.390	0.756	17.213%
日本語学科	302	4.474	0.698	15.611%
法律学科	1,164	4.305	0.711	16.520%
政治学科	888	4.315	0.752	17.418%
国際関係学科	591	4.452	0.696	15.637%
国際文化学科	576	4.535	0.603	13.293%
経営学科	1,235	4.399	0.715	16.264%
スポーツ科学科	1,058	4.489	0.682	15.198%
健康科学科	890	4.336	0.748	17.261%
看護学科	588	4.376	0.660	15.077%
社会学科	1,804	4.353	0.650	14.930%
教職課程センター	372	4.336	0.781	18.016%
国際交流センター	56	4.732	0.481	10.175%
全学	16,825	4.387	0.711	16.201%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,312	4.333	0.740	17.080%
2	4,887	4.403	0.694	15.769%
3	3,006	4.485	0.654	14.577%
4	607	4.493	0.628	13.988%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

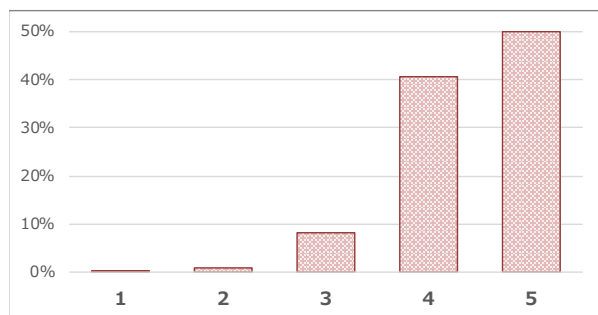
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.289%	0.481%	5.005%	40.616%	53.609%
中国文学科	0.000%	0.536%	5.630%	40.214%	53.619%
英米文学科	0.000%	0.482%	5.949%	37.138%	56.431%
教育学科	1.224%	1.429%	7.959%	41.429%	47.959%
書道学科	0.000%	0.845%	6.197%	35.211%	57.746%
歴史文化学科	0.418%	2.720%	8.996%	45.607%	42.259%
社会経済学科	0.932%	0.828%	7.453%	42.547%	48.240%
現代経済学科	0.000%	1.718%	10.481%	46.735%	41.065%
中国語学科	1.062%	1.699%	8.705%	41.189%	47.346%
英語学科	0.767%	0.697%	9.965%	35.958%	52.613%
日本語学科	0.331%	0.993%	6.954%	34.437%	57.285%
法律学科	0.172%	0.687%	11.598%	43.557%	43.986%
政治学科	0.563%	2.365%	6.982%	45.158%	44.932%
国際関係学科	0.338%	1.015%	6.768%	36.887%	54.992%
国際文化学科	0.000%	0.347%	4.688%	36.111%	58.854%
経営学科	0.567%	0.729%	8.016%	39.595%	51.093%
スポーツ科学科	0.095%	0.473%	8.790%	31.758%	58.885%
健康科学科	0.337%	0.562%	13.146%	37.079%	48.876%
看護学科	0.170%	0.510%	7.483%	45.238%	46.599%
社会学科	0.166%	0.554%	7.040%	48.337%	43.902%
教職課程センター	1.344%	0.806%	8.871%	40.860%	48.118%
国際交流センター	0.000%	0.000%	1.786%	23.214%	75.000%
全学	0.428%	0.897%	8.137%	40.660%	49.878%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.541%	1.047%	9.889%	41.590%	46.932%
2	0.389%	0.880%	7.100%	41.273%	50.358%
3	0.266%	0.532%	5.689%	37.458%	56.055%
4	0.000%	0.824%	4.778%	38.715%	55.684%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	72	0.428%
2	151	0.897%
3	1,369	8.137%
4	6,841	40.660%
5	8,392	49.878%
合計	16,825	

4.3.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、「5 とても難しかった」～「1 とても易しかった」の5段階であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は3.55（前期：3.57）、標準偏差は0.78（前期：0.80）であった。どの学科も「3 適切だった」から「4 やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。

学科部局別と全学の回答分布状況をみると、全学では「3 と4」の合計が84.70%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、「3 適切だった」が5割を超える高い数値を示したのは、高い順に国際交流センター65.46%、歴史文化学科 63.12%、教職課程センター59.13%、日本文学科 57.23%、スポーツ科学科 56.10%、国際文化学科 56.06%、教育学科 55.69%、日本語学科 52.80%、書道学科 51.62%、国際関係学科 51.39%、社会学科 51.35%、英米文学科 50.21%であった。

国際交流センターは、授業を易しいと受け止めている「1 と2」の回答の合計値が比較的高く（7.23%）、授業を難しいと捉えている「5」の回答が他学科に比べて相対的に低かった（3.64%）。

学年別の平均値は、2年生3.46と4年生3.45がほぼ同じ水準であり、他学年より僅かに低くなっている。1年生3.62と3年生3.50は2、4年生より僅かに高い水準にあるので、授業をやや難しいと捉えている。

全学の学年別回答分布を2025年度前期と比較すると、1年生から3年生は「3 適切だった」が上昇している（1年生43.11%：前期43.05%、2年生54.25%：前期47.74%、3年生52.51%：前期49.60%）。一方で、4年生54.96%（前期59.16%）は低下している。これに連動して、「5 とても難しかった」は1年生13.83%（前期14.13%）、2年生8.65%（前期11.28%）、3年生10.46%（前期12.17%）と、前期に比べて1年生で0.3%、2年生で2.63%、3年生で1.71%の低下が見られた。学生の授業難易度に対する認識は2025年度前期に比べて、2025年度後期の授業を易しいと捉えていることが示された。

4年生の場合、「5」が9.48%（前期9.38%）と、2025年度前期よりも0.1%の上昇がみられたが、ほぼ前期並みであった。

変動係数をみると、全学平均 21.84% より高い学科が 7 学科あり、学科間の格差を確認できるものの、格差が強くみられるものではない。しかし、スポーツ科学科 25.03% は相対的に高い値を示し、学力に幅があることがわかる。今後、改善に向けた検討が必要であろう。

Q 2 「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,197	3.461	0.668	19.288%
中国文学科	413	3.571	0.687	19.247%
英米文学科	723	3.447	0.791	22.958%
教育学科	1,151	3.465	0.757	21.861%
書道学科	401	3.494	0.703	20.124%
歴史文化学科	564	3.342	0.662	19.799%
社会経済学科	1,088	3.586	0.818	22.806%
現代経済学科	661	3.867	0.752	19.460%
中国語学科	544	3.608	0.783	21.702%
英語学科	1,648	3.552	0.797	22.444%
日本語学科	375	3.485	0.793	22.745%
法律学科	1,432	3.568	0.772	21.638%
政治学科	1,022	3.531	0.778	22.030%
国際関係学科	650	3.514	0.751	21.366%
国際文化学科	619	3.428	0.736	21.477%
経営学科	1,375	3.658	0.781	21.358%
スポーツ科学科	1,230	3.355	0.840	25.033%
健康科学科	1,049	3.804	0.756	19.876%
看護学科	645	3.853	0.773	20.053%
社会学科	2,152	3.506	0.742	21.158%
教職課程センター	460	3.365	0.732	21.759%
国際交流センター	55	3.236	0.631	19.510%
全学	19,454	3.546	0.775	21.841%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	9,753	3.616	0.802	22.173%
2	5,541	3.464	0.728	21.015%
3	3,460	3.502	0.753	21.495%
4	686	3.453	0.760	22.001%

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

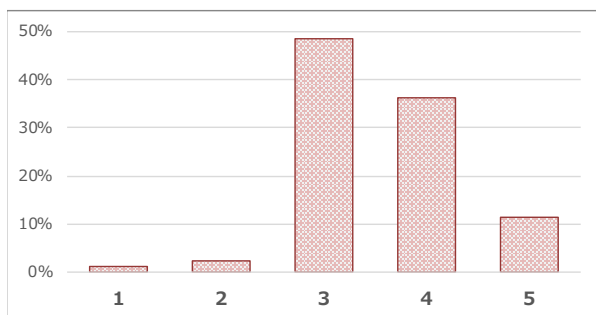
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.251%	1.671%	57.226%	33.417%	7.435%
中国文学科	0.242%	1.695%	47.700%	41.404%	8.959%
英米文学科	1.660%	4.703%	50.207%	34.163%	9.267%
教育学科	1.043%	2.606%	55.691%	30.148%	10.513%
書道学科	0.748%	2.244%	51.621%	37.656%	7.731%
歴史文化学科	0.355%	3.723%	63.121%	26.950%	5.851%
社会経済学科	1.654%	3.033%	43.658%	38.327%	13.327%
現代経済学科	0.303%	1.513%	29.501%	48.563%	20.121%
中国語学科	1.838%	2.022%	40.809%	44.118%	11.213%
英語学科	1.335%	2.852%	47.633%	35.619%	12.561%
日本語学科	1.867%	2.133%	52.800%	32.000%	11.200%
法律学科	1.187%	2.723%	45.461%	39.385%	11.243%
政治学科	1.370%	3.425%	46.184%	38.748%	10.274%
国際関係学科	0.923%	2.462%	51.385%	34.769%	10.462%
国際文化学科	1.454%	2.423%	56.058%	31.987%	8.078%
経営学科	0.800%	2.255%	41.891%	40.436%	14.618%
スポーツ科学科	3.821%	3.089%	56.098%	27.724%	9.268%
健康科学科	0.191%	1.144%	35.748%	43.947%	18.970%
看護学科	0.155%	0.620%	35.504%	41.240%	22.481%
社会学科	0.790%	2.788%	51.348%	35.223%	9.851%
教職課程センター	1.739%	3.043%	59.130%	29.130%	6.957%
国際交流センター	0.000%	7.273%	65.455%	23.636%	3.636%
全学	1.151%	2.560%	48.376%	36.322%	11.591%

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.292%	2.615%	43.105%	39.157%	13.832%
2	0.938%	2.599%	54.250%	33.568%	8.645%
3	1.012%	2.341%	52.514%	33.671%	10.462%
4	1.603%	2.187%	54.956%	31.778%	9.475%

Q 2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易しかった」/ 2「やや易しかった」/ 3「適切だった」/ 4「やや難しかった」/ 5「とても難しかった」)



回答	回答者数	割合
1	224	1.151%
2	498	2.560%
3	9,411	48.376%
4	7,066	36.322%
5	2,255	11.591%
合計	19,454	

4.3.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で「2 はい、あります」と回答したのは17.74%（前期17.16%）と低い比率であるが、2025年度前期より0.58%とやや上昇する結果となった。

2025年度前期において、「1 いいえ、したことはありません」と回答したのは全学で82.84%と高い比率を示していた。2025年度の後期82.26%は前期に比べて、僅かながら減少した値であり、依然として授業における学生の消極的な様子がみとれる。

「2 はい、あります」については、9学科が全学平均値(17.74%)未満であり、看護学科の9.91%は他学科に比べても相対的に低かった。

「2 はい、あります」と回答した学生を学年別の比率でも、全学で1年生17.45%、2年生15.98%、3年生20.16%、4年生22.81%となり、2年生は平均値を下回っているが、3年生と4年生は20%を超え、他学年よりも積極性が見られる結果となった。

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	86.391%	13.609%
中国文学科	81.373%	18.627%
英米文学科	74.685%	25.315%
教育学科	82.040%	17.960%
書道学科	67.669%	32.331%
歴史文化学科	88.087%	11.913%
社会経済学科	87.915%	12.085%
現代経済学科	87.883%	12.117%
中国語学科	68.460%	31.540%
英語学科	71.875%	28.125%
日本語学科	75.676%	24.324%
法律学科	87.323%	12.677%
政治学科	82.097%	17.903%
国際関係学科	74.299%	25.701%
国際文化学科	79.608%	20.392%
経営学科	82.409%	17.591%
スポーツ科学科	81.856%	18.144%
健康科学科	84.393%	15.607%
看護学科	90.094%	9.906%
社会学科	89.313%	10.687%
教職課程センター	83.878%	16.122%
国際交流センター	44.444%	55.556%
全学	82.264%	17.736%

学年	1	2
1	82.547%	17.453%
2	84.020%	15.980%
3	79.837%	20.163%
4	77.193%	22.807%

4.3.5 【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.13（前期は4.10）、標準偏差は0.96（前期は0.97）となり、2025年度前期に比べて僅かながら上昇している。とはいえ、「4どちらかといえばそう思う」と「5強くそう思う」の間にあることから、対応は迅速であったと認識されていると言える。

学科部局別回答分布の全学をみると、「4と5」の合計は71.73%と7割を超えているが、2025年度前期の「4と5」の合計71.28%と比較すると、僅か増加(0.45%)している。

2025年度前期は、「1まったくそう思わない」2.18%と「2どちらかといえばそう思わない」1.65%の合計が3.83%であった。2025年度後期の「1と2」の合計は3.24%で、減少(-0.59%)しており、この結果から質問に対する教員対応が必要であると言える。

学科別では 2025 年度の前期と同様、書道学科(平均 4.48、標準偏差 0.76) が最も高かった(前期：平均 4.55、標準偏差 0.75)。部局では国際交流センターが平均 4.62、標準偏差 0.65 であった(前期：平均 4.60、標準偏差 0.68)。

学年別では、全学の平均は 1 年生 4.04 (標準偏差 0.99)、2 年生 4.15(標準偏差 0.91)、3 年生 4.32(標準偏差 0.88)、4 年生 4.34 (標準偏差 0.95) を示し、学年が上がるに連れて増加している。4 年生の数値は他学年に比べて相対的に高い。

変動係数の平均値は 23.18%であった。6 学科がこの平均値を超え、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。これはバラツキが大きく生じていることから、良い傾向とは言えない。最も高いのは看護学科で 28.41%であり、最も低い書道学科 16.86%と、11.55%の格差が生じており、学科間の大きな格差が確認された。

学科部局別回答分布の「5 強くそう思う」の評価は、2025 年度前期に比べ、6 学科・1 部局以外(日本文学科、歴史文化学科、現代経済学科、中国語学科、健康科学科、看護学科、教職課程センター)は上昇している。

Q 4 「フィードバック」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	337	4.205	0.900	21.401%
中国文学科	142	4.324	0.860	19.896%
英米文学科	342	4.249	0.914	21.520%
教育学科	459	4.096	0.992	24.222%
書道学科	199	4.482	0.756	16.862%
歴史文化学科	166	4.072	0.916	22.481%
社会経済学科	397	3.897	1.058	27.163%
現代経済学科	248	3.903	0.888	22.757%
中国語学科	269	4.234	0.905	21.370%
英語学科	852	4.227	0.982	23.230%
日本語学科	147	4.463	0.859	19.256%
法律学科	471	3.977	0.991	24.925%
政治学科	391	4.136	0.943	22.806%
国際関係学科	315	4.302	0.943	21.931%
国際文化学科	281	4.224	0.850	20.115%
経営学科	623	4.019	0.924	22.986%
スポーツ科学科	525	4.139	0.994	24.018%
健康科学科	467	4.092	0.931	22.759%
看護学科	249	3.880	1.102	28.406%
社会学科	697	4.082	0.925	22.661%
教職課程センター	159	4.082	0.951	23.310%
国際交流センター	42	4.619	0.653	14.135%
全学	7,778	4.129	0.957	23.182%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	4,106	4.041	0.992	24.538%
2	2,072	4.154	0.911	21.933%
3	1,331	4.320	0.880	20.379%
4	261	4.341	0.952	21.935%

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

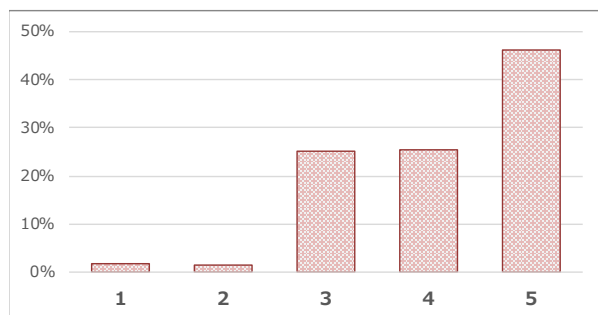
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.593%	0.593%	27.003%	21.365%	50.445%
中国文学科	0.704%	0.704%	19.718%	23.239%	55.634%
英米文学科	1.462%	0.292%	22.807%	22.807%	52.632%
教育学科	2.614%	1.961%	23.312%	27.451%	44.662%
書道学科	0.000%	0.000%	16.080%	19.598%	64.322%
歴史文化学科	0.602%	1.205%	31.325%	24.096%	42.771%
社会経済学科	4.030%	2.015%	31.486%	25.189%	37.280%
現代経済学科	1.210%	0.806%	35.081%	32.258%	30.645%
中国語学科	1.115%	1.859%	19.703%	27.138%	50.186%
英語学科	2.700%	1.408%	19.014%	24.296%	52.582%
日本語学科	2.041%	0.680%	10.204%	23.129%	63.946%
法律学科	2.335%	1.486%	31.847%	24.841%	39.490%
政治学科	1.790%	1.023%	24.808%	26.598%	45.780%
国際関係学科	1.905%	1.905%	16.825%	22.857%	56.508%
国際文化学科	1.068%	1.068%	17.794%	34.520%	45.552%
経営学科	1.124%	1.605%	30.177%	28.411%	38.684%
スポーツ科学科	2.095%	2.095%	24.571%	22.286%	48.952%
健康科学科	0.642%	1.713%	30.193%	22.698%	44.754%
看護学科	5.221%	1.606%	31.325%	23.695%	38.153%
社会学科	1.291%	1.865%	25.681%	29.699%	41.463%
教職課程センター	1.258%	1.258%	30.189%	22.642%	44.654%
国際交流センター	0.000%	0.000%	9.524%	19.048%	71.429%
全学	1.813%	1.427%	25.032%	25.482%	46.246%

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.314%	1.875%	27.691%	25.645%	42.474%
2	1.110%	0.772%	26.014%	25.820%	46.284%
3	1.277%	0.977%	17.280%	25.394%	55.071%
4	2.299%	1.533%	15.709%	20.690%	59.770%

Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも思えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	141	1.813%
2	111	1.427%
3	1,947	25.032%
4	1,982	25.482%
5	3,597	46.246%
合計	7,778	

4.3.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[学生意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.12 (前期: 4.08)、標準偏差 0.79 (前期: 0.81) であり、前期に比べてやや高い数値であった。学科別では前期と同様、書道学科 4.41 (標準偏差 0.71) が最も高かった (前期: 平均値 4.44、標準偏差 0.71)。学科による平均値の幅 (最大値 4.41: 書道学科-最小値 3.97: 社会学科) は 0.44 で小さくはない。部局の平均値では、国際交流センターが 4.59 (標準偏差 0.53) と高かった (前期: 国際交流センター平均 4.45、標準偏差 0.65)。

学科部局別の回答分布をみても、「4 どちらかと言えばそう思う」49.61%、「5 強くそう思う」33.08%と、4 と 5 の合計 82.69%と 8 割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、全学年で 4.0 以上であり、3 年生 4.18 (標準偏差 0.75) が最も高い数値を表している。

変動係数から授業参加への意欲や熱意に対する学生自身の認識をみると、平均 19.18%に対し、書道学科 16.14%、スポーツ科学科 16.46%、国際文化学科 16.87%、中国文学科 16.93% と低い値を示し、バラツキも他の学科に比べて相対的に小さい。

一方で、平均を超えバラツキの大きさを示したのは、社会学科 20.20%、社会経済学科 20.20%、経営学科 20.01%、法律学科 19.92%、健康科学科 19.70%、日本語学科 19.67%、英語学科 19.65%、歴史文化学科 19.54% の 8 学科があった。なお、社会学科 20.20%に対して、国際交流センター11.48%とのバラツキ格差が 8.72%も生じている。

Q 5 「学生意欲」の学科/部局別（左） および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,198	4.134	0.773	18.691%
中国文学科	412	4.189	0.709	16.929%
英米文学科	722	4.208	0.762	18.101%
教育学科	1,149	4.143	0.791	19.089%
書道学科	400	4.410	0.712	16.144%
歴史文化学科	558	3.968	0.775	19.540%
社会経済学科	1,083	3.982	0.804	20.197%
現代経済学科	661	4.006	0.748	18.675%
中国語学科	544	4.103	0.779	18.990%
英語学科	1,643	4.168	0.819	19.646%
日本語学科	375	4.112	0.809	19.669%
法律学科	1,432	4.009	0.798	19.916%
政治学科	1,017	4.097	0.752	18.357%
国際関係学科	649	4.243	0.765	18.021%
国際文化学科	619	4.250	0.717	16.868%
経営学科	1,375	4.073	0.815	20.005%
スポーツ科学科	1,231	4.360	0.717	16.455%
健康科学科	1,047	4.131	0.814	19.696%
看護学科	643	4.129	0.779	18.868%
社会学科	2,150	3.966	0.801	20.199%
教職課程センター	460	4.167	0.802	19.252%
国際交流センター	56	4.589	0.527	11.484%
全学	19,424	4.117	0.790	19.183%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	9,745	4.089	0.813	19.894%
2	5,527	4.127	0.770	18.660%
3	3,454	4.184	0.752	17.969%
4	684	4.117	0.777	18.866%

Q 5「学生意欲」に対する学科/部局別回答分布

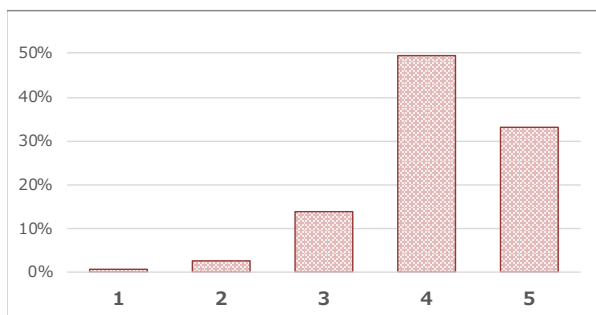
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.668%	2.838%	11.519%	52.337%	32.638%
中国文学科	0.243%	1.699%	10.922%	53.155%	33.981%
英米文学科	0.277%	2.632%	11.219%	47.784%	38.089%
教育学科	0.783%	2.698%	12.359%	49.782%	34.378%
書道学科	0.500%	1.250%	6.500%	40.250%	51.500%
歴史文化学科	0.358%	4.659%	15.591%	56.631%	22.760%
社会経済学科	1.200%	2.585%	18.283%	52.632%	25.300%
現代経済学科	0.000%	3.631%	16.793%	54.917%	24.660%
中国語学科	0.551%	2.757%	14.154%	50.919%	31.618%
英語学科	0.913%	2.739%	12.842%	45.648%	37.858%
日本語学科	1.067%	2.667%	13.333%	49.867%	33.067%
法律学科	1.117%	2.793%	16.341%	53.561%	26.187%
政治学科	0.295%	2.852%	13.569%	53.392%	29.892%
国際関係学科	0.154%	2.311%	12.173%	43.760%	41.602%
国際文化学科	0.323%	1.616%	9.532%	49.758%	38.772%
経営学科	0.945%	2.909%	15.418%	49.382%	31.345%
スポーツ科学科	0.162%	1.056%	10.073%	40.049%	48.660%
健康科学科	0.382%	2.292%	18.243%	42.025%	37.058%
看護学科	0.622%	2.022%	14.930%	48.678%	33.748%
社会学科	0.837%	4.279%	16.000%	55.256%	23.628%
教職課程センター	0.870%	2.174%	13.478%	46.304%	37.174%
国際交流センター	0.000%	0.000%	1.786%	37.500%	60.714%
全学	0.649%	2.729%	13.931%	49.609%	33.083%

Q 5「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.718%	3.202%	15.126%	48.404%	32.550%
2	0.597%	2.461%	13.154%	51.257%	32.531%
3	0.579%	1.824%	11.812%	50.203%	35.582%
4	0.439%	2.778%	14.035%	50.146%	32.602%

Q5 「学生意欲」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	126	0.649%
2	530	2.729%
3	2,706	13.931%
4	9,636	49.609%
5	6,426	33.083%
合計	19,424	

4.3.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学の平均 4.53 (標準偏差 0.68) は、前期の平均 4.49 (標準偏差 0.73) に比べてわずかに増加しているが、ほぼ前期並みと言える。この平均値は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の中間点である。学科部局別回答分布の全学平均値をみても、「5」が 61.83%、「4」が 31.46%であった。「4 と 5」の合計が 93.29%という高い数値を示しており、満足してよい結果であると言える。学科部局別の回答分布においても、全学科が 90%以上の高い値を示していた。

学科別の平均をみると、前期に続き、書道学科が 4.70 (標準偏差 0.53) と最も高かった (前期：平均 4.69、標準偏差 0.63)。部局では国際交流センターの平均が 4.84 (標準偏差 0.41) と高かった (前期：平均 4.86、標準偏差 0.43)。

学年別の平均は 4.49 以上の高い数値を示しており、3 年生の数値が最も高い (全学 4.62)。

変動係数からみると、学科間の格差は生じているものの、各質問項目のなかでは最も低い値である。とはいえ、全学平均 14.94%に対し、社会経済学科 17.74%、中国語学科 17.44%、経営学科 16.82%、英語学科 16.21%、看護学科 15.89%、現代経済学科 15.76%、教育学科 14.97%と平均を超えており、学科間の格差が確認された。

Q 6 「教員熱意」の学科/部局別（左） および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,198	4.645	0.579	12.474%
中国文学科	414	4.623	0.576	12.453%
英米文学科	723	4.617	0.619	13.404%
教育学科	1,151	4.563	0.683	14.972%
書道学科	400	4.703	0.528	11.232%
歴史文化学科	564	4.470	0.703	15.721%
社会経済学科	1,085	4.393	0.779	17.739%
現代経済学科	662	4.363	0.688	15.762%
中国語学科	544	4.438	0.774	17.442%
英語学科	1,646	4.528	0.734	16.205%
日本語学科	375	4.621	0.650	14.056%
法律学科	1,433	4.506	0.665	14.764%
政治学科	1,021	4.534	0.662	14.612%
国際関係学科	652	4.638	0.615	13.259%
国際文化学科	618	4.662	0.578	12.394%
経営学科	1,379	4.421	0.743	16.816%
スポーツ科学科	1,231	4.606	0.667	14.484%
健康科学科	1,048	4.563	0.660	14.454%
看護学科	646	4.433	0.705	15.891%
社会学科	2,152	4.515	0.633	14.030%
教職課程センター	460	4.589	0.665	14.488%
国際交流センター	56	4.839	0.413	8.535%
全学	19,458	4.534	0.677	14.939%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	9,759	4.493	0.701	15.606%
2	5,538	4.546	0.675	14.839%
3	3,462	4.616	0.613	13.283%
4	685	4.613	0.607	13.161%

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

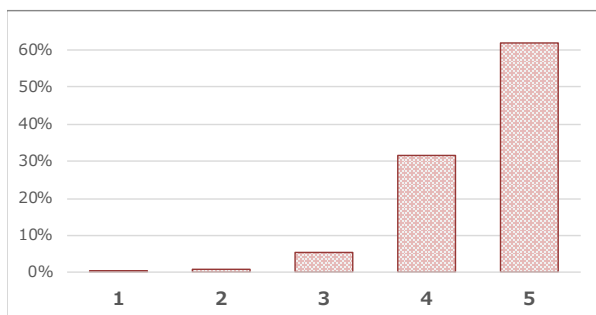
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.250%	0.334%	2.838%	27.796%	68.781%
中国文学科	0.000%	0.242%	4.106%	28.744%	66.908%
英米文学科	0.138%	0.692%	4.426%	26.833%	67.911%
教育学科	0.695%	0.869%	4.257%	29.800%	64.379%
書道学科	0.000%	0.250%	2.750%	23.500%	73.500%
歴史文化学科	0.355%	1.064%	6.915%	34.574%	57.092%
社会経済学科	1.290%	1.106%	7.373%	37.512%	52.719%
現代経済学科	0.000%	1.208%	8.459%	43.202%	47.130%
中国語学科	1.103%	1.838%	5.515%	35.294%	56.250%
英語学科	0.608%	1.823%	5.346%	28.615%	63.609%
日本語学科	0.800%	0.267%	3.733%	26.400%	68.800%
法律学科	0.209%	0.768%	6.071%	34.124%	58.828%
政治学科	0.490%	0.490%	5.093%	33.007%	60.921%
国際関係学科	0.153%	0.460%	5.061%	24.080%	70.245%
国際文化学科	0.000%	0.485%	4.045%	24.272%	71.197%
経営学科	0.580%	1.668%	6.962%	36.693%	54.097%
スポーツ科学科	0.406%	0.406%	6.661%	23.233%	69.293%
健康科学科	0.191%	0.382%	7.156%	27.481%	64.790%
看護学科	0.155%	1.548%	6.966%	37.461%	53.870%
社会学科	0.093%	0.929%	4.229%	36.896%	57.853%
教職課程センター	0.652%	0.870%	3.478%	28.913%	66.087%
国際交流センター	0.000%	0.000%	1.786%	12.500%	85.714%
全学	0.396%	0.905%	5.412%	31.463%	61.825%

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.410%	1.168%	6.117%	33.344%	58.961%
2	0.469%	0.740%	5.327%	30.607%	62.857%
3	0.289%	0.433%	3.928%	28.134%	67.215%
4	0.146%	0.730%	3.504%	28.905%	66.715%

Q6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	77	0.396%
2	176	0.905%
3	1,053	5.412%
4	6,122	31.463%
5	12,030	61.825%
合計	19,458	

4.3.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

この設問に対する全学の平均は 4.33 (標準偏差 0.75) であり、前期 (平均 4.26、標準偏差 0.81) に比べて僅かに増加しており、全体としてはまずまずの結果と言える。学科別の平均は前期と同じく、書道学科が 4.57 (標準偏差 0.64) と最も高く (前期: 平均 4.55、標準偏差 0.68)、部局では国際交流センターが平均 4.77 (標準偏差 0.46) であった (前期: 国際交流センター平均 4.62、標準偏差 0.67)。

学科部局別および全学の回答分布をみると、「4 どちらかと言えばそう思う」43.09%、「5 強くそう思う」46.30%である。両方の合計 89.39%は、前期 (86.75%) に比べると増加しており、成長感覚が増加 (2.64%) していると言える。ちなみに、「4」よりも「5」の割合が高かった学科は、高い順に書道学科 63.84%、国際関係学科 55.69%、スポーツ科学科 55.65%、国際文化学科 55.25%、健康科学科 51.29%、英米文学科 50.69%、日本文学科 51.42%、英語学科 48.51%、中国語学科 48.35%、教育学科 48.48%、日本語学科 47.73%、中国文学科 47.83%、政治学科 46.33%の 13 学科であった。なかでも、書道学科は 6 割を超えており、技術の習得が成長感覚をもたらしていると考えられる。部局では、教職課程センターも国際交流センターも 5 の割合が高く、教職課程センター52.39%、国際交流センター78.57%であった。

学年別の回答分布を見ると、「5 強くそう思う」の割合が最も高いのは 3 年生 53.09%、次いで 4 年生 52.85%で 5 割を超える数値であった。

成長感覚を変動係数からみると、次の 8 学科が全学平均の 17.25%を超えていた。社会経済学科 19.57%、看護学科 18.79%、中国語学科 18.64%、英語学科 18.52%、経営学科 18.40%、現代経済学科 17.69%、社会学科 17.56%、教育学科 17.54%であり、他学科に比べて相対的にバラツキが大きかった。書道学科の変動係数は 14.07%と、バラツキが他学科に比べて最も小さかった。

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,198	4.432	0.666	15.035%
中国文学科	414	4.396	0.650	14.791%
英米文学科	724	4.392	0.717	16.333%
教育学科	1,151	4.351	0.763	17.538%
書道学科	401	4.574	0.644	14.071%
歴史文化学科	564	4.284	0.725	16.929%
社会経済学科	1,086	4.159	0.814	19.569%
現代経済学科	661	4.195	0.742	17.685%
中国語学科	544	4.329	0.807	18.637%
英語学科	1,647	4.322	0.801	18.523%
日本語学科	375	4.349	0.747	17.174%
法律学科	1,431	4.315	0.703	16.287%
政治学科	1,021	4.352	0.709	16.285%
国際関係学科	650	4.449	0.703	15.790%
国際文化学科	619	4.467	0.670	15.005%
経営学科	1,378	4.258	0.784	18.400%
スポーツ科学科	1,231	4.447	0.714	16.066%
健康科学科	1,047	4.378	0.741	16.915%
看護学科	646	4.228	0.794	18.788%
社会学科	2,152	4.205	0.738	17.557%
教職課程センター	460	4.383	0.795	18.138%
国際交流センター	56	4.768	0.463	9.702%
全学	19,456	4.329	0.747	17.252%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	9,758	4.270	0.774	18.130%
2	5,541	4.345	0.738	16.991%
3	3,458	4.444	0.678	15.257%
4	685	4.460	0.651	14.593%

Q7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

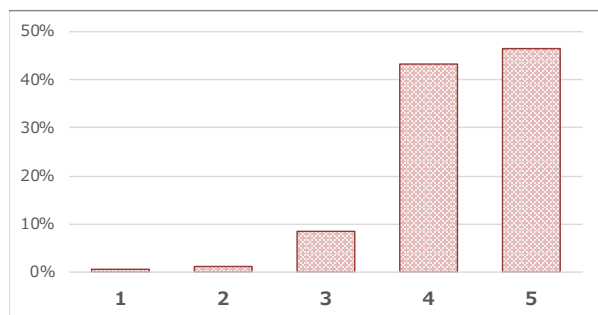
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.250%	1.002%	5.426%	41.903%	51.419%
中国文学科	0.242%	0.242%	7.005%	44.686%	47.826%
英米文学科	0.276%	1.519%	7.597%	39.917%	50.691%
教育学科	0.956%	1.477%	7.559%	41.529%	48.480%
書道学科	0.499%	0.499%	3.990%	31.172%	63.840%
歴史文化学科	0.709%	0.709%	9.752%	47.163%	41.667%
社会経済学科	1.381%	2.210%	11.510%	48.895%	36.004%
現代経済学科	0.454%	2.118%	10.590%	51.135%	35.703%
中国語学科	1.471%	1.654%	7.721%	40.809%	48.346%
英語学科	1.032%	1.761%	9.654%	39.041%	48.512%
日本語学科	1.067%	0.533%	8.533%	42.133%	47.733%
法律学科	0.419%	1.048%	8.246%	47.170%	43.117%
政治学科	0.588%	0.784%	7.835%	44.466%	46.327%
国際関係学科	0.308%	0.615%	8.615%	34.769%	55.692%
国際文化学科	0.162%	0.969%	6.139%	37.480%	55.250%
経営学科	1.089%	1.524%	10.015%	45.210%	42.163%
スポーツ科学科	0.325%	1.219%	7.555%	35.256%	55.646%
健康科学科	0.287%	1.337%	9.933%	37.154%	51.289%
看護学科	1.084%	1.858%	10.681%	45.975%	40.402%
社会学科	0.651%	2.045%	9.061%	52.602%	35.641%
教職課程センター	1.304%	1.739%	6.739%	37.826%	52.391%
国際交流センター	0.000%	0.000%	1.786%	19.643%	78.571%
全学	0.689%	1.398%	8.522%	43.092%	46.299%

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.820%	1.804%	9.777%	44.712%	42.888%
2	0.704%	1.101%	8.428%	42.555%	47.212%
3	0.347%	0.868%	5.957%	39.734%	53.094%
4	0.438%	0.584%	4.380%	41.752%	52.847%

Q7 「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	134	0.689%
2	272	1.398%
3	1,658	8.522%
4	8,384	43.092%
5	9,008	46.299%
合計	19,456	

4.3.9 【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]

包括的な設問（総合満足）であるQ8の結果をみると、全学の平均は8.32（標準偏差1.68）であり、10の評価段階内の「8」を超えているので「合格点」と言えるのではないだろうか。その平均値が2025年度前期（平均8.12、標準偏差1.82）に比べて上がっており、「総合満足」がやや増加している(0.2%)。2024年度後期の水準(平均8.35)まで回復したことになり、評価できる。

学科別の平均では、その値が最も高かった学科は、前期（平均8.91、標準偏差1.39）と同じく、書道学科（平均8.95、標準偏差1.28）であった。部局の平均は国際交流センターが高く、9.33（標準偏差0.88）であった（前期：平均9.07、標準偏差1.11）。

学科部局別および全学の回答分布をみると、8が22.94%（前期23.06%）、9が20.35%（前期19.28%）、10が30.99%（前期28.10%）である。8から10の合計は74.27%（2025年度前期70.44%）となり、全体の7割以上を占めている。前期の結果と比較すると3.83%の増加がみられ、「総合満足」は増加している。なお、回答分布の最頻値が「10」で表れており、全体としてはますますの結果と考えることができるだろう。

学科別では、10が全学平均値の30.99%を超えるのは、書道学科47.88%、スポーツ科学科42.07%、国際関係学科36.81%、国際文化学科36.19%、日本語学科35.83%、中国文学科35.45%、英語学科34.95%、英米文学科34.44%、健康科学科34.23%、日本文学科33.11%の10学科であった。8から10の合計が80%を超えている学科は、書道学科87.03%、国際文化学科84.98%、スポーツ科学科81.86%、日本語学科81.28%の4学科であり、概して満足度が高い。

部局では、10の割合は教職課程センター31.88%、国際交流センター58.18%を示し、全学の平均値（30.99%）を上回っている。8から10の合計は教職課程センター72.05%、国際交流センター98.18%であった。

学年別では4年生が10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。ただし、1と2の数

値については注意が必要であろう。「1」の割合を学年別にみると、4年生は「1と2」が同じであるが、1、2、3年生は「2」より「1」のほうが高い。つまり、満足度が非常に低い層が一定数いることになる。さらに、「1と2」の分布割合の合計値をみると、学年が上がるに連れて低くなる傾向が伺える。これは学年ごとに総合満足度に対する認識の違いが存在するということが留意が必要である。

変動係数から総合満足を読み替えてみると、2025年度前期と同様にQ2とQ4を除けば、他の質問項目に比べて相対的に高い数値を示しており（つまり、バラツキが大きい）、良い傾向とは言えない。変動係数の変動幅 9.93%（=最大値：看護学科 24.22—最小値：書道学科 14.29）も、質問項目のなかでは最も大きい値を示した。これは総合満足度に対する学生認識が、学科間で大きな格差を生じていることを意味する。数値が最も低い学科は書道学科 14.29%、次いで国際文化学科 15.41%、中国文学科 17.39%、日本文学科 17.87%、英米文学科 18.15%、スポーツ科学科 18.19%、国際関係学科 18.38%、日本語学科 18.41%、政治学科 19.26%、健康科学科 19.29%、社会学科 19.82%であった。これ以外は 20%以上となった。看護学科は 24.22%で最も高く、書道学科との差が 9.93%であった。次いで高い値を示したのが、社会経済学科 23.21%、英語学科 22.07%、中国語学科 21.79%、現代経済学科 21.69%、経営学科 20.95%、法律学科 20.39%、教育学科 20.33%、歴史文化学科 20.05%の 8 学科であった。

Q 8 「総合満足」の学科/部局別（左） および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,196	8.538	1.526	17.874%
中国文学科	409	8.562	1.489	17.389%
英米文学科	723	8.505	1.544	18.150%
教育学科	1,145	8.293	1.686	20.326%
書道学科	401	8.948	1.279	14.294%
歴史文化学科	563	8.185	1.641	20.054%
社会経済学科	1,086	8.069	1.873	23.206%
現代経済学科	660	7.826	1.697	21.686%
中国語学科	542	8.218	1.791	21.793%
英語学科	1,645	8.304	1.833	22.068%
日本語学科	374	8.548	1.574	18.414%
法律学科	1,432	8.232	1.679	20.397%
政治学科	1,015	8.369	1.612	19.264%
国際関係学科	652	8.534	1.569	18.381%
国際文化学科	619	8.716	1.343	15.406%
経営学科	1,377	8.186	1.715	20.946%
スポーツ科学科	1,229	8.675	1.578	18.187%
健康科学科	1,046	8.402	1.621	19.290%
看護学科	643	8.012	1.941	24.222%
社会学科	2,149	8.074	1.601	19.824%
教職課程センター	458	8.293	1.754	21.150%
国際交流センター	55	9.327	0.875	9.381%
全学	19,419	8.320	1.675	20.130%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	9,731	8.176	1.760	21.526%
2	5,533	8.382	1.602	19.118%
3	3,457	8.567	1.526	17.812%
4	684	8.620	1.501	17.414%

Q 8 「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

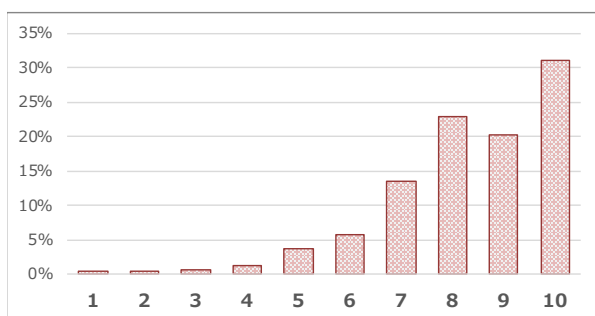
学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.251%	0.418%	0.585%	0.753%	2.341%	4.348%	11.706%	21.321%	25.167%	33.110%
中国文学科	0.244%	0.000%	0.978%	0.733%	1.711%	3.667%	12.958%	23.961%	20.293%	35.452%
英米文学科	0.138%	0.138%	0.553%	1.107%	3.320%	4.703%	12.033%	21.577%	21.992%	34.440%
教育学科	0.699%	0.611%	0.699%	0.873%	3.319%	5.590%	14.323%	22.707%	22.096%	29.083%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.249%	1.746%	3.741%	7.232%	19.202%	19.950%	47.880%
歴史文化学科	0.710%	0.178%	0.355%	1.243%	4.263%	6.039%	15.808%	25.755%	19.361%	26.288%
社会経済学科	1.473%	0.645%	1.381%	1.105%	4.512%	5.985%	14.457%	24.125%	20.258%	26.059%
現代経済学科	0.303%	0.758%	0.909%	1.667%	5.455%	9.091%	20.909%	23.636%	18.636%	18.636%
中国語学科	1.107%	0.369%	0.369%	2.399%	3.690%	7.011%	10.886%	24.539%	20.111%	29.520%
英語学科	0.973%	0.790%	0.790%	1.398%	3.343%	6.505%	13.131%	20.365%	17.751%	34.954%
日本語学科	0.267%	0.535%	0.267%	0.802%	4.011%	4.011%	8.824%	23.797%	21.658%	35.829%
法律学科	0.628%	0.209%	0.349%	1.885%	4.469%	5.656%	14.176%	23.603%	21.020%	28.003%
政治学科	0.690%	0.296%	0.394%	0.985%	3.054%	5.025%	13.399%	24.335%	21.576%	30.246%
国際関係学科	0.153%	0.460%	0.307%	1.074%	3.067%	5.061%	10.890%	22.546%	19.632%	36.810%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.323%	0.969%	1.292%	4.523%	7.916%	23.263%	25.525%	36.187%
経営学科	0.654%	0.508%	0.508%	1.525%	4.067%	5.447%	17.284%	24.328%	16.122%	29.557%
スポーツ科学科	0.325%	0.000%	1.221%	0.488%	3.336%	3.173%	9.601%	20.098%	19.691%	42.067%
健康科学科	0.287%	0.000%	0.382%	0.669%	5.545%	6.597%	11.568%	21.033%	19.694%	34.226%
看護学科	1.089%	0.933%	1.244%	1.866%	5.599%	7.776%	14.619%	20.529%	17.574%	28.771%
社会学科	0.372%	0.372%	0.558%	1.489%	3.816%	7.259%	16.938%	26.850%	20.800%	21.545%
教職課程センター	0.655%	0.873%	0.655%	1.310%	2.620%	7.205%	14.629%	19.432%	20.742%	31.878%
国際交流センター	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.818%	21.818%	18.182%	58.182%
全学	0.561%	0.397%	0.639%	1.205%	3.661%	5.737%	13.528%	22.936%	20.346%	30.990%

Q 8 「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.678%	0.483%	0.791%	1.562%	4.532%	6.680%	14.675%	22.649%	18.857%	29.093%
2	0.416%	0.361%	0.524%	0.904%	3.434%	5.314%	13.031%	23.423%	21.706%	30.887%
3	0.492%	0.202%	0.463%	0.781%	1.996%	4.050%	11.773%	23.084%	21.695%	35.464%
4	0.439%	0.439%	0.292%	0.585%	1.608%	4.386%	10.380%	22.368%	23.538%	35.965%

Q8 「総合満足」に対する全学の回答分布

(1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	109	0.561%
2	77	0.397%
3	124	0.639%
4	234	1.205%
5	711	3.661%
6	1,114	5.737%
7	2,627	13.528%
8	4,454	22.936%
9	3,951	20.346%
10	6,018	30.990%
合計	19,419	

4.4.1 【クロス表に関する結果（全学）】

当該クロス表（表1、表2）では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。また、右端の列（4+5）に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、「教員熱意」が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることがみてとれる。右端の列の数字（赤字:25→68→304→4646→11008）から、「教員熱意」が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

パーセントを示した表2からも、「教員熱意」と「学生意欲（自分意欲）」とのクロスチェック数値（30→47→647→4261→5956）が互いに上昇していることを確認できる。

この結果から、学生が「教員熱意」を感じるようになると、「学生意欲」を強く感じるようになっていくことがわかる。

表1

● クロス集計（〔学生意欲〕×〔教員熱意〕）〔回答数〕

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	30	11	11	5	20	77	25
	2 どちらかと言えばそう思わない	14	47	47	52	16	176	68
	3 どちらとも言えない	21	81	647	257	47	1,053	304
	4 どちらかと言えばそう思う	31	231	1,199	4,261	385	6,107	4,646
	5 強くそう思う	30	160	799	5,052	5,956	11,997	11,008
合計	126	530	2,703	9,627	6,424	19,410	16,051	

表 2

● クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

		学生意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	38.96%	14.29%	14.29%	6.49%	25.97%	100.00%	32.47%
	2 どちらかと言えばそう思わない	7.95%	26.70%	26.70%	29.55%	9.09%	100.00%	38.64%
	3 どちらとも言えない	1.99%	7.69%	61.44%	24.41%	4.46%	100.00%	28.87%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.51%	3.78%	19.63%	69.77%	6.30%	100.00%	76.08%
	5 強くそう思う	0.25%	1.33%	6.66%	42.11%	49.65%	100.00%	91.76%

4.5.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満 (-0.3~-0.6) で弱い正（負）の相関関係、+0.6 以上+1 未満 (-0.6~-1) で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.63 がみられる。正の相関関係の順に「教員熱意 0.55」「学生意欲 0.51」「FB 丁寧 0.45」「シラバス通り 0.48」となっている。これは、「総合満足度」の向上は、「成長感覚」すなわち成長実感を持てるかどうか、最も強く影響することを示している。

次に、「成長感覚」と「教員の熱意」との間に強い正の相関関係 0.60 がみられた。その後は弱い正の相関関係順に、「自分の意欲 0.57」「FB 丁寧 0.47」「シラバス通り 0.48」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか最も強く影響することを示している。

「難易度が適切か」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度（最大 10 点）」以外の他の変数が 5 点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度適切」は 3 点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、相関係数表に基づくと、「難易度適切」と他の変数との関連性は、単純に 2 つの変数が共に変動しているかどうかを測る相関分析で、統計的に判断することが困難である。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

「総合満足」と「成長感覚」との「相関係数 0.63」、および「成長感覚」と「教員熱意」との「相関係数 0.60」は、2025 年度前期の相関関係（0.65、0.61）と同じく、強い正の相関関係を維持している。今後の授業改善において参考にすべき変化であろう。

●【全講義】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.057	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.439	-0.033	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.418	-0.053	0.437	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.482	-0.044	0.482	0.481	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.484	-0.078	0.468	0.567	0.599	1.000	
Q8	【総合満足】	0.484	-0.176	0.447	0.506	0.550	0.630	1.000

まとめと結論（教員所属別）

2025年度後期の主な結果をまとめると、以下ようになる。

1. シラバス内容を知っている学生（Q1a）は全学80.39%であった。この数値は2025年度前期（79.93%）と比べてもやや増加している(0.46%)。シラバスは授業内容や方法、DPとの関連性が示され、学生にカリキュラムの順次性や体系性を周知する重要な媒体である。学生が自らの学修を振り返るためにもシラバスの確認を促す必要があるだろう。
2. シラバス内容を知っている学生は、授業はシラバス通り（Q1b）に実施されたと概ね認識している。（平均値：全学4.39）
3. 授業の難易度について（Q2）は「適切だった」が最も多く、次に「やや難しかった」が多かった。全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。

ただし、学年別回答分布の動向を2025年度前期と比較すると、留意すべき点がある。4年生（59.16%→54.96%）は低下しているが、1年生（43.05%→43.11%）、2年生（47.74%→54.25%）、3年生(49.60%→52.51%)は「3適切だった」が増加している。

学年別に授業の難易度をみる限り、1年生、2年生、3年生が「適切だった」を選ぶ層が増加し、「5難しい」と「2やや易しい」の割合に変化がみられた。「2」は増加しているが、「5」が減少する傾向にある。「易しい」と捉える学生の増加は、学生の学

力があがっているのか、教員が伝える工夫や努力をした結果なのか、明言できない。今後もこの傾向が続くのか注視する必要がある。

学年別の傾向は変動係数にも表れている。変動係数をみても概して高く、どの学科もバラツキが大きく、今後の授業改善に向けた検討や工夫が必要であろう。

4. 質問をしたことのある学生 (Q3) は、全学平均で17.74%であった。2025年度前期の17.16%よりやや増加している。
5. 質問に対する対応 (Q4) は、概ね「迅速である」と認識されていた (平均値：全学4.13)。この認識は、2025年度前期の平均値4.10からは僅かながら上昇している。全学・学科部局別回答分布の平均 (=4+5の合計) をみても、「迅速である」と認識している学生が、2025年度前期に比較すると僅かに増加(0.45%)している。

変動係数の数値が質問項目のなかでは最も高く、学科間の格差が大きいことが確認された。加えて、2025年度前期の学科部局別の変動係数の平均は23.22%であったのに対し、今回は23.18%と、前期とほぼ同じ水準であると言えるだろう。しかし、学科部局間の格差が大きく広がっている点は注意が必要であろう。
6. 学生は「熱意・意欲」 (Q5) をもって、授業に取り組んだと概ね認識していた (平均値：全学4.12)。この認識は、2025年度前期 (平均値：全学4.08) と比較すると、平均値が僅かながら上昇しており、良い傾向と言える。
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている (Q6) と学生は概ね認識していた (平均値：全学4.53)。2025年度前期 (平均値：全学4.49) とそれほど変わらない。変動係数の平均値をみても質問項目のなかで最も低いことも前期と変わらない。つまり、授業に対する教員の熱意は良い評価で安定していると言える。学生の教員に対する評価は概ね高い。
8. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識 (Q7) は多くの学生が持っており、学科部局回答分布の最頻値(全学平均)が2025年度前期と同じく5である。全学的な平均値 (4.33) からも、学科部局回答分布からも (4+5の合計：89.39%。2025年度前期86.75%)、学生の「成長感覚」は前期より2.64%増加し高く示された。前期より後期の方が成長感覚を得ており、授業への満足度につながっている。
9. すべてを総合して授業に対して概ね満足だと認識した学生 (Q8：8~10を選んだ学生) は全学で74.27%となり、2025年度前期 (70.44%) から3.83%増加している。
10. 学生自身の「成長感覚」と学生からみた「教員熱意」には、強い正の相関関係 (0.60) が確認された。学生が「教員熱意」を感じようになると、学生の「成長感覚」が促されると言える。さらに、「成長感覚」と授業に対する「総合満足度」も強い相関関係 (0.63) が見られた。
11. 「総合満足度」に最も影響があるのは、相関係数表によると、全学は「成長感覚」であり、次いで「教員熱意」「学生意欲」「フィードバックが丁寧かどうか」「シラバス通りかどうか」という順であった。この結果は2025年度前期と同じものであった。

12.前述したように教員の熱意が高い評価で安定していることから、それに比例して成長感覚が高くなり、総合満足度も上がることがわかる。相関係数表には表われていないが、Q2の授業の難易度を適当であったと捉える割合が増えていることも、教員の熱意の表われと受け取ることもできる。

【全学共通科目（学生所属別）】

【全学共通科目(学生所属別)】

2023 年度後期から全学共通科目を対象に学生の所属学科ごとに、アンケート結果を集計し分析している。2024 年度前期からは学科別に「変動係数」を算出し、学科間の格差があるか否かの検証をしている。さらに 2025 年度前期からは、全学共通科目を人文系・社会系・自然系・保健体育系に分類し、学生の所属別に集計することで、各系の科目に対する授業認識の相違が生じるかどうかの分析を試みた。

全学共通科目全体の結果は次の通りである。今回は全学共通科目全体の数値と上記 4 分類の数値を比較するため、後期も前期同様、全学共通科目の結果は各質問項目に対する回答結果の概略だけを記述している。各分類の分析のなかで全学共通科目全体の動向についても触れていく。

2025 年度後期の全学共通科目の回答率は 34.28%を示し、前期 41.07%から 6.79%減少した。回答率が最も高かった学科は書道学科 54.22%（2025 年度前期：45.96%）であった。50%を超えた学科は、2025 年度前期は法律学科 58.54%、看護学科 54.87%、日本文学科 51.74%の 3 学科であったが、後期は書道学科のみとなった。全学科目の回答率と比べても、全学共通科目の回答率が僅かに低くなっている。

全学科目と同じく、2025 年度後期の回答率が同年度前期に比べて、減少した主な原因は、1 年生の授業に対する慣れと、それに伴う授業認識アンケートの回答への意識の低下が考えられる。アンケートに回答する学生のアクセス時間が授業時に集中していることは既にデータからも明らかになっている。授業時に各教員から学生に回答を促してほしい。

2025 年度前期に比べて、後期で回答率が上昇したのは 4 学科のみで、書道学科 54.22%、健康科学科 37.95%、国際文化学科 32.31%、国際関係学科 25.00%であった。しかし、国際文化学科と国際関係学科の回答率は平均値 34.28%を下回る値であった。平均値を超えている学科は、書道学科と健康科学科を含め、6 学科(日本文学科 49.81%、社会学科 44.66%、看護学科 44.55%、歴史文化学科 43.67%、法律学科 43.27%、中国文学科 34.78%)であった。その一方で、20%台にとどまった学科は 5 学科あり(中国語学科 29.89%、英語学科 29.38%、教育学科 28.07%、経営学科 25.36%、国際関係学科 25.00%)、学科間の差が大きかった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	395	398	793	49.811%
中国文学科	32	60	92	34.783%
英米文学科	199	421	620	32.097%
教育学科	160	410	570	28.070%
書道学科	90	76	166	54.217%
歴史文化学科	131	169	300	43.667%
社会経済学科	272	594	866	31.409%
現代経済学科	241	478	719	33.519%
中国語学科	107	251	358	29.888%
英語学科	223	536	759	29.381%
日本語学科	82	165	247	33.198%
法律学科	299	392	691	43.271%
政治学科	204	394	598	34.114%
国際関係学科	84	252	336	25.000%
国際文化学科	84	176	260	32.308%
経営学科	405	1,192	1,597	25.360%
スポーツ科学科	164	372	536	30.597%
健康科学科	115	188	303	37.954%
看護学科	98	122	220	44.545%
社会科学	230	285	515	44.660%
全学	3,615	6,931	10,546	34.278%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	2,288	3,412	5,700	40.140%
2	1,112	2,620	3,732	29.796%
3	136	467	603	22.554%
4	75	427	502	14.940%

【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

「2 シラバス内容を知っている」の回答は 81.97% (2025 年度前期: 81.20%) であった。最も高かったのは国際関係学科 94.05% であった(2025 年度前期: 80.20%)。その他の学科で 90% を超えているのは、看護学科 91.84%、国際文化学科 91.67%、中国文学科 90.63%、の 3 学科であった。

【全学共通科目(学生所属別)】

Q 1a「シラバス既知」の学科別(左)および学年別(右)回答

(1「いいえ(あまりよく)知りません」/ 2「はい(おおよそ)知っています」)

学科 / 部局	1	2
日本文学科	15.869%	84.131%
中国文学科	9.375%	90.625%
英米文学科	15.075%	84.925%
教育学科	28.571%	71.429%
書道学科	14.130%	85.870%
歴史文化学科	17.557%	82.443%
社会経済学科	14.022%	85.978%
現代経済学科	12.397%	87.603%
中国語学科	12.963%	87.037%
英語学科	23.767%	76.233%
日本語学科	15.854%	84.146%
法律学科	27.090%	72.910%
政治学科	12.500%	87.500%
国際関係学科	5.952%	94.048%
国際文化学科	8.333%	91.667%
経営学科	18.182%	81.818%
スポーツ科学科	20.859%	79.141%
健康科学科	28.448%	71.552%
看護学科	8.163%	91.837%
社会学科	25.974%	74.026%
全学	18.026%	81.974%

学年	1	2
1	19.251%	80.749%
2	16.204%	83.796%
3	14.706%	85.294%
4	14.667%	85.333%

【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい(おおよそ)知っています」と回答した学生のみが回答した。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が最も大きい学科は中国文学科 100.00%であった(2025 年度前期:教育学科 100.00%)。4 と 5 の合計は 91.39%で、2025 年度前期(89.32%)よりも増加している。

変動係数をみると、後述する Q6(教員の熱意/意欲)以外の質問項目に比べて相対的に低い水準になってあり(平均値 15.93%)、学科間の格差は小さい。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	343	4.420	0.686	15.527%
中国文学科	30	4.567	0.496	10.851%
英米文学科	179	4.425	0.624	14.106%
教育学科	128	4.383	0.772	17.609%
書道学科	85	4.353	0.698	16.035%
歴史文化学科	116	4.379	0.715	16.328%
社会経済学科	245	4.400	0.696	15.826%
現代経済学科	220	4.377	0.673	15.378%
中国語学科	99	4.485	0.744	16.578%
英語学科	188	4.404	0.658	14.929%
日本語学科	70	4.571	0.575	12.578%
法律学科	255	4.302	0.801	18.627%
政治学科	188	4.415	0.643	14.556%
国際関係学科	82	4.378	0.727	16.594%
国際文化学科	77	4.519	0.657	14.534%
経営学科	359	4.323	0.755	17.459%
スポーツ科学科	137	4.467	0.695	15.550%
健康科学科	97	4.412	0.685	15.523%
看護学科	92	4.609	0.570	12.373%
社会学科	180	4.333	0.683	15.765%
全学	3,170	4.400	0.701	15.927%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,990	4.389	0.717
2	986	4.404	0.674
3	122	4.492	0.680
4	68	4.485	0.630

【全学共通科目(学生所属別)】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.292%	1.166%	6.122%	41.108%	51.312%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	43.333%	56.667%
英米文学科	0.000%	0.559%	5.587%	44.693%	49.162%
教育学科	0.781%	0.781%	10.938%	34.375%	53.125%
書道学科	0.000%	1.176%	9.412%	42.353%	47.059%
歴史文化学科	0.862%	0.862%	6.034%	43.966%	48.276%
社会経済学科	1.224%	0.000%	4.898%	45.306%	48.571%
現代経済学科	0.000%	2.273%	4.091%	47.273%	46.364%
中国語学科	0.000%	3.030%	6.061%	30.303%	60.606%
英語学科	0.000%	1.596%	4.787%	45.213%	48.404%
日本語学科	0.000%	0.000%	4.286%	34.286%	61.429%
法律学科	0.392%	2.745%	10.980%	38.039%	47.843%
政治学科	0.532%	0.000%	5.319%	45.745%	48.404%
国際関係学科	1.220%	0.000%	7.317%	42.683%	48.780%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.091%	29.870%	61.039%
経営学科	0.000%	2.228%	10.864%	39.276%	47.632%
スポーツ科学科	0.000%	1.460%	7.299%	34.307%	56.934%
健康科学科	0.000%	1.031%	8.247%	39.175%	51.546%
看護学科	0.000%	0.000%	4.348%	30.435%	65.217%
社会学科	0.000%	1.667%	7.222%	47.222%	43.889%
全学	0.284%	1.262%	7.066%	40.978%	50.410%

【全学共通科目(学生所属別)】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.352%	1.508%	7.186%	40.804%	50.151%
2	0.101%	1.014%	6.998%	42.191%	49.696%
3	0.820%	0.000%	5.738%	36.066%	57.377%
4	0.000%	0.000%	7.353%	36.765%	55.882%

【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「Q2：授業難易度」の回答分布状況をみると、「1 とても易しかった」1.57%（2025年度前期：1.86%）、「2 やや易しかった」2.54%（2025年度前期：3.53%）、「3 適切だった」51.12%（2025年度前期：48.74%）、「4 やや難しかった」35.02%（2025年度前期：35.15%）、「5 とても難しかった」9.76%（2025年度前期 10.90%）となっている。

「4と5」の分布割合の合計（平均）が44.78%、「1と2」の分布割合の合計（平均）が4.11%という結果から判断すると、全学共通科目に対して「やや難しい、あるいはとても難しい」と感じている学生が多く分布していると言える。

変動係数をみると、全学平均は22.02%であり、他の質問項目と比べても、後述するQ4(教員対応)以外は高い数値を示している。変動係数の大きさはバラツキの大きさを示すが、これは回答分布をみると「1とても易しかった」と「5とても難しかった」に2極化していることを示す（看護学科、スポーツ科学科、教育学科）。一方で、回答分布が「5と4」の割合が高く、「1と2」が極めて低い場合は、平均自体が高い。これは授業を理解できない層の多さを示す（中国文学科、中国語学科、日本語学科、国際関係学科、経営学科）。前期との変化が著しいのは書道学科であった。書道学科は後期になって「5と4」が13%以上増加し、「3」が減っている。後期になって授業を理解することが難しい学生が増えたことを示す。

難易度は学生の学力と深く関わることから、この数値は学科間の格差が大きく、注視する必要があるだろう。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	397	3.458	0.752	21.747%
中国文学科	32	3.625	0.740	20.400%
英米文学科	199	3.482	0.715	20.527%
教育学科	161	3.571	0.883	24.714%
書道学科	92	3.478	0.773	22.220%
歴史文化学科	131	3.275	0.631	19.259%
社会経済学科	271	3.502	0.787	22.467%
現代経済学科	242	3.492	0.688	19.698%
中国語学科	108	3.685	0.766	20.774%
英語学科	223	3.556	0.737	20.719%
日本語学科	82	3.524	0.736	20.891%
法律学科	299	3.492	0.773	22.143%
政治学科	208	3.466	0.740	21.335%
国際関係学科	85	3.565	0.710	19.928%
国際文化学科	84	3.417	0.743	21.757%
経営学科	406	3.554	0.727	20.442%
スポーツ科学科	163	3.515	0.902	25.668%
健康科学科	116	3.397	0.797	23.477%
看護学科	97	3.278	0.992	30.264%
社会学科	231	3.420	0.757	22.126%
全学	3,627	3.489	0.768	22.020%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,294	3.513	0.798
2	1,117	3.429	0.700
3	137	3.533	0.774
4	75	3.560	0.735

【全学共通科目(学生所属別)】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.259%	2.519%	54.912%	31.738%	9.572%
中国文学科	0.000%	0.000%	53.125%	31.250%	15.625%
英米文学科	1.005%	1.005%	55.779%	33.166%	9.045%
教育学科	2.484%	4.348%	41.615%	36.646%	14.907%
書道学科	2.174%	3.261%	46.739%	40.217%	7.609%
歴史文化学科	0.763%	4.580%	64.122%	27.481%	3.053%
社会経済学科	1.845%	2.583%	49.446%	35.793%	10.332%
現代経済学科	0.413%	2.479%	52.066%	37.603%	7.438%
中国語学科	0.000%	0.000%	50.000%	31.481%	18.519%
英語学科	0.897%	1.794%	48.430%	38.565%	10.314%
日本語学科	0.000%	2.439%	54.878%	30.488%	12.195%
法律学科	1.338%	3.010%	51.171%	34.114%	10.368%
政治学科	1.442%	4.327%	46.635%	41.346%	6.250%
国際関係学科	0.000%	1.176%	52.941%	34.118%	11.765%
国際文化学科	2.381%	3.571%	48.810%	40.476%	4.762%
経営学科	0.493%	2.217%	49.015%	37.931%	10.345%
スポーツ科学科	4.294%	2.454%	43.558%	36.810%	12.883%
健康科学科	2.586%	2.586%	56.897%	28.448%	9.483%
看護学科	9.278%	2.062%	49.485%	29.897%	9.278%
社会学科	2.165%	2.165%	54.978%	32.900%	7.792%
全学	1.572%	2.537%	51.117%	35.015%	9.760%

【全学共通科目(学生所属別)】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.005%	2.703%	47.908%	36.748%	10.636%
2	0.806%	2.417%	57.296%	32.050%	7.431%
3	1.460%	0.000%	55.474%	29.927%	13.139%
4	0.000%	2.667%	50.667%	34.667%	12.000%

【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

「2 質問したことがある」という回答率は 10.65%であった。「2」の回答率が他学科に比べて最も高いのは中国語学科 19.63%であった。

これに対して、「1 質問したことがない」という回答率の平均値は 89.35%である。全学共

通科目に対する学生の授業参加は必ずしも積極的であるとは言えない結果となった。

【全学共通科目(学生所属別)】

Q3「質問対応」の学科別(左)および学年別(右)回答

(1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」)

学科 / 部局	1	2
日本文学科	92.802%	7.198%
中国文学科	84.375%	15.625%
英米文学科	92.424%	7.576%
教育学科	84.906%	15.094%
書道学科	84.783%	15.217%
歴史文化学科	89.231%	10.769%
社会経済学科	92.910%	7.090%
現代経済学科	90.496%	9.504%
中国語学科	80.374%	19.626%
英語学科	89.189%	10.811%
日本語学科	86.076%	13.924%
法律学科	92.683%	7.317%
政治学科	88.780%	11.220%
国際関係学科	90.588%	9.412%
国際文化学科	86.905%	13.095%
経営学科	88.861%	11.139%
スポーツ科学科	85.093%	14.907%
健康科学科	86.842%	13.158%
看護学科	87.755%	12.245%
社会学科	89.130%	10.870%
全学	89.347%	10.653%

学年	1	2
1	89.369%	10.631%
2	89.937%	10.063%
3	89.781%	10.219%
4	81.333%	18.667%

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計は 64.92%であったが、2025 年度前期(68.69%) に比べて低下した。そのなかで「4+5」の分布割合合計が最も高い学科は日本語学科 80.00%であった。フィードバック(教員対応)の全学平均値は 4.00 であった。

変動係数をみると、他の項目に比べて相対的に最も高い数値(24.41%)が確認された。なかでもスポーツ科学科が 29.10%という高い数値であった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	97	4.010	1.000	24.934%
中国文学科	12	4.250	0.829	19.510%
英米文学科	83	3.855	0.920	23.865%
教育学科	60	4.333	0.850	19.612%
書道学科	42	3.619	0.950	26.250%
歴史文化学科	37	4.027	1.026	25.486%
社会経済学科	88	3.989	1.028	25.772%
現代経済学科	84	3.929	0.923	23.496%
中国語学科	38	4.132	0.978	23.670%
英語学科	89	4.124	0.897	21.757%
日本語学科	25	4.360	0.794	18.210%
法律学科	105	3.800	1.009	26.540%
政治学科	85	4.035	0.818	20.274%
国際関係学科	30	3.967	0.983	24.772%
国際文化学科	25	4.400	0.800	18.182%
経営学科	160	3.931	0.982	24.975%
スポーツ科学科	72	3.917	1.140	29.095%
健康科学科	53	3.962	0.990	24.981%
看護学科	48	4.188	1.093	26.095%
社会学科	64	4.016	0.910	22.658%
全学	1,297	3.998	0.976	24.409%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	854	3.972	0.990
2	373	4.024	0.942
3	42	4.167	1.022
4	26	4.192	0.878

【全学共通科目(学生所属別)】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	3.093%	1.031%	27.835%	27.835%	40.206%
中国文学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	1.205%	46.988%	16.867%	34.940%
教育学科	0.000%	0.000%	25.000%	16.667%	58.333%
書道学科	2.381%	4.762%	42.857%	28.571%	21.429%
歴史文化学科	2.703%	0.000%	35.135%	16.216%	45.946%
社会経済学科	4.545%	0.000%	26.136%	30.682%	38.636%
現代経済学科	1.190%	1.190%	35.714%	27.381%	34.524%
中国語学科	0.000%	5.263%	26.316%	18.421%	50.000%
英語学科	0.000%	2.247%	28.090%	24.719%	44.944%
日本語学科	0.000%	0.000%	20.000%	24.000%	56.000%
法律学科	2.857%	1.905%	40.000%	22.857%	32.381%
政治学科	0.000%	0.000%	31.765%	32.941%	35.294%
国際関係学科	3.333%	0.000%	30.000%	30.000%	36.667%
国際文化学科	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%
経営学科	2.500%	0.625%	35.000%	25.000%	36.875%
スポーツ科学科	5.556%	2.778%	27.778%	22.222%	41.667%
健康科学科	1.887%	3.774%	28.302%	28.302%	37.736%
看護学科	4.167%	0.000%	27.083%	10.417%	58.333%
社会学科	1.563%	1.563%	26.563%	34.375%	35.938%
全学	2.005%	1.311%	31.766%	24.749%	40.170%

【全学共通科目(学生所属別)】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.225%	1.639%	32.201%	24.590%	39.344%
2	1.340%	0.804%	32.708%	24.397%	40.751%
3	4.762%	0.000%	16.667%	30.952%	47.619%
4	0.000%	0.000%	30.769%	19.231%	50.000%

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[学生意欲]

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計が約 8 割 (81.87%) で、学生は概ね自身の熱意を評価している。「5 と 4」の合計が最も高かったのは健康科学科 89.66% で、9 割近い学生が自身の意欲を強く認識していると言える。学生の授業に対する意欲と熱意の平均値は 4.09 であった。

変動係数に基づいて判断しても学科間の格差は明らかである。変動係数が最も高いのは日本語学科 21.62%であった。変動係数の変動幅は 5.43%(=最大値 21.62% - 最小値 16.19%)となっている。全共科目に対する学生意欲・熱意のバラツキが見られるものの、学科間のバラツキ幅は 2025 年度前期(6.81%)に比べて、縮小している。とはいえ、「4 と 5」の回答分布割合が平均(81.87%)よりも低い学科が 9 学科(中国文学科、教育学科、書道学科、歴史文化学科、中国語学科、日本語学科、国際関係学科、経営学科、社会学科)、「1 と 2」の分布割合が平均(3.40%)より高い学科が 8 学科(教育学科、書道学科、社会経済学科、日本語学科、法律学科、国際関係学科、経営学科、スポーツ科学科)であった。この結果から、教育学科、書道学科、日本語学科、国際関係学科、経営学科は自分意欲の高い層の分布割合が低く、逆に意欲の低い層の分布割合が増えていることになる。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	395	4.099	0.768	18.744%
中国文学科	32	4.094	0.843	20.582%
英米文学科	199	4.101	0.737	17.965%
教育学科	161	4.050	0.840	20.742%
書道学科	92	4.043	0.859	21.235%
歴史文化学科	128	4.016	0.770	19.185%
社会経済学科	272	4.018	0.779	19.377%
現代経済学科	242	4.041	0.720	17.825%
中国語学科	108	4.074	0.766	18.807%
英語学科	222	4.140	0.785	18.954%
日本語学科	82	4.073	0.880	21.615%
法律学科	298	4.111	0.780	18.977%
政治学科	208	4.087	0.742	18.151%
国際関係学科	85	4.059	0.831	20.475%
国際文化学科	84	4.190	0.715	17.064%
経営学科	407	4.007	0.810	20.211%
スポーツ科学科	164	4.171	0.824	19.745%
健康科学科	116	4.293	0.695	16.189%
看護学科	98	4.337	0.769	17.722%
社会学科	230	4.035	0.727	18.030%
全学	3,623	4.087	0.780	19.098%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,292	4.098	0.777
2	1,115	4.055	0.783
3	137	4.109	0.834
4	75	4.160	0.731

【全学共通科目(学生所属別)】

Q5「自分意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.759%	2.532%	12.911%	53.671%	30.127%
中国文学科	0.000%	3.125%	21.875%	37.500%	37.500%
英米文学科	1.005%	1.005%	13.568%	55.779%	28.643%
教育学科	0.621%	3.727%	18.012%	45.342%	32.298%
書道学科	1.087%	4.348%	15.217%	47.826%	31.522%
歴史文化学科	0.000%	3.125%	19.531%	50.000%	27.344%
社会経済学科	1.103%	2.941%	13.971%	56.985%	25.000%
現代経済学科	0.413%	2.066%	15.289%	57.438%	24.793%
中国語学科	0.000%	2.778%	17.593%	49.074%	30.556%
英語学科	0.901%	2.252%	12.613%	50.450%	33.784%
日本語学科	1.220%	4.878%	13.415%	46.341%	34.146%
法律学科	0.000%	4.027%	13.423%	50.000%	32.550%
政治学科	0.481%	2.404%	13.462%	55.288%	28.365%
国際関係学科	1.176%	3.529%	14.118%	50.588%	30.588%
国際文化学科	0.000%	1.190%	14.286%	48.810%	35.714%
経営学科	0.246%	4.177%	18.428%	48.894%	28.256%
スポーツ科学科	0.610%	3.049%	14.024%	43.293%	39.024%
健康科学科	0.000%	1.724%	8.621%	48.276%	41.379%
看護学科	0.000%	2.041%	12.245%	35.714%	50.000%
社会学科	0.435%	2.174%	15.652%	56.957%	24.783%
全学	0.524%	2.871%	14.739%	51.145%	30.720%

【全学共通科目(学生所属別)】

Q5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.393%	2.967%	14.529%	50.698%	31.414%
2	0.717%	2.601%	15.964%	51.928%	28.789%
3	1.460%	2.920%	12.409%	49.635%	33.577%
4	0.000%	4.000%	8.000%	56.000%	32.000%

【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

「Q6 教員意欲/熱意」の回答結果は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の割合合計が 93.31%であった。全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意を高く評価している。「4 と 5」の回答分布割合の合計が、国際関係学科(88.24%)以外の学科は 90.00%以上の高い比率を示しており、中国文学科は 96.88%であった。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の分布割合の合計は、国際関係学科 2.35%であったが、国際関係学科以外は 2.00%未満であった。ここから教員の授業における熱意や意欲を高く認識していると言える。

変動係数をみると平均が 14.41%で、授業認識に対する質問項目のなかで最も低い数値であった。教員熱意に関して学科間の格差は生じているものの、大きな値ではなく、良い傾向と言えるだろう。ただし、国際関係学科の変動係数は 19.14%で、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	396	4.606	0.649	14.080%
中国文学科	32	4.719	0.514	10.902%
英米文学科	199	4.608	0.582	12.632%
教育学科	161	4.615	0.611	13.242%
書道学科	92	4.478	0.699	15.610%
歴史文化学科	131	4.496	0.610	13.567%
社会経済学科	272	4.518	0.658	14.572%
現代経済学科	242	4.533	0.624	13.766%
中国語学科	108	4.602	0.560	12.171%
英語学科	223	4.583	0.636	13.878%
日本語学科	82	4.634	0.595	12.838%
法律学科	299	4.492	0.681	15.165%
政治学科	208	4.442	0.663	14.915%
国際関係学科	85	4.412	0.844	19.137%
国際文化学科	84	4.619	0.653	14.135%
経営学科	407	4.472	0.710	15.887%
スポーツ科学科	164	4.591	0.679	14.790%
健康科学科	116	4.569	0.605	13.240%
看護学科	98	4.653	0.591	12.697%
社会学科	231	4.485	0.637	14.201%
全学	3,630	4.542	0.655	14.412%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,297	4.547	0.639
2	1,117	4.517	0.696
3	137	4.620	0.606
4	75	4.573	0.546

【全学共通科目(学生所属別)】

Q6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.253%	1.010%	4.545%	26.263%	67.929%
中国文学科	0.000%	0.000%	3.125%	21.875%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.503%	3.518%	30.653%	65.327%
教育学科	0.000%	0.000%	6.832%	24.845%	68.323%
書道学科	1.087%	0.000%	5.435%	36.957%	56.522%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	6.107%	38.168%	55.725%
社会経済学科	0.368%	0.000%	6.985%	32.721%	59.926%
現代経済学科	0.000%	1.240%	3.306%	36.364%	59.091%
中国語学科	0.000%	0.000%	3.704%	32.407%	63.889%
英語学科	0.000%	1.345%	4.036%	29.596%	65.022%
日本語学科	0.000%	0.000%	6.098%	24.390%	69.512%
法律学科	0.000%	1.338%	6.689%	33.445%	58.528%
政治学科	0.000%	0.962%	6.731%	39.423%	52.885%
国際関係学科	2.353%	0.000%	9.412%	30.588%	57.647%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.524%	19.048%	71.429%
経営学科	0.246%	1.229%	7.617%	32.924%	57.985%
スポーツ科学科	0.000%	1.829%	5.488%	24.390%	68.293%
健康科学科	0.000%	0.000%	6.034%	31.034%	62.931%
看護学科	0.000%	0.000%	6.122%	22.449%	71.429%
社会学科	0.000%	0.866%	5.195%	38.528%	55.411%
全学	0.165%	0.744%	5.785%	31.377%	61.928%

【全学共通科目(学生所属別)】

Q6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.087%	0.740%	5.311%	32.085%	61.776%
2	0.269%	0.895%	7.431%	29.633%	61.773%
3	0.730%	0.000%	2.190%	30.657%	66.423%
4	0.000%	0.000%	2.667%	37.333%	60.000%

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

「Q7 成長感覚」の回答結果は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の合計は 89.17%を示し、2025 年度前期の 85.23%から 3.94%上昇している。約 90%の割合を示しているので、全学共通科目を通じての学びを概ね高く評価していると言える。

英米文学科は、成長感覚に対する 4 と 5 の合計の割合が 2025 年度前期の 85.00%から 8.47%増加して 93.47%となり、大半の学生が授業を通じて成長を実感しているという結果となった。

変動係数の平均は 16.87%であった。平均値を超えたのは社会経済学科 20.29%、国際関係学科 19.51%、書道学科 18.39%、英語学科 18.12%、教育学科 17.78%、歴史文化学科 17.73%、中国語学科 17.49%、スポーツ科学科 17.46%の 8 学科でバラツキがみられるだけでなく、「4 と 5」の分布割合の合計が平均(89.17%)より低く、「1 と 2」の分布割合の合計が平均(1.74%)より高い結果となった。その 8 学科以外は比較的バラツキが少ない結果となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	396	4.384	0.721	16.439%
中国文学科	32	4.500	0.661	14.699%
英米文学科	199	4.317	0.661	15.323%
教育学科	161	4.317	0.768	17.780%
書道学科	92	4.207	0.774	18.394%
歴史文化学科	131	4.244	0.753	17.730%
社会経済学科	272	4.235	0.860	20.294%
現代経済学科	241	4.328	0.654	15.113%
中国語学科	108	4.343	0.760	17.493%
英語学科	223	4.260	0.772	18.122%
日本語学科	82	4.378	0.692	15.809%
法律学科	299	4.314	0.705	16.332%
政治学科	207	4.343	0.632	14.549%
国際関係学科	85	4.294	0.838	19.508%
国際文化学科	84	4.381	0.706	16.104%
経営学科	407	4.322	0.706	16.334%
スポーツ科学科	164	4.299	0.750	17.457%
健康科学科	116	4.388	0.692	15.770%
看護学科	98	4.449	0.702	15.771%
社会学科	231	4.208	0.684	16.252%
全学	3,628	4.314	0.728	16.871%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,296	4.301	0.737
2	1,116	4.319	0.724
3	137	4.431	0.671
4	75	4.453	0.573

【全学共通科目(学生所属別)】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.758%	1.010%	6.566%	42.424%	49.242%
中国文学科	0.000%	0.000%	9.375%	31.250%	59.375%
英米文学科	0.503%	1.005%	5.025%	53.266%	40.201%
教育学科	0.000%	2.484%	11.180%	38.509%	47.826%
書道学科	2.174%	0.000%	8.696%	53.261%	35.870%
歴史文化学科	0.000%	2.290%	12.214%	44.275%	41.221%
社会経済学科	2.206%	1.838%	9.191%	43.750%	43.015%
現代経済学科	0.000%	0.830%	7.884%	48.963%	42.324%
中国語学科	0.926%	0.926%	9.259%	40.741%	48.148%
英語学科	0.448%	2.242%	10.762%	43.946%	42.601%
日本語学科	0.000%	2.439%	4.878%	45.122%	47.561%
法律学科	0.000%	0.669%	12.040%	42.475%	44.816%
政治学科	0.000%	0.483%	7.246%	49.758%	42.512%
国際関係学科	1.176%	2.353%	10.588%	37.647%	48.235%
国際文化学科	0.000%	0.000%	13.095%	35.714%	51.190%
経営学科	0.000%	1.720%	8.845%	44.963%	44.472%
スポーツ科学科	0.000%	1.829%	12.195%	40.244%	45.732%
健康科学科	0.000%	0.862%	9.483%	39.655%	50.000%
看護学科	0.000%	1.020%	9.184%	33.673%	56.122%
社会学科	0.866%	0.433%	8.658%	57.143%	32.900%
全学	0.469%	1.268%	9.096%	44.680%	44.487%

【全学共通科目(学生所属別)】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.479%	1.437%	9.451%	44.817%	43.815%
2	0.448%	1.165%	9.140%	44.534%	44.713%
3	0.730%	0.000%	5.839%	42.336%	51.095%
4	0.000%	0.000%	4.000%	46.667%	49.333%

【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「10」を「100%満足」、「1」を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

「Q8 総合満足」は、満足度の高い10から8までの割合を合計すると74.08%となり、2025年度前期の70.52%と比べると、3.56%増加している。増加したとはいえ、2024年度

後期の 75.64% に比べ 1.56% 減少していることから、この増加傾向が続くのか、今後も注視する必要があるだろう。

各学科の「8～10」の回答分布割合は 66.67%（書道学科）から 93.75%（中国文学科）の間に分布している。そのなかで全学平均の 74.08% を下回るのは、歴史文化学科 71.76%、英語学科 72.20%、経営学科 72.84%、社会経済学科 70.96%、法律学科 70.21%、書道学科 66.67%、国際関係学科 67.86%、社会学科 68.70% の 8 学科であった。回答分布の割合を「7～10」に広げると、全学平均は 89.16% となり全体としてはまずまずの結果となる。

変動係数を用いると、全共科目における総合満足度に対する授業認識は、学科間に格差が生じていることが確認できる（平均値 18.78%）。特に、最も低い数値の中国文学科 10.62% と最も高い数値の書道学科 23.07% では 12.45% という大幅な格差が生じている。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	395	8.451	1.503	17.780%
中国文学科	32	8.844	0.939	10.618%
英米文学科	199	8.392	1.336	15.925%
教育学科	160	8.419	1.567	18.615%
書道学科	90	8.089	1.866	23.065%
歴史文化学科	131	8.336	1.521	18.251%
社会経済学科	272	8.224	1.545	18.787%
現代経済学科	241	8.216	1.495	18.199%
中国語学科	107	8.495	1.715	20.189%
英語学科	223	8.363	1.609	19.243%
日本語学科	82	8.476	1.563	18.447%
法律学科	299	8.237	1.626	19.734%
政治学科	204	8.363	1.497	17.901%
国際関係学科	84	8.131	1.682	20.683%
国際文化学科	84	8.714	1.385	15.894%
経営学科	405	8.299	1.570	18.924%
スポーツ科学科	164	8.354	1.738	20.807%
健康科学科	115	8.557	1.556	18.183%
看護学科	98	8.786	1.831	20.839%
社会学科	230	8.135	1.449	17.811%
全学	3,615	8.347	1.567	18.778%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,288	8.348	1.582
2	1,112	8.330	1.559
3	136	8.449	1.479
4	75	8.373	1.421

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.253%	0.000%	0.506%	0.759%	3.544%	3.544%	14.937%	22.785%	22.278%	31.392%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	34.375%	28.125%	31.250%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.503%	2.010%	4.523%	18.593%	27.638%	18.593%	28.141%
教育学科	0.000%	0.000%	1.250%	1.875%	1.875%	5.625%	12.500%	24.375%	20.000%	32.500%
書道学科	2.222%	0.000%	0.000%	0.000%	5.556%	7.778%	17.778%	25.556%	7.778%	33.333%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.634%	3.817%	16.794%	21.374%	19.847%	30.534%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.368%	1.103%	5.515%	5.882%	16.176%	25.000%	18.750%	27.206%
現代経済学科	0.415%	0.415%	0.000%	0.830%	3.320%	5.809%	14.523%	31.120%	20.747%	22.822%
中国語学科	0.000%	0.935%	0.935%	1.869%	2.804%	5.607%	10.280%	18.692%	20.561%	38.318%
英語学科	0.000%	0.000%	0.897%	0.897%	4.036%	7.623%	14.350%	20.179%	17.937%	34.081%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	2.439%	2.439%	8.537%	8.537%	24.390%	17.073%	36.585%
法律学科	0.000%	0.334%	1.003%	1.003%	4.013%	7.358%	16.054%	21.405%	20.067%	28.763%
政治学科	0.490%	0.000%	0.490%	0.980%	1.471%	4.902%	15.686%	30.392%	15.196%	30.392%
国際関係学科	1.190%	1.190%	0.000%	0.000%	1.190%	8.333%	20.238%	23.810%	19.048%	25.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.190%	8.333%	14.286%	9.524%	27.381%	39.286%
経営学科	0.000%	0.494%	0.247%	0.741%	4.198%	6.914%	14.568%	25.679%	16.296%	30.864%
スポーツ科学科	0.610%	0.000%	1.829%	1.829%	3.049%	2.439%	14.634%	27.439%	11.585%	36.585%
健康科学科	0.870%	0.000%	0.000%	0.870%	3.478%	3.478%	9.565%	24.348%	22.609%	34.783%
看護学科	2.041%	1.020%	0.000%	1.020%	1.020%	3.061%	7.143%	13.265%	23.469%	47.959%
社会学科	0.000%	0.000%	0.435%	2.174%	2.609%	4.348%	21.739%	26.522%	21.739%	20.435%
全学	0.277%	0.194%	0.470%	0.996%	3.402%	5.505%	15.076%	24.315%	19.087%	30.678%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.262%	0.175%	0.524%	1.136%	3.846%	4.808%	14.991%	24.257%	19.012%	30.988%
2	0.270%	0.270%	0.270%	0.899%	3.058%	6.835%	15.198%	23.921%	19.065%	30.216%
3	0.735%	0.000%	0.735%	0.000%	0.735%	4.412%	16.912%	25.735%	19.853%	30.882%
4	0.000%	0.000%	1.333%	0.000%	0.000%	9.333%	13.333%	28.000%	20.000%	28.000%

【クロス表に関する結果(全学共通科目：学生所属別)】

全学共通科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生意欲」とのクロス表(表1：回答数、表2：パーセント)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。右端の列(4+5)に、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることがみてとれる。まず、右端の列の数字(1→5→56→866→2037)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値の上昇が顕著になる。

教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(3→10→136→792→1025)も互いに上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目(学生所属別)】クロス集計 (【学生意欲】×【教員熱意】) [回答数]

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強く思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	3	1	1	0	1	6	1
	2 どちらかと言えばそう思わない	1	10	11	4	1	27	5
	3 どちらとも言えない	3	15	136	45	11	210	56
	4 どちらかと言えばそう思う	4	44	224	792	74	1,138	866
	5 強く思う	8	34	162	1,012	1,025	2,241	2,037
合計	19	104	534	1,853	1,112	3,622	2,965	

表 2

●【全学共通科目(学生所属別)】クロス集計 (【学生意欲】×【教員熱意】) [パーセント]

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強く思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	50.000%	16.667%	16.667%	0.000%	16.667%	100.000%	16.667%
	2 どちらかと言えばそう思わない	3.704%	37.037%	40.741%	14.815%	3.704%	100.000%	18.519%
	3 どちらとも言えない	1.429%	7.143%	64.762%	21.429%	5.238%	100.000%	26.667%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.351%	3.866%	19.684%	69.596%	6.503%	100.000%	76.098%
	5 強く思う	0.357%	1.517%	7.229%	45.158%	45.739%	100.000%	90.897%

【相関係数表に関する結果(全学共通科目：学生所属別)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、全学共通科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長感覚」との間に弱い正の相関関係 0.57 がみとれ、正の相関関係の順に「学生意欲 0.52」「教員熱意 0.50」「シラバス通り 0.43」「FB 丁寧 0.38」となっている。逆に言えば、「成長感覚」を促せなければ「総合満足度」の向上もないということになる。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.57 がみられた。正の相関関係順に、「学生意欲 0.56」「シラバス通り 0.44」「FB 丁寧 0.41」と続く。つまり、教員の熱意を学生が受け止めることで「成長感覚」の向上につながることを示している。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えている。ただし、相関関係は強いとはいえ、弱い関係であることが示された。全

学共通科目の「成長感覚」に対する学生の認識は、前期は強い相関関係がみられたが、後期は相関関係が低下している結果となった。

●【全学共通科目〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラパス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラパス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.050	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.387	0.055	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.392	-0.093	0.406	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.430	-0.014	0.416	0.467	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.436	-0.055	0.409	0.558	0.568	1.000	
Q8	【総合満足】	0.428	-0.164	0.380	0.520	0.502	0.574	1.000

【全学共通科目（人文系）（学生所属別）】

人文系科目の回答率は 38.09%と、全学共通科目（以下、全共科目と表記）全体 34.28%よりも高い数値であったが、2025 年度前期(44.26%)と比較すると減少した。回答率の高かった学科は社会学科で、52.08%であった。他に 50%を超えた学科は日本文学科 51.98%、書道学科 51.22%、法律学科 50.62%であった。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	171	158	329	51.976%
中国文学科	6	20	26	23.077%
英米文学科	92	132	224	41.071%
教育学科	27	119	146	18.493%
書道学科	21	20	41	51.220%
歴史文化学科	46	62	108	42.593%
社会経済学科	93	187	280	33.214%
現代経済学科	72	133	205	35.122%
中国語学科	38	57	95	40.000%
英語学科	108	203	311	34.727%
日本語学科	38	60	98	38.776%
法律学科	122	119	241	50.622%
政治学科	77	118	195	39.487%
国際関係学科	39	73	112	34.821%
国際文化学科	40	60	100	40.000%
経営学科	154	343	497	30.986%
スポーツ科学科	55	109	164	33.537%
健康科学科	12	39	51	23.529%
看護学科	17	19	36	47.222%
社会学科	50	46	96	52.083%
全学	1,278	2,077	3,355	38.092%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	769	1,020	1,789	42.985%
2	425	746	1,171	36.294%
3	53	144	197	26.904%
4	30	167	197	15.228%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

人文系科目のシラバス既知率は 86.56%と、全共科目の全体 81.97%よりも高い数値であり、4つの履修科目系の中で最も高い既知率を示している。なかでも、看護学科の既知率は 100.00%であった。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.442%	82.558%
中国文学科	16.667%	83.333%
英米文学科	7.609%	92.391%
教育学科	25.926%	74.074%
書道学科	9.091%	90.909%
歴史文化学科	13.043%	86.957%
社会経済学科	14.130%	85.870%
現代経済学科	2.778%	97.222%
中国語学科	5.263%	94.737%
英語学科	20.370%	79.630%
日本語学科	15.789%	84.211%
法律学科	16.393%	83.607%
政治学科	13.924%	86.076%
国際関係学科	7.895%	92.105%
国際文化学科	7.500%	92.500%
経営学科	12.987%	87.013%
スポーツ科学科	11.111%	88.889%
健康科学科	16.667%	83.333%
看護学科	0.000%	100.000%
社会学科	17.647%	82.353%
全学	13.438%	86.563%

学年	1	2
1	13.359%	86.641%
2	13.850%	86.150%
3	11.538%	88.462%
4	13.333%	86.667%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の平均合計が9割を超えており(92.07%)、シラバス記述通りの平均値も 4.40 となっている。ただし、中国文学科の分布をみると「1」から「4」までは 0.00%、「5」で 100.00%を示している。

変動係数は「Q6」を除くと、他の質問項目に比べて学科間の格差も大きくない(平均：15.94%)。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	148	4.405	0.715	16.232%
中国文学科	5	5.000	0.000	0.000%
英米文学科	86	4.512	0.544	12.067%
教育学科	21	4.571	0.495	10.825%
書道学科	22	4.318	0.700	16.205%
歴史文化学科	43	4.372	0.611	13.972%
社会経済学科	84	4.369	0.799	18.276%
現代経済学科	71	4.437	0.666	15.005%
中国語学科	36	4.444	0.598	13.463%
英語学科	92	4.424	0.594	13.428%
日本語学科	32	4.594	0.551	11.997%
法律学科	113	4.327	0.814	18.812%
政治学科	71	4.324	0.687	15.898%
国際関係学科	37	4.324	0.807	18.666%
国際文化学科	37	4.568	0.638	13.978%
経営学科	143	4.287	0.772	18.011%
スポーツ科学科	49	4.490	0.610	13.591%
健康科学科	10	4.400	0.663	15.076%
看護学科	16	4.313	0.583	13.518%
社会学科	44	4.250	0.742	17.468%
全学	1,160	4.395	0.700	15.939%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	701	4.395	0.702
2	381	4.373	0.693
3	49	4.510	0.759
4	28	4.464	0.626

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.676%	1.351%	5.405%	41.892%	50.676%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	2.326%	44.186%	53.488%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	42.857%	57.143%
書道学科	0.000%	0.000%	13.636%	40.909%	45.455%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	6.977%	48.837%	44.186%
社会経済学科	2.381%	0.000%	5.952%	41.667%	50.000%
現代経済学科	0.000%	1.408%	5.634%	40.845%	52.113%
中国語学科	0.000%	0.000%	5.556%	44.444%	50.000%
英語学科	0.000%	0.000%	5.435%	46.739%	47.826%
日本語学科	0.000%	0.000%	3.125%	34.375%	62.500%
法律学科	0.885%	3.540%	6.195%	40.708%	48.673%
政治学科	1.408%	0.000%	4.225%	53.521%	40.845%
国際関係学科	2.703%	0.000%	5.405%	45.946%	45.946%
国際文化学科	0.000%	0.000%	8.108%	27.027%	64.865%
経営学科	0.000%	2.797%	11.189%	40.559%	45.455%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	6.122%	38.776%	55.102%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.000%	40.000%	50.000%
看護学科	0.000%	0.000%	6.250%	56.250%	37.500%
社会学科	0.000%	2.273%	11.364%	45.455%	40.909%
全学	0.517%	1.034%	6.379%	42.586%	49.483%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.571%	0.999%	6.277%	42.653%	49.501%
2	0.262%	1.312%	6.824%	44.094%	47.507%
3	2.041%	0.000%	4.082%	32.653%	61.224%
4	0.000%	0.000%	7.143%	39.286%	53.571%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 44.38%であった。最小 23.91%(歴史文化学科)から最大 66.67%(中国文学科・教育学科)の間に分布している。「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は 2.42%、最小 0.00%(中国文学科・英米文学科・中国語学科・日本語学科・健康科学科・看護学科の 6 学科)から最大 5.06%(政

治学科)の間に分布している。

全共科目全体の回答分布と比較すると、「3適切であった」が多いとはいえ、学科間の相違が顕著となった。授業を難しいと認識する層「4と5」の回答分布割合の合計を全学共通科目の全体と比較してみると、大幅に増えているのは、中国文学科(全共全体 46.88%→人文系 66.67%)、教育学科(51.55%→66.67%)、日本語学科(42.68%→50.00%)、健康科学科(37.93%→50.00%)、看護学科(39.18%→64.71%)の5学科であった。それと共に、「3」が大幅に減少しているのは中国文学科(全共全体 53.13%→33.33%)、教育学科(41.62%→29.63%)、看護学科(49.49%→35.29%)であった。このように、他学科と異なる結果から言えるのは学生の所属学科にかかわらず、人文系科目の授業内容を難しいと認識している学生が多いことが確認できる。

変動係数の平均値(20.34%)を下回っている(バラツキが小さい)のは13学科であった(英米文学科・教育学科・歴史文化学科・現代経済学科・中国語学科・英語学科・日本語学科・国際関係学科・国際文化学科・経営学科・健康科学科・看護学科・社会学科)。この結果を、学科別回答分布を重ねると、13学科中の5学科(英米文学科・中国語学科・日本語学科・健康科学科・看護学科)と中国文学科が「1」と「2」の分布割合が0.00%となっている。つまり、これらの学科は人文系科目の授業に対して難しいという認識に偏っていることがわかる。変動係数が平均(20.34%)より低く、バラツキが小さくても、留意が必要である。授業が難しいという認識に偏っていることがわかる。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	172	3.483	0.743	21.334%
中国文学科	6	4.000	0.816	20.412%
英米文学科	92	3.489	0.634	18.173%
教育学科	27	3.741	0.699	18.681%
書道学科	22	3.409	0.717	21.040%
歴史文化学科	46	3.239	0.597	18.417%
社会経済学科	92	3.565	0.770	21.610%
現代経済学科	72	3.458	0.686	19.834%
中国語学科	38	3.526	0.678	19.230%
英語学科	108	3.593	0.667	18.571%
日本語学科	38	3.658	0.735	20.105%
法律学科	122	3.541	0.791	22.333%
政治学科	79	3.392	0.736	21.706%
国際関係学科	39	3.385	0.665	19.639%
国際文化学科	40	3.500	0.671	19.166%
経営学科	154	3.597	0.689	19.144%
スポーツ科学科	55	3.545	0.758	21.391%
健康科学科	12	3.583	0.640	17.863%
看護学科	17	3.765	0.644	17.116%
社会学科	51	3.412	0.632	18.516%
全学	1,282	3.517	0.715	20.340%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	772	3.556	0.743
2	426	3.453	0.671
3	53	3.453	0.689
4	30	3.533	0.562

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.581%	2.907%	54.651%	31.395%	10.465%
中国文学科	0.000%	0.000%	33.333%	33.333%	33.333%
英米文学科	0.000%	0.000%	58.696%	33.696%	7.609%
教育学科	0.000%	3.704%	29.630%	55.556%	11.111%
書道学科	0.000%	4.545%	59.091%	27.273%	9.091%
歴史文化学科	0.000%	4.348%	71.739%	19.565%	4.348%
社会経済学科	1.087%	0.000%	54.348%	30.435%	14.130%
現代経済学科	0.000%	2.778%	56.944%	31.944%	8.333%
中国語学科	0.000%	0.000%	57.895%	31.579%	10.526%
英語学科	0.000%	0.926%	48.148%	41.667%	9.259%
日本語学科	0.000%	0.000%	50.000%	34.211%	15.789%
法律学科	0.000%	4.918%	50.000%	31.148%	13.934%
政治学科	1.266%	3.797%	56.962%	30.380%	7.595%
国際関係学科	0.000%	2.564%	64.103%	25.641%	7.692%
国際文化学科	0.000%	2.500%	52.500%	37.500%	7.500%
経営学科	0.000%	0.649%	50.000%	38.312%	11.039%
スポーツ科学科	1.818%	1.818%	45.455%	41.818%	9.091%
健康科学科	0.000%	0.000%	50.000%	41.667%	8.333%
看護学科	0.000%	0.000%	35.294%	52.941%	11.765%
社会学科	0.000%	3.922%	54.902%	37.255%	3.922%
全学	0.312%	2.106%	53.198%	34.321%	10.062%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.389%	2.461%	50.000%	35.492%	11.658%
2	0.235%	1.878%	57.746%	32.629%	7.512%
3	0.000%	0.000%	66.038%	22.642%	11.321%
4	0.000%	0.000%	50.000%	46.667%	3.333%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

「2 質問したことがある」と答えた割合は 10.00%(人文系平均)で、全共科目全体の平均 10.65%に比べると、僅かに低い結果となった。社会経済学科の「質問したことがある」割合は僅か 2.15%と、特に低い。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	92.857%	7.143%
中国文学科	83.333%	16.667%
英米文学科	94.565%	5.435%
教育学科	88.889%	11.111%
書道学科	81.818%	18.182%
歴史文化学科	84.783%	15.217%
社会経済学科	97.849%	2.151%
現代経済学科	91.667%	8.333%
中国語学科	83.784%	16.216%
英語学科	87.850%	12.150%
日本語学科	86.486%	13.514%
法律学科	88.983%	11.017%
政治学科	87.342%	12.658%
国際関係学科	89.744%	10.256%
国際文化学科	80.000%	20.000%
経営学科	90.132%	9.868%
スポーツ科学科	87.273%	12.727%
健康科学科	91.667%	8.333%
看護学科	94.118%	5.882%
社会学科	92.157%	7.843%
全学	90.000%	10.000%

学年	1	2
1	91.242%	8.758%
2	89.311%	10.689%
3	86.792%	13.208%
4	73.333%	26.667%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強く思う」と「4 どちらかと言えば思う」を回答した比率の合計が 6 割を超えており(63.54%)、学生の授業認識は教員の対応を評価している。

全共科目全体では「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」が 0.00%の学科は 5 学科(中国文学科、教育学科、日本語学科、政治学科、国際文化学科)であった。これに対して、人文系の科目に限定すると、「1 と 2」の分布割合が 0.00%の学科 12 学科と大幅に増える(中国文学科、英米文学科、教育学科、書道学科、歴史文化学科、社会経済学科、日本語学科、政治学科、国際文化学科、健康科学科、看護学科、社会学科)。質問する学生は少ないが、それでも学生は教員の質問対応を高く評価している。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	3.894	1.057	27.136%
中国文学科	3	4.000	0.816	20.412%
英米文学科	39	3.872	0.882	22.788%
教育学科	5	4.200	0.980	23.328%
書道学科	10	3.600	0.800	22.222%
歴史文化学科	13	4.308	0.821	19.066%
社会経済学科	28	4.036	0.865	21.441%
現代経済学科	26	3.769	0.890	23.624%
中国語学科	14	4.000	1.000	25.000%
英語学科	48	4.104	0.918	22.375%
日本語学科	10	4.300	0.781	18.163%
法律学科	46	4.043	1.083	26.774%
政治学科	36	3.944	0.815	20.652%
国際関係学科	17	3.882	1.078	27.773%
国際文化学科	17	4.412	0.844	19.137%
経営学科	65	3.938	0.875	22.214%
スポーツ科学科	25	3.880	1.143	29.449%
健康科学科	6	4.000	0.577	14.434%
看護学科	11	4.091	0.900	21.999%
社会学科	14	3.929	0.884	22.490%
全学	480	3.983	0.949	23.813%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	296	3.963	0.924
2	152	3.993	0.997
3	20	4.050	0.973
4	12	4.250	0.829

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	4.255%	2.128%	29.787%	27.660%	36.170%
中国文学科	0.000%	0.000%	33.333%	33.333%	33.333%
英米文学科	0.000%	0.000%	46.154%	20.513%	33.333%
教育学科	0.000%	0.000%	40.000%	0.000%	60.000%
書道学科	0.000%	0.000%	60.000%	20.000%	20.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	23.077%	23.077%	53.846%
社会経済学科	0.000%	0.000%	35.714%	25.000%	39.286%
現代経済学科	0.000%	3.846%	42.308%	26.923%	26.923%
中国語学科	0.000%	7.143%	28.571%	21.429%	42.857%
英語学科	0.000%	2.083%	31.250%	20.833%	45.833%
日本語学科	0.000%	0.000%	20.000%	30.000%	50.000%
法律学科	4.348%	0.000%	30.435%	17.391%	47.826%
政治学科	0.000%	0.000%	36.111%	33.333%	30.556%
国際関係学科	5.882%	0.000%	29.412%	29.412%	35.294%
国際文化学科	0.000%	0.000%	23.529%	11.765%	64.706%
経営学科	0.000%	1.538%	36.923%	27.692%	33.846%
スポーツ科学科	8.000%	0.000%	24.000%	32.000%	36.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	16.667%	66.667%	16.667%
看護学科	0.000%	0.000%	36.364%	18.182%	45.455%
社会学科	0.000%	0.000%	42.857%	21.429%	35.714%
全学	1.458%	1.042%	33.958%	24.792%	38.750%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.014%	1.014%	35.473%	25.676%	36.824%
2	1.974%	1.316%	34.211%	20.395%	42.105%
3	5.000%	0.000%	15.000%	45.000%	35.000%
4	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計(人文系の全学平均)が 82.79%と、学生は自身の熱意を高く認識している。全共科目全体の分布割合の合計(全学平均：81.87%)に比べても、高い水準であった。

そのなかで、全共科目全体に比べて、「3 どちらとも言えない」の分布割合が、教育学科、中国語学科、経営学科、スポーツ科学科、看護学科の5学科は増加した。中国文学科、現代経済学科、中国語学科、英語学科、政治学科、国際関係学科の6学科は「4」の分布割合が減少したが、他学科は増加している。学生の多くは人文系の科目に真面目に取り組んだことがわかる。

一方で、中国文学科と書道学科は「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の割合合計がそれぞれ16.67%と13.64%となり、人文系の全体平均3.13%と比べてみても、非常に高い水準を表し、人文系科目に対する意欲の低い学生の分布割合が多いという結果になった。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	171	4.099	0.770	18.776%
中国文学科	6	4.000	1.155	28.868%
英米文学科	92	4.087	0.654	15.993%
教育学科	27	3.889	0.737	18.952%
書道学科	22	3.818	1.029	26.937%
歴史文化学科	45	4.067	0.646	15.894%
社会経済学科	93	4.000	0.762	19.050%
現代経済学科	72	4.153	0.660	15.882%
中国語学科	38	4.000	0.795	19.868%
英語学科	107	4.140	0.848	20.476%
日本語学科	38	4.053	0.686	16.933%
法律学科	121	4.223	0.698	16.531%
政治学科	79	4.177	0.742	17.768%
国際関係学科	39	4.128	0.939	22.737%
国際文化学科	40	4.225	0.651	15.419%
経営学科	153	3.967	0.820	20.665%
スポーツ科学科	55	4.073	0.759	18.643%
健康科学科	12	4.083	0.759	18.593%
看護学科	17	3.941	0.872	22.138%
社会学科	51	4.020	0.641	15.957%
全学	1,278	4.081	0.766	18.764%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	769	4.094	0.763
2	425	4.031	0.777
3	53	4.245	0.724
4	30	4.167	0.687

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.170%	1.754%	12.865%	54.386%	29.825%
中国文学科	0.000%	16.667%	16.667%	16.667%	50.000%
英米文学科	1.087%	0.000%	10.870%	65.217%	22.826%
教育学科	0.000%	3.704%	22.222%	55.556%	18.519%
書道学科	4.545%	9.091%	9.091%	54.545%	22.727%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	17.778%	57.778%	24.444%
社会経済学科	1.075%	3.226%	12.903%	60.215%	22.581%
現代経済学科	0.000%	0.000%	15.278%	54.167%	30.556%
中国語学科	0.000%	2.632%	23.684%	44.737%	28.947%
英語学科	1.869%	2.804%	10.280%	49.533%	35.514%
日本語学科	0.000%	2.632%	13.158%	60.526%	23.684%
法律学科	0.000%	1.653%	10.744%	51.240%	36.364%
政治学科	0.000%	2.532%	12.658%	49.367%	35.443%
国際関係学科	2.564%	5.128%	7.692%	46.154%	38.462%
国際文化学科	0.000%	0.000%	12.500%	52.500%	35.000%
経営学科	0.654%	3.922%	19.608%	49.673%	26.144%
スポーツ科学科	0.000%	1.818%	20.000%	47.273%	30.909%
健康科学科	0.000%	8.333%	0.000%	66.667%	25.000%
看護学科	0.000%	5.882%	23.529%	41.176%	29.412%
社会学科	0.000%	1.961%	13.725%	64.706%	19.608%
全学	0.704%	2.426%	14.085%	53.599%	29.186%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.390%	2.731%	14.304%	52.276%	30.299%
2	1.176%	2.118%	15.294%	55.294%	26.118%
3	1.887%	0.000%	5.660%	56.604%	35.849%
4	0.000%	3.333%	6.667%	60.000%	30.000%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 90% を超えており (94.54%)、学生の授業認識は教員の熱意を高く評価していると言える。教員熱意に関する学科別の学生認識の全学平均値(人文系)は 4.58 となっている。

特に、学科別回答分布の「1」は日本文学科(0.58%)と書道学科(4.55%)、国際関係学科

(5.13%)の3学科以外、全ての学科が0.00%を示している(平均:0.31%)。回答分布割合の「2」は政治学科2.53%、社会学科1.96%、英語学科1.85%、現代経済学科1.39%、英米文学科1.09%、法律学科0.82%、日本文学科0.58%以外の13学科は0.00%であった。この結果は教員の熱意を評価する学生の分布割合が多いことを表している。

【全学共通科目(人文系)〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	172	4.663	0.622	13.329%
中国文学科	6	5.000	0.000	0.000%
英米文学科	92	4.652	0.579	12.451%
教育学科	27	4.667	0.544	11.664%
書道学科	22	4.409	0.937	21.253%
歴史文化学科	46	4.457	0.579	12.989%
社会経済学科	93	4.570	0.575	12.592%
現代経済学科	72	4.611	0.614	13.308%
中国語学科	38	4.579	0.544	11.890%
英語学科	108	4.630	0.632	13.659%
日本語学科	38	4.553	0.594	13.041%
法律学科	122	4.516	0.630	13.956%
政治学科	79	4.468	0.709	15.859%
国際関係学科	39	4.436	0.982	22.132%
国際文化学科	40	4.600	0.663	14.420%
経営学科	154	4.571	0.612	13.392%
スポーツ科学科	55	4.564	0.626	13.709%
健康科学科	12	4.500	0.500	11.111%
看護学科	17	4.647	0.681	14.653%
社会学科	51	4.490	0.668	14.873%
全学	1,283	4.575	0.642	14.041%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	773	4.552	0.635
2	426	4.529	0.657
3	53	4.575	0.712
4	30	4.500	0.499

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.581%	0.581%	2.907%	23.837%	72.093%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
英米文学科	0.000%	1.087%	2.174%	27.174%	69.565%
教育学科	0.000%	0.000%	3.704%	25.926%	70.370%
書道学科	4.545%	0.000%	4.545%	31.818%	59.091%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	4.348%	45.652%	50.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	4.301%	34.409%	61.290%
現代経済学科	0.000%	1.389%	2.778%	29.167%	66.667%
中国語学科	0.000%	0.000%	2.632%	36.842%	60.526%
英語学科	0.000%	1.852%	2.778%	25.926%	69.444%
日本語学科	0.000%	0.000%	5.263%	34.211%	60.526%
法律学科	0.000%	0.820%	4.918%	36.066%	58.197%
政治学科	0.000%	2.532%	5.063%	35.443%	56.962%
国際関係学科	5.128%	0.000%	5.128%	25.641%	64.103%
国際文化学科	0.000%	0.000%	10.000%	20.000%	70.000%
経営学科	0.000%	0.000%	6.494%	29.870%	63.636%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	7.273%	29.091%	63.636%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
看護学科	0.000%	0.000%	11.765%	11.765%	76.471%
社会学科	0.000%	1.961%	3.922%	37.255%	56.863%
全学	0.312%	0.701%	4.443%	30.242%	64.302%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.129%	0.906%	4.398%	30.789%	63.777%
2	0.469%	0.469%	5.164%	28.169%	65.728%
3	1.887%	0.000%	1.887%	30.189%	66.038%
4	0.000%	0.000%	0.000%	46.667%	53.333%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

成長感覚の学科別の平均値(人文系科目)は4.29であった。回答分布割合の「5 強く思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布の割合合計(人文系平均:89.40%)が約90%を示しているため、学生が自身の成長感覚を高く認識していると言える。一方、「1 まった

くそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の分布割合合計が 0.00%であったのは、中国文学科、教育学科、中国語学科、日本語学科、法律学科、政治学科、国際文化学科、健康科学科、看護学科の 9 学科であった。「1 と 2」の回答分布割合の合計が社会経済学科 6.45%、国際関係学科 5.13%、書道学科 4.55%は他学科より高い分布割合を示している。

これらの学科は変動係数(書道学科 20.09%、社会経済学科 22.53%、国際関係学科 19.77%)も、人文系の平均値 17.30%を大きく上回っていることから、バラツキが大きく、評価が各点に分散していると言える。

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	172	4.384	0.788	17.965%
中国文学科	6	4.667	0.745	15.972%
英米文学科	92	4.283	0.681	15.899%
教育学科	27	4.222	0.685	16.222%
書道学科	22	4.227	0.849	20.088%
歴史文化学科	46	4.239	0.757	17.861%
社会経済学科	93	4.129	0.930	22.526%
現代経済学科	72	4.375	0.655	14.968%
中国語学科	38	4.263	0.676	15.858%
英語学科	108	4.204	0.825	19.627%
日本語学科	38	4.474	0.595	13.310%
法律学科	122	4.320	0.669	15.477%
政治学科	79	4.304	0.663	15.401%
国際関係学科	39	4.359	0.862	19.774%
国際文化学科	40	4.400	0.663	15.076%
経営学科	154	4.292	0.683	15.914%
スポーツ科学科	55	4.255	0.719	16.901%
健康科学科	12	4.167	0.687	16.492%
看護学科	17	4.294	0.666	15.498%
社会学科	51	4.157	0.697	16.757%
全学	1,283	4.292	0.742	17.297%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	773	4.278	0.743
2	426	4.284	0.752
3	53	4.453	0.715
4	30	4.433	0.559

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.744%	1.163%	5.233%	40.698%	51.163%
中国文学科	0.000%	0.000%	16.667%	0.000%	83.333%
英米文学科	1.087%	1.087%	3.261%	57.609%	36.957%
教育学科	0.000%	0.000%	14.815%	48.148%	37.037%
書道学科	4.545%	0.000%	0.000%	59.091%	36.364%
歴史文化学科	0.000%	2.174%	13.043%	43.478%	41.304%
社会経済学科	3.226%	3.226%	8.602%	47.312%	37.634%
現代経済学科	0.000%	1.389%	5.556%	47.222%	45.833%
中国語学科	0.000%	0.000%	13.158%	47.368%	39.474%
英語学科	0.926%	3.704%	9.259%	46.296%	39.815%
日本語学科	0.000%	0.000%	5.263%	42.105%	52.632%
法律学科	0.000%	0.000%	11.475%	45.082%	43.443%
政治学科	0.000%	0.000%	11.392%	46.835%	41.772%
国際関係学科	2.564%	2.564%	2.564%	41.026%	51.282%
国際文化学科	0.000%	0.000%	10.000%	40.000%	50.000%
経営学科	0.000%	0.649%	11.039%	46.753%	41.558%
スポーツ科学科	0.000%	1.818%	10.909%	47.273%	40.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	16.667%	50.000%	33.333%
看護学科	0.000%	0.000%	11.765%	47.059%	41.176%
社会学科	1.961%	0.000%	5.882%	64.706%	27.451%
全学	0.857%	1.169%	8.574%	46.765%	42.634%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.776%	1.164%	9.444%	46.701%	41.915%
2	0.939%	1.408%	8.216%	47.183%	42.254%
3	1.887%	0.000%	1.887%	43.396%	52.830%
4	0.000%	0.000%	3.333%	50.000%	46.667%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

総合満足の学科別の平均値(人文系科目)は8.30となっている。満足度の高い10から8までの回答分布の割合合計(人文系平均)は72.77%で、人文系の科目に対して総合的に満足していると言える。中位の7から5の割合合計(人文系平均)が25.43%で、全共科目全

体の平均(23.98%)よりもやや高かった。満足度の低い「1」から「3」の回答分布割合の合計(人文系平均：1.17%)は全共科目全体の平均(0.94%)に比べても高い数値であった。

変動係数を用いて総合満足度を判断すると、次のように説明できる。まず、変動係数の平均値(19.35%)を上回り、バラツキの大きさが示された学科は、看護学科 32.32%、書道学科 24.97%、国際関係学科 24.17%、スポーツ科学科 22.01%、社会経済学科 21.69%、中国語学科 21.48%、政治学科 21.38%、現代経済学科 19.56%、英語学科 19.54%の9学科であった。満足度が各点に分散しているとも言える。

次に、変動係数が平均値以下で、「10」から「8」までの回答分布割合の合計が人文系の全体平均(72.77%)よりも高い結果を示したのは、中国文学科、英米文学科、現代経済学科、日本語学科、法律学科、健康科学科の6学科であった。人文系の科目に対して、これらの学科の学生の総合満足度が高く示される結果となった。

【全学共通科目(人文系)〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	171	8.515	1.519	17.843%
中国文学科	6	9.167	0.898	9.791%
英米文学科	92	8.337	1.393	16.710%
教育学科	27	8.333	1.277	15.319%
書道学科	21	7.905	1.974	24.969%
歴史文化学科	46	8.457	1.499	17.730%
社会経済学科	93	8.000	1.735	21.689%
現代経済学科	72	8.250	1.614	19.561%
中国語学科	38	8.026	1.724	21.482%
英語学科	108	8.324	1.626	19.538%
日本語学科	38	8.447	1.568	18.559%
法律学科	122	8.352	1.476	17.673%
政治学科	77	8.286	1.772	21.383%
国際関係学科	39	7.949	1.921	24.166%
国際文化学科	40	8.650	1.370	15.841%
経営学科	154	8.325	1.562	18.764%
スポーツ科学科	55	8.055	1.773	22.009%
健康科学科	12	8.583	0.640	7.457%
看護学科	17	7.765	2.509	32.319%
社会学科	50	8.200	1.342	16.361%
全学	1,278	8.297	1.605	19.346%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	769	8.307	1.602
2	425	8.285	1.647
3	53	8.302	1.537
4	30	8.233	1.174

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.585%	0.000%	0.585%	0.000%	4.094%	2.339%	13.450%	22.807%	23.392%	32.749%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	16.667%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.087%	2.174%	5.435%	18.478%	26.087%	19.565%	27.174%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.407%	22.222%	25.926%	18.519%	25.926%
書道学科	4.762%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.762%	23.810%	38.095%	0.000%	28.571%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.348%	6.522%	17.391%	19.565%	15.217%	36.957%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	2.151%	10.753%	6.452%	17.204%	20.430%	15.054%	27.957%
現代経済学科	0.000%	1.389%	0.000%	1.389%	2.778%	6.944%	12.500%	29.167%	18.056%	27.778%
中国語学科	0.000%	0.000%	2.632%	2.632%	5.263%	5.263%	13.158%	26.316%	23.684%	21.053%
英語学科	0.000%	0.000%	1.852%	0.000%	3.704%	7.407%	15.741%	21.296%	16.667%	33.333%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.263%	10.526%	10.526%	18.421%	18.421%	36.842%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.820%	3.279%	9.016%	13.934%	21.311%	22.951%	28.689%
政治学科	1.299%	0.000%	1.299%	1.299%	2.597%	6.494%	10.390%	28.571%	15.584%	32.468%
国際関係学科	2.564%	2.564%	0.000%	0.000%	0.000%	7.692%	17.949%	28.205%	20.513%	20.513%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.500%	5.000%	20.000%	2.500%	37.500%	32.500%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.649%	6.494%	5.844%	14.935%	24.026%	14.935%	33.117%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	3.636%	0.000%	5.455%	5.455%	20.000%	25.455%	9.091%	30.909%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	41.667%	8.333%
看護学科	5.882%	5.882%	0.000%	0.000%	0.000%	5.882%	5.882%	23.529%	35.294%	17.647%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.000%	10.000%	18.000%	28.000%	20.000%	22.000%
全学	0.391%	0.235%	0.548%	0.626%	4.069%	6.182%	15.180%	23.787%	19.092%	29.890%

【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.260%	0.260%	0.650%	0.650%	4.811%	5.072%	14.824%	23.927%	19.766%	29.779%
2	0.471%	0.235%	0.471%	0.706%	3.529%	8.706%	14.353%	22.353%	17.647%	31.529%
3	1.887%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.887%	24.528%	24.528%	22.642%	24.528%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.667%	20.000%	36.667%	16.667%	20.000%

【クロス表に関する結果(人文系)】

人文系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(赤字:0→3→11→299→745)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字:3→5→40→277→348)からも互いに

上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員の熱意を感じるようになると、自分の意欲も強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（人文系）（学生所属別）】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【回答数】

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	3	1	0	0	0	4	0
	2 どちらかと言えばそう思わない	0	5	1	3	0	9	3
	3 どちらとも言えない	2	4	40	8	3	57	11
	4 どちらかと言えばそう思う	2	11	75	277	22	387	299
	5 強くそう思う	2	10	64	397	348	821	745
合計	9	31	180	685	373	1,278	1,058	

表 2

●【全学共通科目（人文系）（学生所属別）】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	75.000%	25.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
	2 どちらかと言えばそう思わない	0.000%	55.556%	11.111%	33.333%	0.000%	100.000%	33.333%
	3 どちらとも言えない	3.509%	7.018%	70.175%	14.035%	5.263%	100.000%	19.298%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.517%	2.842%	19.380%	71.576%	5.685%	100.000%	77.261%
	5 強くそう思う	0.244%	1.218%	7.795%	48.356%	42.387%	100.000%	90.743%

【相関係数表に関する結果(人文系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」に対する人文系科目を履修している学生の授業認識は、特に「成長感覚」との間に弱い正の相関関係 0.57 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.51」・「学生意欲 0.50」・「FB 丁寧 0.45」・「シラバス通り 0.42」となっている。この結果から、「総合満足度」の向上は、「成長感覚を持てるかどうか」が、最も強く影響することを示しているものの、これらは弱い相関関係である。

次に、「成長感覚」との相関関係順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.59 がみられた。正の相関関係順に、「学生意欲 0.58」「FB 丁寧 0.48」「シラバス通り 0.47」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか弱く影響することを示している。「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えているという弱い相関関係が示された。

●【全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.061	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.385	0.007	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.394	-0.055	0.486	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.439	-0.058	0.431	0.483	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.472	-0.092	0.480	0.575	0.591	1.000	
Q8	【総合満足】	0.423	-0.160	0.446	0.497	0.507	0.571	1.000

【全学共通科目（社会系）（学生所属別）】

回答率は33.93%であり、全共科目全体の34.28%に比べ低い結果となった。特に、スポーツ科学科22.06%、国際関係学科25.56%、経営学科25.74%、健康科学科27.06%、中国語学科27.94%、英語学科28.83%、英米文学科29.86%の7学科は30%に満たず、低い回答率であった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	125	128	253	49.407%
中国文学科	15	18	33	45.455%
英米文学科	63	148	211	29.858%
教育学科	91	184	275	33.091%
書道学科	39	23	62	62.903%
歴史文化学科	42	53	95	44.211%
社会経済学科	114	240	354	32.203%
現代経済学科	110	206	316	34.810%
中国語学科	38	98	136	27.941%
英語学科	79	195	274	28.832%
日本語学科	24	51	75	32.000%
法律学科	134	176	310	43.226%
政治学科	101	190	291	34.708%
国際関係学科	34	99	133	25.564%
国際文化学科	30	67	97	30.928%
経営学科	156	450	606	25.743%
スポーツ科学科	60	212	272	22.059%
健康科学科	23	62	85	27.059%
看護学科	26	33	59	44.068%
社会学科	116	132	248	46.774%
全学	1,420	2,765	4,185	33.931%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	943	1,363	2,306	40.893%
2	387	1,013	1,400	27.643%
3	58	224	282	20.567%
4	32	164	196	16.327%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

社会系科目のシラバス既知率は77.98%で、全共科目全体81.97%に比べると、2025年度前期と同様に低い傾向を示している。法律学科59.70%、健康科学科60.87%、教育学科69.57%の3学科は70%に満たない結果であった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	16.667%	83.333%
中国文学科	0.000%	100.000%
英米文学科	25.397%	74.603%
教育学科	30.435%	69.565%
書道学科	12.821%	87.179%
歴史文化学科	16.667%	83.333%
社会経済学科	15.789%	84.211%
現代経済学科	16.364%	83.636%
中国語学科	10.256%	89.744%
英語学科	27.848%	72.152%
日本語学科	29.167%	70.833%
法律学科	40.299%	59.701%
政治学科	12.745%	87.255%
国際関係学科	5.714%	94.286%
国際文化学科	13.333%	86.667%
経営学科	23.567%	76.433%
スポーツ科学科	30.000%	70.000%
健康科学科	39.130%	60.870%
看護学科	7.692%	92.308%
社会学科	25.000%	75.000%
全学	22.020%	77.980%

学年	1	2
1	23.759%	76.241%
2	18.557%	81.443%
3	18.644%	81.356%
4	18.750%	81.250%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

学科別回答分布は、「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が概ね 9 割に近く(88.75%)、社会系科目のシラバスに対する認識の平均値も 4.33 であった。なお、全共科目全体の平均 4.40 と比べても大差はない。

健康科学科は 4 と 5 の分布割合合計が 77.78%で、他学科に比べて最も低かった。「1 まったくそう思わない(0.00%)」及び「2 どちらかと言えばそう思わない(5.56%)」と、「3 どちらとも言えない(16.67%)」の割合合計が 22.23%で、20 学科のなかで最も高い割合を示している。一方、中国文学科は「4 と 5」の分布割合合計が 100.00%で最も高く、「1 まったくそう思わない」及び「2 どちらかと言えばそう思わない」と、「3 どちらとも言えない」の分布割合の合計が 0.00%と、最も低い割合を示している。極端な二極化は、留意が必要であろう。

変動係数をみると、他の質問項目に比べても学科間の格差は大きくはなかった(16.97%)。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	106	4.387	0.667	15.202%
中国文学科	15	4.533	0.499	11.005%
英米文学科	54	4.315	0.716	16.583%
教育学科	72	4.292	0.824	19.198%
書道学科	35	4.200	0.748	17.817%
歴史文化学科	38	4.316	0.892	20.660%
社会経済学科	102	4.333	0.600	13.836%
現代経済学科	94	4.372	0.714	16.338%
中国語学科	38	4.474	0.850	19.006%
英語学科	66	4.227	0.755	17.853%
日本語学科	18	4.556	0.598	13.135%
法律学科	103	4.223	0.824	19.501%
政治学科	90	4.456	0.618	13.860%
国際関係学科	34	4.294	0.666	15.498%
国際文化学科	26	4.423	0.743	16.794%
経営学科	131	4.282	0.774	18.082%
スポーツ科学科	44	4.341	0.824	18.986%
健康科学科	18	4.111	0.875	21.281%
看護学科	24	4.583	0.571	12.465%
社会学科	92	4.304	0.671	15.599%
全学	1,200	4.333	0.735	16.966%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	789	4.305	0.766
2	334	4.374	0.675
3	49	4.469	0.610
4	28	4.357	0.666

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.943%	7.547%	43.396%	48.113%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	46.667%	53.333%
英米文学科	0.000%	1.852%	9.259%	44.444%	44.444%
教育学科	1.389%	0.000%	15.278%	34.722%	48.611%
書道学科	0.000%	2.857%	11.429%	48.571%	37.143%
歴史文化学科	2.632%	2.632%	5.263%	39.474%	50.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	6.863%	52.941%	40.196%
現代経済学科	0.000%	3.191%	4.255%	44.681%	47.872%
中国語学科	0.000%	5.263%	7.895%	21.053%	65.789%
英語学科	0.000%	4.545%	6.061%	51.515%	37.879%
日本語学科	0.000%	0.000%	5.556%	33.333%	61.111%
法律学科	0.000%	2.913%	16.505%	35.922%	44.660%
政治学科	0.000%	0.000%	6.667%	41.111%	52.222%
国際関係学科	0.000%	0.000%	11.765%	47.059%	41.176%
国際文化学科	0.000%	0.000%	15.385%	26.923%	57.692%
経営学科	0.000%	2.290%	12.977%	38.931%	45.802%
スポーツ科学科	0.000%	4.545%	9.091%	34.091%	52.273%
健康科学科	0.000%	5.556%	16.667%	38.889%	38.889%
看護学科	0.000%	0.000%	4.167%	33.333%	62.500%
社会学科	0.000%	2.174%	5.435%	52.174%	40.217%
全学	0.167%	1.917%	9.167%	42.000%	46.750%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.253%	2.535%	9.632%	41.572%	46.008%
2	0.000%	0.898%	8.383%	43.114%	47.605%
3	0.000%	0.000%	6.122%	40.816%	53.061%
4	0.000%	0.000%	10.714%	42.857%	46.429%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答分布の割合合計は 48.53%(社会系科目の全学平均)で、最小 42.86%(歴史文化学科)から最大 69.57%(健康科学科)の間に分布している。「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の割合合計は、最小 0.00%(中国文学科・書道学科・中国語学科・日本語学科・国際関係学科・スポーツ科学科)から最大 13.33%

(国際文化学科)の間に分布している(社会系科目の全学平均：2.74%)。授業内容の難易度に対する学科別評価の平均値は3.55であった。

授業の難易度に対する認識は、全共科目全体の数値はどの学科もほぼ同じような傾向を示すが、社会系科目に限定すると、次のような特徴が見られた。

全共科目全体の回答分布と比較すると、「3適切であった」が多いとはいえ、学科間の相違が顕著となった。具体的には、授業を難しいと認識する層(「4と5」の分布割合の合計)が全共科目全体の分布割合よりも大幅に増えているのは、歴史文化学科(全共全体30.53%→社会系42.86%)、政治学科(47.60%→53.92%)、国際関係学科(45.88%→57.14%)、スポーツ科学科(49.69%→62.71%)、健康科学科(37.93%→69.57%)、看護学科(39.18%→50.00%)の6学科であった。政治学科は「3」の分布割合が39.22%、「4」の分布割合が50.00%、健康科学科は「3」が26.09%、「4」が47.83%を示し、どちらも「4」が大幅に増加した。

一方、「3」の分布割合が大幅に減少しているのは歴史文化学科(全共全体64.12%→社会系54.76%)、政治学科(46.64%→39.22%)、国際関係学科(52.94%→42.86%)、国際文化学科(48.81%→43.33%)、スポーツ科学科(43.56%→37.29%)、健康科学科(56.90%→26.09%)の6学科であった。このように、学生の所属学科にかかわらず、社会系科目の授業内容を難しいと認識している学生が多いことが確認できる。

「1とても易しかった」と「2やや易しかった」の分布割合の合計が0.00%となっている学科は中国語学科、書道学科、中国語学科、日本語学科、国際関係学科、スポーツ科学科の6学科であった。

このように、回答分布から、社会系科目を履修している学生は授業内容を難しいと認識していることが確認できる。この授業認識の相違および格差が、変動係数から確認できる。変動係数の平均値(20.56%)を下回っているのは13学科であった(日本文学科、英米文学科、教育学科、書道学科、歴史文化学科、現代経済学科、日本語学科、政治学科、国際関係学科、経営学科、スポーツ科学科、看護学科、社会学科)。つまり、バラツキは小さいが、授業内容を難しいと捉える傾向にある。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	126	3.540	0.674	19.052%
中国文学科	15	3.667	0.789	21.513%
英米文学科	63	3.492	0.687	19.677%
教育学科	92	3.663	0.741	20.237%
書道学科	39	3.615	0.665	18.385%
歴史文化学科	42	3.429	0.583	17.010%
社会経済学科	114	3.491	0.752	21.544%
現代経済学科	110	3.536	0.709	20.060%
中国語学科	39	3.744	0.808	21.573%
英語学科	79	3.532	0.726	20.565%
日本語学科	24	3.542	0.644	18.188%
法律学科	134	3.493	0.770	22.053%
政治学科	102	3.500	0.711	20.302%
国際関係学科	35	3.714	0.700	18.842%
国際文化学科	30	3.267	0.892	27.304%
経営学科	156	3.519	0.702	19.956%
スポーツ科学科	59	3.847	0.755	19.622%
健康科学科	23	3.870	0.797	20.596%
看護学科	26	3.538	0.692	19.565%
社会学科	116	3.491	0.701	20.076%
全学	1,424	3.550	0.730	20.559%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	945	3.604	0.740
2	388	3.402	0.664
3	59	3.576	0.786
4	32	3.688	0.808

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.794%	53.968%	35.714%	9.524%
中国文学科	0.000%	0.000%	53.333%	26.667%	20.000%
英米文学科	0.000%	3.175%	52.381%	36.508%	7.937%
教育学科	0.000%	1.087%	46.739%	36.957%	15.217%
書道学科	0.000%	0.000%	48.718%	41.026%	10.256%
歴史文化学科	0.000%	2.381%	54.762%	40.476%	2.381%
社会経済学科	1.754%	3.509%	45.614%	42.105%	7.018%
現代経済学科	0.909%	1.818%	48.182%	40.909%	8.182%
中国語学科	0.000%	0.000%	48.718%	28.205%	23.077%
英語学科	0.000%	3.797%	49.367%	36.709%	10.127%
日本語学科	0.000%	0.000%	54.167%	37.500%	8.333%
法律学科	2.239%	0.746%	52.239%	35.075%	9.701%
政治学科	0.980%	5.882%	39.216%	50.000%	3.922%
国際関係学科	0.000%	0.000%	42.857%	42.857%	14.286%
国際文化学科	6.667%	6.667%	43.333%	40.000%	3.333%
経営学科	0.641%	1.282%	52.564%	36.538%	8.974%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	37.288%	40.678%	22.034%
健康科学科	0.000%	4.348%	26.087%	47.826%	21.739%
看護学科	0.000%	3.846%	46.154%	42.308%	7.692%
社会学科	0.862%	0.862%	55.172%	34.483%	8.621%
全学	0.772%	1.966%	48.736%	38.553%	9.972%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.847%	2.011%	43.915%	42.328%	10.899%
2	0.515%	2.320%	59.794%	31.186%	6.186%
3	1.695%	0.000%	50.847%	33.898%	13.559%
4	0.000%	0.000%	53.125%	25.000%	21.875%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全共科目全体と同様の傾向が見られるが、中国語学科の「2 質問したことがある」の回答割合が他の学科に比べて相対的に高く、25.64%であった(社会系科目の全学平均:9.75%)。

一方、法律学科 2.36%、国際文化学科 3.33%、看護学科 3.85%、歴史文化学科 4.88%と平均よりもかなり低い結果となった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	91.129%	8.871%
中国文学科	80.000%	20.000%
英米文学科	92.063%	7.937%
教育学科	89.011%	10.989%
書道学科	79.487%	20.513%
歴史文化学科	95.122%	4.878%
社会経済学科	90.991%	9.009%
現代経済学科	87.273%	12.727%
中国語学科	74.359%	25.641%
英語学科	92.405%	7.595%
日本語学科	91.304%	8.696%
法律学科	97.638%	2.362%
政治学科	91.089%	8.911%
国際関係学科	91.429%	8.571%
国際文化学科	96.667%	3.333%
経営学科	90.385%	9.615%
スポーツ科学科	85.965%	14.035%
健康科学科	82.609%	17.391%
看護学科	96.154%	3.846%
社会学科	89.565%	10.435%
全学	90.249%	9.751%

学年	1	2
1	89.807%	10.193%
2	91.623%	8.377%
3	91.525%	8.475%
4	84.375%	15.625%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

社会系科目の履修生が教員対応に対する学科別のフィードバック評価(全共科目平均：4.00)は3.95であった。

社会系科目の全学平均の「5強く思う」と「4どちらかと言えば思う」の回答割合分布の合計が62.23%で(全共科目の全体平均：64.92%)、学生が教員の対応を概ね評価していると言える。とはいえ、全体平均より低く、4つの科目系の中で最も低い水準であった。

「5」の回答分布割合が他の回答分布よりも高い学科は日本文学科、中国文学科、教育学科、現代経済学科、中国語学科、日本語学科、国際文化学科、健康科学科、看護学科の9学科であった。

学科別の変動係数が平均(23.89%)よりも高いのは英米文学科、書道学科、社会経済学科、法律学科、経営学科、スポーツ科学科、健康科学科、看護学科の8学科であった。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	27	4.185	0.818	19.549%
中国文学科	5	4.400	0.800	18.182%
英米文学科	25	3.680	0.968	26.312%
教育学科	36	4.194	0.876	20.890%
書道学科	18	3.778	0.916	24.254%
歴史文化学科	6	3.833	0.898	23.414%
社会経済学科	34	3.941	1.056	26.783%
現代経済学科	37	4.189	0.865	20.645%
中国語学科	15	4.400	0.800	18.182%
英語学科	29	3.897	0.885	22.700%
日本語学科	6	4.667	0.745	15.972%
法律学科	43	3.442	0.871	25.300%
政治学科	39	3.949	0.815	20.637%
国際関係学科	11	4.091	0.793	19.373%
国際文化学科	4	4.250	0.829	19.510%
経営学科	55	3.909	0.959	24.524%
スポーツ科学科	26	3.923	0.997	25.415%
健康科学科	11	3.636	1.298	35.707%
看護学科	9	3.778	1.315	34.800%
社会学科	30	4.000	0.683	17.078%
全学	466	3.948	0.943	23.893%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	325	3.932	0.962
2	114	3.974	0.863
3	16	4.000	1.118
4	11	4.091	0.900

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	25.926%	29.630%	44.444%
中国文学科	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%
英米文学科	0.000%	4.000%	56.000%	8.000%	32.000%
教育学科	0.000%	0.000%	30.556%	19.444%	50.000%
書道学科	0.000%	5.556%	38.889%	27.778%	27.778%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	50.000%	16.667%	33.333%
社会経済学科	5.882%	0.000%	23.529%	35.294%	35.294%
現代経済学科	0.000%	0.000%	29.730%	21.622%	48.649%
中国語学科	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%
英語学科	0.000%	3.448%	34.483%	31.034%	31.034%
日本語学科	0.000%	0.000%	16.667%	0.000%	83.333%
法律学科	2.326%	4.651%	53.488%	25.581%	13.953%
政治学科	0.000%	0.000%	35.897%	33.333%	30.769%
国際関係学科	0.000%	0.000%	27.273%	36.364%	36.364%
国際文化学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
経営学科	1.818%	0.000%	40.000%	21.818%	36.364%
スポーツ科学科	0.000%	3.846%	42.308%	11.538%	42.308%
健康科学科	9.091%	9.091%	27.273%	18.182%	36.364%
看護学科	11.111%	0.000%	33.333%	11.111%	44.444%
社会学科	0.000%	0.000%	23.333%	53.333%	23.333%
全学	1.288%	1.502%	34.979%	25.536%	36.695%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.538%	1.846%	35.077%	24.923%	36.615%
2	0.000%	0.877%	35.965%	28.070%	35.088%
3	6.250%	0.000%	25.000%	25.000%	43.750%
4	0.000%	0.000%	36.364%	18.182%	45.455%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

社会系科目を履修している学生が授業の意欲と熱意に対する認識評価は3.98(社会系全学の平均)であった。この結果は全共科目の平均(4.09)に比べて、やや低い水準となっているが、学生は授業に対して意欲と熱意を持って取り組んでいると言える。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計をみると、約 8

割(社会系の平均：78.58%)であり、回答分布の割合合計(全共科目平均：81.87%)に比べてやや低い水準であった。「4と5」の割合合計が社会系の平均(78.58%)を上回るのは日本文学科、中国文学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、英語学科、政治学科、国際文化学科、社会学科の9学科であった。

「5」の回答分布をみる限り、全共科目全体の分布割合(30.72%)を上回ったのは、中国文学科、書道学科、中国語学科、日本語学科、国際文化学科、スポーツ科学科、看護学科の7学科しかなかった。「4」の回答分布に限ると、日本文学科、中国文学科、歴史文化学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、英語学科、法律学科、政治学科、国際関係学科、社会学科の11学科が全共科目全体の分布割合(51.15%)を上回った。「3 どちらとも言えない」の回答分布は、日本文学科、中国文学科、社会経済学科、中国語学科、政治学科の5学科以外が全学共通科目全体の分布割合(14.74%)を上回っている。

「3」の回答分布割合は、平均16.64%に対して、中国文学科13.33%、中国語学科10.26%で、他学科よりも低い水準を示した。全共全体の「3」の回答分布割合が中国文学科21.88%、中国語学科17.59%であったことから、この2学科は社会系科目に関しては「3」が減少したことになる。減少分は回答分布割合をみると、中国文学科は「4」へ、中国語学科は「4と5」へそれぞれシフトしていた。高い意欲を持って社会系科目にとり組んだ学生が多いことになる。

「3」の回答分布割合が全学共通科目全体の「3」と比較して、大幅に増加したのが英米文学科、英語学科、国際関係学科、健康科学科、看護学科の5学科であった。これは「4と5」が減り、その減少分が「3」にシフトしたことになる。学科によって、社会系科目への取り組み意欲が異なることが示された。

日本語学科は「1まったくそう思わない」と「2どちらかと言えばそう思わない」の割合合計がそれぞれ12.50%となり、社会系の全体平均4.78%に比べてみても、非常に高い水準を表していた。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	125	3.968	0.789	19.891%
中国文学科	15	4.200	0.653	15.552%
英米文学科	63	3.937	0.871	22.115%
教育学科	92	3.978	0.847	21.283%
書道学科	39	4.051	0.783	19.322%
歴史文化学科	41	3.780	0.812	21.475%
社会経済学科	114	4.009	0.767	19.123%
現代経済学科	110	3.945	0.796	20.171%
中国語学科	39	4.231	0.619	14.621%
英語学科	79	4.038	0.702	17.375%
日本語学科	24	4.000	1.041	26.021%
法律学科	134	3.963	0.841	21.227%
政治学科	102	3.971	0.747	18.812%
国際関係学科	35	3.914	0.732	18.695%
国際文化学科	30	4.100	0.790	19.256%
経営学科	157	3.955	0.801	20.246%
スポーツ科学科	60	4.033	0.912	22.618%
健康科学科	23	3.957	0.806	20.382%
看護学科	26	4.038	0.808	20.000%
社会学科	116	3.931	0.740	18.814%
全学	1,424	3.980	0.798	20.056%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	945	3.975	0.796
2	388	3.987	0.785
3	59	3.983	0.911
4	32	4.063	0.788

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.800%	4.800%	13.600%	58.400%	22.400%
中国文学科	0.000%	0.000%	13.333%	53.333%	33.333%
英米文学科	1.587%	3.175%	22.222%	46.032%	26.984%
教育学科	1.087%	4.348%	17.391%	50.000%	27.174%
書道学科	0.000%	2.564%	20.513%	46.154%	30.769%
歴史文化学科	0.000%	7.317%	24.390%	51.220%	17.073%
社会経済学科	1.754%	1.754%	13.158%	60.526%	22.807%
現代経済学科	0.909%	4.545%	15.455%	57.273%	21.818%
中国語学科	0.000%	0.000%	10.256%	56.410%	33.333%
英語学科	0.000%	1.266%	18.987%	54.430%	25.316%
日本語学科	0.000%	12.500%	16.667%	29.167%	41.667%
法律学科	0.000%	7.463%	14.925%	51.493%	26.119%
政治学科	0.980%	2.941%	14.706%	60.784%	20.588%
国際関係学科	0.000%	2.857%	22.857%	54.286%	20.000%
国際文化学科	0.000%	3.333%	16.667%	46.667%	33.333%
経営学科	0.000%	5.096%	19.108%	50.955%	24.841%
スポーツ科学科	1.667%	5.000%	15.000%	45.000%	33.333%
健康科学科	0.000%	4.348%	21.739%	47.826%	26.087%
看護学科	0.000%	3.846%	19.231%	46.154%	30.769%
社会学科	0.862%	3.448%	15.517%	62.069%	18.103%
全学	0.632%	4.143%	16.643%	53.722%	24.860%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.529%	4.444%	16.508%	54.074%	24.444%
2	0.773%	3.093%	17.526%	53.866%	24.742%
3	1.695%	5.085%	16.949%	45.763%	30.508%
4	0.000%	6.250%	9.375%	56.250%	28.125%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 90% を超えており（社会系平均：93.05%）、学生の教員熱意に対する認識を高く評価していると言える。授業内容の認識に関する教員熱意の平均値は 4.50 となっている。

特に、学科別回答分布の「1」は社会経済学科(0.88%)以外、全ての学科が 0.00% を示して

いる(平均:0.07%)。また、「2」はスポーツ科学科 5.00%、法律学科 2.24%、経営学科 1.91%、英語学科 1.27%、現代経済学科 0.91%、日本文学科 0.80%の6学科以外は 0.00%であった。この結果から、どの学科の学生も社会系科目の教員の熱意を高く評価していることが示された。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	125	4.552	0.626	13.742%
中国文学科	15	4.733	0.442	9.343%
英米文学科	63	4.587	0.553	12.056%
教育学科	92	4.609	0.607	13.174%
書道学科	39	4.487	0.594	13.230%
歴史文化学科	42	4.500	0.588	13.057%
社会経済学科	114	4.474	0.678	15.158%
現代経済学科	110	4.527	0.614	13.554%
中国語学科	39	4.692	0.462	9.836%
英語学科	79	4.456	0.652	14.636%
日本語学科	24	4.625	0.696	15.048%
法律学科	134	4.463	0.719	16.116%
政治学科	102	4.461	0.589	13.196%
国際関係学科	35	4.286	0.740	17.256%
国際文化学科	30	4.633	0.657	14.189%
経営学科	157	4.382	0.719	16.398%
スポーツ科学科	60	4.500	0.847	18.812%
健康科学科	23	4.609	0.570	12.373%
看護学科	26	4.577	0.631	13.783%
社会学科	116	4.448	0.607	13.638%
全学	1,425	4.500	0.655	14.567%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	946	4.506	0.649
2	388	4.469	0.686
3	59	4.542	0.562
4	32	4.594	0.605

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.800%	4.800%	32.800%	61.600%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	26.667%	73.333%
英米文学科	0.000%	0.000%	3.175%	34.921%	61.905%
教育学科	0.000%	0.000%	6.522%	26.087%	67.391%
書道学科	0.000%	0.000%	5.128%	41.026%	53.846%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	4.762%	40.476%	54.762%
社会経済学科	0.877%	0.000%	5.263%	38.596%	55.263%
現代経済学科	0.000%	0.909%	3.636%	37.273%	58.182%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	30.769%	69.231%
英語学科	0.000%	1.266%	5.063%	40.506%	53.165%
日本語学科	0.000%	0.000%	12.500%	12.500%	75.000%
法律学科	0.000%	2.239%	6.716%	33.582%	57.463%
政治学科	0.000%	0.000%	4.902%	44.118%	50.980%
国際関係学科	0.000%	0.000%	17.143%	37.143%	45.714%
国際文化学科	0.000%	0.000%	10.000%	16.667%	73.333%
経営学科	0.000%	1.911%	8.280%	39.490%	50.318%
スポーツ科学科	0.000%	5.000%	8.333%	18.333%	68.333%
健康科学科	0.000%	0.000%	4.348%	30.435%	65.217%
看護学科	0.000%	0.000%	7.692%	26.923%	65.385%
社会学科	0.000%	0.000%	6.034%	43.103%	50.862%
全学	0.070%	0.842%	6.035%	35.158%	57.895%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.106%	0.846%	5.391%	35.624%	58.034%
2	0.000%	1.031%	7.990%	34.021%	56.959%
3	0.000%	0.000%	3.390%	38.983%	57.627%
4	0.000%	0.000%	6.250%	28.125%	65.625%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

授業内容の認識に関する成長感覚の社会系科目の平均は 4.30 であった。「5 強く思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計(平均 89.05%)が約 90%を示しており、学生が自身の成長感覚を高く評価していると言える。一方、「1 まったくそう思わ

ない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答分布割合の合計が 0.00%であったのは日本文学科、中国文学科、英米文学科、現代経済学科、中国語学科、国際文化学科、健康科学科の7学科であった。

変動係数をみると、国際関係学科 20.58%、日本語学科 20.56%、書道学科 20.06%の3学科は20%を超えて、社会系科目の平均値 16.40%を大きく上回っている。3学科に所属する学生における成長感覚は、他の学科と比較すると、相対的に認識のバラツキが大きくみえる。しかし、社会系科目の成長感覚を、他項目の質問(Q6を除く)及び他系列科目のQ7の変動係数と比較してみると、低い水準を示しており、社会系科目を履修している学生の成長感覚の格差は少なかったと言える。

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	125	4.368	0.627	14.344%
中国文学科	15	4.467	0.499	11.169%
英米文学科	63	4.270	0.596	13.969%
教育学科	92	4.326	0.724	16.734%
書道学科	39	4.154	0.833	20.059%
歴史文化学科	42	4.310	0.740	17.163%
社会経済学科	114	4.254	0.814	19.144%
現代経済学科	110	4.327	0.662	15.300%
中国語学科	39	4.513	0.594	13.154%
英語学科	79	4.291	0.678	15.798%
日本語学科	24	4.208	0.865	20.555%
法律学科	134	4.269	0.714	16.728%
政治学科	102	4.343	0.602	13.866%
国際関係学科	35	4.086	0.841	20.579%
国際文化学科	30	4.333	0.699	16.136%
経営学科	157	4.312	0.704	16.315%
スポーツ科学科	60	4.267	0.834	19.547%
健康科学科	23	4.565	0.648	14.190%
看護学科	26	4.308	0.773	17.946%
社会学科	116	4.190	0.615	14.671%
全学	1,425	4.298	0.705	16.400%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	946	4.280	0.719
2	388	4.314	0.684
3	59	4.390	0.638
4	32	4.438	0.609

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	8.000%	47.200%	44.800%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	53.333%	46.667%
英米文学科	0.000%	0.000%	7.937%	57.143%	34.921%
教育学科	0.000%	2.174%	8.696%	43.478%	45.652%
書道学科	2.564%	0.000%	12.821%	48.718%	35.897%
歴史文化学科	0.000%	2.381%	9.524%	42.857%	45.238%
社会経済学科	1.754%	1.754%	7.895%	46.491%	42.105%
現代経済学科	0.000%	0.000%	10.909%	45.455%	43.636%
中国語学科	0.000%	0.000%	5.128%	38.462%	56.410%
英語学科	0.000%	1.266%	8.861%	49.367%	40.506%
日本語学科	0.000%	8.333%	4.167%	45.833%	41.667%
法律学科	0.000%	0.746%	13.433%	44.030%	41.791%
政治学科	0.000%	0.980%	3.922%	54.902%	40.196%
国際関係学科	0.000%	2.857%	22.857%	37.143%	37.143%
国際文化学科	0.000%	0.000%	13.333%	40.000%	46.667%
経営学科	0.000%	1.274%	10.191%	44.586%	43.949%
スポーツ科学科	0.000%	3.333%	15.000%	33.333%	48.333%
健康科学科	0.000%	0.000%	8.696%	26.087%	65.217%
看護学科	0.000%	3.846%	7.692%	42.308%	46.154%
社会学科	0.000%	0.862%	8.621%	61.207%	29.310%
全学	0.211%	1.193%	9.544%	46.737%	42.316%

【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.317%	1.480%	9.408%	47.463%	41.332%
2	0.000%	0.773%	10.309%	45.619%	43.299%
3	0.000%	0.000%	8.475%	44.068%	47.458%
4	0.000%	0.000%	6.250%	43.750%	50.000%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

総合満足の学科別の平均値は 8.22 であった。社会系科目の平均(8.22)は全科目全体の平均(8.35)と、人文系科目の平均(8.30)、自然系科目の平均(8.29)、保健体育系科目の平均(8.89)の3系列の中で最も低い水準であった。

満足度の高い10から8までの回答分布の割合合計(社会系の全体平均)をみると、71.62%で、社会系の科目に対して総合的に満足していると言える。中位の「7」から「5」の分布委割合の合計が26.69%で、全共科目の「7」から「5」の平均(23.98%)よりもやや高い数値であった。なお、満足度の低い1から3までの回答分布の割合合計(社会系の全体平均:0.56%)は全共科目の「1」から「3」の平均(0.94%)に比べても低い数値であった。

変動係数をみると、まず、変動係数の平均値(社会系:18.31%)を上回り、バラツキの大きさが示された学科は書道学科23.35%、日本語学科22.24%、法律学科22.21%、健康科学科21.30%、スポーツ科学科21.27%、経営学科19.54%、看護学科19.28%、英語学科19.08%の8学科であった。満足度が各点に分散しているとも言える。

変動係数が平均値以下で、10から8までの回答分布の割合合計が平均(71.62%)よりも高い結果を示したのは、日本文学科、中国文学科、教育学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、日本語学科、政治学科、国際文化学科、スポーツ科学科、看護学科の10学科であった。これらの学科は社会系の科目に対して満足度の高い学生が多いことを示している。

【全学共通科目(社会系)〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別(左)および学年別(右)の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	125	8.328	1.419	17.034%
中国文学科	15	8.800	0.748	8.504%
英米文学科	63	8.175	1.304	15.948%
教育学科	91	8.286	1.477	17.828%
書道学科	39	8.103	1.892	23.349%
歴史文化学科	42	8.119	1.418	17.460%
社会経済学科	114	8.263	1.325	16.034%
現代経済学科	110	8.264	1.360	16.454%
中国語学科	38	8.921	1.285	14.406%
英語学科	79	8.076	1.541	19.079%
日本語学科	24	8.208	1.825	22.237%
法律学科	134	8.037	1.785	22.205%
政治学科	101	8.406	1.252	14.896%
国際関係学科	34	7.941	1.392	17.529%
国際文化学科	30	8.600	1.474	17.142%
経営学科	156	8.135	1.590	19.541%
スポーツ科学科	60	8.283	1.762	21.266%
健康科学科	23	7.870	1.676	21.298%
看護学科	26	8.538	1.646	19.280%
社会学科	116	8.017	1.345	16.781%
全学	1,420	8.223	1.506	18.313%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	943	8.180	1.539
2	387	8.287	1.426
3	58	8.500	1.329
4	32	8.219	1.672

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.800%	4.000%	4.800%	17.600%	23.200%	24.000%	25.600%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	40.000%	20.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.175%	4.762%	22.222%	33.333%	14.286%	22.222%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	2.198%	3.297%	6.593%	12.088%	28.571%	21.978%	25.275%
書道学科	2.564%	0.000%	0.000%	0.000%	5.128%	7.692%	17.949%	20.513%	15.385%	30.769%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.143%	4.762%	21.429%	19.048%	30.952%	16.667%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.632%	7.018%	17.544%	30.702%	18.421%	23.684%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.455%	4.545%	13.636%	33.636%	20.000%	22.727%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.895%	7.895%	15.789%	21.053%	47.368%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.266%	5.063%	10.127%	17.722%	24.051%	17.722%	24.051%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	8.333%	0.000%	12.500%	4.167%	25.000%	16.667%	33.333%
法律学科	0.000%	0.746%	2.239%	1.493%	4.478%	7.463%	17.164%	22.388%	17.164%	26.866%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.990%	3.960%	20.792%	29.703%	16.832%	27.723%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.941%	11.765%	26.471%	26.471%	11.765%	20.588%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	13.333%	13.333%	16.667%	13.333%	43.333%
経営学科	0.000%	1.282%	0.000%	0.641%	3.205%	8.333%	16.667%	29.487%	14.103%	26.282%
スポーツ科学科	1.667%	0.000%	0.000%	3.333%	3.333%	1.667%	8.333%	38.333%	11.667%	31.667%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	4.348%	8.696%	8.696%	8.696%	30.435%	21.739%	17.391%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.846%	3.846%	0.000%	19.231%	15.385%	15.385%	42.308%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	2.586%	1.724%	4.310%	25.862%	28.448%	22.414%	14.655%
全学	0.141%	0.211%	0.211%	1.127%	3.380%	6.338%	16.972%	27.324%	18.662%	25.634%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.212%	0.106%	0.212%	1.485%	4.030%	5.832%	17.603%	27.572%	17.391%	25.557%
2	0.000%	0.517%	0.000%	0.517%	2.326%	6.718%	16.537%	27.390%	21.189%	24.806%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.724%	6.897%	13.793%	25.862%	20.690%	31.034%
4	0.000%	0.000%	3.125%	0.000%	0.000%	15.625%	9.375%	21.875%	21.875%	28.125%

【クロス表に関する結果(社会系)】

社会系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を計算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(赤字:0→1→24→357→652)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

次に、教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(0→3→52→334→326)も互いに上昇していることを確認できるが、2025年度前期に比べると回答数は減少している。いずれにしても、この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目(社会系)(学生所属別)】クロス集計(【学生意欲】×【教員熱意】)【回答数】

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	0	0	1	0	0	1	0
	2 どちらかと言えそう思わない	1	3	7	0	1	12	1
	3 どちらとも言えない	1	9	52	20	4	86	24
	4 どちらかと言えそう思う	2	27	115	334	23	501	357
	5 強くそう思う	5	20	62	326	326	739	652
合計	9	59	237	680	354	1,339	1,034	

表 2

●【全学共通科目(社会系)(学生所属別)】クロス集計(【学生意欲】×【教員熱意】)【パーセント】

	学生意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
	2 どちらかと言えそう思わない	8.333%	25.000%	58.333%	0.000%	8.333%	100.000%	8.333%
	3 どちらとも言えない	1.163%	10.465%	60.465%	23.256%	4.651%	100.000%	27.907%
	4 どちらかと言えそう思う	0.399%	5.389%	22.954%	66.667%	4.591%	100.000%	71.257%
	5 強くそう思う	0.677%	2.706%	8.390%	44.114%	44.114%	100.000%	88.227%

【相関係数表に関する結果(社会系)】

相関係数に関しては、+0.3以上+0.6未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6以上+1未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足」に対する社会系科目を履修している学生は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.60 がみられ、正の相関関係の順に「学生意欲 0.52」「教員熱意 0.51」「シラバス通り 0.41」「FB 丁寧 0.36」となっている。しかし、この係数は2025年度前期に比べて低くなっている。この結果は、「総合満足度」の向上は、成長感覚を持てるかどうか、最も強く影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.56 がみられた。その後は正の相関関係順に、「学生意欲 0.55」「シラバス通り 0.41」「FB 丁寧 0.34」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうかが強くと影響することを示している。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関

係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与える強い相関関係が示された。また、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を向上させるという弱い正の相関関係も確認することができた。

●【全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラパス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラパス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	0.013	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.378	0.171	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.369	-0.007	0.366	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.419	0.059	0.385	0.445	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.413	-0.008	0.337	0.554	0.560	1.000	
Q8	【総合満足】	0.407	-0.122	0.360	0.519	0.506	0.595	1.000

【全学共通科目（自然系）（学生所属別）】

自然系科目の回答率28.62%であり、全共科目全体の回答率34.28%よりも低かった。そのなかで、回答率が20%以下の学科が4学科あり（英語学科19.79%、日本語学科17.39%、国際関係学科17.07%、英米文学科14.61%）、学科間の相違が顕著であった。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	49	52	101	48.515%
中国文学科	4	11	15	26.667%
英米文学科	13	76	89	14.607%
教育学科	19	42	61	31.148%
書道学科	13	11	24	54.167%
歴史文化学科	12	13	25	48.000%
社会経済学科	49	123	172	28.488%
現代経済学科	48	99	147	32.653%
中国語学科	24	77	101	23.762%
英語学科	19	77	96	19.792%
日本語学科	4	19	23	17.391%
法律学科	22	46	68	32.353%
政治学科	17	46	63	26.984%
国際関係学科	7	34	41	17.073%
国際文化学科	6	24	30	20.000%
経営学科	68	234	302	22.517%
スポーツ科学科	18	18	36	50.000%
健康科学科	18	24	42	42.857%
看護学科	4	15	19	21.053%
社会学科	21	44	65	32.308%
全学	435	1,085	1,520	28.618%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	207	476	683	30.307%
2	199	510	709	28.068%
3	17	56	73	23.288%
4	12	43	55	21.818%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

自然系科目のシラバス既知率は83.18%と、全共科目全体81.97%よりもやや高い数値となった。中国文学科、日本語学科、国際関係学科、国際文化学科の既知率が100%となっているが、回答者数が10名以下の少人数であり、この点は留意が必要である。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	10.204%	89.796%
中国文学科	0.000%	100.000%
英米文学科	15.385%	84.615%
教育学科	26.316%	73.684%
書道学科	21.429%	78.571%
歴史文化学科	16.667%	83.333%
社会経済学科	8.163%	91.837%
現代経済学科	16.327%	83.673%
中国語学科	29.167%	70.833%
英語学科	26.316%	73.684%
日本語学科	0.000%	100.000%
法律学科	9.091%	90.909%
政治学科	11.111%	88.889%
国際関係学科	0.000%	100.000%
国際文化学科	0.000%	100.000%
経営学科	17.391%	82.609%
スポーツ科学科	27.778%	72.222%
健康科学科	21.053%	78.947%
看護学科	50.000%	50.000%
社会学科	28.571%	71.429%
全学	16.818%	83.182%

学年	1	2
1	18.182%	81.818%
2	16.832%	83.168%
3	11.765%	88.235%
4	0.000%	100.000%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

学科別回答分布は、「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計が 94.15%であった。シラバス記述に対する評価の平均は 4.45 であった。全共科目全体の平均 4.40 と比べても大差はない。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 100.00%を示しているのは、中国文学科、教育学科、歴史文化学科、英語学科、国際関係学科、国際文化学科、健康科学科、社会学科の 8 学科であった。また、この 8 学科を含む 15 学科は「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の割合合計が 0.00%であった。

看護学科は「4 と 5」の回答分布割合の合計が 66.67%で、他学科に比べて最も低かったが、「3 どちらとも言えない」は逆に 20 学科中で最も高い数値となった。「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の分布割合の合計が 0.00%であった。「3 どちらとも言えない」の割合合計(33.33%)は 20 学科のなかで最も高い割合を示している。以上のように、両極端に偏る結果を得ているので、留意が必要である。

変動係数をみると、他の質問項目に比べても係数が最も低く、学科間の格差は小さい(平

均：14.75%)。ただし、教育学科(9.89%)と国際関係学科(7.20%)は平均値と比較して大幅に低く、日本語学科(19.25%)と看護学科(20.41%)は非常に高い数値を表している。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	45	4.378	0.708	16.180%
中国文学科	4	4.500	0.500	11.111%
英米文学科	13	4.462	0.746	16.716%
教育学科	16	4.688	0.464	9.888%
書道学科	13	4.462	0.634	14.218%
歴史文化学科	10	4.400	0.490	11.134%
社会経済学科	46	4.543	0.713	15.702%
現代経済学科	45	4.289	0.619	14.434%
中国語学科	19	4.421	0.815	18.443%
英語学科	15	4.600	0.490	10.650%
日本語学科	4	4.500	0.866	19.245%
法律学科	21	4.524	0.587	12.978%
政治学科	18	4.444	0.598	13.463%
国際関係学科	7	4.857	0.350	7.204%
国際文化学科	6	4.500	0.500	11.111%
経営学科	59	4.424	0.694	15.685%
スポーツ科学科	16	4.313	0.682	15.810%
健康科学科	17	4.529	0.499	11.020%
看護学科	3	4.000	0.816	20.412%
社会学科	16	4.438	0.496	11.179%
全学	393	4.450	0.656	14.747%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	184	4.457	0.674
2	180	4.433	0.642
3	17	4.294	0.666
4	12	4.833	0.373

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.222%	6.667%	42.222%	48.889%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	15.385%	23.077%	61.538%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	31.250%	68.750%
書道学科	0.000%	0.000%	7.692%	38.462%	53.846%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%
社会経済学科	2.174%	0.000%	0.000%	36.957%	60.870%
現代経済学科	0.000%	2.222%	2.222%	60.000%	35.556%
中国語学科	0.000%	5.263%	5.263%	31.579%	57.895%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	75.000%
法律学科	0.000%	0.000%	4.762%	38.095%	57.143%
政治学科	0.000%	0.000%	5.556%	44.444%	50.000%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	85.714%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
経営学科	0.000%	1.695%	6.780%	38.983%	52.542%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	12.500%	43.750%	43.750%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	47.059%	52.941%
看護学科	0.000%	0.000%	33.333%	33.333%	33.333%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	56.250%	43.750%
全学	0.254%	1.018%	4.580%	41.730%	52.417%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.543%	1.087%	3.804%	41.304%	53.261%
2	0.000%	1.111%	5.000%	43.333%	50.556%
3	0.000%	0.000%	11.765%	47.059%	41.176%
4	0.000%	0.000%	0.000%	16.667%	83.333%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

授業内容の難易度に対する認識について、自然系科目を履修している学生の所属学科別の評価平均値は 3.69 であった(全共科目平均：3.49)。

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答分布の割合合計は 58.86%で、最小 25.00%(中国文学科)から最大 85.71%(書道学科)の間に分布している。これに対して、「1 と

でも易しかった」と「2 やや易しかった」の分布割合の合計は、13 学科が 0.00%であったが、7 学科は教育学科 10.53%、社会経済学科 6.12%、スポーツ科学科 5.56%、法律学科 4.55%、現代経済学科 4.05%、経営学科 2.90%、日本文学科 2.04%であった。

授業の難易度に対する認識は、全共科目全体とはどの学科もほぼ同じような傾向を示すが、自然系科目に限定すると、次のような特徴が見られた。

全共科目全体の回答分布と比較すると、「4 やや難しかった」の回答分布が多く、学科間の相違が顕著となった。授業を難しいと認識する層（「4」と「5」の分布割合）を全学共通科目の全体と比較してみると、その分布割合が大幅に増えているのは、英米文学科（全共全体 42.21%→自然系 84.62%）、書道学科（47.83%→85.71%）、歴史文化学科（30.53%→58.33%）、日本語学科（42.68%→75.00%）、法律学科（44.48%→68.18%）、国際関係学科（45.88%→71.43%）、国際文化学科（45.24%→66.67%）、看護学科（39.18%→75.00%）の 8 学科であった。この 8 学科の「3」の回答分布割合は、全共科目の「3」の分布割合と比較すると、大幅に減少していた。つまり、回答分布割合が「3」から「4と5」へシフトしたことを意味する。

これは、自然系科目を履修している多くの学生が所属学科にかかわらず、授業内容を難しいと認識していることになる。変動係数をみると、日本文学科、教育学科、社会経済学科、スポーツ科学科は平均よりも高い数値を示しているが、これは易しいと捉える「1と2」の層がいるからである。これ以外の 16 学科は変動係数が平均よりも低い数値であるが、「3と4」、若しくは「4と5」の層に偏っているからである。全共全体の「1と2」の分布割合の合計が 4.11%、自然系科目の「1と2」の分布割合の合計が 2.73%であることからみても、自然系科目を難しいと捉える学生が多いことわかる。「1と2」の分布割合の合計は、教育学科が 10.53%、社会経済学科 6.12%、スポーツ科学科が 5.56%と 5.00%を超えている。自然系科目の受け止め方に学科の相違が出ていると言える。

授業難易度における認識の相違および格差が、変動係数から確認できる。変動係数の平均値(20.18%)を上回っているのは日本文学科、教育学科、社会経済学科、スポーツ科学科の 4 学科で、これ以外の 16 学科は平均を下回っている。バラツキが小さいとはいえ、授業内容を難しいと捉える学生の認識に偏っており、留意が必要だろう。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	49	3.694	0.761	20.613%
中国文学科	4	3.250	0.433	13.323%
英米文学科	13	4.231	0.697	16.464%
教育学科	19	3.684	0.862	23.387%
書道学科	14	3.929	0.457	11.642%
歴史文化学科	12	3.667	0.624	17.008%
社会経済学科	49	3.551	0.810	22.801%
現代経済学科	49	3.490	0.643	18.419%
中国語学科	24	3.875	0.781	20.145%
英語学科	19	3.895	0.718	18.430%
日本語学科	4	4.250	0.829	19.510%
法律学科	22	3.682	0.631	17.151%
政治学科	18	3.667	0.667	18.182%
国際関係学科	7	3.857	0.639	16.563%
国際文化学科	6	3.667	0.471	12.856%
経営学科	69	3.710	0.744	20.055%
スポーツ科学科	18	3.444	0.762	22.115%
健康科学科	19	3.526	0.678	19.230%
看護学科	4	4.250	0.829	19.510%
社会学科	21	3.762	0.750	19.934%
全学	440	3.691	0.745	20.175%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	209	3.742	0.758
2	202	3.644	0.726
3	17	3.824	0.706
4	12	3.417	0.759

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.041%	42.857%	38.776%	16.327%
中国文学科	0.000%	0.000%	75.000%	25.000%	0.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	15.385%	46.154%	38.462%
教育学科	0.000%	10.526%	26.316%	47.368%	15.789%
書道学科	0.000%	0.000%	14.286%	78.571%	7.143%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	41.667%	50.000%	8.333%
社会経済学科	2.041%	4.082%	40.816%	42.857%	10.204%
現代経済学科	0.000%	4.082%	46.939%	44.898%	4.082%
中国語学科	0.000%	0.000%	37.500%	37.500%	25.000%
英語学科	0.000%	0.000%	31.579%	47.368%	21.053%
日本語学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
法律学科	0.000%	4.545%	27.273%	63.636%	4.545%
政治学科	0.000%	0.000%	44.444%	44.444%	11.111%
国際関係学科	0.000%	0.000%	28.571%	57.143%	14.286%
国際文化学科	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%	0.000%
経営学科	0.000%	2.899%	37.681%	44.928%	14.493%
スポーツ科学科	5.556%	0.000%	38.889%	55.556%	0.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	57.895%	31.579%	10.526%
看護学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
社会学科	0.000%	0.000%	42.857%	38.095%	19.048%
全学	0.455%	2.273%	38.409%	45.455%	13.409%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.478%	2.871%	33.493%	48.325%	14.833%
2	0.495%	1.485%	43.069%	43.069%	11.881%
3	0.000%	0.000%	35.294%	47.059%	17.647%
4	0.000%	8.333%	50.000%	33.333%	8.333%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全共科目全体と同様の傾向が見られるが、看護学科の「2 質問したことがある」の回答割合が他の学科に比べて相対的に高く、25.00%であった(平均：10.35%)。ただし、回答者数は5名未満であった。

中国文学科、日本語学科、社会学科は「2 はい、あります」の回答率が0.00%であった。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	97.959%	2.041%
中国文学科	100.000%	0.000%
英米文学科	91.667%	8.333%
教育学科	77.778%	22.222%
書道学科	92.857%	7.143%
歴史文化学科	91.667%	8.333%
社会経済学科	89.583%	10.417%
現代経済学科	95.918%	4.082%
中国語学科	83.333%	16.667%
英語学科	89.474%	10.526%
日本語学科	100.000%	0.000%
法律学科	85.714%	14.286%
政治学科	88.235%	11.765%
国際関係学科	85.714%	14.286%
国際文化学科	83.333%	16.667%
経営学科	85.507%	14.493%
スポーツ科学科	88.889%	11.111%
健康科学科	78.947%	21.053%
看護学科	75.000%	25.000%
社会学科	100.000%	0.000%
全学	89.655%	10.345%

学年	1	2
1	87.379%	12.621%
2	91.000%	9.000%
3	100.000%	0.000%
4	91.667%	8.333%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

自然系科目のフィードバック評価は4.06(全学平均)であった。

「5強くそう思う」と「4どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計は69.93%(自然系科目の平均)で、学生が教員の対応を概ね評価していると言える。この回答分布割合の合計は保健体育科目系に次いで高い数値であった。とはいえ、回答した学生数が非常に少ないため(つまり、質問したことのある学生が少ない)、この点には留意が必要である。

「5」の回答分布割合が高い学科は、日本文学科、教育学科、歴史文化学科、社会経済学科、中国語学科、英語学科、政治学科、経営学科の8学科であった。

変動係数が平均(24.76%)よりも高いのは中国文学科、英米文学科、歴史文化学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、日本語学科、国際関係学科、国際文化学科、看護学科、社会学科の11学科であった。

ただし、Q3で質問したことがある学生が0.00%であった中国文学科、日本語学科、社会学科の3学科がQ4で質問対応について回答しているのは矛盾するため、この結果については言及しない。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	7	4.286	0.881	20.548%
中国文学科	2	4.000	1.000	25.000%
英米文学科	4	4.000	1.000	25.000%
教育学科	9	4.444	0.831	18.708%
書道学科	8	3.750	0.661	17.638%
歴史文化学科	4	4.000	1.000	25.000%
社会経済学科	20	4.100	1.261	30.755%
現代経済学科	17	3.647	0.967	26.503%
中国語学科	7	3.857	1.125	29.163%
英語学科	7	4.714	0.452	9.583%
日本語学科	2	4.500	0.500	11.111%
法律学科	9	4.000	0.816	20.412%
政治学科	6	4.667	0.471	10.102%
国際関係学科	2	4.000	1.000	25.000%
国際文化学科	2	4.500	0.500	11.111%
経営学科	27	4.148	1.008	24.288%
スポーツ科学科	7	4.286	0.700	16.330%
健康科学科	6	3.667	0.745	20.328%
看護学科	2	4.000	1.000	25.000%
社会学科	5	3.000	1.095	36.515%
全学	153	4.059	1.005	24.756%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	80	3.988	1.066
2	68	4.103	0.926
3	2	5.000	0.000
4	3	4.333	0.943

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	28.571%	14.286%	57.143%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
教育学科	0.000%	0.000%	22.222%	11.111%	66.667%
書道学科	0.000%	0.000%	37.500%	50.000%	12.500%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
社会経済学科	10.000%	0.000%	15.000%	20.000%	55.000%
現代経済学科	5.882%	0.000%	35.294%	41.176%	17.647%
中国語学科	0.000%	14.286%	28.571%	14.286%	42.857%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
法律学科	0.000%	0.000%	33.333%	33.333%	33.333%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
国際関係学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
経営学科	3.704%	0.000%	22.222%	25.926%	48.148%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	14.286%	42.857%	42.857%
健康科学科	0.000%	0.000%	50.000%	33.333%	16.667%
看護学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
社会学科	20.000%	0.000%	40.000%	40.000%	0.000%
全学	3.268%	0.654%	26.144%	26.797%	43.137%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	5.000%	1.250%	23.750%	30.000%	40.000%
2	1.471%	0.000%	29.412%	25.000%	44.118%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	33.333%	0.000%	66.667%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

学生の授業の意欲と熱意に対する認識評価は 4.06 であった。この結果は全共科目の平均 (4.09) と、ほぼ同じ数値となっており、学生は授業に対する高い意欲と熱意を持って取り組んでいると言える。

「5 強く思う」と「4 どちらかと言えば思う」の回答分布割合の合計をみると、ほ

ば8割(平均:79.77%)を示し、全共科目の「5」と「4」の回答分布割合の合計81.87%と比べるとやや低い数値であった。「5と4」の分布割合の合計が平均(79.77%)を上回るのは、英米文学科、現代経済学科、英語学科、日本語学科、法律学科、政治学科、国際関係学科、健康科学科、看護学科の9学科であった。日本語学科、国際関係学科、看護学科の3学科は「5」と「4」の回答分布割合が100.00%であった。

「5」の回答分布をみる限りは、全共科目全体の「5」の分布割合(30.72%)を上回ったのは日本文学科、英米文学科、歴史文化学科、英語学科、日本語学科、法律学科、健康科学科、社会学科の8学科であった。「4」の回答分布に限ると、英米文学科、書道学科、現代経済学科、英語学科、政治学科、国際関係学科、スポーツ科学科、健康科学科、看護学科の9学科が全共科目全体の「4」の分布割合(51.15%)を上回った。「3どちらとも言えない」は、日本文学科、中国文学科、英米文学科、教育学科、書道学科、歴史文化学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、法律学科、政治学科、国際文化学科、経営学科、スポーツ科学科、社会学科の15学科が全学共通科目全体の「3」の分布割合(14.74%)を上回っている。

日本語学科・国際関係学科・看護学科の3学科は「3」の回答分布割合が0.00%であった。減少分が日本語学科は「5」へ、国際関係学科と看護学科は「4」へ、それぞれシフトしていた。つまり、学生自身の意欲や熱意を高く評価する方にシフトした。「3」の回答分布割合が全共科目全体の「3」の分布割合(14.74%)と比較して、英語学科、日本語学科、国際関係学科、健康科学科、看護学科の5学科が下回っており、このうち、日本語学科、国際関係学科、看護学科の3学科は0.00%であった。ここでも意欲の高い方へとシフトしている。これは変動係数の低さにも表われている。ただし、歴史文化学科と中国語学科は「2」の分布割合が8.33%を示しており、回答分布のバラツキにつながっている。

自然系科目を履修している学生の多くが所属学科に関わらず、意欲的に取り組んだことがわかる。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	49	4.102	0.763	18.589%
中国文学科	4	3.750	0.829	22.111%
英米文学科	13	4.154	0.662	15.930%
教育学科	19	4.000	0.725	18.137%
書道学科	14	4.000	0.655	16.366%
歴史文化学科	12	4.000	0.913	22.822%
社会経済学科	49	4.020	0.845	21.015%
現代経済学科	49	4.041	0.605	14.965%
中国語学科	24	3.833	0.850	22.170%
英語学科	19	4.105	0.788	19.188%
日本語学科	4	4.750	0.433	9.116%
法律学科	22	4.136	0.694	16.774%
政治学科	18	4.056	0.621	15.316%
国際関係学科	7	4.286	0.452	10.541%
国際文化学科	6	3.833	0.687	17.927%
経営学科	70	4.057	0.772	19.040%
スポーツ科学科	18	3.944	0.780	19.769%
健康科学科	19	4.211	0.614	14.577%
看護学科	4	4.250	0.433	10.189%
社会学科	20	4.150	0.792	19.088%
全学	440	4.059	0.748	18.438%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	209	4.062	0.719
2	202	4.050	0.769
3	17	3.882	0.832
4	12	4.417	0.640

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.041%	18.367%	46.939%	32.653%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	15.385%	53.846%	30.769%
教育学科	0.000%	0.000%	26.316%	47.368%	26.316%
書道学科	0.000%	0.000%	21.429%	57.143%	21.429%
歴史文化学科	0.000%	8.333%	16.667%	41.667%	33.333%
社会経済学科	0.000%	6.122%	16.327%	46.939%	30.612%
現代経済学科	0.000%	0.000%	16.327%	63.265%	20.408%
中国語学科	0.000%	8.333%	20.833%	50.000%	20.833%
英語学科	0.000%	5.263%	10.526%	52.632%	31.579%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
法律学科	0.000%	0.000%	18.182%	50.000%	31.818%
政治学科	0.000%	0.000%	16.667%	61.111%	22.222%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	71.429%	28.571%
国際文化学科	0.000%	0.000%	33.333%	50.000%	16.667%
経営学科	0.000%	2.857%	18.571%	48.571%	30.000%
スポーツ科学科	0.000%	5.556%	16.667%	55.556%	22.222%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.526%	57.895%	31.579%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	75.000%	25.000%
社会学科	0.000%	0.000%	25.000%	35.000%	40.000%
全学	0.000%	2.500%	17.727%	51.136%	28.636%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	1.914%	17.225%	53.589%	27.273%
2	0.000%	2.970%	18.317%	49.505%	29.208%
3	0.000%	5.882%	23.529%	47.059%	23.529%
4	0.000%	0.000%	8.333%	41.667%	50.000%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計が 90% 超えており(90.23%)、学生は教員熱意に対する認識を高く評価していると言える。教員熱意の平均は 4.48(自然系)であった。

特に、学科別回答分布の「1」は全ての学科が 0.00% を示しており、「2」においても日本文

学科 4.08%、現代経済学科 2.04%、経営学科 2.90%、社会学科 4.76%の 4 学以外は 0.00%であった。この結果からも、教員熱意を評価する学生の割合が高いと判断できる。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	49	4.571	0.808	17.678%
中国文学科	4	4.250	0.829	19.510%
英米文学科	13	4.538	0.634	13.977%
教育学科	19	4.526	0.595	13.155%
書道学科	14	4.429	0.623	14.061%
歴史文化学科	12	4.583	0.640	13.966%
社会経済学科	49	4.592	0.668	14.538%
現代経済学科	49	4.408	0.668	15.144%
中国語学科	24	4.417	0.702	15.898%
英語学科	19	4.579	0.591	12.902%
日本語学科	4	5.000	0.000	0.000%
法律学科	22	4.455	0.782	17.556%
政治学科	18	4.278	0.803	18.775%
国際関係学科	7	4.571	0.495	10.825%
国際文化学科	6	4.333	0.745	17.201%
経営学科	69	4.449	0.772	17.340%
スポーツ科学科	18	4.444	0.497	11.180%
健康科学科	19	4.368	0.666	15.240%
看護学科	4	4.500	0.500	11.111%
社会学科	21	4.333	0.713	16.447%
全学	440	4.475	0.707	15.791%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	209	4.493	0.671
2	202	4.416	0.761
3	17	4.824	0.381
4	12	4.667	0.471

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	4.082%	8.163%	14.286%	73.469%
中国文学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	7.692%	30.769%	61.538%
教育学科	0.000%	0.000%	5.263%	36.842%	57.895%
書道学科	0.000%	0.000%	7.143%	42.857%	50.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	8.333%	25.000%	66.667%
社会経済学科	0.000%	0.000%	10.204%	20.408%	69.388%
現代経済学科	0.000%	2.041%	4.082%	44.898%	48.980%
中国語学科	0.000%	0.000%	12.500%	33.333%	54.167%
英語学科	0.000%	0.000%	5.263%	31.579%	63.158%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
法律学科	0.000%	0.000%	18.182%	18.182%	63.636%
政治学科	0.000%	0.000%	22.222%	27.778%	50.000%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	42.857%	57.143%
国際文化学科	0.000%	0.000%	16.667%	33.333%	50.000%
経営学科	0.000%	2.899%	8.696%	28.986%	59.420%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	55.556%	44.444%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.526%	42.105%	47.368%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
社会学科	0.000%	4.762%	0.000%	52.381%	42.857%
全学	0.000%	1.364%	8.409%	31.591%	58.636%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	0.957%	7.177%	33.493%	58.373%
2	0.000%	1.980%	10.891%	30.693%	56.436%
3	0.000%	0.000%	0.000%	17.647%	82.353%
4	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

成長感覚の学科別の平均値は4.34(自然系)であった。「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布の割合合計(自然系平均：88.61%)は 90%に近い数値を示しており、学生が自身の成長感覚を高く評価していると言える。ただし、国際文化学科と英語学

科の「4 と 5」の回答分布割合が自然系科目の平均 88.61%に比べて、大幅に低く 66.67%と 73.68%であった。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の分布割合の合計は、日本文学科 2.04%、教育学科 5.26%、歴史文化学科 8.33%、社会経済学科 2.04%、現代経済学科 2.04%、中国語学科 8.33%、経営学科 2.90%、これ以外の 13 学科は 0.00%であった。ただし、中国文学科、日本語学科、国際関係学科、国際文化学科、看護学科の 5 学科において、回答者が 7 名以下になっているので、留意が必要である。

変動係数をみると、教育学科 21.33%、歴史文化学科 21.11%、中国語学科 23.74%、国際文化学科 21.54%の 4 学科は 20%を超えており、自然系科目の平均値 17.27%を大きく上回っている。このように、4 学科に所属する学生の成長感覚は、他の学科と比較すると、相対的に認識のバラツキが大きくみえる。それでも、自然系科目の成長感覚は、総じて低い水準を示している。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	49	4.429	0.728	16.448%
中国文学科	4	4.500	0.866	19.245%
英米文学科	13	4.385	0.625	14.253%
教育学科	19	4.316	0.921	21.333%
書道学科	14	4.071	0.593	14.573%
歴史文化学科	12	4.083	0.862	21.110%
社会経済学科	49	4.367	0.850	19.459%
現代経済学科	49	4.224	0.647	15.322%
中国語学科	24	4.208	0.999	23.742%
英語学科	19	4.211	0.832	19.764%
日本語学科	4	4.500	0.500	11.111%
法律学科	22	4.409	0.717	16.268%
政治学科	17	4.529	0.606	13.371%
国際関係学科	7	4.714	0.452	9.583%
国際文化学科	6	4.167	0.898	21.541%
経営学科	69	4.420	0.710	16.069%
スポーツ科学科	18	4.278	0.558	13.052%
健康科学科	19	4.263	0.636	14.917%
看護学科	4	4.500	0.500	11.111%
社会学科	21	4.381	0.653	14.904%
全学	439	4.339	0.749	17.266%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	209	4.344	0.774
2	201	4.318	0.739
3	17	4.353	0.681
4	12	4.583	0.493

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.041%	8.163%	34.694%	55.102%
中国文学科	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	7.692%	46.154%	46.154%
教育学科	0.000%	5.263%	15.789%	21.053%	57.895%
書道学科	0.000%	0.000%	14.286%	64.286%	21.429%
歴史文化学科	0.000%	8.333%	8.333%	50.000%	33.333%
社会経済学科	2.041%	0.000%	12.245%	30.612%	55.102%
現代経済学科	0.000%	2.041%	6.122%	59.184%	32.653%
中国語学科	4.167%	4.167%	4.167%	41.667%	45.833%
英語学科	0.000%	0.000%	26.316%	26.316%	47.368%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
法律学科	0.000%	0.000%	13.636%	31.818%	54.545%
政治学科	0.000%	0.000%	5.882%	35.294%	58.824%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
国際文化学科	0.000%	0.000%	33.333%	16.667%	50.000%
経営学科	0.000%	2.899%	4.348%	40.580%	52.174%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	5.556%	61.111%	33.333%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.526%	52.632%	36.842%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
社会学科	0.000%	0.000%	9.524%	42.857%	47.619%
全学	0.456%	1.595%	9.339%	40.774%	47.836%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.478%	2.392%	8.612%	39.234%	49.282%
2	0.498%	0.995%	10.448%	42.289%	45.771%
3	0.000%	0.000%	11.765%	41.176%	47.059%
4	0.000%	0.000%	0.000%	41.667%	58.333%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

総合満足の学科別の平均は8.29(自然系)であった。自然系科目の平均(8.29)は全共科目の平均(8.35)、人文系の平均(8.30)、社会系の平均(8.22)、保健体育系の平均(8.89)に比べると、社会系科目に次いで低い数値であった。

満足度の高い「10」から「8」までの回答分布割合の合計をみると、71.49%で、総合的に満足していると言える。中位の「5」から「7」の回答分布割合の合計（自然系の全体平均）が25.52%で、全共科目の平均(23.98%)よりもやや高い数値であった。満足度の低い「1」から「3」までの回答分布割合の合計（自然系平均0.92%）は全共科目全体の平均(0.94%)に比べると、やや低い数値であった。

変動係数をみると、平均値（19.44%）を上回り、バラツキの大きさが示された学科は中国語学科 25.70%、歴史文化学科 23.04%、書道学科 22.66%、英語学科 20.82%、スポーツ科学科 20.65%、現代経済学科 20.38%、日本文学科 19.85%、政治学科 19.78%、看護学科 19.51%の9学科であった。満足度が各点に分散しているとも言える。なかでも歴史文化学科は中位の「5」の分布割合が平均3.22%に対し25.00%、書道学科15.39%と特出して高い。自然系科目に対し満足度がそれほど高いとは言えない層がいることがわかる。

変動係数が平均値以下で、「8」から「10」までの回答分布割合の合計が平均(71.49%)よりも高い結果を示したのは、中国文学科、英米文学科、教育学科、社会経済学科、中国語学科、英語学科、日本語学科、国際関係学科、国際文化学科、経営学科、看護学科の11学科であった。これらの学科は自然系科目に対する満足度が高い学生が多いと言える。

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	49	8.163	1.621	19.853%
中国文学科	4	9.250	1.299	14.044%
英米文学科	13	8.462	1.082	12.792%
教育学科	19	8.579	1.567	18.261%
書道学科	13	7.769	1.761	22.664%
歴史文化学科	12	7.750	1.785	23.037%
社会経済学科	49	8.388	1.614	19.241%
現代経済学科	48	7.979	1.626	20.384%
中国語学科	24	8.292	2.131	25.697%
英語学科	19	8.579	1.786	20.823%
日本語学科	4	9.000	1.225	13.608%
法律学科	22	8.364	1.463	17.493%
政治学科	17	8.176	1.617	19.781%
国際関係学科	7	9.571	0.495	5.170%
国際文化学科	6	8.833	1.462	16.557%
経営学科	68	8.485	1.480	17.444%
スポーツ科学科	18	7.889	1.629	20.652%
健康科学科	18	8.111	1.329	16.381%
看護学科	4	8.500	1.658	19.510%
社会学科	21	8.095	1.306	16.131%
全学	435	8.294	1.612	19.435%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	207	8.309	1.636
2	199	8.221	1.592
3	17	8.294	1.741
4	12	9.250	0.829

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	4.082%	4.082%	4.082%	20.408%	20.408%	20.408%	26.531%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	0.000%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	23.077%	30.769%	23.077%	23.077%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	5.263%	0.000%	0.000%	15.789%	26.316%	10.526%	42.105%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	15.385%	7.692%	23.077%	23.077%	0.000%	30.769%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	8.333%	25.000%	25.000%	16.667%
社会経済学科	0.000%	0.000%	2.041%	2.041%	2.041%	4.082%	12.245%	24.490%	22.449%	30.612%
現代経済学科	2.083%	0.000%	0.000%	2.083%	0.000%	6.250%	20.833%	29.167%	25.000%	14.583%
中国語学科	0.000%	4.167%	0.000%	4.167%	4.167%	4.167%	8.333%	16.667%	16.667%	41.667%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	5.263%	5.263%	5.263%	5.263%	10.526%	26.316%	42.105%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	25.000%	50.000%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.545%	4.545%	22.727%	18.182%	18.182%	31.818%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	5.882%	0.000%	5.882%	17.647%	29.412%	11.765%	29.412%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	42.857%	57.143%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	16.667%	0.000%	16.667%	16.667%	50.000%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.471%	2.941%	5.882%	13.235%	22.059%	20.588%	33.824%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	5.556%	0.000%	0.000%	0.000%	38.889%	16.667%	22.222%	16.667%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	11.111%	27.778%	22.222%	16.667%	22.222%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	25.000%	0.000%	50.000%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.762%	0.000%	33.333%	23.810%	19.048%	19.048%
全学	0.230%	0.230%	0.460%	2.069%	3.218%	4.598%	17.701%	21.839%	19.770%	29.885%

【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.000%	0.483%	0.483%	1.932%	3.382%	4.831%	19.324%	18.841%	18.357%	32.367%
2	0.503%	0.000%	0.000%	2.513%	3.518%	4.523%	18.090%	23.618%	21.106%	26.131%
3	0.000%	0.000%	5.882%	0.000%	0.000%	5.882%	5.882%	35.294%	17.647%	29.412%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%

【クロス表に関する結果(自然系)】

自然系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。

また、右端の列(4+5)に4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(赤字:0→1→9→111→229)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

次に、教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(0→2→27→100→113)も互いに上昇

していることを確認できる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（自然系）（学生所属別）】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【回答数】

	学生意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0
	2 どちらかと言えばそう思わない	0	2	3	1	0	6
	3 どちらとも言えない	0	1	27	8	1	37
	4 どちらかと言えばそう思う	0	4	24	100	11	139
	5 強くそう思う	0	4	24	116	113	257
合計	0	11	78	225	125	439	350

表 2

●【全学共通科目（自然系）（学生所属別）】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

	学生意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
	2 どちらかと言えばそう思わない	0.000%	33.333%	50.000%	16.667%	0.000%	16.667%
	3 どちらとも言えない	0.000%	2.703%	72.973%	21.622%	2.703%	24.324%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.000%	2.878%	17.266%	71.942%	7.914%	79.856%
	5 強くそう思う	0.000%	1.556%	9.339%	45.136%	43.969%	89.105%

【相関係数表に関する結果(自然系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

まず、自然系科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.65 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.57」「学生意欲 0.54」「シラバス通り 0.54」「FB 丁寧 0.35」と続く。これは、「総合満足度」の向上は、「成長感覚を持てるかどうか」が最も強く影響することを示す。人文系、社会系、保健体育系の科目に比べ、自然系は各質問項目の相関関係が強く示された。

次に、「成長感覚」との相関関係順に見ていくと、「学生意欲 0.63」及び「教員熱意 0.60」との間に強い正の相関関係がみられた。その後は正の相関関係順に、「FB 丁寧 0.45」「シラバス通り 0.45」と続く。つまり、「成長感覚」の向上は、教員の熱意があるかどうか強く影響することを示している。

「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響を与えているという強い相関関係が示された。

●【全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔学生意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長感覚〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.000						
Q2	〔難易度適切〕	-0.109	1.000					
Q4	〔FB丁寧〕	0.370	0.023	1.000				
Q5	〔学生意欲〕	0.406	-0.164	0.408	1.000			
Q6	〔教員熱意〕	0.426	-0.092	0.439	0.479	1.000		
Q7	〔成長感覚〕	0.448	-0.152	0.448	0.633	0.603	1.000	
Q8	〔総合満足〕	0.540	-0.280	0.353	0.538	0.567	0.650	1.000

【全学共通科目（保健体育系）（学生所属別）】

保健体育系科目の回答率は 32.44%と、全共科目全体 34.28%よりも低い数値であった。平均の回答率を上回る学科は 7 学科あり（日本文学科 45.46%、中国文学科 38.89%、書道学科 43.59%、歴史文化学科 43.06%、スポーツ科学科、48.44%、健康科学科 49.60%、看護学科 48.11%、社会学科 40.57%）、学科間の相違が顕著であった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	50	60	110	45.455%
中国文学科	7	11	18	38.889%
英米文学科	31	65	96	32.292%
教育学科	23	65	88	26.136%
書道学科	17	22	39	43.590%
歴史文化学科	31	41	72	43.056%
社会経済学科	16	44	60	26.667%
現代経済学科	11	40	51	21.569%
中国語学科	7	19	26	26.923%
英語学科	17	61	78	21.795%
日本語学科	16	35	51	31.373%
法律学科	21	51	72	29.167%
政治学科	9	40	49	18.367%
国際関係学科	4	46	50	8.000%
国際文化学科	8	25	33	24.242%
経営学科	27	165	192	14.063%
スポーツ科学科	31	33	64	48.438%
健康科学科	62	63	125	49.600%
看護学科	51	55	106	48.113%
社会学科	43	63	106	40.566%
全学	482	1,004	1,486	32.436%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	369	553	922	40.022%
2	101	351	452	22.345%
3	8	43	51	15.686%
4	1	53	54	1.852%

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

シラバス既知率は 80.50%と、全共科目全体（81.97%）よりも低い。日本語学科、政治学科、国際関係学科、国際文化学科の 4 学科は 100%であった。政治学科、国際関係学科、国際文化学科の回答者数は 10 名以下であることから、この点は留意が必要であろう。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1a 「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	14.000%	86.000%
中国文学科	28.571%	71.429%
英米文学科	16.129%	83.871%
教育学科	26.087%	73.913%
書道学科	17.647%	82.353%
歴史文化学科	25.806%	74.194%
社会経済学科	18.750%	81.250%
現代経済学科	18.182%	81.818%
中国語学科	14.286%	85.714%
英語学科	23.529%	76.471%
日本語学科	0.000%	100.000%
法律学科	23.810%	76.190%
政治学科	0.000%	100.000%
国際関係学科	0.000%	100.000%
国際文化学科	0.000%	100.000%
経営学科	18.519%	81.481%
スポーツ科学科	16.129%	83.871%
健康科学科	29.032%	70.968%
看護学科	7.843%	92.157%
社会学科	37.209%	62.791%
全学	19.502%	80.498%

学年	1	2
1	20.596%	79.404%
2	15.842%	84.158%
3	12.500%	87.500%
4	100.000%	0.000%

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

学科別の回答分布割合は、「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 94.49%で、シラバスに対する認識評価点の平均値は 4.56 であった。全共科目全体の平均 4.40 と比べて僅かながら高い水準であった。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 100.00%を示しているのは、中国文学科、書道学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、英語学科、日本語学科、政治学科、国際関係学科、国際文化学科の 10 学科であった。また、この 10 学科は「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答分布割合の合計が 0.00%であった。ただし、教育学科は 4 と 5 の回答分布割合の合計が 78.95%で、最も低かった。「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計が 5.26%、「3 どちらとも言えない」の合計が 15.79%であった。以上のように回答分布割合をみると、極端に偏る結果となった。

変動係数をみると、保健体育系の他の質問項目に比べてもその係数が最も低く、学科間の格差は小さい（平均:13.28%）。ただし、中国語学科の変動係数は 0.00%となっているのは、

回答者の全員が特定の点に回答した結果である。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	44	4.591	0.577	12.563%
中国文学科	6	4.333	0.471	10.879%
英米文学科	26	4.346	0.551	12.671%
教育学科	19	4.263	0.909	21.312%
書道学科	15	4.667	0.471	10.102%
歴史文化学科	25	4.480	0.640	14.286%
社会経済学科	13	4.615	0.487	10.541%
現代経済学科	10	4.400	0.490	11.134%
中国語学科	6	5.000	0.000	0.000%
英語学科	15	4.867	0.340	6.985%
日本語学科	16	4.563	0.496	10.873%
法律学科	18	4.333	0.745	17.201%
政治学科	9	4.667	0.471	10.102%
国際関係学科	4	4.750	0.433	9.116%
国際文化学科	8	4.625	0.484	10.468%
経営学科	26	4.500	0.635	14.122%
スポーツ科学科	28	4.714	0.525	11.134%
健康科学科	52	4.481	0.635	14.176%
看護学科	49	4.755	0.475	9.992%
社会学科	28	4.500	0.681	15.142%
全学	417	4.559	0.605	13.279%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	316	4.544	0.607
2	91	4.582	0.612
3	7	5.000	0.000
4	0	0.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	4.545%	31.818%	63.636%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	66.667%	33.333%
英米文学科	0.000%	0.000%	3.846%	57.692%	38.462%
教育学科	0.000%	5.263%	15.789%	26.316%	52.632%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	8.000%	36.000%	56.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	38.462%	61.538%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	13.333%	86.667%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	43.750%	56.250%
法律学科	0.000%	0.000%	16.667%	33.333%	50.000%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
経営学科	0.000%	0.000%	7.692%	34.615%	57.692%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	3.571%	21.429%	75.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	7.692%	36.538%	55.769%
看護学科	0.000%	0.000%	2.041%	20.408%	77.551%
社会学科	0.000%	0.000%	10.714%	28.571%	60.714%
全学	0.000%	0.240%	5.276%	32.854%	61.631%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	0.316%	5.063%	34.494%	60.127%
2	0.000%	0.000%	6.593%	28.571%	64.835%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

授業内容の難易度に対する認識について、保健体育系科目を履修している学生の所属学科別の評価平均値は3.05であった(全学共通科目の平均：3.49)。

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答分布割合の合計(保健体育系科目の全学平均：21.83%)は最小 12.50%(社会経済学科・日本語学科)から最大 44.44%(政治学科)

学科)の間に分布している。これに対して、「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の分布割合の合計(保健体育系科目の全学平均：13.93%)は最小 0.00%(中国文学科、現代経済学科、中国語学科、国際関係学科、国際文化学科)から最大 30.43%(教育学科)の間に分布している。

保健体育系科目の授業の難易度に対する認識は、次のような特徴が見られた。保健体育系の「5」と「4」の回答分布割合が全共科目全体の回答分布割合及び、他系列(人文系・社会系・自然系)と比較してみると、半分以下になっていた。また、学科間の相違も顕著となった。授業を難しいと認識する層(「5」と「4」の分布割合の合計)を全学共通科目の全体と比較してみると、全学科の回答分布割合の合計が減少していた。特に、大幅に減っているのは、日本文学科(全共全体 41.31%→保健体育系 16.00%)、教育学科(51.55%→21.74%)、書道学科(47.82%→23.53%)、社会経済学科(46.13%→12.50%)、現代経済学科(45.04%→18.18%)、英語学科(48.88%→23.53%)、日本語学科(42.68%→12.50%)、法律学科(44.48%→14.29%)、国際関係学科(45.88%→25.00%)、スポーツ科学科(49.69%→19.35%)の10学科であった。この10学科の内、教育学科と書道学科以外の、「3」の回答分布割合が全共科目と比較すると、大幅に増加していた。この結果は「5」と「4」の回答分布割合が「3」の分布へシフトしたことを意味する。また、教育学科と書道学科は、「5」と「4」の回答分布割合が「1」と「2」分布へシフトした。

回答分布割合の変化から、保健体育系科目を履修している多数の学生は所属学科にかかわらず、授業内容を易しいと認識していた。また、授業難易度における認識の相違および格差が、変動係数から確認できる。変動係数の平均値(保健体育系：28.52%)を下回っているのは日本文学科、中国文学科、英米文学科、歴史文化学科、現代経済学科、中国語学科、日本語学科、法律学科、国際関係学科、国際文化学科、経営学科、健康科学科の12学科であった。バラツキが小さいとはいえ、学科の相違に関わらず、授業内容を易しいと捉える認識に偏っている。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	50	2.940	0.732	24.911%
中国文学科	7	3.429	0.495	14.434%
英米文学科	31	3.129	0.751	24.001%
教育学科	23	2.913	1.248	42.844%
書道学科	17	2.882	0.900	31.218%
歴史文化学科	31	2.968	0.595	20.042%
社会経済学科	16	3.063	0.899	29.362%
現代経済学科	11	3.273	0.617	18.840%
中国語学科	7	3.571	0.728	20.396%
英語学科	17	3.059	0.937	30.649%
日本語学科	16	3.000	0.500	16.667%
法律学科	21	3.000	0.617	20.574%
政治学科	9	3.333	1.054	31.623%
国際関係学科	4	3.500	0.866	24.744%
国際文化学科	8	3.375	0.484	14.344%
経営学科	27	3.111	0.831	26.726%
スポーツ科学科	31	2.871	1.100	38.301%
健康科学科	62	3.145	0.759	24.124%
看護学科	50	2.900	1.063	36.656%
社会学科	43	3.070	0.899	29.302%
全学	481	3.046	0.869	28.522%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	368	3.060	0.904
2	101	3.000	0.704
3	8	3.125	1.053
4	1	2.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	8.000%	6.000%	70.000%	16.000%	0.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	57.143%	42.857%	0.000%
英米文学科	6.452%	0.000%	70.968%	19.355%	3.226%
教育学科	17.391%	13.043%	47.826%	4.348%	17.391%
書道学科	11.765%	11.765%	52.941%	23.529%	0.000%
歴史文化学科	3.226%	9.677%	74.194%	12.903%	0.000%
社会経済学科	6.250%	6.250%	75.000%	0.000%	12.500%
現代経済学科	0.000%	0.000%	81.818%	9.091%	9.091%
中国語学科	0.000%	0.000%	57.143%	28.571%	14.286%
英語学科	11.765%	0.000%	64.706%	17.647%	5.882%
日本語学科	0.000%	12.500%	75.000%	12.500%	0.000%
法律学科	4.762%	4.762%	76.190%	14.286%	0.000%
政治学科	11.111%	0.000%	44.444%	33.333%	11.111%
国際関係学科	0.000%	0.000%	75.000%	0.000%	25.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	62.500%	37.500%	0.000%
経営学科	3.704%	14.815%	51.852%	25.926%	3.704%
スポーツ科学科	16.129%	9.677%	54.839%	9.677%	9.677%
健康科学科	4.839%	3.226%	69.355%	17.742%	4.839%
看護学科	18.000%	2.000%	58.000%	16.000%	6.000%
社会学科	9.302%	4.651%	60.465%	20.930%	4.651%
全学	8.316%	5.613%	64.241%	16.840%	4.990%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	9.239%	4.891%	61.957%	18.478%	5.435%
2	4.950%	6.931%	74.257%	10.891%	2.970%
3	12.500%	0.000%	62.500%	12.500%	12.500%
4	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	0.000%

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全共科目全体と同様の傾向が見られるが、教育学科の「2 質問したことがある」の回答割合が他学科に比べて相対的に高く、30.44%であった(保健体育系科目の全学平均:15.34%)。

一方、「2」の回答率が0.00%となっている学科もあり、その学科は国際関係学科であった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ、したことはありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	91.667%	8.333%
中国文学科	85.714%	14.286%
英米文学科	87.097%	12.903%
教育学科	69.565%	30.435%
書道学科	94.118%	5.882%
歴史文化学科	87.097%	12.903%
社会経済学科	87.500%	12.500%
現代経済学科	90.909%	9.091%
中国語学科	85.714%	14.286%
英語学科	82.353%	17.647%
日本語学科	73.333%	26.667%
法律学科	90.476%	9.524%
政治学科	75.000%	25.000%
国際関係学科	100.000%	0.000%
国際文化学科	87.500%	12.500%
経営学科	81.481%	18.519%
スポーツ科学科	77.419%	22.581%
健康科学科	90.000%	10.000%
看護学科	82.353%	17.647%
社会学科	79.070%	20.930%
全学	84.664%	15.336%

学年	1	2
1	85.440%	14.560%
2	84.000%	16.000%
3	75.000%	25.000%
4	100.000%	0.000%

Q4 質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 7 割(70.71%)を超えており、学生が教員の対応を概ね評価していると言える。20 学科中 18 学科が 1 と 2 が 0%で、5 に集中する結果となった。ただし、スポーツ科学科は 1 が 7.41%、看護学科は 1 と 2 の合計が 15.79%を示し、バラツキがみられた。フィードバックの平均値は 4.28 であった。

教員の質問対応に対する評価は平均 4.10 であった。「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合(保健体育系の平均)は 70.71%と、学生が教員の対応を概ね評価していると言える。この回答分布割合の合計は他系の科目と比べても、高い水準であった。

「5」の回答分布の割合が高い学科は、日本文学科、英米文学科、歴史文化学科、英語学科、日本語学科、法律学科、政治学科、スポーツ科学科、健康科学科、社会学科の 10 学科であった。

学科別の変動係数が平均(26.28%)よりも高いのは日本文学科 27.63%、書道学科 43.03%、

歴史文化学科 30.77%、経営学科 37.78%、スポーツ科学科 38.90%の 5 学科で、非常に高い数値を示している。これらの学科は回答分布割合をみても「1」から「5」まで、ある程度均等にばらついている。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	16	3.938	1.088	27.630%
中国文学科	2	4.500	0.500	11.111%
英米文学科	15	4.067	0.854	20.994%
教育学科	10	4.800	0.400	8.333%
書道学科	6	3.000	1.291	43.033%
歴史文化学科	14	3.857	1.187	30.765%
社会経済学科	6	3.667	0.471	12.856%
現代経済学科	4	3.750	0.829	22.111%
中国語学科	2	4.000	1.000	25.000%
英語学科	5	4.800	0.400	8.333%
日本語学科	7	4.143	0.833	20.107%
法律学科	7	4.143	0.833	20.107%
政治学科	4	4.750	0.433	9.116%
国際関係学科	0	0.000	0.000	0.000%
国際文化学科	2	4.500	0.500	11.111%
経営学科	13	3.538	1.337	37.779%
スポーツ科学科	14	3.786	1.473	38.897%
健康科学科	30	4.133	0.921	22.291%
看護学科	26	4.385	1.041	23.733%
社会学科	15	4.467	0.957	21.422%
全学	198	4.101	1.078	26.280%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	153	4.065	1.118
2	39	4.154	0.948
3	4	5.000	0.000
4	0	0.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	6.250%	0.000%	25.000%	31.250%	37.500%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	33.333%	26.667%	40.000%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	80.000%
書道学科	16.667%	16.667%	33.333%	16.667%	16.667%
歴史文化学科	7.143%	0.000%	35.714%	14.286%	42.857%
社会経済学科	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%	0.000%
現代経済学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	80.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
法律学科	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
経営学科	15.385%	0.000%	30.769%	23.077%	30.769%
スポーツ科学科	14.286%	7.143%	14.286%	14.286%	50.000%
健康科学科	0.000%	3.333%	26.667%	23.333%	46.667%
看護学科	3.846%	0.000%	19.231%	7.692%	69.231%
社会学科	0.000%	6.667%	13.333%	6.667%	73.333%
全学	4.040%	2.020%	23.232%	21.212%	49.495%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	4.575%	2.614%	24.183%	18.954%	49.673%
2	2.564%	0.000%	23.077%	28.205%	46.154%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

学生の授業の意欲と熱意に対する認識評価は 4.44(保健体育系の平均)であった。この結果は全共科目全体の平均(4.09)に比べて、やや高い水準となっており、学生は授業に対する高い意欲と熱意を持って取り組んでいると言える。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計をみると、91.06%(保健体育系の平均)で、全共科目全体の「4」と「5」の合計(全平均 81.87%)に比べて高い数値であった。保健体育系の「4と5」の分布割合が平均(91.06%)を上回るのは日本文学科、英米文学科、英語学科、政治学科、国際文化学科、スポーツ科学科、健康科学科、看護学科の8学科であった。そのなかで、英語学科、政治学科、国際文化学科、スポーツ科学科の4学科は100.00%であった。

「5」の回答分布に限ると、全共科目全体の分布割合(30.72%)を上回ったのはすべての学科であった。「4」の回答分布割合は、現代経済学科のみが全共科目の「4」分布割合(51.15%)を上回った。「3 どちらとも言えない」は、中国文学科、歴史文化学科、社会経済学科、国際関係学科の4学科が、全共科目の「3」分布割合(14.74%)を上回っている。

英語学科、政治学科、国際文化学科、スポーツ科学科の4学科は「3」の分布割合は0.00%であった。その減少した回答分布割合は、英語学科とスポーツ科学科は「3」と「5」が「4」へ、政治学科と国際文化学科は「3」が「4」と「5」へ、それぞれシフトしていた。一方、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の分布割合(保健体育系)は0.83%しかなかった。

以上の結果をみると、保健体育系の回答分布割合は「5と4」の回答分布に偏っていることを確認できる。保健体育系科目を履修している学生は自身の授業意欲を非常に高く評価していた。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	50	4.420	0.603	13.642%
中国文学科	7	4.143	0.833	20.107%
英米文学科	31	4.452	0.559	12.551%
教育学科	23	4.565	0.825	18.070%
書道学科	17	4.353	0.836	19.206%
歴史文化学科	30	4.267	0.727	17.045%
社会経済学科	16	4.188	0.726	17.342%
現代経済学科	11	4.273	0.617	14.430%
中国語学科	7	4.429	0.728	16.448%
英語学科	17	4.647	0.478	10.284%
日本語学科	16	4.063	1.029	25.326%
法律学科	21	4.381	0.722	16.485%
政治学科	9	4.667	0.471	10.102%
国際関係学科	4	4.250	0.829	19.510%
国際文化学科	8	4.625	0.484	10.468%
経営学科	27	4.407	0.782	17.747%
スポーツ科学科	31	4.742	0.438	9.228%
健康科学科	62	4.484	0.589	13.128%
看護学科	51	4.627	0.593	12.810%
社会学科	43	4.279	0.693	16.195%
全学	481	4.441	0.686	15.455%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	369	4.442	0.681
2	100	4.430	0.725
3	8	4.625	0.484
4	1	4.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	6.000%	46.000%	48.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
英米文学科	0.000%	0.000%	3.226%	48.387%	48.387%
教育学科	0.000%	4.348%	8.696%	13.043%	73.913%
書道学科	0.000%	5.882%	5.882%	35.294%	52.941%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	16.667%	40.000%	43.333%
社会経済学科	0.000%	0.000%	18.750%	43.750%	37.500%
現代経済学科	0.000%	0.000%	9.091%	54.545%	36.364%
中国語学科	0.000%	0.000%	14.286%	28.571%	57.143%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	35.294%	64.706%
日本語学科	6.250%	0.000%	12.500%	43.750%	37.500%
法律学科	0.000%	0.000%	14.286%	33.333%	52.381%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
国際関係学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
経営学科	0.000%	3.704%	7.407%	33.333%	55.556%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.806%	74.194%
健康科学科	0.000%	0.000%	4.839%	41.935%	53.226%
看護学科	0.000%	0.000%	5.882%	25.490%	68.627%
社会学科	0.000%	0.000%	13.953%	44.186%	41.860%
全学	0.208%	0.624%	8.108%	37.006%	54.054%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q5「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.271%	0.271%	8.401%	37.127%	53.930%
2	0.000%	2.000%	8.000%	35.000%	55.000%
3	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
4	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%

Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合(平均値)が 90%超えており(保健体育系:93.57%)、学生は教員熱意に対する認識を高く評価していると言える。授業内容の認識に関する教員熱意の全学平均値(保健体育系)は 4.64 であった。

特に、「1と2」の学科別回答分布割合は0.21%と非常に低く、高く評価していると言える。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	50	4.580	0.603	13.166%
中国文学科	7	4.714	0.452	9.583%
英米文学科	31	4.548	0.614	13.494%
教育学科	23	4.652	0.698	15.012%
書道学科	17	4.588	0.600	13.074%
歴史文化学科	31	4.516	0.666	14.743%
社会経済学科	16	4.313	0.845	19.605%
現代経済学科	11	4.636	0.481	10.375%
中国語学科	7	4.857	0.350	7.204%
英語学科	17	4.882	0.471	9.639%
日本語学科	16	4.750	0.433	9.116%
法律学科	21	4.571	0.583	12.758%
政治学科	9	4.333	0.667	15.385%
国際関係学科	4	5.000	0.000	0.000%
国際文化学科	8	4.875	0.331	6.784%
経営学科	27	4.481	0.918	20.479%
スポーツ科学科	31	4.903	0.296	6.030%
健康科学科	62	4.629	0.602	13.005%
看護学科	51	4.706	0.535	11.365%
社会学科	43	4.651	0.606	13.019%
全学	482	4.637	0.617	13.305%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	369	4.631	0.593
2	101	4.634	0.714
3	8	5.000	0.000
4	1	4.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	6.000%	30.000%	64.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
英米文学科	0.000%	0.000%	6.452%	32.258%	61.290%
教育学科	0.000%	0.000%	13.043%	8.696%	78.261%
書道学科	0.000%	0.000%	5.882%	29.412%	64.706%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	9.677%	29.032%	61.290%
社会経済学科	0.000%	0.000%	25.000%	18.750%	56.250%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	36.364%	63.636%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	85.714%
英語学科	0.000%	0.000%	5.882%	0.000%	94.118%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
法律学科	0.000%	0.000%	4.762%	33.333%	61.905%
政治学科	0.000%	0.000%	11.111%	44.444%	44.444%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	87.500%
経営学科	3.704%	0.000%	7.407%	22.222%	66.667%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	9.677%	90.323%
健康科学科	0.000%	0.000%	6.452%	24.194%	69.355%
看護学科	0.000%	0.000%	3.922%	21.569%	74.510%
社会学科	0.000%	0.000%	6.977%	20.930%	72.093%
全学	0.207%	0.000%	6.224%	23.029%	70.539%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	0.000%	5.962%	24.932%	69.106%
2	0.990%	0.000%	7.921%	16.832%	74.257%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

成長感覚の平均値(保健体育系科目)は4.40であった。「5強くそう思う」と「4どちらかと言えばそう思う」の回答分布割合の合計(保健体育系平均)は89.40%を示しており、学生が自身の成長感覚を高く評価していると言える。ただし、中国語学科の「4と5」の回答分布割

合(71.43%)が保健体育系科目の平均値(89.40%)に比べて大幅に低く、「3 どちらとも言えない」の分布割合(28.57%)が多いのが特徴である。「1」と「2」の回答分布割合が0.00%となっているので、留意を必要とする。

一方、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答分布割合の合計が日本文学科 2.00%、英米文学科 3.23%、教育学科 4.35%、法律学科 4.76%、経営学科 7.41%、健康科学科 1.61%、社会学科 2.33%であった。他の 13 学科は 0.00%であった。中国文学科、中国語学科、政治学科、国際関係学科、国際文化学科の 5 学科は回答者が 10 名未満のため、留意が必要である。

変動係数をみると、中国語学科 20.55%、教育学科 19.85%、社会学科 19.63%、経営学科 18.81%、法律学科 17.74%、歴史文化学科 16.69%の 6 学科は平均値 16.56%を上回っている。6 学科に所属する学生の成長感覚は、他の学科と比較すると、相対的に認識のバラツキが大きくみえる。しかし、保健体育系科目の成長感覚 Q7 を、他項目の質問(Q1b と Q6 を除く)及び他系列科目(社会系を除く)の変動係数とそれぞれ比較してみると、低い水準を示しており、成長感覚の格差は少なかったと言える。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	50	4.380	0.690	15.745%
中国文学科	7	4.429	0.728	16.448%
英米文学科	31	4.484	0.713	15.893%
教育学科	23	4.391	0.872	19.851%
書道学科	17	4.412	0.600	13.597%
歴史文化学科	31	4.226	0.705	16.689%
社会経済学科	16	4.313	0.682	15.810%
現代経済学科	10	4.500	0.500	11.111%
中国語学科	7	4.286	0.881	20.548%
英語学科	17	4.529	0.696	15.366%
日本語学科	16	4.375	0.599	13.702%
法律学科	21	4.476	0.794	17.738%
政治学科	9	4.333	0.667	15.385%
国際関係学科	4	4.750	0.433	9.116%
国際文化学科	8	4.625	0.696	15.048%
経営学科	27	4.296	0.808	18.808%
スポーツ科学科	31	4.452	0.711	15.975%
健康科学科	62	4.403	0.706	16.038%
看護学科	51	4.569	0.664	14.542%
社会学科	43	4.233	0.831	19.627%
全学	481	4.403	0.729	16.560%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	368	4.375	0.741
2	101	4.485	0.698
3	8	4.750	0.433
4	1	4.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.000%	6.000%	44.000%	48.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	14.286%	28.571%	57.143%
英米文学科	0.000%	3.226%	3.226%	35.484%	58.065%
教育学科	0.000%	4.348%	13.043%	21.739%	60.870%
書道学科	0.000%	0.000%	5.882%	47.059%	47.059%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	16.129%	45.161%	38.710%
社会経済学科	0.000%	0.000%	12.500%	43.750%	43.750%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	28.571%	14.286%	57.143%
英語学科	0.000%	0.000%	11.765%	23.529%	64.706%
日本語学科	0.000%	0.000%	6.250%	50.000%	43.750%
法律学科	0.000%	4.762%	4.762%	28.571%	61.905%
政治学科	0.000%	0.000%	11.111%	44.444%	44.444%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	12.500%	12.500%	75.000%
経営学科	0.000%	7.407%	0.000%	48.148%	44.444%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	12.903%	29.032%	58.065%
健康科学科	0.000%	1.613%	8.065%	38.710%	51.613%
看護学科	0.000%	0.000%	9.804%	23.529%	66.667%
社会学科	2.326%	0.000%	11.628%	44.186%	41.860%
全学	0.208%	1.455%	8.940%	36.590%	52.807%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.272%	1.359%	10.054%	37.228%	51.087%
2	0.000%	1.980%	5.941%	33.663%	58.416%
3	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。【総合満足】

総合満足の学科別の平均値は8.89(保健体育系)であった。保健体育系科目の平均8.89は全共科目の全学平均(8.35)、人文系の全体平均(8.30)、社会系の全体平均(8.22)、自然系の全体平均(8.29)のなかで最も高い水準であった。

満足度の高い「10」から「8」までの回答分布割合の合計（保健体育系の全体平均）は87.14%で、保健体育系の科目に対して概ね満足していると言える。中位の「7」から「5」の分布割合の合計が10.79%で、全共科目の平均(23.98%)よりもかなり低い数値であった。なお、満足度の低い「1」から「3」までの回答分布割合の合計（保健体育系の全体平均1.45%）は全共科目の全体平均(0.94%)に比べると、高い数値であった。

変動係数をみると、変動係数の平均値(保健体育系 16.74%)を上回り、バラツキの大きさが示された学科は、教育学科22.90%、社会学科21.67%、書道学科19.34%、経営学科18.70%、健康科学科17.62%、歴史文化学科16.91%の6学科であった。この6学科における所属学生の評価は満足度が各点に分散していた。一方、英語学科と国際文化学科の変動係数は5.88%と7.42%で非常に低い数値であった。

次に、保健体育系の変動係数が平均以下で、「10」から「8」までの回答分布割合の合計が平均（87.14%）よりも高い結果を示したのは中国語学科、英語学科、日本語学科、政治学科、国際文化学科、スポーツ科学科、健康科学科、看護学科の8学科であった。保健体育系の科目に対して、どの学科の学生も総合満足度を高く認識されている結果となった。

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	50	8.820	1.438	16.303%
中国文学科	7	8.429	0.904	10.720%
英米文学科	31	8.968	1.150	12.819%
教育学科	23	8.913	2.041	22.901%
書道学科	17	8.529	1.649	19.335%
歴史文化学科	31	8.677	1.468	16.913%
社会経済学科	16	8.750	1.392	15.908%
現代経済学科	11	8.545	1.233	14.430%
中国語学科	7	9.429	1.050	11.134%
英語学科	17	9.706	0.570	5.876%
日本語学科	16	8.813	1.014	11.502%
法律学科	21	8.714	1.350	15.494%
政治学科	9	8.889	0.994	11.180%
国際関係学科	4	9.000	1.225	13.608%
国際文化学科	8	9.375	0.696	7.424%
経営学科	27	8.630	1.614	18.698%
スポーツ科学科	31	9.290	1.300	13.993%
健康科学科	62	8.935	1.575	17.623%
看護学科	51	9.275	1.456	15.702%
社会学科	43	8.395	1.819	21.667%
全学	482	8.892	1.489	16.743%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	369	8.883	1.498
2	101	8.901	1.486
3	8	9.375	1.111
4	1	7.000	0.000

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」に対する学科別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	2.000%	0.000%	0.000%	4.000%	8.000%	24.000%	16.000%	46.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	42.857%	28.571%	14.286%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.226%	9.677%	19.355%	22.581%	45.161%
教育学科	0.000%	0.000%	8.696%	0.000%	0.000%	4.348%	0.000%	4.348%	21.739%	60.870%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.882%	11.765%	5.882%	23.529%	5.882%	47.059%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.452%	0.000%	12.903%	25.806%	9.677%	45.161%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	0.000%	12.500%	12.500%	31.250%	37.500%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	9.091%	9.091%	27.273%	27.273%	27.273%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	0.000%	14.286%	71.429%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.882%	17.647%	76.471%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	43.750%	12.500%	37.500%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.762%	0.000%	14.286%	19.048%	23.810%	38.095%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	55.556%	0.000%	44.444%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	25.000%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	37.500%	50.000%
経営学科	0.000%	0.000%	3.704%	0.000%	0.000%	7.407%	3.704%	22.222%	25.926%	37.037%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.226%	0.000%	0.000%	3.226%	16.129%	9.677%	67.742%
健康科学科	1.613%	0.000%	0.000%	0.000%	3.226%	0.000%	6.452%	17.742%	20.968%	50.000%
看護学科	1.961%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.961%	1.961%	7.843%	25.490%	60.784%
社会学科	0.000%	0.000%	2.326%	4.651%	4.651%	0.000%	9.302%	20.930%	23.256%	34.884%
全学	0.415%	0.000%	1.037%	0.622%	1.867%	2.075%	6.846%	19.087%	19.710%	48.340%

【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.542%	0.000%	1.084%	0.813%	1.626%	1.626%	6.233%	19.512%	21.951%	46.612%
2	0.000%	0.000%	0.990%	0.000%	2.970%	3.960%	7.921%	17.822%	12.871%	53.465%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	12.500%	0.000%	75.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	0.000%

【クロス表に関する結果(保健体育系)】

教員熱意と学生熱意とのクロス表(表1:回答数、表2:パーセント)では、それぞれの行で最も高い回答数値を赤字で示している。右端の列(4+5)に、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4と5の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では100分の1の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表1に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。右端の列の数字(赤字:1→0→12→99→326)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。次に、教員熱意と学生熱意とのクロスチェック数値(0→0→17→81→238)も互いに上昇していることを確認で

きる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲も強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【全学共通科目（保健体育系）（学生所属別）】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【回答数】

	学生意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1
	2 どちらかと言えばそう思わない	0	0	0	0	0	0
	3 どちらとも言えない	0	1	17	9	3	30
	4 どちらかと言えばそう思う	0	2	10	81	18	111
	5 強くそう思う	1	0	12	88	238	339
合計	1	3	39	178	260	481	

表 2

●【全学共通科目（保健体育系）（学生所属別）】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

	学生意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	100.000%
	2 どちらかと言えばそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
	3 どちらとも言えない	0.000%	3.333%	56.667%	30.000%	10.000%	40.000%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.000%	1.802%	9.009%	72.973%	16.216%	89.189%
	5 強くそう思う	0.295%	0.000%	3.540%	25.959%	70.206%	96.165%

【相関係数表に関する結果(保健体育系)】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

「総合満足」は、「成長実感(成長感覚)」との間に弱い正の相関関係 0.47 がみられ、正の相関関係の順に「学生意欲 0.50」「教員熱意 0.43」「シラバス通り 0.37」「FB 丁寧 0.21」と続く。つまり、「総合満足」と「成長感覚」が弱い相関関係にあることから、「総合満足」の向上に「成長感覚」がやや影響することを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.52 がみられた。その後は弱い正の相関関係順に、「学生意欲 0.48」「シラバス通り 0.40」「FB 丁寧 0.32」と続く。ここから、「成長感覚」の向上は教員熱意があるかどうかやや影響していることを確認できる。

「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、すべての項目間で相関関係がみられない。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」を促し、「成長感覚」が「総合満足度」に影響

響を与えているという弱い相関関係が示された。保健体育系の科目を履修している学生は他系列科目の履修生に比べて成長感覚に対する認識が相対的に低いという結果になった(人文系 0.57、社会系 0.60、自然系 0.65)。

●【全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラパス通り】	【難易度適切】	【F B 丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラパス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.048	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.402	0.001	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.385	-0.104	0.258	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.435	0.019	0.411	0.496	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.400	0.010	0.316	0.483	0.520	1.000	
Q8	【総合満足】	0.373	-0.077	0.211	0.495	0.433	0.473	1.000

まとめと結論【全学共通科目・4系分類（学生所属別）】

2025年度前期から、全共科目を人文系・社会系・自然系・保健体育系に4分類し、各系科目に対する授業認識の相違が生じるかどうかの分析を行った。全共科目全体で動向を把握すると、どの質問項目においても学科間の相違が見えにくい。4分類でみると全共科目全体ではみえてこなかった傾向が示された。

2025年度後期は特に次の点に注目して考察をおこなった。全共科目と各分類の回答結果を比較して、著しく異なる動向を示す数値がある場合、どの層がどこにシフトしたのか把握するように努めた。これにより、学生の授業難易度の受け止め方や意欲、総合満足に対する認識の変化がみえると考えからである。学科の状況は、特徴的な結果を示した学科を中心に本文中で言及したので、そちらを確認して頂きたい。ここでは分類単位で学生の認識を比較し特徴をまとめる。

回答者数（回答率）は人文系 1,278 人（38.09%）、社会系 1,420 人（33.93%）、自然系 435 人（28.62%）、保健体育系 482 人（32.44%）であった。回答者数は本学の各分類の科

目数の多寡も影響していると思われる。結果は以下の通りである。

1. 「難易度適切」について、全共科目全体の回答分布と変動係数をみると、どちらかというとして授業を難しいと受け止める層が増えつつある。二極化した学科（教育学科、スポーツ科学科、看護学科）と授業を難しいと捉える回答分布割合が大幅に増加した学科（中国文学科、中国語学科、日本語学科、経営学科、国際関係学科）が顕著になった。

人文系科目に対しては、難しいという認識に偏る傾向にある。変動係数が低くばらつきが小さくても、内容的には難しいほうに移行しつつあり、この点は留意が必要である（教育学科、英米文学科、中国文学科、中国語学科、日本語学科、健康科学科）。

社会系科目に対しては、易しいと捉える「1」と「2」が0%の学科（中国文学科、書道学科、中国語学科、日本語学科、国際関係学科、スポーツ科学科）が増えている。その分、難しいと捉える「4」と「5」の分布割合が増加している。

自然系科目に対しては、難しいと捉える層が多い。特に「1」と「2」の分布割合が0%を示した学科が13学科あった。全共科目全体に比べて、「3」が減り、「4」と「5」が大幅に増えた学科は8学科であった。変動係数の数値は小さくても、難しいと捉えるほうへ偏る傾向にある。一方で、変動係数の数値は大きく、難易度に対する認識がばらついていても、自然系科目を易しいと捉える層が一定数いる学科もある（日本文学科、教育学科、社会経済学科、スポーツ科学科）。つまり二極化している学科である。これは自然系科目に対して顕著にみられた結果であった。

保健体育系科目に対しては、学科間の相違が顕著に出る結果となった。全共科目全体と比べると、授業を難しいと捉える層は全学科で減少がみられ、大幅に減少した学科も10学科あった。全体として授業内容を易しいと認識していることがわかる。

難易度適切は、相関係数表をみる限り他の項目との相関はみられないが、学生の学力とも関わると考えられるので、注視しておく必要があるだろう。

2. 学生意欲は、全共科目全体でみると意欲の高い割合が減少し、意欲の低い割合が増加しており、その傾向が強く出た学科もある（教育学科、書道学科、日本語学科、国際関係学科、経営学科）。

人文系科目に対しては、「1」もしくは「2」が増加した学科（中国文学科、書道学科）、の3（どちらとも言えない）が増加した学科（教育学科、経営学科、中国語学科、スポーツ科学科、看護学科）があり、これは全共科目全体の動向とも重なる。

社会科学系科目に対しては、全体としてはやや低下傾向にあるが、それでも学生は自己意欲を高く評価していると言える。「3」の分布割合が「4」と「5」へシフトし自己意欲が高くなった学科（中国文学科、中国語学科）がある一方で、「4」と「5」が「3」へとシフトした学科もある（英米文学科、英語学科、国際関係学科、健康科学科、看護学科）。

自然系科目に対して、学生は自身の意欲や熱意を総じて高く評価している。全共科目全

体と自然系科目の「3」の分布割合を比較しても、自然系科目のほうが低い。低くなった分は「4」もしくは「5」へとシフトしており、意欲の高い層が増えたことを示している（日本語学科、国際関係学科、看護学科）。

保険体育系科目に対しては、学生は自身の意欲や熱意を高く評価している。全共科目全体と比べても高い数値を示し、回答も意欲を高く評価するほうに偏る結果となった。

3. 教員の熱意に対しては、全共科目全体、人文系科目、社会系科目、自然系科目、保健体育系のどの分類をみても高い評価となった。これは例年と変わらない。

4. 成長感覚は全共科目全体でみると、成長実感の高い層が減少し、弱い層が増加する傾向にある（教育学科、書道学科、歴史文化学科、英語学科、中国語学科、社会経済学科、国際関係学科、スポーツ科学科）。

人文系科目に対しては、学生は総じて成長感覚を高く評価している。ただし、一部の学科では「1」と「2」が増加していることから変動係数が大きく、成長感覚のばらつきを示す結果となった（書道学科、社会経済学科、国際関係学科）。

社会系科目に対しては、どの学科の学生も成長感覚を高く評価している。ただし、一部の学科では、評価のバラツキが大きい結果となった（書道学科、日本語学科、国際関係学科）。

自然科学系科目に対しても、学生は成長感覚を高く評価している結果となった。成長感覚の低い「1」と「2」が0%の学科も13学科あった。そのなかで、高い評価を示す「4」と「5」の割合が、他学科よりも20%以上低い結果を示した学科（英語学科、国際文化学科）があった点は留意したほうが良いだろう。

保健体育系科目に対しては、学生は自身の成長を高く認識している。中国語学科は成長感覚の高い認識（「4」、「5」）を示す割合が平均よりも低く、「3どちらとも言えない」と認識する層が多い結果となった

5. 総合満足は、全共科目全体でみると前期よりも向上し、まずまずの結果と言える。ただし、変動係数が他の質問項目と比べても高い数値を示していることから学科間格差がかなり出る結果となった。注意を要すると思われるのは学年別の動向である。例年同様、4年生は満足度の高い「10」の分布割合が多く、満足度の低い「1」と「2」は同程度であるが、1年生、2年生、3年生は「2」よりも「1」の分布割合が多いという結果であった。

人文系科目に対する総合満足度は、学科間格差はあるが総じて高い。なかでも変動係数が低くばらつきが少なく、回答分布割合も高い層が多くを占める6学科（中国文学科、英米文学科、現代経済学科、日本語学科、法律学科、健康科学科）は、人文系科目に対して高い満足度を示す結果となった。

社会系科目も人文系科目と同様に学科間格差はあるが総合満足度は総じて高い。なかでも変動係数が低くバラツキが少なく、回答分布割合も高い層が多くを占める11学科（日本文学科、中国文学科、教育学科、社会経済学科、現代経済学科、中国語学科、日本

語学科、政治学科、国際文化学科、スポーツ科学科、看護学科)は社会系科目に対して高い満足度を示した。バラツキが大きくなった8学科(書道学科、日本語学科、英語学科、法律学科、経営学科、スポーツ科学科、健康科学科、看護学科)は満足度が分散したことになる。

中国文学科、現代経済学科の学生は人文系科目と社会系科目の両方に対する満足度の高さがわかる。英米文学科と日本語学科、法律学科、健康科学科は、人文系科目に対して満足の高さを示したが、社会系科目に対しては満足度が分散する結果となった。

自然系科目に対する総合満足度は総じて高いと言えるが、学科間のばらつきは大きい。中位(「5」から「7」)の数値は全共科目全体よりも自然系科目のほうが高く、かつ低位(「1」から「3」)の数値は自然系科目のほうが低かった。そのなかで、(10段階中)「5」の割合が平均よりも突出して高い数値を示した学科(書道学科、歴史文化学科)があり、これらの学科の学生は自然系科目に対する満足度が高いとは言えない層が一定数いることになる。その一方で、変動係数が低く、満足度の高い層が多くを占める学科が7学科あり、自然系科目に対する総合満足度の学科間の相違が顕著であった。

保健体育系科目に対する総合満足度は、平均値をみると全共科目全体と4分類のなかで最も高い数値を示した。ただし、満足度の高い割合は全共科目全体よりも高い数値を示したが、満足度の低い割合も全共科目全体よりも高く、学科間のばらつきはある。とはいえ、変動係数自体がそれほど高くないことから、学科間格差はあっても保健体育系科目に対する満足度を高く認識していると言える。

6. 全共科目全体と4分類の動向を比較してみると、授業に対する認識が学科によって異なっていることが顕著に表れた結果となった。人文系、社会系といった科目の相違よりも、学科間の学生の相違が表れたと言える。

全体として授業を難しいと捉える層が増加しており、学力が影響していると考えられる。全体的に学力が低下しているなかで、授業を易しいと捉える一定の学力を有する学生も一定数を占めている。加えて、学生が自身の意欲や熱意をそれなりに評価している点も無視できない。授業が難しくても理解しようとする、学生なりの意識の表れともとれる。こうした現状に対し、全学共通科目を担当する教員は授業運営に非常に苦慮されていると思われる。

クロス集計の結果をみると、後期は前期と同様に教員熱意が向上すると、学生意欲も上昇するという関係がみられた。相関係数は前期と同様に弱い正の相関関係がみられた。今後、相関関係がどのように変化するか変遷をみる必要があるだろう。

7. 授業の難易度の受け止め方から、学生の学力の二極化、あるいは全体的な学力低下が見えてきており、全学共通科目の課題とは別に、各学科で学生の現状を把握したうえで、初年次教育のあり方を再考する必要があると思われる。

以上

3. 各学部・学科によるアンケート結果についての考察

文学部 日本文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

日本文学科においては、設問に対して、おおむね平均より高い満足度がうかがえた。学生の学習意欲に十分答えられるような技術と情熱を、教員は備えなければいけないと感じた。ただし、学生の設問に対する教員側のコメントが少ないとの指摘があり、この点は改善すべき問題であると感じた。

以上

文学部 中国文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q1a「シラバス既知」2「はい」(前期 80.157・後期 86.441)、Q1b「シラバス通り」(前期 4.328・後期 4.341)、Q2「難易度適切」3「適切」(前期 3.625・後期 3.571)については、総合的に全学平均値よりも高かった。Q3「質問対応」2「はい」(前期 82.841・後期 82.264)については、全学平均値より若干低かった。学生に質問を促すような指導や質問がしやすい環境作りに留意していきたい。Q4「フィードバック」(前期 4.174・後期 4.324)、Q5「自分意欲」(前期 4.016・後期 4.189)、Q6「教員熱意」(前期 4.559・後期 4.623)、Q7「成長感覚」(前期 4.263・後期 4.396)については、全学平均並み或いはそれよりも高く、とりわけQ6「教員熱意」については、学科別で後期は5番目に高かった。教員の熱意が学生にしっかりと届き、それによって成長を実感する学生が増えたと思われる。Q8「総合満足」(前期 8.234・後期 8.562)についても、全学平均値よりも高く、後期は学科別でも4番目に高かった。

次年度以降も、よりよい授業を目指して改善すべき所は改善していきたい。

以上

文学部 英米文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

以下では、2025年度前期および後期に実施された学生による授業認識アンケート（Q1～Q8）をもとに、英米文学科の結果について、他学科との比較の観点から特徴・課題・改善点を報告する。

まず、英米文学科の特徴として、授業運営の安定性の高さが挙げられる。とりわけ「授業はシラバスの記述通りに行われたか」（Q1b）に関しては、前期4.404から後期4.495へと上昇し、全学平均（後期4.387）を上回る水準にある。これは、授業計画が適切に設計され、かつ実際の授業運営においてもそれが着実に実行されていることを示しており、学生からの信頼性が比較的高いことを意味する。また、変動係数も前期16.44%から後期14.03%へと低下しており、授業間のばらつきが改善傾向にある点も評価できる。さらに、「授業の難易度」（Q2）については、「適切」および「やや難しい」に回答が集中しており、全体として極端な難易度設定は見られず、標準的で安定した授業設計がなされているといえる。「シラバス内容の認知」（Q1a）についても約80%前後と全学平均と同程度であり、特段の問題は認められない。

一方で、他学科との比較においていくつかの課題も明らかとなった。第一に、難易度（Q2）の「最適感」の弱さである。後期に焦点を絞ると、英米文学科では「適切だった」と回答した割合が約50%にとどまり、歴史文化学科や日本文学科などで見られる60%前後の水準には達していない。これは、授業がやや難しいと受け止められている可能性を示唆しており、学生にとっての学習負担や理解度に影響を与えている可能性がある。第二に、シラバス認知においても、国際文化学科のように90%以上の高い認知率を示す学科と比較すると差があり、約2割の学生がシラバス内容を十分に把握していない点は看過できない。第三に、Q5～Q8に関連する学生の意欲・成長実感・満足度については、個別数値は限定的であるものの、難易度やシラバス理解の状況を踏まえると、学習成果の実感や総合満足度において伸び悩みが生じる可能性がある。総じて、英米文学科は全体として「中の上」に位置する安定した評価を得ている一方で、他学科と比較した際の突出した強みにはやや欠ける状況にあるといえる。

以上を踏まえ、今後の改善に向けては以下の点が重要である。第一に、難易度設計の最適化である。具体的には、課題量や読解内容の段階的調整、予習支援の充実、到達目標の明確化などを通じて、学生が「適切」と感じる割合を高める必要がある。第二に、シラバスの活用促進である。初回授業での丁寧な説明に加え、各回の授業内容とシラバスとの対応関係を明示し、学生が継続的に参照できる仕組みを整えることが求められる。第三に、

学習成果の可視化とフィードバックの強化である。教員が積極的に分かりやすいフィードバックを行い、その可視化を進めていくことで、学生が自身の成長を実感できる機会を増やすことが重要である。さらに、ディスカッションや発表などのアクティブラーニングを取り入れ、英米文学科ならではの学問的魅力を前面に打ち出すことで、総合満足度の向上にもつなげることが求められる。

以上

文学部 教育学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

大部分の受講生はシラバスを把握しており、授業は概ねシラバス通りに行われていると評価している。2025年度前期のQ1b（シラバス通り）の平均値は4.20（変動係数21.39%）であり、かつ、後期にも平均4.34（変動係数18.08%）と高い値を示しており、一年を通して安定した授業運営が行われていることが伺える。

授業難易度（Q2）については、前期は「やや難しかった」「とても難しかった」の合計が48.36%を占めていたが、後期には40.66%に減少し、「適切だった」との回答が45.87%から55.69%へと約10ポイント増加した。これは学生が大学の学修レベルに適応したことや、教員側の適切な難易度調整が奏功した結果と推察される。

「成長感覚（Q7）」や「総合満足度（Q8）」においても、前期（成長感覚：平均4.23、総合満足：平均8.00）、後期（成長感覚：平均4.35、総合満足：平均8.29）と、一年を通して高値で安定している。「教員熱意（Q6）」に対する評価も前期の4.46、後期の4.56でこちらも安定した数値を示しており、教員の熱意が学生の成長実感や満足度を力強く牽引しているという全学的な傾向が、教育学科においてもしっかりと表れている。

■Q9a（良かった点）、Q9b（改善すべき点）の自由記述回答部分から感じられたことなどについて授業担当者の自由意志に基づく範囲において学科内で共有する機会があれば、そこから今後の授業改善に向けて得られた示唆について記述してください。【オプション】※自由記述については情報提供いたしません。先生方のご自身の対象科目に書かれた内容を指しております。

特段共有すべき固有の事項はありませんが、引き続き自由記述から得られる学生の生の声を真摯に受け止め、学科内でのFD活動や授業改善のヒントとして活用していくことが望まれます。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

授業に対する学生の評価（満足度や成長実感、教員への評価）が前期から後期にかけて軒並み向上している一方で、アンケートの「回答率」は前期の34.46%から後期の29.79%へと低下している点が気掛かりである。満足度が高い学生の声は十分に拾えているものの、回答していない約7割の学生のなかに、授業についていけず意欲を落としている層が隠れている可能性も否定できない。

また、教員のコメント入力率は前期の43.9%から後期の50.9%へと改善傾向にあるもの

の、依然として約半数の教員が入力していない状態である。学生の回答率を向上させ、より実態に即した授業改善サイクルを回すためにも、まずは教員側からの積極的なフィードバック（コメント入力）を一層推進し、学生のアンケートに対する効力感を高めていくことが求められる。

以上

文学部 書道学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

2025年度の書道学科におけるアンケート回答率は、前期が48.87%、後期が49.32%であり、年間を通じて全学平均（前期41.66%、後期35.50%）を大きく上回る高い水準を維持しています。

特筆すべきは、ほとんどの設問において全学で最も高い評価を得ている点です。具体的には、Q8「総合満足」の平均値が前期8.91、後期8.95（全学平均：前期8.12、後期8.32）であり、年間を通じて全学1位の極めて高い満足度を示しています。これに連動するように、Q6「教員の熱意」（前期4.69、後期4.70）、Q5「学生の意欲」（前期4.44、後期4.41）、Q4「フィードバック」（前期4.55、後期4.48）の各項目でも、いずれも全学1位あるいはトップクラスの評価を得ています。

特にQ7「成長感覚」においては、最高評価である「5 強くそう思う」と回答した学生の割合が前期62.72%、後期63.84%に達しており、全学平均（前期43.85%、後期46.30%）を20%近く上回っています。実技を通じた技能向上などの学科特性が、学生の強い成長実感につながっていると考えられます。また、Q3「質問経験」についても「はい（質問したことがある）」と回答した割合が年間で32～34%（全学平均は約17%）と非常に高く、教員と学生の間で活発なコミュニケーションが行われている様子が数字に表れています。

一方で、全学共通科目におけるQ2「授業の難易度」については留意が必要です。後期において「とても難しかった・やや難しかった」の合計が前期から13%以上増加し、「3 適切だった」と回答する割合が減少しました。共通科目において、授業内容を理解することに困難を感じる学生が一部で増加傾向にある点は、今後の課題といえます。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

学生側から極めて高い評価を得ている一方で、教員側の対応として、専任教員のコメント入力率の低さが顕著な課題として挙げられます。専任教員のコメント入力率は前期が33.3%、後期が44.4%となっており、いずれの期も全学平均（前期68.1%、後期63.5%）を大きく下回っています。書道学科は全学で最も専任教員の入力率が低い学科の一つとなっており、学生の回答意欲や信頼関係を維持するためにも、専任教員による積極的なフィードバックの促進が学科内での最優先の改善事項といえます。

文学部 歴史文化学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

〔前期〕

全体として前回調査より改善傾向にはあるが、よくも悪しくも全学平均に近い結果となった。数値においても、バラツキを示す変動係数においても、本学科が名指しされることは、ほぼなかった。詳細は、以下の通りである。

【シラバス】

【Q1a】「あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。」について、知っていると答えた学生は全学平均の79.927%に対して、本学科は80.529%で、若干上回ったが、ほぼ平均と同じ。

【Q1b】「シラバス通り」についても、全学平均の4.341に対して、本学科は4.355で、若干上回ったが、ほぼ平均と同じ。

【授業の難易度】

Q2「自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。」は全学部とも、3)適切だった、と4)やや難しかった、の中間に平均がある。全学平均の3.568に対して、本学科は3.524で、若干下回ったが、ほぼ平均と同じ。全学では3と4の合計が82.85%であるが、本学科は84.73%なので、若干上回っていて、よい傾向にある。

【フィードバック】

Q4「質問に対する教員の対応は適切だったと思いますか。」については、全学平均の4.098に対して、本学科は4.139で、若干上回ったが、ほぼ平均と同じ。「5強く思う」の評価は、2024年度後期に比べ上昇したのは、中国語学科および歴史文化学科の2学科だけだった。

【学生の意欲/熱意】

Q5「あなたはこの授業に対して意欲/熱意を持って取り組んだと思いますか。」については全学平均の4.079に対して、本学科は4.034で、若干下回ったが、ほぼ平均と同じ。

【教員の意欲/熱意】

Q6「教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。」については、全学平均の4.489に対して、本学科は4.519で、若干上回ったが、ほぼ平均と同じ。

【成長感覚】

Q7「この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。」については、全学平均

の 4.263 に対して、本学科は 4.301 で、若干上回ったが、ほぼ平均と同じ。

【総合満足】

Q8「すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。」については、全学平均の 8.123 に対して、本学科は 8.063 で、若干下回ったが、ほぼ平均と同じ。

これらは主に教員所属学科別の結果だが、全学共通科目についての学生所属学科別の結果についても、おおむねこれと似た傾向が見られる。

[後期]

2025 年度後期は、全体として平均値に近い場合が多く、よくも悪しくも名指しされることが少なかった。詳細は、以下の通りである。

【Q1a】「シラバス既知度」の変動係数は、学科間の格差を確認できるが、全学平均 16.20% に対し、本学科は係数が 3 番目に高く、17.98%（前期：16.05%）だったので、学生間のバラツキが大きいことになる。

【Q2】「難易度適切」では、「3 適切だった」が 5 割を超える高い数値を示したとして、全学科部局中、2 番目に高かった（63.12%）。これはよい傾向にある、といえる。

【Q3】「あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。」では、「いいえ」の回答が 3 番目に高かった（88.09%）。

【Q4】「教員の質問対応」では、「5 強くそう思う」の評価は 2025 年度前期に比べて上昇している（42.77%）。

【Q5】「自分意欲」は、全学科部局中、2 番目に低かったが、それに加えて平均を超えバラツキの大きさを示した 8 学科のうちにも、入っている（19.54%）。前期はそのようなことはなかったため、この点悪化している。

【Q6】「教員熱意」は、4.470 と全学平均(4.53)以下で、6 番目に低かった（文学部 6 学科中では、最下位）。前期はそのようなことはなかったため、この点悪化している。

【Q7】「成長感覚」は、4.28 と全学平均(4.33)以下で、6 番目に低かった（文学部 6 学科中では、最下位）。前期はそのようなことはなかったため、この点悪化している。

【Q8】「総合満足」は、8.19 と前期（8.06）よりは上昇したが、全学平均(8.32)以下で、5 番目に低かった（文学部 6 学科中では、最下位）ことに加えて、変動係数の変動幅が 20%以上の 8 学科のうちの一つだった（20.05%）。

これらは主に教員所属学科別の結果だが、全学共通科目についての学生所属学科別の結果についても、おおむねこれと似た傾向が見られる。特に、全学共通科目で目立ったものとしては、自然系科目に対する総合満足は総じて高いと言えるが、学科間のばらつきは大きい中で、中位（「5」から「7」）の数値は全共科目全体よりも自然系科目のほうが高く、かつ低位（「1」から「3」）の数値は自然系科目のほうが低かった。そのなかで、（10 段階中）「5」の割合が平均よりも突出して高い数値を示した学科として、書道学科とならんで、歴史文化学科が挙げられている。これらの学科の学生には、自然系科目に対する満

足度が高いとは言えない層が一定数いることになる。

年間を通して見てみると、【Q5】以降【Q8】までの項目で前期よりも後期の方が悪い結果となった。まずは、この結果を真摯に受けとめ、原因究明とともに次年度に向けて改善を心がけていきたい。

■ アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

2025年度前期は、提出率が2024年度後期より18.55%上がり、48.19%の学生が回答していた。これは全学科部局中、4番目に高い上昇率である。教員側のコメント入力率も、87.5%と全学科部局中、2番目に高かった（専任教員のみ。非常勤教員のコメント入力率は、41.7%とだいぶ低かった）。後期は、前期が高かったからか、回答率（=2025年度後期－2025年度前期）では、減少率が全学科部局中、最大だった（-14.68%）。ただ、教員側のコメント入力率は85.7%と全学科部局中、2番目に高かった（専任教員のみ。非常勤教員のコメント入力率は、41.7%とだいぶ低かった）。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

アンケート結果について、10点満点で評価した「Q8 総合満足」に着目すると、社会経済学科の平均は前期 7.95・後期 8.07、現代経済学科の平均は前期 7.85・後期 7.83であった。全学平均は前期 8.12・後期 8.32 であり、経済学部の値は全学平均と比べてやや低い傾向が見られる。ただし、昨年度の結果（社会経済学科：前期 8.16・後期 8.26、現代経済学科：前期 7.41・後期 7.93）と比較すると、いずれの学科においても満足度は改善しており、特に現代経済学科では前期・後期ともに一定の上昇が見られる。

原因を考察するうえで、「Q2 難易度適切」「Q3 質問対応」「Q5 自分意欲」の回答に着目する。授業の難易度を尋ねた「Q2 難易度適切」の結果を見ると、社会経済学科は前期 3.655・後期 3.586、現代経済学科は前期 3.654・後期 3.867 であり、全学平均（前期 3.568・後期 3.546）と比べるとやや高い値となっている。このことから、経済学部の授業は学生にとってやや難しいと感じられている可能性がある。この傾向自体は昨年度と大きく変わらない。

しかし、「Q3 質問対応」において、質問をしたことがあると答えた学生の割合は、社会経済学科で前期 7.7%・後期 12.1%、現代経済学科で前期 11.45%・後期 12.1%であり、全学平均（前期 17.16%・後期 17.7%）と比べると依然として低い水準にある。講義内容に関する疑問や理解が十分でない部分があった場合でも、質問という形で解消する学生は必ずしも多くない実態がうかがえる。

また、授業に対して意欲・熱意を持って取り組んだかどうかを尋ねた「Q5 自分意欲」の回答からは、社会経済学科は前期約 3.95・後期 3.98、現代経済学科は前期 3.95・後期 4.01 となっており、全学平均（前期 4.08・後期 4.12）と比べるとやや低い傾向が見られる。ただし、昨年度の結果と比較すると、現代経済学科では前期・後期ともに数値の改善が見られており、学生の授業への関与の度合いは一定程度高まっている可能性がある。

調査設計上の問題により、意欲が低いから満足度が下がったのか、あるいはその逆なのかの因果関係までは、本調査結果からは明らかにできない。しかし、経済学部内で前後期を比較すると、後期は前期に比べて満足度がやや上昇しており、学生が授業内容に徐々に慣れ理解が進むことによって評価が改善している可能性も考えられる。

もっとも、全学的に見ても回答者の代表性には一定の制約があること、学科の数値と全学平均の差が統計的に意味のある大きさなのかが必ずしも明確ではないことなどから、結果の解釈には留意が必要である。全体として見ると、経済学部のアンケート結果は、設問によって全学平均を上回るものもあれば下回るものもあるが、平均値と大きく乖離する項

目は見られない。回答の分布を見ても、経済学部の結果が大学全体の傾向と大きく異なるものではないと考えられる。

以上

外国語学部 中国語学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

「はい(おおよそ)知っています」の割合は以下のとおりである。

前期 77.6%(全学平均 79.9%)(17/22位)

後期 79.2%(全学平均 80.4%)(16/22位)

シラバス内容を知っている学生の割合が前期より若干増えているものの、なお全学平均を下回っており、学生への周知を強化する機会を増やす必要がある。

【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか？

前期 4.39(全学平均 4.34)(9/22位)

後期 4.32(全学平均 4.39)(18/22位)

前期では全学平均を上回ったものの、後期は全学平均をわずかに下回る結果となった。前期は概ねシラバス通りに授業が行われているとの評価を受けたと考えられる。後期授業におけるシラバスとの整合性が図られるような取り組みが必要である。

【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか？

「はい、あります」の割合は下記のとおりである。

前期 27.2%(全学平均 17.16%)(3/22位)

後期 31.54%(全学平均 17.74%)(3/22位)

前期、後期ともに全学平均を上回っている。学生が質問の機会を通して積極的に授業を理解しようとする姿勢がうかがえる。

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか？

「4.どちらかというと思う」、「5.強くそう思う」の肯定的な評価の平均値は下記のとおりである。

前期 4.22(全学平均 4.1)(7/22位)

後期 4.23(全学平均 4.13)(7/22位)

前期、後期ともに全学平均を僅かながら上回っており、学生の質問に対する対応がある程度評価されていると考えられる。

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲/熱意を持って取り組んだと思いますか？

「4.どちらかというと思う」、「5.強くそう思う」の肯定的に取り組んだという学生の自己評価の平均値は下記のとおりである。

前期 4.17(全学平均 4.1)(7/22位)

後期 4.1(全学平均 4.12)(15/22位)

わずかにではあるが、前期に比べ、後期の平均値が下がってしまった。次年度は学生の積極的な学習態度を生み出すように一層努力する必要があると思われる。

【Q6】 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか？

「4.どちらかというと思う」、「5.強く思う」の肯定的評価の平均値は下記のとおりである。

前期 4.53(全学平均 4.49)(11/22 位)

後期 4.44(全学平均 4.53)(18/22 位)

前期は全学平均をわずかに上回ったが、後期の評価は全学平均を 0.1 ポイント下回り、全学での順位を大きく下げた。次年度は授業に対する熱意が伝わるよう取り組み、評価が上がるようにする必要があると思われる。

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか？

前期 4.38(全学平均 4.26)(6/22 位)

後期 4.33(全学平均 4.33)(14/22 位)

前期では全学平均を上回り、後期は全学平均となった。次年度もこの状態を維持できるようにする必要がある。

【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか？「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1 として、10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

前期 8.31(全学平均 8.12)(7/22 位)

後期 8.22(全学平均 8.32)(16/22 位)

前期では全学平均を上回ったものの、後期は全学平均を 0.1 ポイント下回った。学生が満足していない点を探り、学生が満足するような授業を展開する努力が必要であると考え

外国語学部 英語学科

- Q1a～Q8 の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

後期の回答率減少について考えられる理由を教務委員会等で協議したい。

学科学生の参加熱意のバラツキを指摘されたが、同じ印象を持つ教員が少なくないと想像する。

とはいえ授業満足度が全学でも高い方にあるなら、学科必修授業のほとんどが少人数制であるためではないか。

- アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

「『教員熱意』が学生の『成長感覚』を促し、『成長感覚』が『総合満足度』に影響を与えている」という分析があったが、そうであってほしい。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

解説において日本語学科に触れられている項目を以下にとりあげていく。

「【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]」という項目に関して、「3 適切だった」が 5 割を超える高い数値を示した学科の一つとして、日本語学科（52.80%）があげられている。この数値が高いということは、学科の教員が学生のレベルに合わせて授業を行っているということであり、望ましい結果だと思われる。

「【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[学生意欲]」に関して、「平均を超えバラツキの大きさを示した」8学科の一つとして、日本語学科（19.67%）があげられている。意欲の低い学生に、学科の学修に興味を持たせ、いかにやる気を引きだすかが課題である。

「【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]」という項目に関しては、「4」よりも「5」の割合が高かった 13 学科の一つとして、日本語学科（5 が 47.73%）があげられている。これも、学科の教員一人一人が日々工夫して授業を行っている結果だと思われる。

「【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1 として、10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]」に関しては、10「大いに満足した」が全学平均値の 30.99%を超える 10 学科の一つとして、日本語学科（35.83%）があげられており、8 から 10 の合計が 80%を超えている 4 学科の一つとして、日本語学科（81.28%）の名前があがっている。【Q2】【Q7】などの結果が、総合的な満足度の高さとなっているものと思われる。

以上

法学部 法律学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

まず回答率について、2025年度前期は全学とさほど差はなかったものの（法律学科40.27%、全学41.66%）、後期では約5ポイントほど全学を下回ってしまった（法律学科30.60%、全学35.50%）。後期においてアンケート回答を学生に促すように働きかけをする必要があるように思われる。またコメント入力率については、2025年度前期では全学平均を上回っているものの（法律学科64.1%、全学56.1%。いずれも専任・非常勤の合算）、後期は全学平均を下回っている（法律学科46.9%、全学51.1%）。学生に対してだけではなく、教員に対してもアンケート実施後のコメント入力をうながす必要があるように思われる。

授業難易度に関しては、2025年度前期は全学と比べて法律学科において難しいと感じている学生が多い傾向にあるように思われる（法律学科56.78%、全学49.55%。やや難しい・とても難しいの回答の合算）。一方で後期においては法律学科と全学とであまり差はみられなかった。これは前期には初めて学ぶ科目であることから分かりにくいという印象が残りやすいが、後期では前期で学んだことをベースに引き続き学ぶことになるため、理解がしやすくなり難しいと感じる割合が下がったのではないかとと思われる。また教員に対する質問について、質問をしたことがない（いいえ）との回答が法律学科では全学に比べて前期・後期ともに高く、質問をしたことがある（はい）との回答が低くなっている（前期：法律学科いいえ88.23%はい11.77%、全学いいえ82.84%はい17.16%、後期：法律学科いいえ87.32%はい12.68%、全学いいえ82.26%はい17.74%）。学生認識／行動調査2024の結果で法律学科では全学と比べて信頼のできる教員がいるとした回答率が低かったことも影響しているように思われる。また、フィードバックに関しても、適切だと強く思うという回答の割合が法律学科では全学に比べて前期・後期ともに低くなっている（前期：法律学科39.05%、全学44.49%、後期：法律学科39.49%、全学46.25%）。どちらかと言えばそう思うの回答は法律学科と全学とで前期・後期ともにあまり差はないことから考えると、学生からの質問に対してある程度の回答はできているが、学生が十分に満足する回答はできていないということになるであろう。学生に対してより真摯に対応する姿勢が求められると思われる。最後に全学共通科目における回答率は、前期・後期ともに全学よりもかなり高かった（前期：法律学科58.54%、全学41.06%、後期：法律学科43.27%、全学34.28%）。

以上

法学部 政治学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

まず今年度の本学科学生のアンケート回答率は、前期 44.8%、後期 35.9%であり、昨年度（前期/後期:38.1/35.8%）、一昨年度（同：29.0/33.7%）より上昇傾向にある。しかしながら、前期/後期の間で回答率が大幅に低下しているため、その点は引き続き学生への周知を徹底したい。回答内容について、Q1.シラバス認知度、Q2.授業の難易度の適切さ、Q3.学生の積極性（教員への質問など）、Q4.教員からのフィードバックの適切さ、Q5.学生の意欲、Q6.教員の熱意の各項目については、本学科は全学平均とほぼ同等の値を示しており、標準的な結果と言える。その中で特筆すべきは、Q7.学生の成長実感である。全学的なアンケート集計でも指摘されているように、政治学科では、授業を通じて（知識の増加や技能向上などの）「成長感覚を得たか」という問いに対し、「4.どちらかと言えばそう思う（44.5%）」よりも「5.強くそう思う（46.3%）」の割合の方が高く、回答の平均値（4.4）も全学平均（4.3）をやや上回っている。このような学生の明確な「成長実感」が本学科の教育のどの部分に起因するものか、このアンケート結果からは詳細が掴めないものの、高く評価すべき点であるため、今後も学科内のアンケートなどによって調査したい。Q.8 総合満足度も、10段階評価で「8.4」（全学平均は 8.3）と比較的高水準であるため、さらにこの数値を上げるべく努めたい。

以上

国際関係学部 国際関係学科・国際文化学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

国際関係学部における2025年度後期のアンケート結果を分析したところ、以下の傾向が顕著であった。

まず、回答率についてである。国際関係学科（以下、関係）の回答率は37.9%、国際文化学科（以下、文化）は43.9%であった。全学平均（35.5%）と比較すると、文化は平均を上回っており、学生の参画意識の高さが伺える。一方、関係は全学平均をわずかに下回っている。教員のコメント入力率は、関係では専任69.2%、非常勤85.7%、文化で専任81.8%、非常勤45.5%となっている。学部全体では全学平均よりも高いものの、回答率を上げるために、教員からのフィードバックとしてのコメント入力重要である。

シラバスの認知度（Q1a）については、関係86.0%、文化90.3%であり、全学平均（80.4%）を6ポイント以上上回っている。これは、本学部の学生が履修計画においてシラバスを精査する真面目な学習姿勢を保持していることの現れであり、教員側による周知も徹底されていると評価できる。シラバス通りの授業実施（Q1b）について、関係4.45、文化4.53と全学平均4.39よりも高く（以上、5段階評価）、学部として学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識している。

授業の難易度（Q2）に関しては、関係では3.51と文化3.49と全学平均（3.55）を下回っている。つまり、学部の授業に対して、学生は「やや難しい」と感じているのかもしれない。

学生の質問と教員のフィードバック（Q3・Q4）は総じて良好である。授業中に質問したことがある学生の割合は、関係25.7%、文化20.4%と、全学平均（17.7%）を大きく上回った。教員のフィードバックも、関係4.30、文化4.22と、全学平均（4.13）を超える高い数値を示しており、授業に関して学生の質問、教員のフィードバックは適切なレベルにあると評価できよう。

学生の意欲（Q5）教員の熱意（Q6）については、意欲が関係4.24、文化4.25、熱意が関係4.64、文化4.66とどちらも全学平均の（意欲4.11、熱意4.53）を上回っている。

Q7 学生の成長感覚（知識が増えた、物事が深くとらえられるようになった等）は、関係 4.45、文化 4.47 であった。全学平均 4.32 を上回っている。

総合満足度（Q8）は関係 8.53、文化 8.72 であり、全学平均 8.32 を上回っている。本学の教育は教員の熱意と学生の意欲、そして相互のフィードバックが学生の成長感覚を生み出し、授業への満足度が高くなっていると読み取れる。

以上

経営学部 経営学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q1a「シラバス既知」は、前期 82.10%、後期 83.99%であり、いずれも全学平均（前期 79.93%、後期 80.39%）を上回っていた。経営学科では、学生がシラバスを比較的良好に確認したうえで履修していると考えられる。Q1b「シラバス通り」は、前期 4.31pt、後期 4.40ptであり、いずれも全学平均（前期 4.34pt、後期 4.39pt）とほぼ同水準で、後期はわずかに全学平均を上回った。シラバスの周知と授業運営との整合性は概ね確保されているといえる。

Q2「難易度適切」は、前期・後期ともに「3 適切だった」への回答が最も多い傾向にあり、授業難易度は概ね適切と受け止められている。ただし、経営学科の平均値は前期 3.69pt、後期 3.66pt で、全学平均（前期 3.57pt、後期 3.55pt）よりやや高めであった。これは、他学科と比べても経営学科の学生がやや「難しい」と感じる傾向を持つことを示しており、授業内容の水準自体は保たれている一方で、理解支援や段階的な説明の工夫が引き続き重要である。

Q3「質問対応」は、前期 12.55%、後期 17.59%は前期より改善しているものの、全学的に見れば質問経験率そのものは高くない。前期は全学平均 17.16%を下回っており、学生から教員へ質問する機会は相対的に少なかった。大人数授業が多い経営学科の特性を踏まえると、授業中の質問だけでなく、複線的な質問導線の整備が必要である。

Q4「フィードバック」は、「4・5」の合計が前期 61.40%・後期 67.10%で、全学の前期 71.28%・後期 71.73%を下回っていた。回答分布でも、「3」が前期 33.47%・後期 30.18%と比較的高く、学生がフィードバックの十分さを強く実感するところまでは至っていないことがうかがえる。質問経験率の低さとあわせてみると、学生とのインタラクション全体に改善余地があると考えられる。

Q5「学生意欲」は、前期 3.97pt、後期 4.07ptであり、いずれも全学平均（前期 4.08pt、後期 4.12pt）をやや下回った。後期には上昇がみられるものの、学科全体としてみると、学生の授業参加意欲は「極めて高い」とまでは言いにくい。とくに前期は他学科と比べても低位群に位置しており、授業の目的や到達点の明確化、学生自身が学びの意味を実感できる課題設計が重要である。

Q6「教員熱意」は、前期・後期ともに概ね高い水準にある一方、全学平均との比較ではやや低めの傾向がみられる。大教室授業が多い場合、教員側の意図や熱意が十分に伝わりにくいことがあるため、説明の明確さ、授業中の呼びかけ、事例提示などを通じて熱意の可視化を図る余地がある。熱意そのものが不足しているというより、学生に伝わる形で表

出されるかが課題である。

Q7「成長感覚」は、前期 4.11pt、後期 4.26pt であり、いずれも全学平均（前期 4.26pt、後期 4.33pt）をやや下回った。ただし、後期には改善がみられ、学生の学びの手応えは一定程度高まっている。Q5 や Q6 とあわせてみると、経営学科では「学生意欲」「教員熱意」「成長感覚」がいずれも極端に低いわけではないが、全学平均を少し下回る水準で並んでいる点に特徴がある。これは、授業改善の焦点を個別項目ではなく、授業全体の学修経験の設計に置く必要があることを示唆している。

Q8「総合満足」は、後期に改善傾向があると考えられる。ただし、経営学科は他項目の傾向からみても、全学平均を大きく上回る学科ではなく、むしろ「概ね良好ではあるが、学生との相互作用や成長感覚の点であと一步」という位置づけで理解するのが適切である。したがって、総合満足の向上を図るには、質問しやすさ、フィードバックの明確さ、学びの達成感を連動させることが重要である。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

全学の相関係数表では、「総合満足」は Q7「成長感覚」と最も強く関連し、さらに Q6「教員熱意」、Q5「学生意欲」、Q4「フィードバック」とも中程度以上の正の相関を示している。前期では Q8 と Q7 の相関が 0.648、Q6 が 0.580、Q5 が 0.514、Q4 が 0.488 であり、後期でも Q7 が 0.630、Q6 が 0.550、Q5 が 0.506、Q4 が 0.447 であった。したがって、経営学科で総合満足を高めるには、単独項目の改善ではなく、教員熱意が伝わる授業運営 → 学生の意欲喚起 → 成長感覚の向上という流れを意識した授業設計が重要である。

経営学科の結果をみると、Q1a・Q1b は概ね良好であり、シラバス理解と授業運営の整合には大きな問題は見られない。他方で、Q3「質問対応」、Q4「フィードバック」、Q5「学生意欲」、Q6「教員熱意」、Q7「成長感覚」は、全学平均をやや下回る傾向が続いている。つまり、授業の土台部分は一定程度整っているが、学生が授業に能動的に関与し、その結果として成長を実感するプロセスに課題が残っていると整理できる。特に経営学科は前期回答率 30.69%、後期 22.72%で、全学平均（前期 41.66%、後期 35.50%）を下回っており、後期は前期から 7.97 ポイント低下していた。回答率の低さは結果の解釈にも慎重さを要するが、同時に、授業認識アンケートを含めた学生参加の促進自体が学科 FD 上の課題であることを示している。

経営学科の今年度結果は、「授業の基本的運営は安定しているが、学生との相互作用と学びの実感をどう高めるか」が中心課題だといえる。今後は、質問機会の可視化、フィードバック方法の工夫、学習到達点の明示、授業内での理解確認の仕組みづくりを通じて、成長実感と総合満足の底上げを図ることが望ましい。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値を取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

「回答率」

前期は50%を越えていたが、後期は前期に比べ13.93%と30%程度に減少した。これは本学科に限らず全体の傾向であるが、今後、前期、後期ともに回答率をあげるために、教員から学生への促す努力が必要と考える。

Q1a「シラバス既知」およびQ1b「シラバス通り」

シラバス内容を知らない学生は23.4%と全学の平均よりも高い。今後、授業初回におけるガイダンス等での周知をより徹底させることが必要と考える。シラバス内容を知っている学生にとっては授業がシラバス通り実施されていることを実感している。この点については学生と教員の信頼関係にもつながる部分と考えられるため、学科全体でより一層シラバスを大切に授業に取り組んでいくよう努力を継続していきたいと考える。

Q2「難易度適切」

本学科の変動係数が25.03%と高い数値を示していることから基礎学力に幅があること推測できる。学科の特性上、長年スポーツに真剣に取り組む基礎学力が低い学生がいる反面、一般入試で入学してきた学生も存在する。これら基礎学力が高い学生にとっては、「とても易しい」「易しい」と感じているのであろう。

Q5「学生意欲」

本学科は「強くそう思う」と回答した者が書道学科に次ぐ高い割合であった。変動係数も低く学生意欲の差は少なく、多くの学生の意欲の高さを示す結果となった。Q2「難易度適切」との関連で言えば、授業を難しく感じる学生でもやる気を失わず、授業に取り組む意欲を高めさせている結果といえる。逆に授業を易しく感じる学生にとっては、専門性の高い知識や技能を身に付けられることで授業に取り組む意欲はさらに向上していると考えられる。今後も学科として基礎学力が低い学生に対しての確実なフォローを行い、全体ではより高度な専門的な知識・技能を提供していく工夫が必要であると考えます。

Q6「教員熱意」

本学科は「強くそう思う」と回答した者の割合が全体と比べ高い。教員が熱意をもって教育活動を行っていることが学生たちに確実に伝わっている表れといえる。本学科では長年、入学当初にスタートアッププログラムを充実させ、1年生ではフレッシュマンセミナーにより社会的マナーの教授を含め、人間性を高める教育も施されている。2年生のキャリアセミナーでは教員が時事問題・SPI・一般常識を担当するだけでなく、就職市場で学生のリクルーティングに関わる者を外部講師として招聘するなど、直接就職につながるマ

ナーや技能・技術を熱心に伝授している。さらに実技授業、演習、教職の授業、ゼミ等は学生と教員の距離感が近く、教員の熱意を大いに感じる場面があるのであろう。授業以外でも学生とのコミュニケーションをよくとっている教員が多くいることも関係していると考えられる。今後も学生と適切な距離感を保ち、学科全体として熱意をもって学生と向き合っていきたい。

Q7「成長感覚」

4と5を付けた割合が9割を越える高い数値であった。2023年度、2024年度の調査では約1割程度「どちらでもない」と回答した学生が存在したが、今回は7.6%と1割を下回った。成長感覚を感じられない学生が減少した点も含め、本学科の教育は評価できると考える。

Q8「総合満足」

全部署のうち書道学科、国際関係学科に次ぎ3位と高く、喜ばしい結果であった。今後、この結果に甘んじることなく、学生たちに大学生生活の満足度を高めていくため教員間での意見校交換、情報共有を充実させ学科として学生に向き合っていきたい。

まとめ

教員熱意が成長感覚、総合満足に強く関係していることから、今後も学生との適正な距離感を意識しながら学生一人一人を大切に、学生とのコミュニケーションをしっかりとっていききたい。そのために、スポーツ科学科に関係する教員、事務職員、学科関係者による意見交換、情報共有、教員が一人に対応することなくできる限り複数で確実に学生に対応していききたい。

本アンケート結果から得られた課題としては、学生の回答率を高めること、それには教員からコメント入力も確実にやっていくこと、シラバスを読んだことがない学生を減らすこと、基礎学力が低い学生に対して今後も確実にフォローし、やる気を失わせないこと、学生の興味関心をひく専門的な知識や技能を伝授していくために常に授業をブラッシュアップしていくことなどが考えられる。

以上

スポーツ・健康科学部 健康科学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q1a:シラバス既知度

本学科の既知割合は、69.876%と全学の80.394%を10%ポイント下回っている。シラバスへの理解は、自発的かつ計画的な学びに重要である。学生の計画的な学習を促すべく、シラバスの周知を図る。

Q1b:シラバス通りか

本学科の平均値は4.336と全学平均の4.387より若干低い。標準偏差及び変動係数はそれぞれ0.748、17.261%と全学平均の0.711、16.201%を超え、認識のばらつきが比較的大きい状況にある。Q1aのシラバスの既知度が低いことと合わせると、シラバスの周知の際には、科目の授業の狙いや構成について理解を促す解説が重要と考える。

Q2:難易度の認識

本学科の平均値は3.804と全学平均の3.546より高いが、変動係数は19.876と全学平均の21.841より低くばらつきは小さい。スコアごとの分布では、評価値4と5がともに全学平均や他学科の分布状況よりも高く、平均的に難易度が高いと認識している状況となっている。健康科学科では、カリキュラムの多くが医学・医療系の専門科目で構成されており、3コース共通の必修科目も存在する。例えば、解剖生理学の講義・実習や微生物学講義などは初年次から履修することとなる。さらに、医療系国家資格である臨床検査技師の受験資格を提供する臨床検査コースでは、医学科目が、座学、実習ともに殆どを占める。シラバスの内容は、主管官庁の厚生労働省の示す条件を満たすことが必要となり、修学内容やレベルは、その指導とともに、国家試験の合格レベルに到達することが求められる。高大連携強化のため、リメディアル教育にも力を注いでいるものの、高校で文系コースであった学生も多く、専門教育の難易度の高さを感じている状況も理解できる。履修の難しさを感じる学生をフォローするべく、本学科では、1年次には少人数の学生に対する担任制、また、ゼミ教員や3コース部会を通じた履修状況に応じた教員による面談などを行っている。専門科目の履修は容易ではないが、一方で、Q5の学生の意欲、Q6の教員の熱意、Q7の成長の実感、Q8の総合満足度は、高い評価が得られている。引き続き、専門科目の難易さを感じる学生に対し、修学状況に応じたきめ細かい対応を提供する。

Q3:教員への授業に関する質問

本学科における「質問したことがある」の割合は15.607%と全学平均の17.136%より低い。本学科では、初年次のフレッシュマンセミナーA/Bにおいて、学科の特性の理解を促し、環境に慣れるよう努めているが、日常から、教員と学生のコミュニケーションを促し、質問しやすい環境を提供するよう務める。

Q4：質問に対する教員のフィードバックの適切さ

本学科の平均は4.092と全学平均の4.129より0.037ポイント低い。評価値5「強くそう思う」は、25年度前期より上昇しているが、未だ44.754%と全学平均46.246%以下となっている。改善傾向が続くよう、引き続き丁寧な対応を行う。

Q5：学生の意欲

本学科の評価値は4.131と全学平均の4.117を超えており、高い意欲が認められる。一方、変動係数は19.696%と全学平均の19.187%を超えており、意欲のばらつきが認められる。評価値の分布では、評価値1と2の割合はともに全学の割合を下回っており、意欲を失った学生が多い訳では無く、評価値3「どちらとも言えない」の割合が約18%と高いように、比較的低下した学生が多いことが課題と思われる。Q2のアンケート結果から見られるように、授業の難しさを感じている学生も多いことから、早期のフォローが重要と思われる。Q2のコメントに記載したように、担任教員やゼミ教員による丁寧な声掛けや面談を通じ、やる気を刺激するような指導を行う。

Q6：教員の熱意

本学科の平均値及び評価値5「強くそう思う」の割合は、各4.606、64.790%で、全学平均の4.534、61.825%を超えており、教員の熱意が学生に伝わっている現状が確認された。引き続き、熱意をもって教育に取り組む。

Q7：成長感覚

本学科の平均値及び変動係数は、各4.378、16.915%であり、全学の4.329、17.252%と比較し、全体的に成長の実感が得られている状況であることがわかる。本学科の特徴である、学生の学びへの関心と将来像に応じ、健康科学の高い専門性と資格が得られるような教育機会を引き続き提供する。

Q8：総合満足

本学科の総合満足度の平均値は8.402で、全学平均の8.320を超え、学生の満足度は概ね高い。満点の10と回答した学生は、34.226%と約1/3である。学生の約3/4(74.953%)で、8~10と高い満足度が得られた。総合満足度は、成長感覚や教員の熱意と強い相関が見られ、学科としては、引き続き熱意をもって授業に望み、引き続き満足度

の向上と維持に取り組む所存である。

(まとめ)

健康科学科の目的は、「生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成」であり、臨床検査技師等の専門資格が取得可能なカリキュラム構成となっている。リメディアル教育の提供などにより、専門教育の基盤強化を図っているが、科目履修の難しさを感じている学生の割合が高い。その一方で、学生の意欲、教員の熱意、学生自身の成長を実感している割合は高く、授業への総合満足度も高い。ただし、主体的、計画的な学習のガイドであるシラバスの利活用は相対的に低いと思われる。教員によるシラバスの周知を図るとともに、授業の目的や構成を含めた科目の理解を促すような解説も重要である。また、課題として、学生の質問やそれに対する教員の対応が不十分な状況が認められる。健康科学科では、1年次に対する少人数グループに対する担任、学年担任の配置、ゼミ教員による面談、3コース部会毎の学生への支援と指導が行われているが、このような取り組みを強化、継続するとともに、教員による積極的な声掛けなどにより、質問、相談しやすい環境を提供することで、修学の支援を図ることが重要と考える。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

本学科の回答率は、前期 57.62%、後期 55.23%で、全額平均より高く、増減は、-2.39%と、全額の減少値より小さかった。さらに回答率が上昇するよう、声掛けを行う。一方、教員のコメント入力率は 42.3%（専任：50%、非常勤：16.7%）と全学平均よりも低い。教員間で共有し、改善に務める。

尚、本学科のカリキュラムは健康科学領域の多くの専門科目で主に構成されていることから、全学共通科目の割合が限定的である。結果、全学共通科目に関するアンケートに対する本学科の回答者数が少数となっていることから、全学共通科目に関するアンケート調査結果に特異的な分析は割愛した。

以上

スポーツ・健康科学部 看護学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

[回答率における全体所感]

本学科の回答率は、前期 63.31% (全学 41.66%)、後期 60.15%(全学 35.50%)で、前期、後期共に平均より 20%以上高く、全学で唯一 60%を超えている。これは、看護職者を育む教育課程として、必修科目が 9 割かつ出席率も 9 割余りと学生の参加意識の高さや、本アンケートの趣旨説明と理解から取り組みが継続されている結果であり、学生への周知はもちろん、回答機会を設けるなどの工夫が回答率の向上につながっていると考える。しかし、未回答の学生も約 4 割おり、それには 8 回科目多いことでアンケートの実施時期なども影響していると考えられるが、より多くの回答が得られるよう努めていく。

また、教員のコメント入力率を高めることも重要である。本学科の教員のコメント入力率は 45.5% (全学 51.1%) で、本学部の中では高い方であるが平均より低い。特に専任教員の入力率が 50%(全学 63.5%)である。対象科目が講義等の同じ特性に集まる状況もあり、多様な科目での実施を検討して多くの教員が関わるようにすることや、組織での教員の意識を高めるよう、今後、教員のコメント入力率を上げるための取り組みも必要であると考えられる。

[Q1a シラバスに対する既知度および Q1b 記述とおりの授業進行]

「シラバスの既知度」では 87.75% (全学 80.39%) で、国際文化学科 (90.34%) に次いで、2 番目に高い結果であった。シラバスの理解は、学習に対する目的意識を高め、主体的な授業参加を促す。シラバスの内容のみならず、シラバスの活用法についても伝えていきたい。

「シラバスに沿っていたか」については、4.376 ポイント(全学 4.387)で、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」と回答した学生が約 92%であり、学科でのシラバス作成への呼びかけや点検の効果も含め、本学科もシラバスの記述通りに授業が行われていると推察される。今後も学生が主体的に学習を進められるよう、新たな学びにも理解のきっかけを持ちやすいシラバス作成に努めたい。

[Q2 授業の難易度]

「授業の難易度適切性」は、3.853 ポイント(全学 3.546)で、難易度は概ね適切であるが、「4 やや難しかった」寄りである。「5 とても難しかった」と回答した学生が 22.481%(全学 11.591%)で、健康科学科(18.470%)と同様に平均より高い。本学科は、国

家資格を取得するために専門的な知識の修得が不可欠である。授業の難易度と学生のレディネスは関連しており、レディネスが十分でない場合、授業内容が難しく感じられる傾向がある。今後は、リメディアル教育の充実を含め、FDの観点から検討を進めていきたい。

[Q3 質問対応および Q4 フィードバック]

「質問をしたことがある」と回答した学生は9.906%(全学17.736%)で、学内で最も低く、授業に対して難しいと感じているにもかかわらず質問しない傾向が強いことがわかった。これは心理的安全性が低いことが考えられる。また、質問をしたことがある学生を対象とした「質問に対する教員の対応の適当性(フィードバック)」に関する変動係数が28.41%(全学23.18%)で最も高かった。このことはフィードバックに対する満足感が異なり、より個性性を考慮した対応が必要と考えられる。

[Q5 学生の意欲と Q6 教員の熱意, Q7 成長感覚]

「授業に対して意欲/熱意をもって取り組んだか」については4.129ポイント(全学4.117)で、「教員は熱意をもってこの授業を行ったか」は、4.433ポイント(全学4.534)であり、学生、教員共に意欲や熱意をもって授業に取り組んでいることがうかがえる。

「この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長実感」については、「4 どちらかといえばそう思う」および「5 強くそう思う」の評価で86.38%(全学89.39%)を占めていた。2割以上の学生が授業の難易度について「とても難しい」と感じているにも関わらず、約9割の学生が学びの効果を実感できていることに、授業内容の有効性が示唆される。しかしながら成長感覚を感じない学生が一定数存在することから、その原因を明確にして改善することが必要であろう。

[Q8 総合満足]

「すべてを総合してどの程度満足したか」については8.012ポイント(全学8.320)で、「10 大いに満足」と回答した学生が28.771%(30.990%)であった。授業を難しいと捉えている学生が多い一方で、適切な授業内容や支援により学習効果や成長実感が得られている可能性があり、それが満足度の向上につながっていると推察される。今後は授業の難易度と学習効果のバランスに留意しつつ、学生の理解をより一層促進するため支援体制の強化を図りたい。

一方、変動係数から総合満足を読み替えた視点からみると、他の質問項目に比べて相対的に高い数値を示している。変動係数の変動幅9.93%(=最大値：看護学科24.22—最小値：書道学科14.29)において質問項目のなかでは最も大きい値を示されていた。この学科間差においては良い傾向とは言えない結果がみられている。これは総合満足度に対す

る学生認識が、学科間で大きな格差を生じているとされる。資格取得を目指す当学科のカリキュラム構成は、指定規則に基づいた専門科目が中心となるという特性がある。昨今の当学科を志望する受験生たちの背景等を更に細やかにアセスメントした上での授業展開を一層意識したい。そのため当学科は一昨年度より教務委員会中心に DP/AG ワーキングを据え運営しているが、今回得られた結果を踏まえ学生支援に尽力する。

社会学部 社会学科

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

この質問に対し、全学で「知っている」と回答した学生が 80.39%であるのに対して、社会学科では 78.07%であり、やや改善したものの昨年に引き続き全学よりも 2.32 ポイント低かった。最も高い学科である国際文化学科は 90.34%であるため、それとの差は 12.27 ポイントとなる。また同じ社会科学系統でも社会学科は、昨年通り経済学部の 2 学科 (84.19%、81.69%) や法学部政治学科 (82.96%) よりも低いが、法律学科 (74.48%) の数値より改善している。総じて 20 学科中、下から 4 番目の低さである。特に、1 年生においてシラバスに基づいての履修登録に改善の余地を残す結果となっており、次年度は 1 年生ガイダンス等での周知徹底が必要かと思われる。

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

設問 Q1a で「知っている」と回答した学生のみが回答するもので、選択肢は「1」の「まったくそうは思わない」から、「5」の「強くそう思う」までの 5 ランクである。全学の平均は 4.38 であるのに対し、社会学科での平均値は 4.35 であり、昨年度と同様に全学平均をやや下回った。社会学部の回答別では、「強く思う (回答 5)」が 43.90%、「どちらかと言えばそう思う (回答 4)」が 48.34%で、合計は 92.24%となる。ただし、全学での回答 5 と回答 4 の合計は 90.53%なので、社会学科はやや上まっていた。社会学部としては、回答 5 の回答率がそれほど高くない代わりに、回答 4 が高くなり、両者で全学の値を超えた結果となっている。変動係数の社会学部 18.51%も、全学の 20.34%より小さく、バラツキは小さくなっている。以上より、9 割以上の回答が 5 か 4 であった点からすると、社会学部の授業は概ねシラバスの記述通り行われていたと言ってよい。

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

5 段階の回答から出された平均値は、大学全体 3.546 に対して社会学科は 3.506 であり、社会学科の方がやや低い (易しいと感じられる側にある) が、その差は 0.04 と大きいものではなかった。また難易度別の回答者比率からみても、社会学科で「適切だった」とする回答の 51.348%は、大学全体の 48.376%を 2.972 ポイント上回っており、他方「とても難しかった」と「やや難しかった」の合計 (社会 45.074%、全学 47.913%)、および「とても易しかった」「やや易しかった」の合計 (社会 3.578%、全学 3.711%) とともに、社会学科が大学全体を下回る結果となった。すなわち社会学科の授業の難易度は、大学全体のそれと比べ大きくは離れておらず、「適切」と回答する割合が高かったといえる。バ

ラツキという点でも標準偏差（社会 0.742、全学 0.775）、変動係数（社会 21.158%、全学 21.841%）ともに社会学科の方が低く、全学よりは平均値付近に集まっている。学年によって学生の理解力やカリキュラムの要求する難易度も異なるため単純な比較はできないが、総じて、社会学科の授業の難易度は適正な状態にあると言える。

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

全学の平均値 17.736%と比較すると社会学部は 10.687%と、看護学科に次ぐ 2 番目低い率である。大学全体で、授業について質問をする学生の割合が低いことには、いくつかの原因が考えられる。その理由としては、学生が内気であること、仲間から「変な質問」と見なされるのを恐れていること、あるいは単にやる気（モチベーション）が低いことなどが挙げられる。この傾向は社会学科の学生の間で特に目立つようで、彼らが授業にもっと積極的に参加するよう促す取り組みが必要である。また、この問題の他の原因は教員側にある可能性もある。例えば、教員が学生の関心をひくほど授業内容を十分に魅力的にできていない可能性や、学生質問の時間を設けることを十分考えていない可能性、あるいは学生が気軽に質問できるような雰囲気醸成できていない可能性もある。こうした点を改善するためには、教員による省察的实践、つまり常に自己点検することが不可欠である。

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

全学平均は 4.129 で、社会学科平均の 4.082 は全学平均とほぼ変わらない数字であった。ただ、全学平均に比べて、「強く思う」という回答の割合が低く、「どちらかといえばそう思う」の割合が高い状況が見られた。学生の質問に対し、よりの確でスピーディーな教員のコミットメントが求められると言えるだろう。

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲/熱意を持って取り組んだと思いますか。

全学の平均は 4.12（前期 4.08）であり、前期からやや上昇した。これに対し、社会学科の平均は 3.97 で、全学平均を 0.15 ポイント下回り、学科別では相対的に低い水準に位置している。回答分布を見ると、「強くそう思う」（23.63%）と「どちらかといえばそう思う」（55.26%）の合計は 78.89%となり、全学平均（82.69%）と比較して約 4 ポイント低い。これは昨年度（79.57%）と比べてもわずかに低下しており、学生の積極的な関与の度合いがやや弱まっている可能性が示唆される。

一方で、「まったくそう思わない」は 0.84%と依然として少数ではあるものの、「どちらかといえばそう思わない」（4.28%）は全学平均（2.73%）を上回っており、否定的回答の比率が相対的に高い点の特徴である。このことから、意欲を持って取り組めていない学生

層が一定程度存在しているといえる。

さらに、変動係数は 20.20%と全学平均 (19.18%) を上回り、学科内でのばらつきが大きいことが確認される。すなわち、意欲的に取り組む学生とそうでない学生の差が比較的大きく、学習状況の二極化傾向がみられる。

今後は、意欲の高い学生層を維持・伸長させつつ、意欲の低い学生への早期把握と個別の支援、授業内における関与を促す工夫を通じて、学科全体の底上げを図る必要がある。

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

全学の平均は 4.53 (標準偏差 0.68) であった。社会学科は 4.52 (標準偏差 0.63) であり、全学平均との違いはほぼない。分布をみると、「強くそう思う」が 57.9%、「どちらかといえばそう思う」が 36.9%で、両者の合計が 94.7%になっている。つまり、社会学科教員担当科目の回答者、20人中 19人が教員が熱意をもって授業を行っていると評価していることになる。この割合は全学の傾向(「強くそう思う」(61.8%)、「どちらかといえばそう思う」(31.5%))とほぼ同じである。

【成長感覚】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成?があったと思いますか。

全学の平均値が 4.329 で、社会学科の平均値 4.205 であり、他学部と比較して回答者数が多いにもかかわらず、標準的な値であった。次に、社会学科の「成長感覚」について、回答別に見てみると、「強く思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合計した割合は全学平均が 89.391%、社会学科が 88.243%と社会学科は全学の平均並みであり、全学の傾向と同様に「成長感覚」を高く感じていることが伺われる。その一方で、「強く思う」と答えた全学平均の割合が 46.299%なのに対し、社会学科では 35.641%であり、今後学生がより強く成長を実感できるようになるための改善の余地がまだあると言えよう。

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1として、10段階で最も近いと思われるものを選んでください。

他学部と比較すると、社会学部の学生は 10点をつける学生は 21.545%で下位にあたるが、8?10点につける学生が 20%を超えており、6点以下は 1桁のため概ね満足を得ていると考えられる。変動係数は 19.824%であり、他学部と比較するとふり幅は少ないものの、満足度点数にはバラつきがあることが示されている。

全体の集計から、総合満足度は成長感覚との相関が示されており、本学部学科の学生に

においても、バラつきがある中で、満足度が 87.9 点を占めており、授業をとおしての成長感を養いつつあることが示唆された。

【全体を通しての総括】

社会学部の授業評価は、全体として大きな問題は見られず、概ね安定した水準にあるといえる。授業は概ね記述通りに実施されており、難易度も適切と評価されている。教員の熱意や対応は一定の評価を得ており、総合満足度も概ね良好であるが、その一方で、学生の質問行動の少なさや学習意欲の相対的低さ、成長実感における「強い実感」の不足など、主体的関与に関する課題が明確である。

気がかりであるのが、全学平均をやや下回るシラバスの認知度である。社会学部では新入生ガイダンスを午前から午後にまたがって実施し、その中でPCガイダンスと題した必携PCの利用説明を行っている。学生が持参したPCでDBポータルにアクセスし、シラバスを参照するところまでを演習としている。全体のガイダンス終了後には引き続き自由参加で履修相談時間を設け、各自がシラバスも参照しながら履修を検討している。このように入学時からシラバスへのアクセスに慣れていると思われるのにこの2年間、連続して全学平均より値が悪い。この理由については更なる精査が必要と思われるが、今すぐに行える対策としては初年次教育や学部導入科目に於いてシラバスの重要性について繰り返し説明することであろう。

4. おわりに

2025年度の「学生による授業認識アンケート」の各学科からの報告は以上のとおりである。学科によって記述内容の多寡はあるが、各学科が質問の回答データを基に現状をしっかりと把握されたことがよくわかる。学科毎の課題も浮き彫りになったことで、今後の授業改善の方向性も明確になったようだ。ここでは全学的な課題と今年度の試みを改めて挙げておきたい。

まず、学生の回答率についてである。学生と教員のアンケートに対する意識を高めるため、今年度も対象科目を各教員が担当する科目のなかから履修者の最も多い科目に限定した。回答率については前期は41.66%とWeb回答方式になって以降、最も高い回答率を示したが、後期は35.50%に留まった。例年、後期の回答率が下がるのが課題ではあるが、それでも今年度は平均38.58%と、前年までに比べると高い回答率であった。これも多くの教員が授業中に回答を促してくれるようになったことが大きいと思われる。アンケート実施期間中、教員控室で声をかけてくれる事務の方々のご協力があったことも大きい。アンケート結果を考察する上での妥当性を考えると、より一層の回答率の向上が求められる。

次に、教員からのリプライ率の低さが挙げられる。70%以上のリプライ率を示す学科もあれば30%台にとどまる学科もある。平均50%前後のリプライ率は高いとは言えない。回答してくれた学生たちの声に耳を傾け、今後のアンケート回答に対するモチベーションを維持するためにも、学科のFD等を通じた取り組みによって、教員からのリプライを徹底していく必要がある。

最後に、今年度からの試みについて触れておきたい。2023年度から全学共通科目のみを対象とした学生所属別の集計によって、特に1、2年生の授業認識を把握する試みを始めている。今年度はこれを細分化（人文系・社会系・自然系・保健体育系）し、各系別間において授業認識の相違が生じているかどうかの検証を試みた。結果として、授業に対する認識は、人文系や社会系といった科目の相違よりも、学科によって異なっていることが顕著になった。全体的な学力低下あるいは学力の二極化が見えてきており、各学科で学生の現状を把握したうえで、初年次教育のあり方を再考する必要があると思われる。

今後は学科内でのFD活動等を通じて、これらの結果が学生の実情にあった授業改善の動きにつながっていくことを期待したい。

以上

資料

1. 大東文化大学全学 FD 委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、大東文化学園内部質保証推進委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教員の教育の内容及び技法の改善、その他研究活動、社会活動等における教員の資質の向上を組織的に支援することを目的とする。この目的達成のため、全学FD委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教員の教育活動、研究活動、社会活動等に対するFDの視点からの分析及び提言、並びにこれらの効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) FDに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) FDに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 委員会は、次の委員をもつて構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者 1名
- (2) 各学部が選出する者 各1名
- (3) 各研究科が選出する者 各1名
- (4) 学長が指名する者 若干名

2 委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。

3 委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。

- 5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 委員会が必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則 (平成21年6月15日)

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則 (平成22年2月22日)

- 1 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもって廃止する。

附 則 (平成27年3月18日)

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

附 則 (平成31年2月25日)

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日より施行する。

(規程の改正及び名称の変更)

2 平成18年5月15日制定及び施行の「大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」を改正し、名称を「大東文化大学全学FD委員会規程」に変更する。

附 則（令和元年10月28日）

この規程は、令和元年10月28日から施行する。

2. 2025 年度 学生による授業認識アンケート実施要項

全学 FD 委員会

2025 年度『学生による授業認識アンケート』実施要項

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てるために実施する。

2. 対象科目

- (1) 本アンケートは前期および後期に実施する。前期実施時は、前期科目（前期後半含む）を対象とする。後期実施時は、通年および後期科目（後期後半含む）を対象とする。
- (2) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とする。
- (3) 対象科目は教員（専任・非常勤問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とする。
- (4) 所定の期間内に教員より、アンケート実施科目の追加または変更について、希望があった場合には全学 FD 委員長と協議のもと個別対応とする。
- (5) 対象科目の確認、追加・変更申請期間（予定）
前期：2025年5月27日（火）～6月8日（日） 後期：2025年10月28日（火）～11月9日（日）

3. 調査項目

- (1) Web 方式 C-Learning 上で、選択式項目を基本とし、加えて自由記述欄を設ける。
- (2) 任意で教員独自の設問（個々の教員が受講生から意見を聴取したいと思う内容）を設けてもよい。独自の設問を実施する際は、設問を提示または配信して学生に周知する。

4. 回答期間（当該教員は随時結果閲覧可能）

- 前期 2025年6月30日（月）～7月13日（日）対象科目：前期科目（前期後半含む）
後期 2025年12月1日（月）～12月14日（日）対象科目：通年・後期科目（後期後半含む）

5. 実施方法

Web 方式 C-Learning にて実施。可能な限り方法 A で実施し、不可能な場合は方法 B による。

方法 A：実施期間内のどこかの授業内の10分程度を使って実施する。

方法 B：アンケートの QR コード等を提示/配信した上で、実施期間内（上記4）の

回答を促す。(この場合、実施期間途中で回答率をモニターし、必要に応じて回答をリマインドするとよい)

6. 結果の閲覧と集計

(1) 担当教員は、回答期間終了後は、各自のデバイス(PC/スマートフォンなど)上で、自身の授業の集計結果および自由記述内容を確認する。

(2) 全学FD委員会は、全学的な集計結果をまとめ、その分析方法を検討する。

7. 結果の取扱い

アンケートの結果を、担当教員に対する管理の強化や不利益な取扱いに利用することはしない。

8. 結果の公表と活用

(1) 担当教員は当該授業についての数値結果および自由記述についての具体的なコメントを

C-Learning上に掲載する。このコメントは当該授業の履修者が閲覧可能とする。

(2) 上記の全学的集計結果の数値部分については『報告書』に掲載し、その『報告書』は、学生を含め学内に公開される。

(3) 自由記述欄の内容は『報告書』に記載せず、今後の授業の参考資料として活用する。

(4) 外部への公表および活用については、全学FD委員会の責任において、本学ホームページへの掲載等を含め、必要に応じて行う。ただし、設問内容によっては、外部には公表しない。

以上